

和歌山市 子ども・子育て支援事業に関する
ニーズ調査

【結果報告書】

平成 26 年3月

和 歌 山 市

目 次

I. 調査の概要	1
1 調査の目的	2
2 調査概要	2
3 報告書の見方	2
II. 調査結果	3
1 お住まいの地域・ご家族の状況等について	4
2 子どもの育ちをめぐる環境について	9
3 保護者の就労状況について	15
4 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について（就学前児童）	24
5 地域の子育て支援事業の利用状況について	32
6 土曜・休日や長期休暇中の「定期的」な教育・保育事業の利用希望について（就学前児童）	38
7 病気の際の対応について（平日の教育・保育を利用する方のみ）	41
8 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について	46
9 小学校就学後の放課後の過ごし方について（就学前児童（5歳以上））	53
10 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について（就学前児童）	60
11 妊娠中や出産・子育ての不安と悩みについて（就学前児童）	68
12 子育てに関する不安や悩みに関して	71
13 ワーク・ライフ・バランスについて（小学生児童）	80
14 子どもの活動促進や安全確保について（小学生児童）	83
15 和歌山市での子育てや子育て支援サービスについて	86
III. 調査結果	95
1 性別や学年などについて	96
2 学校生活について	100
3 放課後や休日の過ごし方について	103
4 携帯電話（スマートフォン）やパソコンの利用について	108
5 日常生活の様子やふだん思っていることについて	111
6 将来のことについて	121
7 あなた自身のことについて	137

I . 調査の概要

1 調査の目的

和歌山市では、子ども・子育て支援法（平成 24 年法律第 65 号）に基づく新たな子ども・子育て支援の制度の下で、教育・保育・子育て支援の充実を図るため、5年間を一期とする子ども・子育て支援事業計画を作成します。

本調査は、この計画で確保を図るべき教育・保育・子育て支援の「量の見込み」を市が算出するとともに、子ども・若者支援に向けた取組を推進するため、市民の皆さんの教育・保育・子育て支援、子ども・若者支援に対する状況や意見などを把握するために実施しました。

2 調査概要

- 調査地域：和歌山市全域
- 調査対象者：①和歌山市在住の「就学前児童」をお持ちの世帯・保護者（就学前児童調査）
②和歌山市在住の「小学生」をお持ちの世帯・保護者（小学生児童調査）
③和歌山市在住の「小学生」「中学生」「高校生」
- 抽出方法：住民基本台帳より、無作為抽出
- 調査期間：平成 25 年 11 月 5 日（火）～平成 25 年 11 月 30 日（火）
- 調査方法：①②は郵送配布・郵送回収による郵送調査法
③は、学校を通じて直接配布・回収

調査票	調査対象者数 (配布数)	回収数	回収率
就学前児童	3,000	1,240	41.3%
小学生児童	1,000	453	45.3%
小中高生	1,036	1,036	100.0%

3 報告書の見方

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が 100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が 100.0%を超える場合があります。
- 図表中における「不明・無回答」は回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「N (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。

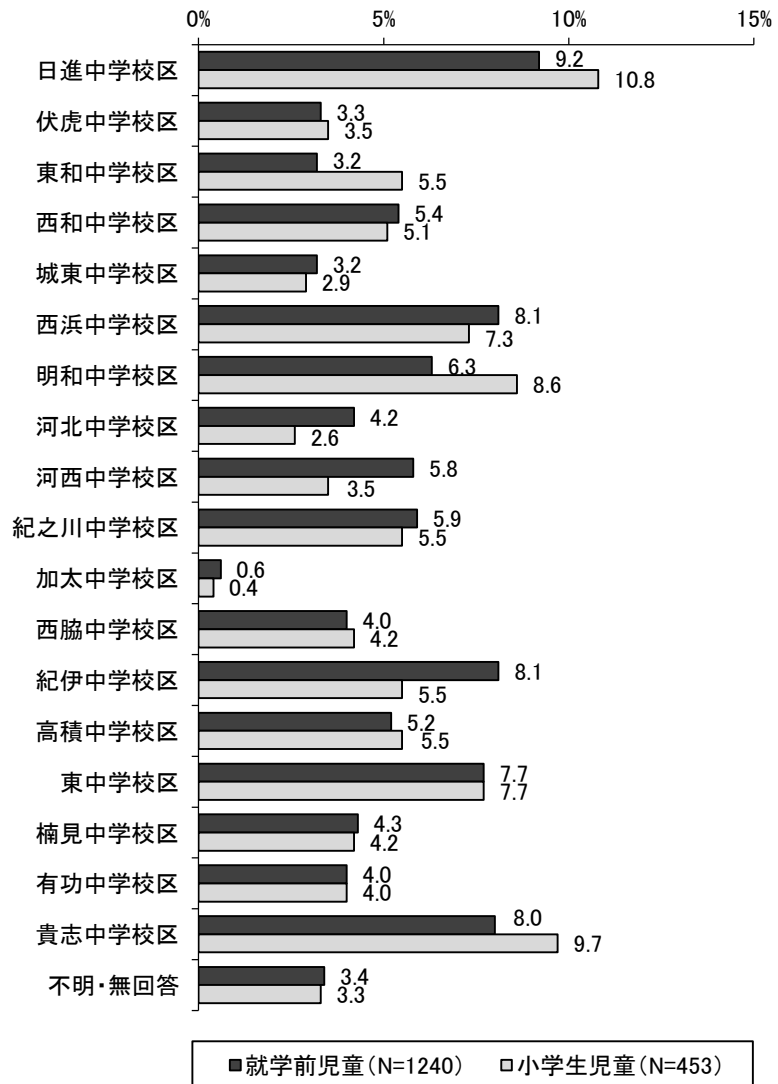
Ⅱ. 調査結果

(就学前児童調査・小学生児童調査)

1 お住まいの地域・ご家族の状況等について

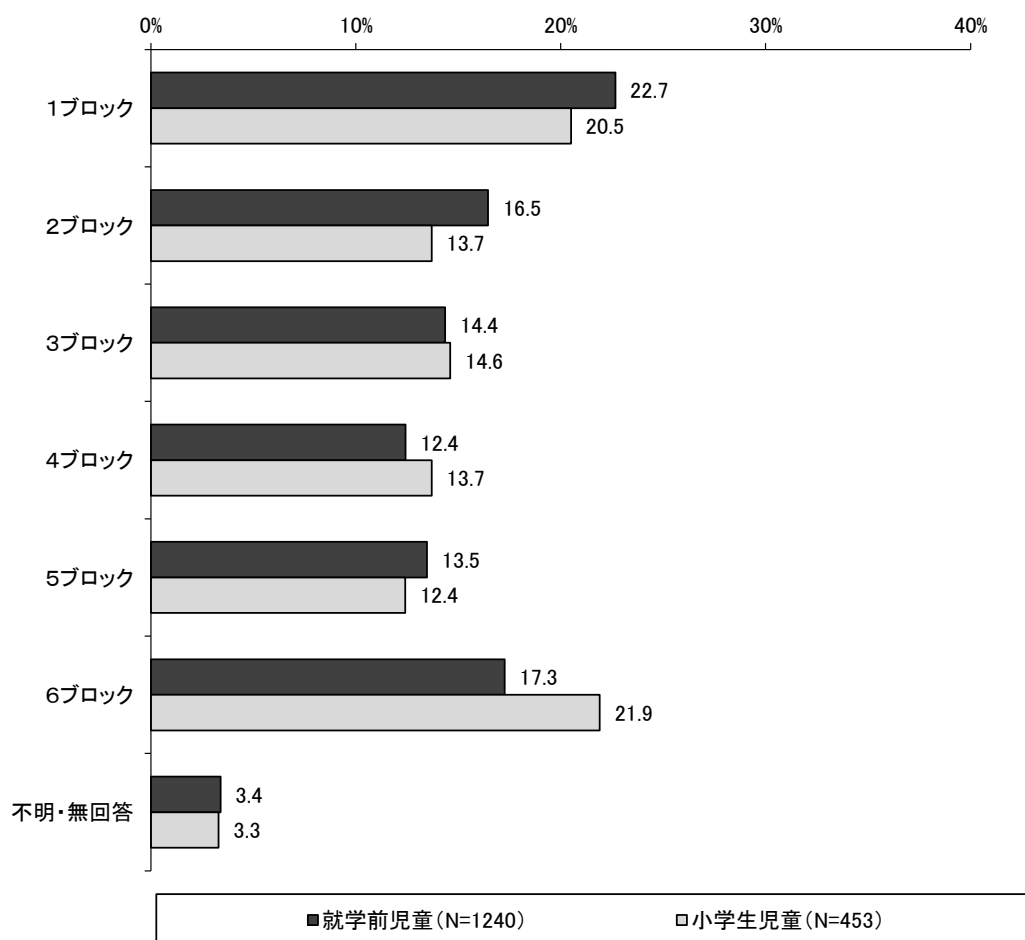
(1) 中学校区〈単数回答〉〔就学前児童調査・小学生児童調査…問1〕

中学校区についてみると、就学前児童では「日進中学校区」が就学前児童で9.2%、小学生児童で10.8%と最も高くなっています。



(1) - 2 ブロック別〈単数回答〉〔就学前児童調査・小学生児童調査…問1〕

中学校区をブロック別に統合してみると、就学前児童、小学生児童では1ブロックと6ブロックに占める割合が上位2件を占めていますが、各地区ともに概ね均等に割り振られています。

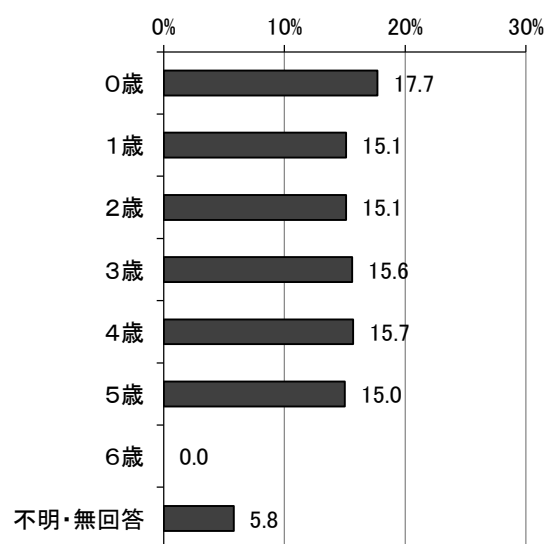


(2) 対象の子どもの生年月〈数量回答〉〔就学前児童調査・小学生児童調査…問2〕

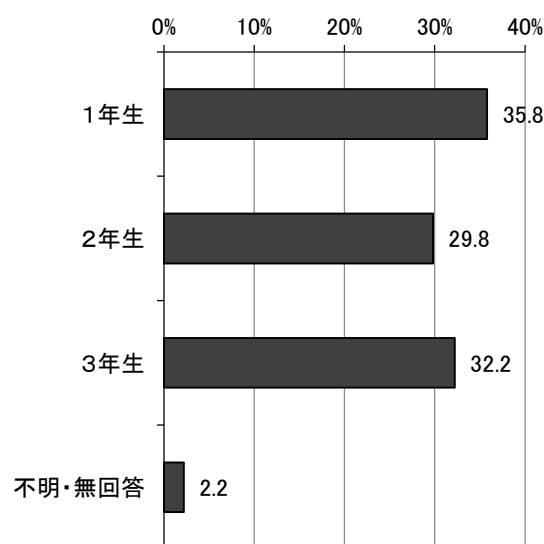
就学前児童の年齢についてみると、0歳が17.7%、4歳が15.7%、3歳が15.6%となっています。

小学生児童の学年についてみると、1年生が35.8%、3年生が32.2%、2年生が29.8%となっています。

就学前児童(N=1240)



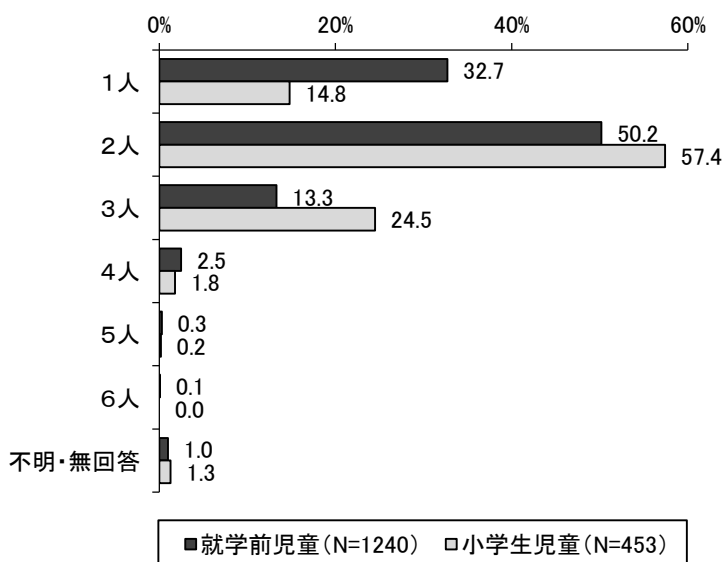
小学生児童(N=453)



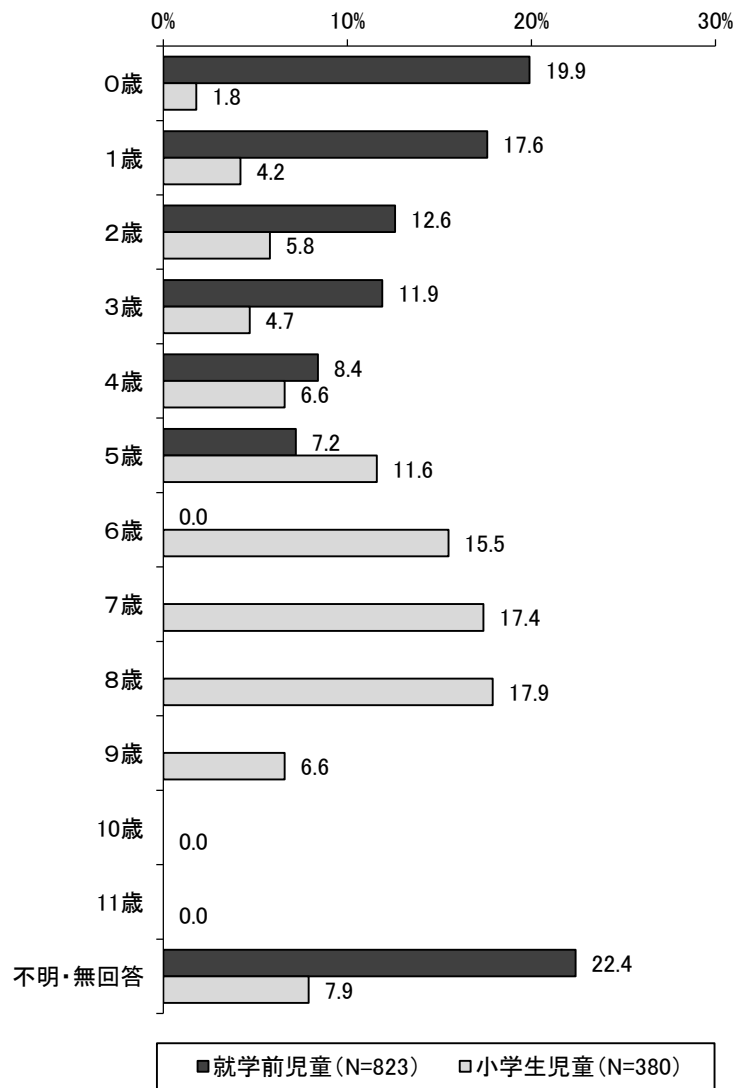
(3) 子どもの人数〈数量回答〉〔就学前児童調査・小学生児童調査…問3〕

子どもの人数についてみると、「2人」が就学前児童で50.2%、小学生児童では57.4%と最も高くなっています。次いで、就学前児童では「1人」が32.7%、小学生児童では「3人」が24.5%となっています。

子どもが2人以上いる場合の末子の年齢についてみると、就学前児童では「0歳」から「3歳」までが1割以上となっており、小学生児童では「5歳」から「8歳」が1割以上となっています。

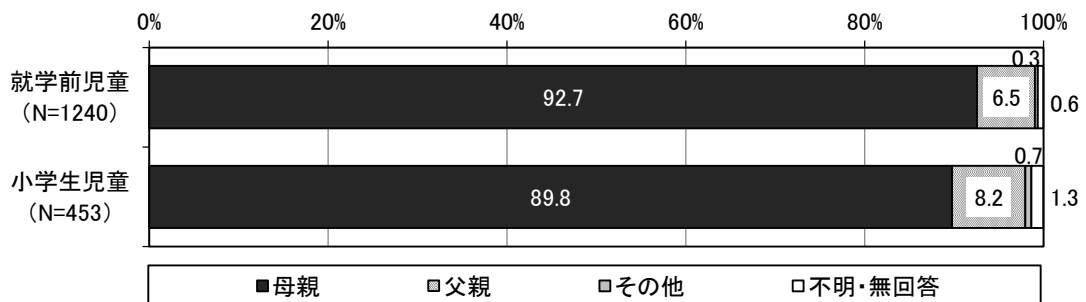


◎子どもが2人以上いる場合の末子の年齢〈数量回答〉



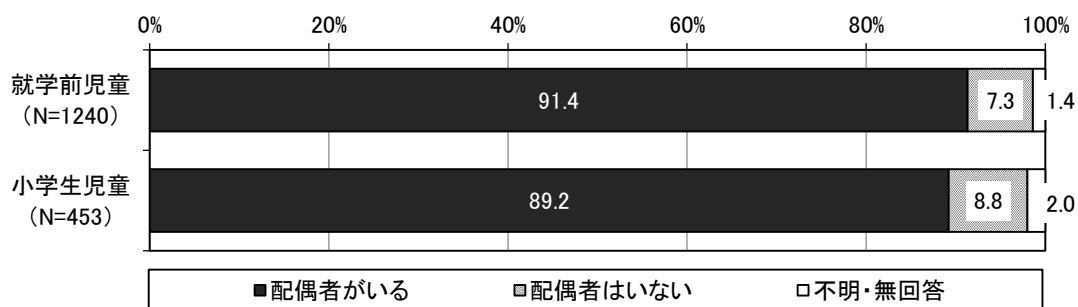
(4) 調査票の回答者〈単数回答〉〔就学前児童調査・小学生児童調査…問4〕

回答者についてみると、「母親」が就学前児童で92.7%、小学生児童で89.8%と最も高く、大部分を占めています。



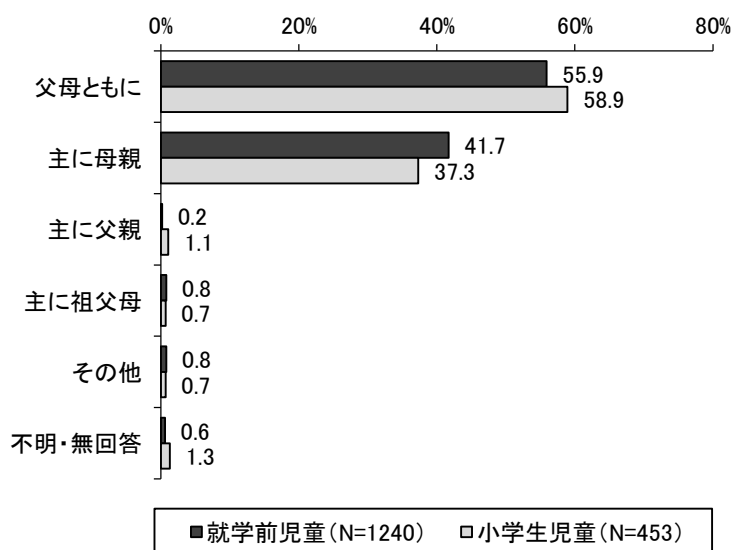
(5) 調査票の回答者の配偶関係の有無〈単数回答〉〔就学前児童調査・小学生児童調査…問5〕

回答者の配偶関係の有無についてみると、「配偶者がいる」が就学前児童で91.4%、小学生児童で89.2%となっています。



(6) 子育てを主に行っている方〈単数回答〉〔就学前児童調査・小学生児童調査…問6〕

子育てを主に行っている方についてみると、「父母ともに」が就学前児童で55.9%、小学生児童で58.9%と最も高く、次いで、「主に母親」が就学前児童で41.7%、小学生児童で37.3%となっています。



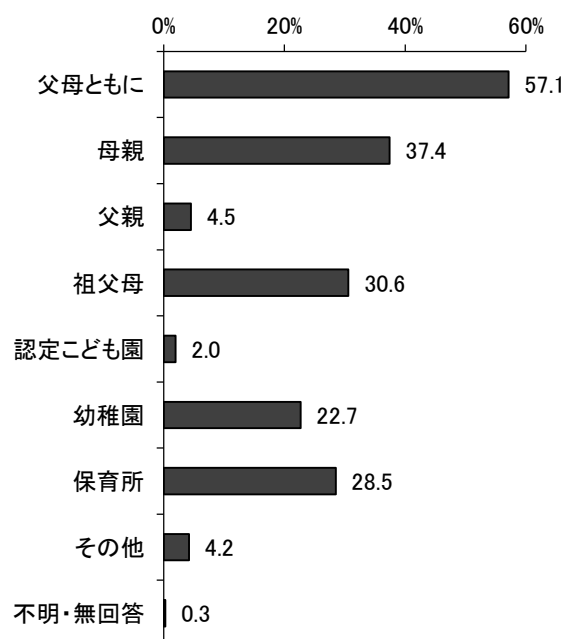
2 子どもの育ちをめぐる環境について

(1) 子育てに日常的に関わっている方(施設)〈複数回答〉

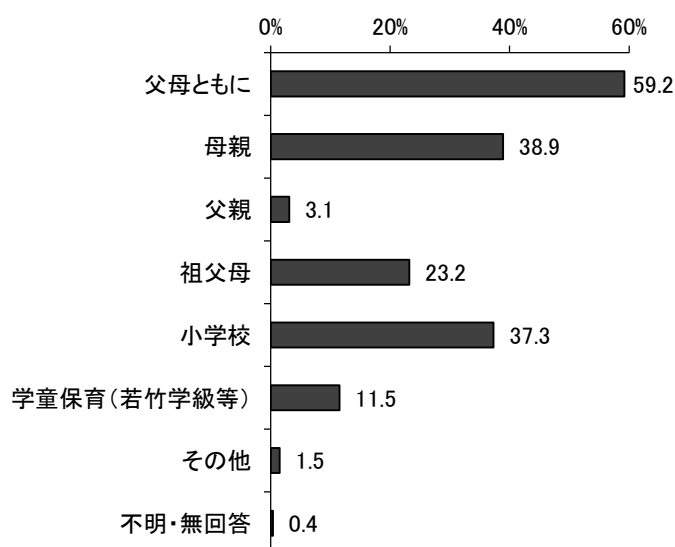
〔就学前児童調査…問7・小学生児童調査…問11〕

子育てに日常的に関わっている方(施設)についてみると、「父母ともに」が就学前児童で57.1%、小学生児童で59.2%と最も高くなっています。次いで、「母親」が就学前児童で37.4%、小学生児童で38.9%となっています。

就学前児童(N=1240)



小学生児童(N=453)



●子育てに日常的に関わっている方(施設)×地区(ブロック別)

〔就学前児童調査…問7・小学生児童調査…問11〕

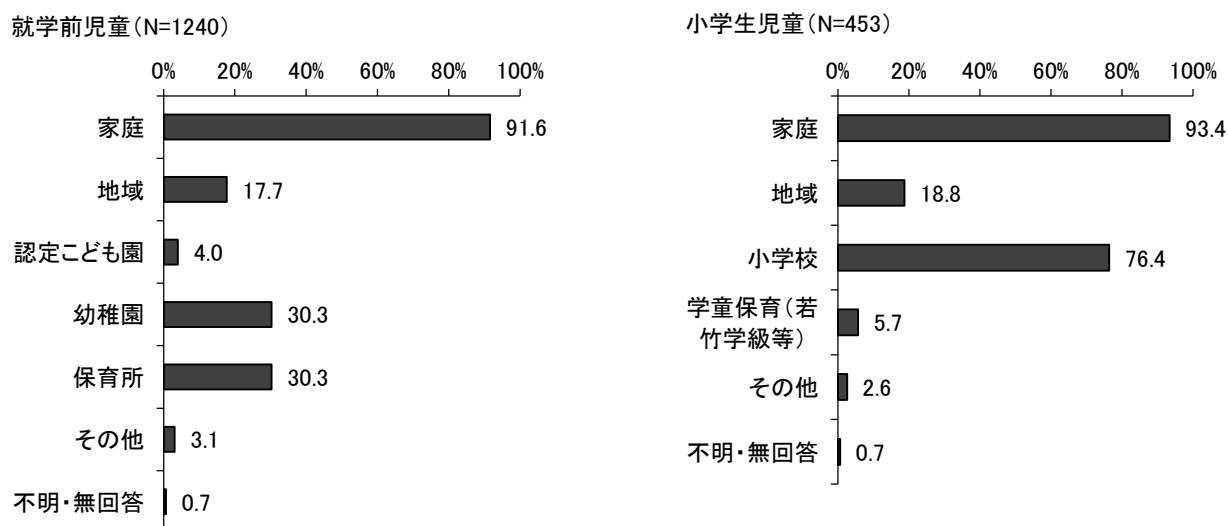
子育てに日常的に関わっている方(施設)を地区別にみると、各地区ともに「父母ともに」が最も高くなっています。また、幼稚園と保育所に着目すると、1ブロック、2ブロック、3ブロック、5ブロックは幼稚園に比べ、保育所が高くなっている一方、4ブロック、6ブロックは幼稚園のほうが高くなっています。

上段:度数 下段:%	父母ともに	母親	父親	祖父母	認定こども園	幼稚園	保育所	その他	不明・無回答
1ブロック (N=281)	166 59.1	100 35.6	12 4.3	86 30.6	4 1.4	61 21.7	86 30.6	6 2.1	0 0.0
2ブロック (N=204)	117 57.4	77 37.7	11 5.4	72 35.3	10 4.9	35 17.2	62 30.4	15 7.4	0 0.0
3ブロック (N=178)	108 60.7	62 34.8	3 1.7	55 30.9	0 0.0	35 19.7	59 33.1	6 3.4	0 0.0
4ブロック (N=154)	83 53.9	66 42.9	7 4.5	48 31.2	4 2.6	41 26.6	39 25.3	6 3.9	0 0.0
5ブロック (N=167)	94 56.3	65 38.9	7 4.2	52 31.1	0 0.0	43 25.7	47 28.1	6 3.6	1 0.6
6ブロック (N=214)	119 55.6	78 36.4	13 6.1	58 27.1	7 3.3	62 29.0	51 23.8	11 5.1	0 0.0

(2) 子育てや教育に影響すると思われる環境〈複数回答〉

〔就学前児童調査…問8・小学生児童調査…問12〕

子育てや教育に影響すると思われる環境についてみると、「家庭」が就学前児童で91.6%、小学生児童で93.4%と最も高くなっています。次いで、就学前児童では「幼稚園」「保育所」が30.3%、小学生児童では「小学校」が76.4%となっています。



●子育てや教育に影響すると思われる環境×地区別〔就学前児童調査…問8・小学生児童調査…問12〕

子育てや教育に影響すると思われる環境を地区別にみると、各地区ともに「家庭」が9割以上と最も高くなっています。

幼稚園と保育所を比べると、2ブロック、3ブロックでは「保育所」が高く、1ブロック、5ブロックでは同水準、4ブロック、6ブロックでは「幼稚園」が高く、傾向の相違がうかがえます。

上段:度数 下段:%	家庭	地域	認定こども園	幼稚園	保育所	その他	不明・無回答
1ブロック (N=281)	259 92.2	56 19.9	10 3.6	90 32.0	95 33.8	9 3.2	1 0.4
2ブロック (N=204)	186 91.2	39 19.1	16 7.8	45 22.1	66 32.4	6 2.9	0 0.0
3ブロック (N=178)	164 92.1	22 12.4	1 0.6	51 28.7	59 33.1	3 1.7	0 0.0
4ブロック (N=154)	141 91.6	26 16.9	6 3.9	52 33.8	35 22.7	2 1.3	3 1.9
5ブロック (N=167)	152 91.0	27 16.2	2 1.2	52 31.1	52 31.1	7 4.2	2 1.2
6ブロック (N=214)	199 93.0	42 19.6	11 5.1	77 36.0	55 25.7	11 5.1	0 0.0

●子育てや教育に影響すると思われる環境×子育ての不安・負担感の有無

子育てや教育に影響すると思われる環境を子育ての不安・負担感の有無でみると、就学前児童、小学生児童ともに「家庭」が8割以上と最も高くなっています。

就学前児童、小学生児童ともに「非常に不安や負担を感じる」人は、「あまり不安や負担などは感じない」人「まったく感じない」人に比べ、「幼稚園」「保育所」「小学校」の割合が高く、子育てや教育における不安や負担感を軽減するうえで重要な役割を担っていることがうかがえます。

◆就学前児童

上段:度数 下段:%	家庭	地域	認定こども園	幼稚園	保育所	その他	不明・無回答
非常に不安や負担を感じる (N=94)	87 92.6	18 19.1	5 5.3	31 33.0	41 43.6	3 3.2	0 0.0
なんとなく不安や負担を感じる (N=421)	392 93.1	91 21.6	12 2.9	134 31.8	122 29.0	14 3.3	2 0.5
あまり不安や負担などは感じない (N=415)	381 91.8	62 14.9	17 4.1	120 28.9	115 27.7	12 2.9	4 1.0
まったく感じない (N=105)	94 89.5	13 12.4	5 4.8	23 21.9	30 28.6	3 2.9	0 0.0

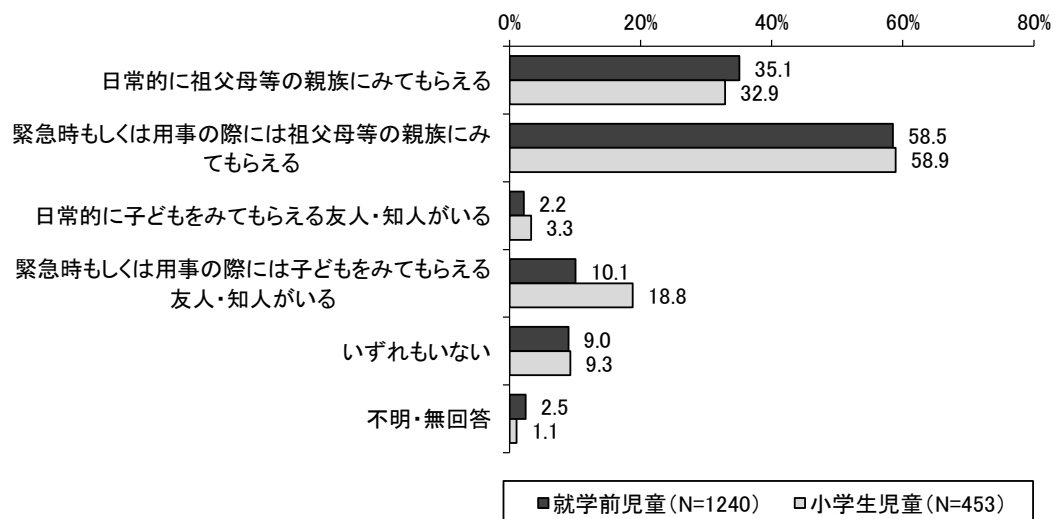
◆小学生児童

上段:度数 下段:%	家庭	地域	小学校	学童保育(若竹学級等)	その他	不明・無回答
非常に不安や負担を感じる (N=33)	28 84.8	5 15.2	29 87.9	5 15.2	2 6.1	1 3.0
なんとなく不安や負担を感じる (N=169)	159 94.1	31 18.3	127 75.1	9 5.3	5 3.0	1 0.6
あまり不安や負担などは感じない (N=143)	134 93.7	28 19.6	105 73.4	7 4.9	3 2.1	1 0.7
まったく感じない (N=30)	28 93.3	3 10.0	20 66.7	1 3.3	0 0.0	0 0.0

(3) 日頃、子どもをみてもらえる親族・知人の有無〈複数回答〉

〔就学前児童調査…問9・小学生児童調査…問13〕

日頃、子どもをみてもらえる親族・知人の有無についてみると、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が就学前児童で 58.5%、小学生児童で 58.9%と最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が就学前児童で 35.1%、小学生児童で 32.9%となっています。

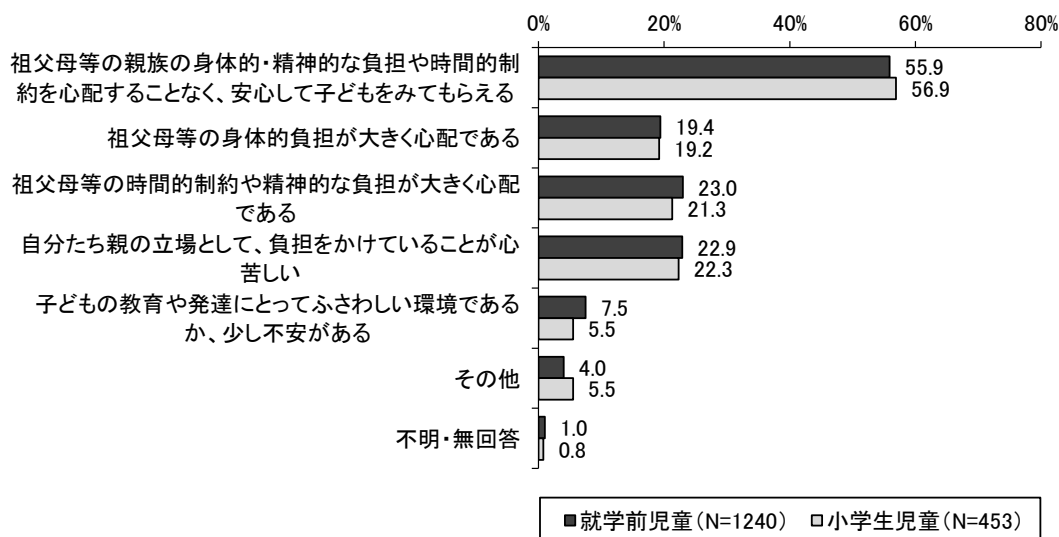


(3) で「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」または「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」を選んだ方

(3) - 1 祖父母等の親族にみてもらっている状況〈複数回答〉

〔就学前児童調査…問9-1・小学生児童調査…問13-1〕

祖父母等の親族にみてもらっている状況についてみると、「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が就学前児童で 55.9%、小学生児童で 56.9%と最も高く、次いで、就学前児童では「祖父母等の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」が 23.0%、小学生児童では「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」が 22.3%となっています。

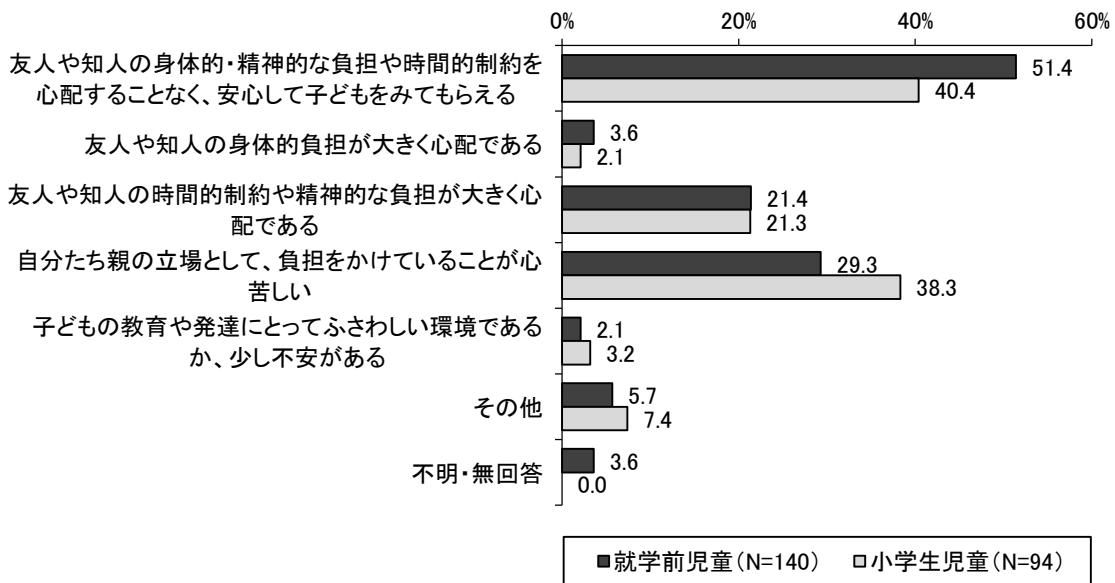


(3)で「日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる」または「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」を選んだ方

(3) - 2 友人・知人にみてもらっている状況〈複数回答〉

[就学前児童調査…問9-2・小学生児童調査…問13-2]

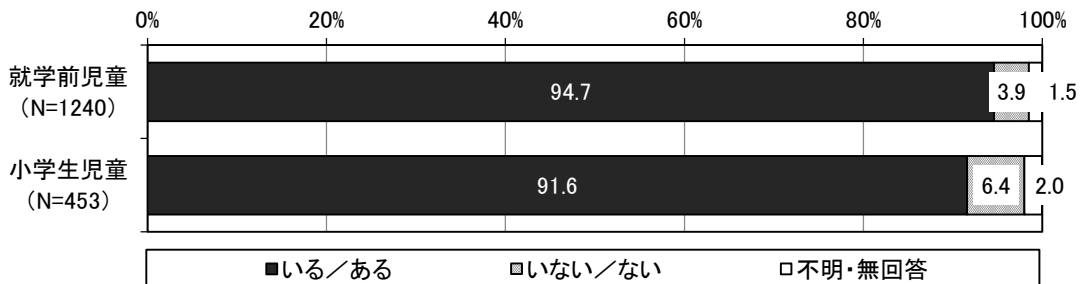
友人・知人にみてもらっている状況についてみると、「友人や知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が、就学前児童で51.4%、小学生児童で40.4%と最も高く、次いで、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」が就学前児童で29.3%、小学生児童で38.3%となっています。



(4) 子育てをする上での相談相手や相談できる場所の有無〈単数回答〉

[就学前児童調査…問10・小学生児童調査…問14]

子育てをする上での相談相手(場所)の有無についてみると、「いる/ある」が就学前児童で94.7%、小学生児童で91.6%となっています。

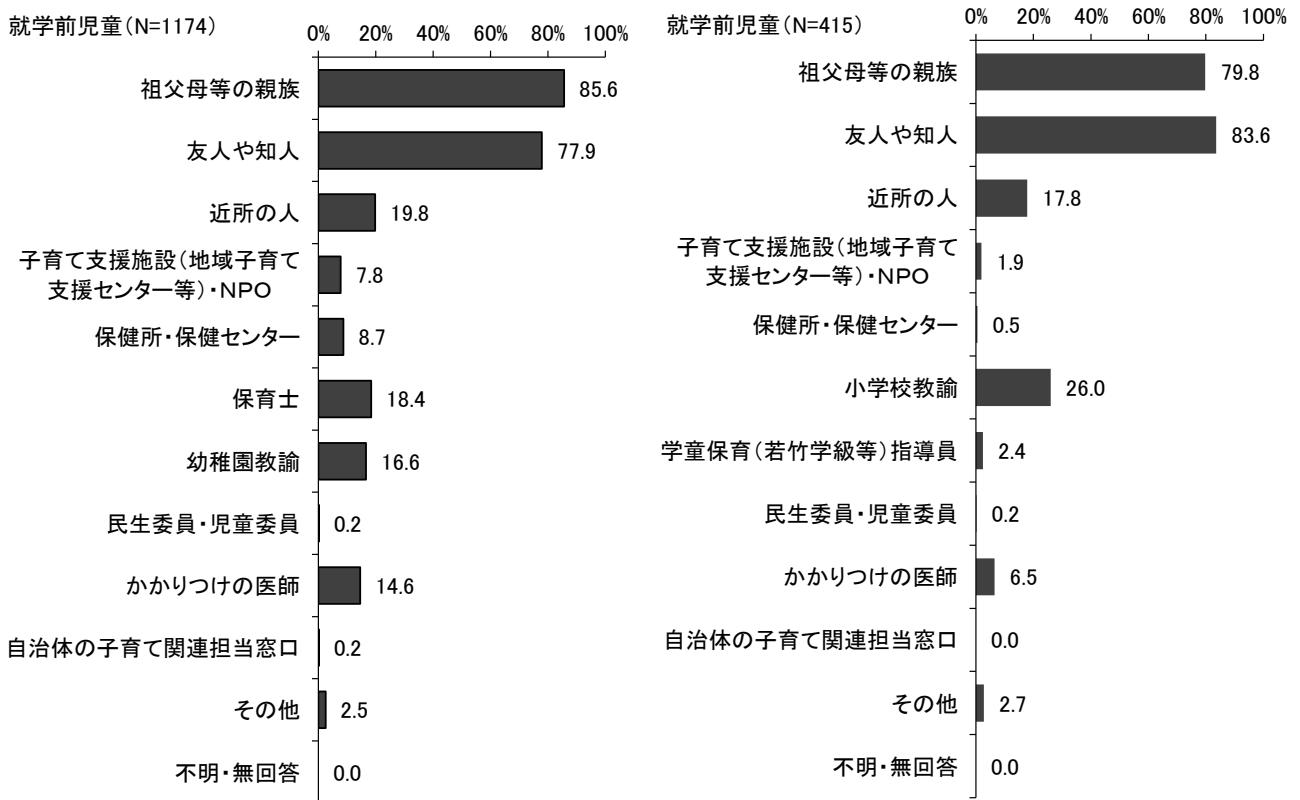


(4)で「いる／ある」を選んだ方

(4)－1 気軽に相談できる先〈複数回答〉

〔就学前児童調査…問 10－1・小学生児童調査…問 14－1〕

子育てに関して、気軽に相談できる先についてみると、就学前児童では「祖父母等の親族」が85.6%、小学生児童では「友人や知人」が83.6%と最も高くなっています。次いで就学前児童では「友人や知人」が77.9%、小学生児童では「祖父母等の親族」が79.8%となっています。

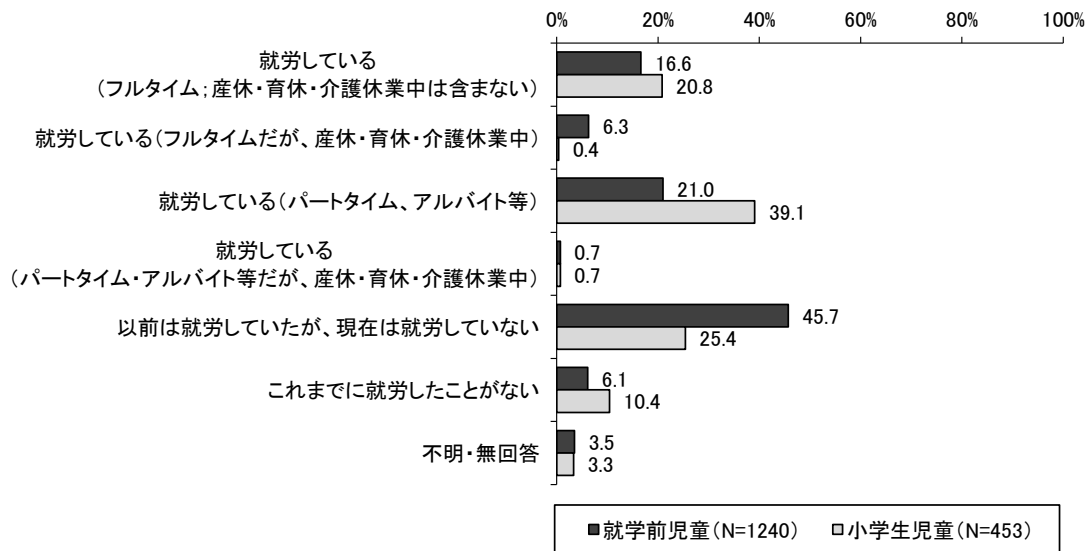


3 保護者の就労状況について

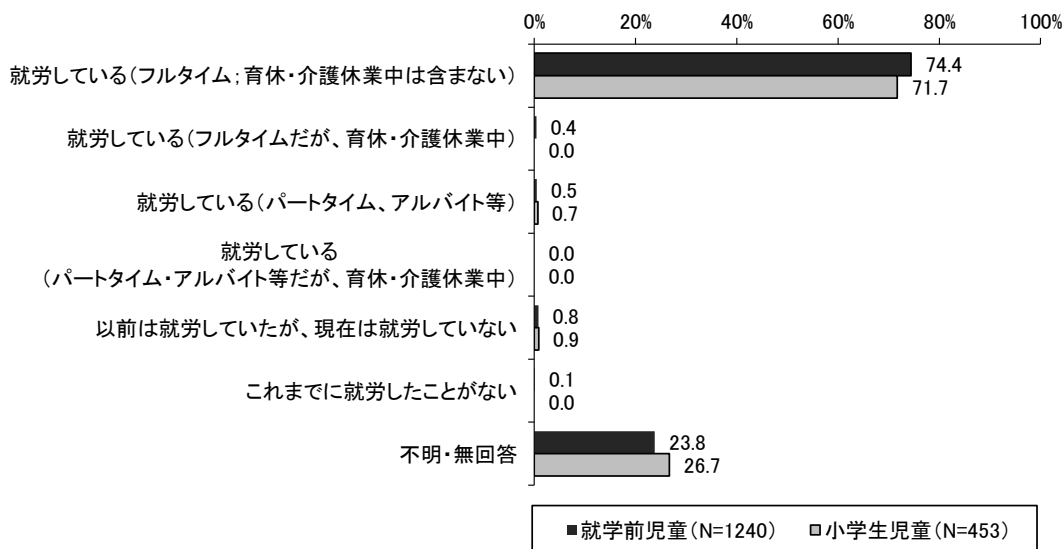
(1) 保護者の就労状況〈単数回答〉〔就学前児童調査…問 12、小学生児童調査…問 16〕

保護者の就労状況についてみると、母親では就学前児童で「以前は就労していたが、現在は就労していない」が45.7%、小学生児童で「就労している（パートタイム、アルバイト等）」が39.1%と最も高くなっています。父親では「就労している（フルタイム）」が就学前児童で74.4%、小学生児童で71.7%と最も高くなっています。

【母親】



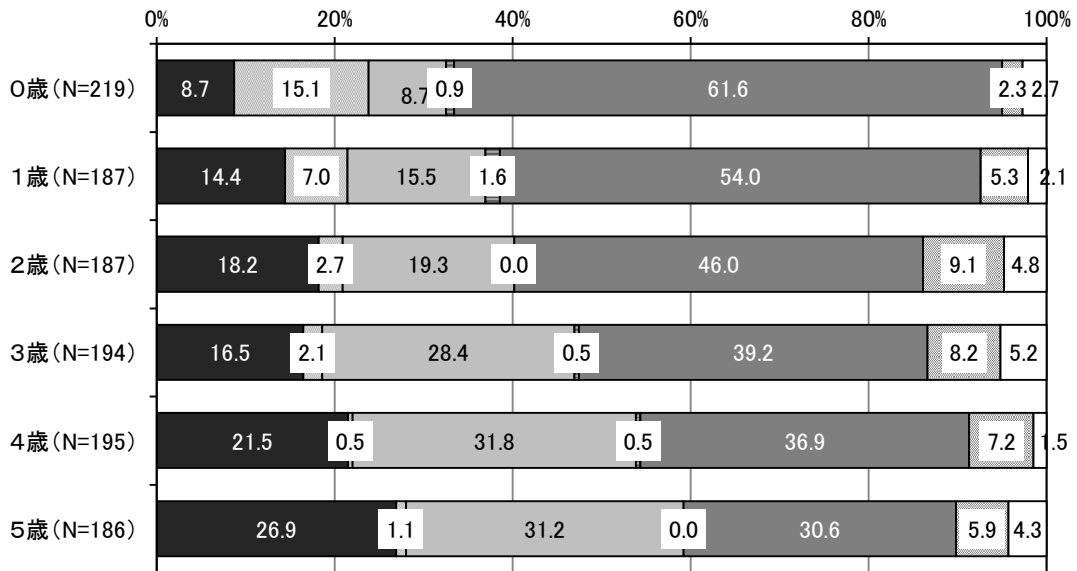
【父親】



* 「フルタイム」：1週5日程度・1日8時間程度の就労
「パート・アルバイト等」：フルタイム以外の就労

●保護者（母親）の就労状況×年齢〔就学前児童調査…問 12〕

保護者の就労状況を年齢別にみると、子どもの年齢があがるにつれ、フルタイムでの就業者が増え、「以前は就労していたが、現在は就労していない」の割合が減少していく傾向がうかがえます。
 また、3歳あたりでフルタイムやパート、アルバイトでの就労の割合が上昇している傾向がうかがえます。



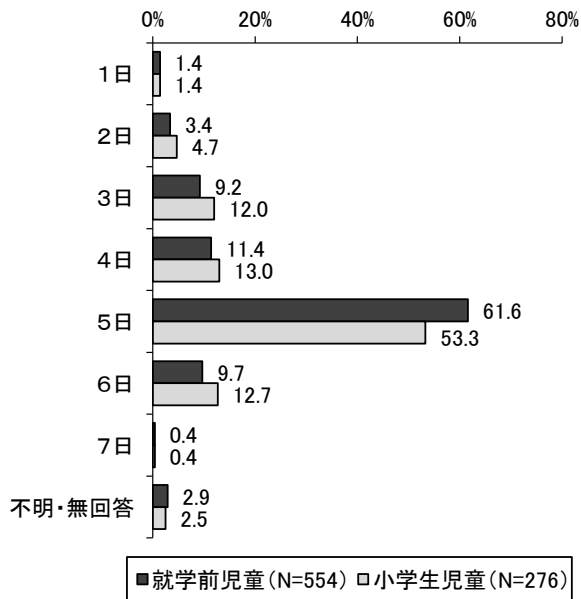
- 就労している(フルタイム;産休・育休・介護休業中は含まない)
- 就労している(フルタイムだが、産休・育休・介護休業中)
- 就労している(パートタイム、アルバイト等)
- 就労している(パートタイム・アルバイト等だが、産休・育休・介護休業中)
- 以前は就労していたが、現在は就労していない
- これまでに就労したことがない
- 不明・無回答

●就労している保護者の状況

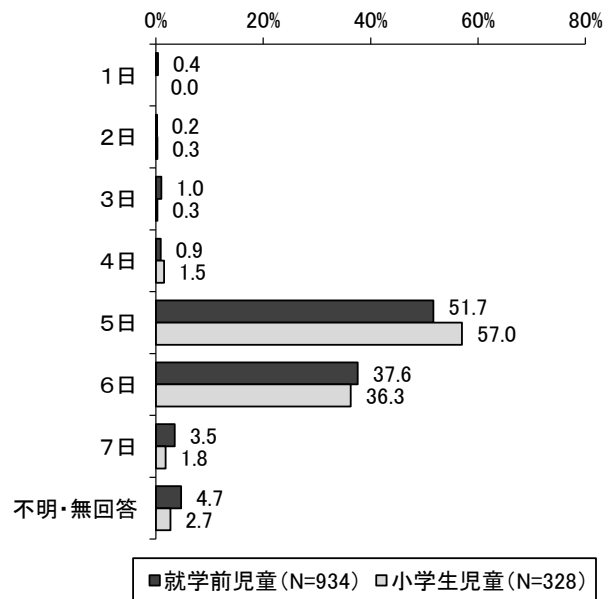
就労している保護者の状況についてみると、母親では就学前児童、小学生児童ともに1週当たりの就労日数は「5日」、1日当たりの就労時間は「8時間」、出発時間は「7～8時台」、帰宅時間は「17～18時台」がそれぞれ最も高くなっています。また、父親では就学前児童、小学生児童ともに1週当たりの就労日数は「5日」、1日当たりの就労時間は「9時間以上」、出発時間は「7～8時台」、帰宅時間は「19～20時台」がそれぞれ最も高くなっています。

① 1週当たりの就労日数〈数量回答〉

【母親】

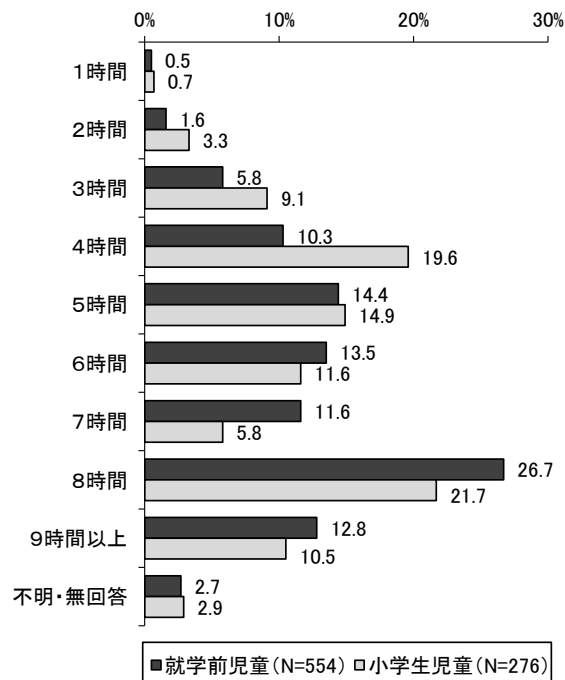


【父親】

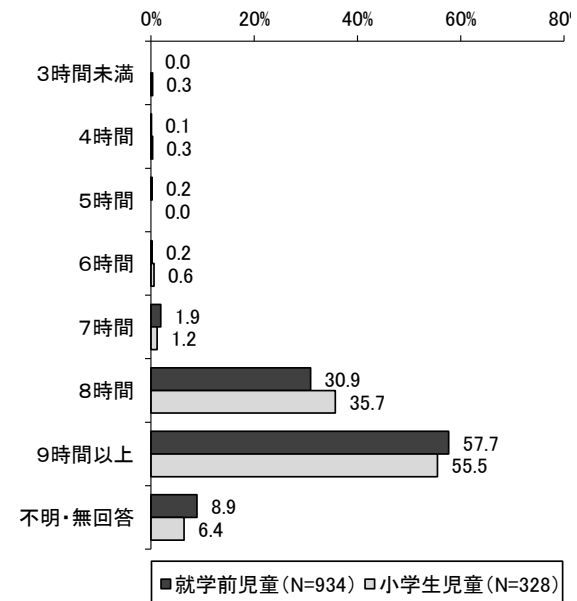


② 1日当たりの就労時間〈数量回答〉

【母親】

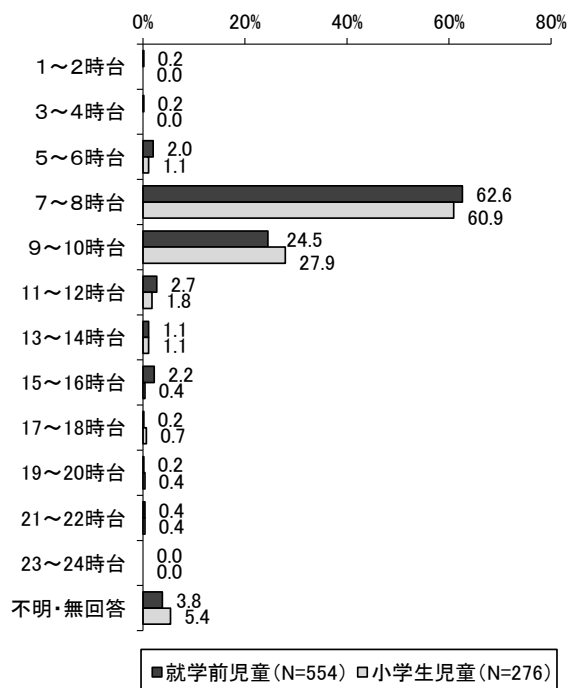


【父親】

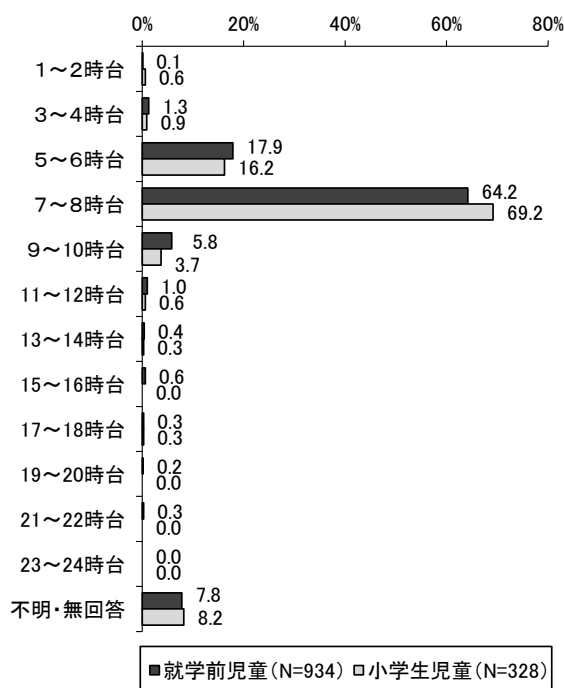


③出発時間〈数量回答〉

【母親】

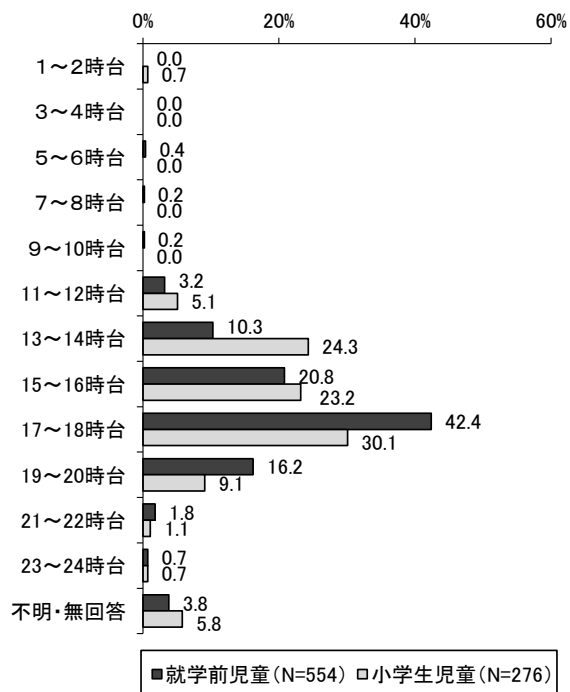


【父親】

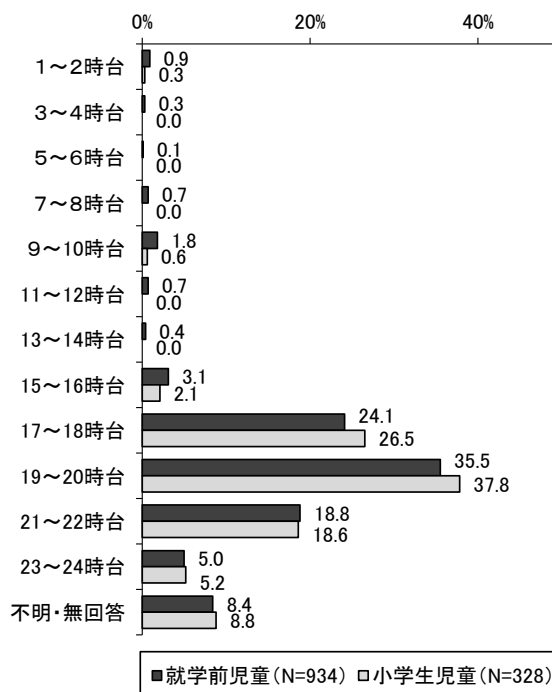


④帰宅時間〈数量回答〉

【母親】



【父親】



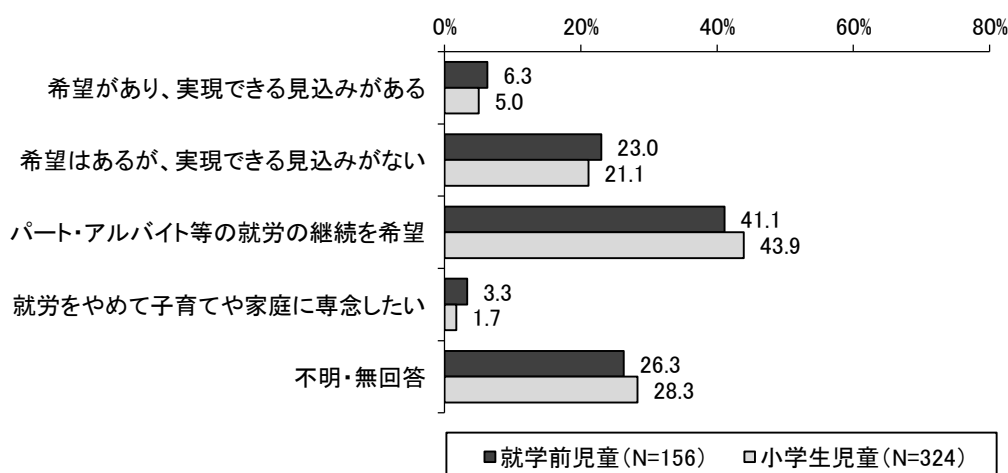
(1)で「就労している(パートタイム、アルバイト等)」または「就労している(パートタイム・アルバイト等だが、産休・育休・介護休業中)」を選んだ方

(2)パート・アルバイト等で就労している方のフルタイムへの転換希望〈単数回答〉

〔就学前児童調査…問12、小学生児童調査…問16〕

パート・アルバイト等で就労している方のフルタイムへの転換希望についてみると、母親では、「パート・アルバイト等の就労の継続を希望」が就学前児童で41.1%、小学生児童で43.9%と最も高くなっています。

【母親】



【父親】

【父親】 フルタイムへの転換希望	就学前児童 (N=6)		小学生児童 (N=3)	
	件数	%	件数	%
希望があり、実現できる見込みがある	0	0.0	0	0.0
希望はあるが、実現できる見込みがない	0	0.0	2	66.7
パート・アルバイト等の就労の継続を希望	1	16.7	0	0.0
就労をやめて子育てや家庭に専念したい	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	5	83.3	1	33.3

(1)で「以前は就労していたが、現在は就労していない」または「これまでに就労したことがない」を選んだ方

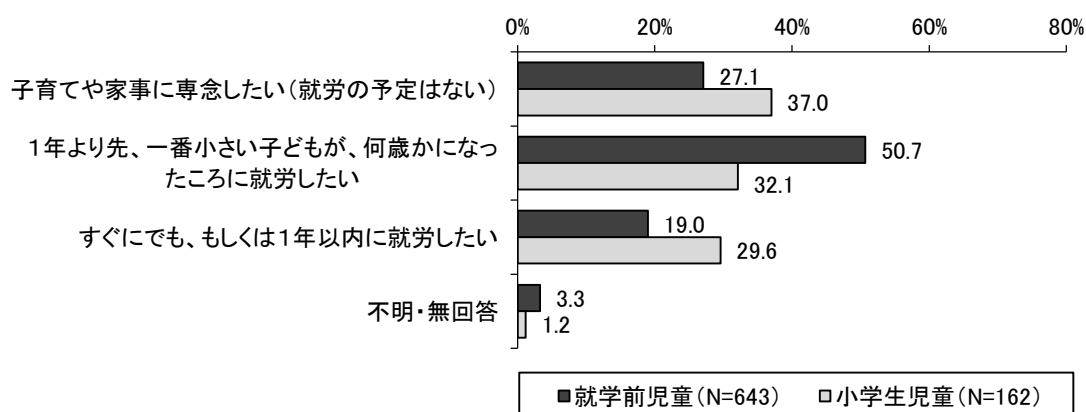
(3) 現在、就労していない方の就労希望〈単数回答〉

〔就学前児童調査…問 12-1、小学生児童調査…問 16-1〕

現在、就労していない方の就労希望についてみると、母親では就学前児童で「1年より先、一番小さい子どもが、何歳かになったところに就労したい」が50.7%、小学生児童では「子育てや家事に専念したい（就労の予定はない）」が37.0%と最も高くなっています。

また、一番下の子どもが何歳になれば就労したいかに関しては、就学前児童、小学生児童ともに「3歳」が最も高くなっています。

【母親】



【父親】

【父親】 就労希望	就学前児童 (N=11)		小学生児童 (N=4)	
	件数	%	件数	%
子育てや家事などに専念したい(就労の予定はない)	0	0.0	2	50.0
1年より先、一番下の子どもが()歳になったところに就労したい	1	9.1	0	0.0
すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい	8	72.7	2	50.0
不明・無回答	2	18.2	0	0.0

①一番下の子どもが何歳になれば就労したいか 〈数量回答〉

《「1年より先、一番下の子どもが()歳になったところに就労したい」を選んだ方》

【母親】 就労したい時の 末子の年齢	就学前児童 (N=326)		小学生児童 (N=52)	
	件数	%	件数	%
1歳	11	3.4	0	0.0
2歳	16	4.9	0	0.0
3歳	120	36.8	9	17.3
4歳	45	13.8	1	1.9
5歳	12	3.7	3	5.8
6歳	45	13.8	5	9.6
7歳	39	12.0	7	13.5
8歳	9	2.8	3	5.8
9歳	1	0.3	2	3.8
10歳	10	3.1	7	13.5
11歳	0	0.0	2	3.8
12歳	0	0.0	3	5.8
13歳	2	0.6	6	11.5
14歳以上	2	0.6	3	5.8
不明・無回答	14	4.3	1	1.9

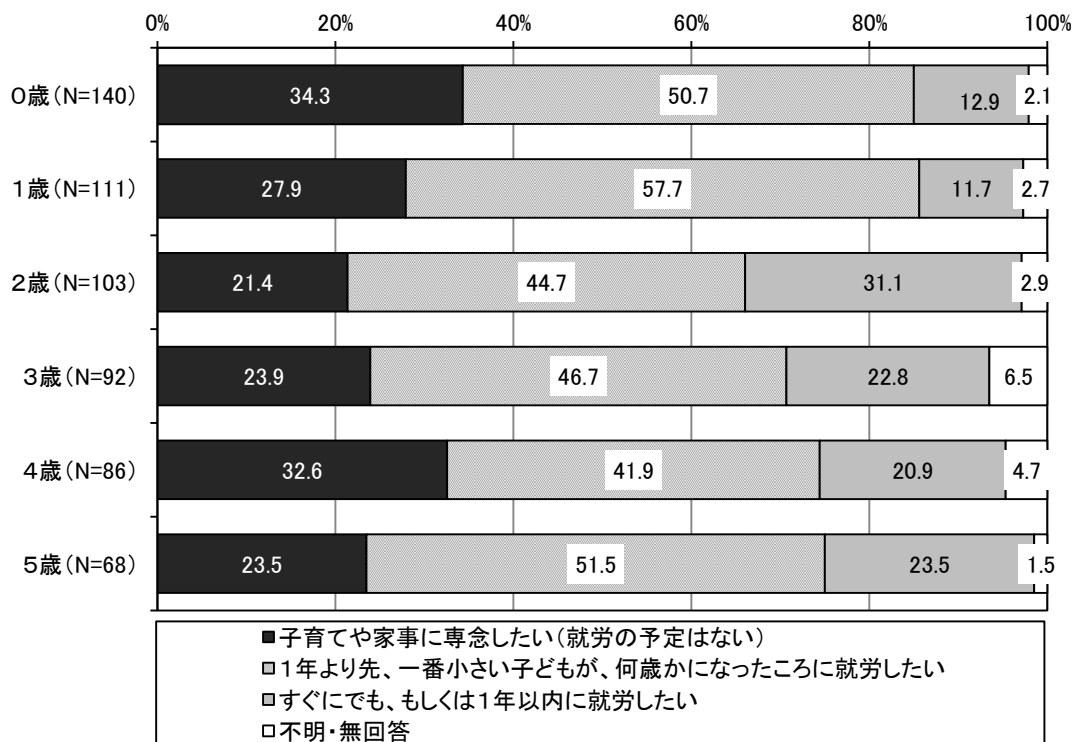
※【父親】就学前調査では「6歳」に1件、小学生調査は回答がありませんでした。

(1)で「以前は就労していたが、現在は就労していない」または「これまでに就労したことがない」を選んだ方

●現在、就労していない方の就労希望×年齢〔就学前児童調査…問 12-1〕

現在、就労していない方の就労希望を年齢別にみると、年齢があがるにつれ「子育てや家事に専念したい（就労の予定はない）」の割合が低下する傾向があり、就労意向が高まっています。

また、「1年より先、一番小さい子どもが、何歳かになったところに就労したい」「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」に着目すると、年齢があがるにつれ、「1年より先、一番小さい子どもが、何歳かになったところに就労したい」が低下する傾向がみられ、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が3歳以降で2～3割に上昇しています。

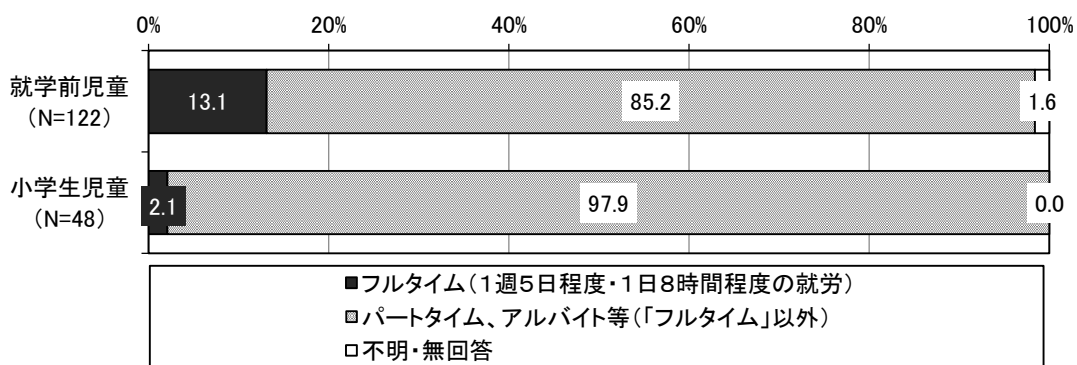


『すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい』方の希望する就労形態については、母親では「パートタイム、アルバイト等（「フルタイム」以外）」が就学前児童で 85.2%、小学生児童で 97.9%と最も高くなっています。

また、パートタイム、アルバイト等（「フルタイム」以外）を選んだ方の希望する1週当たりの就労日数については、母親では就学前児童で「4日」、小学生児童で「3日」の割合が最も高くなっています。希望する1日当たりの就労時間では、母親では就学前児童で「5時間」、小学生児童で「4時間」の割合が最も高くなっています。

②希望する就労形態〈単数回答〉《「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」を選んだ方》

【母親】



【父親】

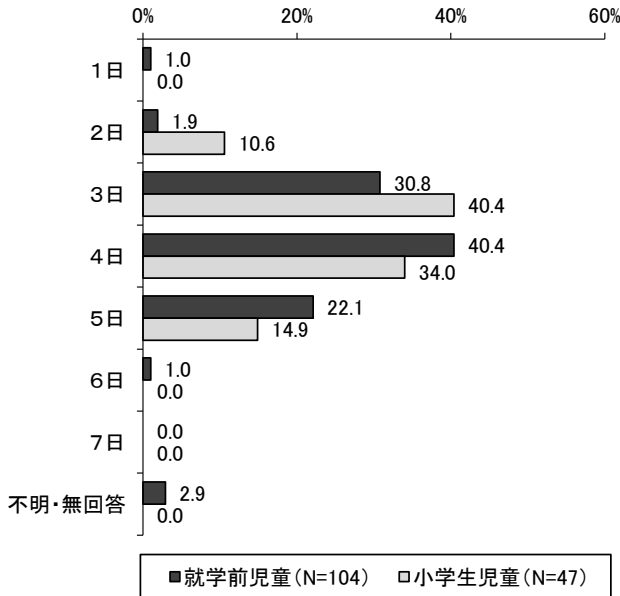
【父親】 希望する就労形態	就学前児童 (N=8)		小学生児童 (N=2)	
	件数	%	件数	%
フルタイム (1週5日程度・1日8時間程度の就労)	6	75.0	1	50.0
パートタイム、アルバイト等 (「ア」以外)	1	12.5	0	0.0
不明・無回答	1	12.5	1	50.0

③パートタイム、アルバイト等で希望する就労形態〈数量回答〉

《②で「パートタイム、アルバイト等（「フルタイム」以外）」を選んだ方》

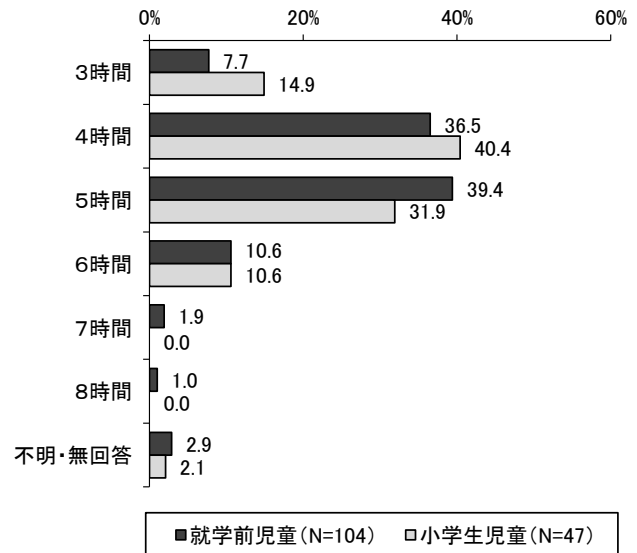
■希望する1週当たりの就労日数

【母親】



■希望する1日当たりの就労時間

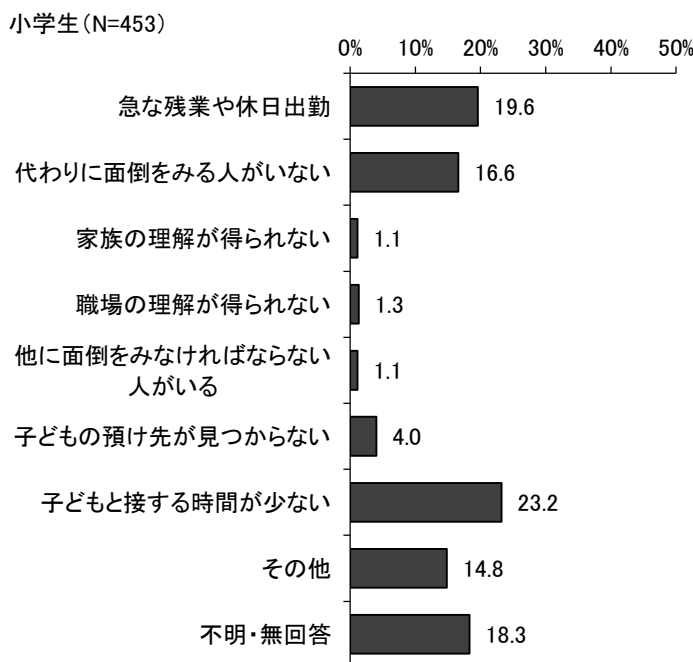
【母親】



※【父親】就学前児童調査で「4日」「6時間」が1件となっています。

(4) 仕事と子育ての両立で困っていること (小学生児童のみ) 〈単数回答〉

[小学生児童調査…問 17]

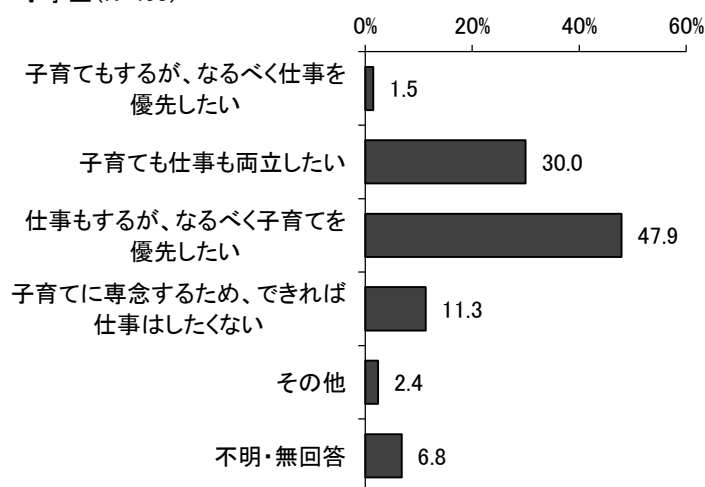


仕事と子育ての両立で困っていることについてみると、「子どもと接する時間が少ない」が23.2%と最も高く、次いで、「急な残業や休日出勤」が19.6%となっています。

(4) - 1 仕事と子育ての両立の理想像 (小学生児童のみ) <単数回答>

[小学生児童調査…問 18]

小学生 (N=453)

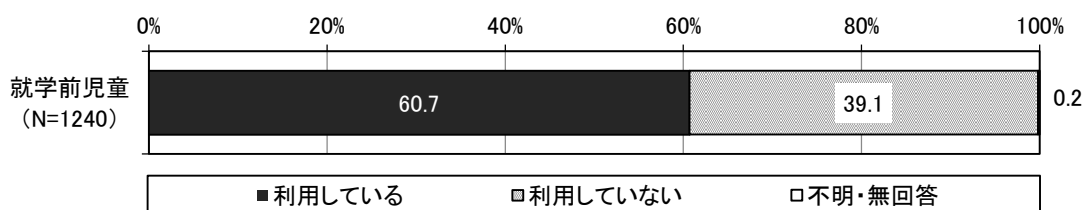


仕事と子育ての両立の理想像についてみると、「仕事もするが、なるべく子育てを優先したい」が 47.9%と最も高く、次いで、「子育ても仕事も両立したい」が 30.0%となっています。

4 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について (就学前児童)

(1) 現在の定期的な教育・保育事業の利用の有無 <単数回答> [就学前児童調査…問 13]

現在の定期的な教育・保育事業の利用の有無についてみると、「利用している」が 60.7%と半数以上を占めています。



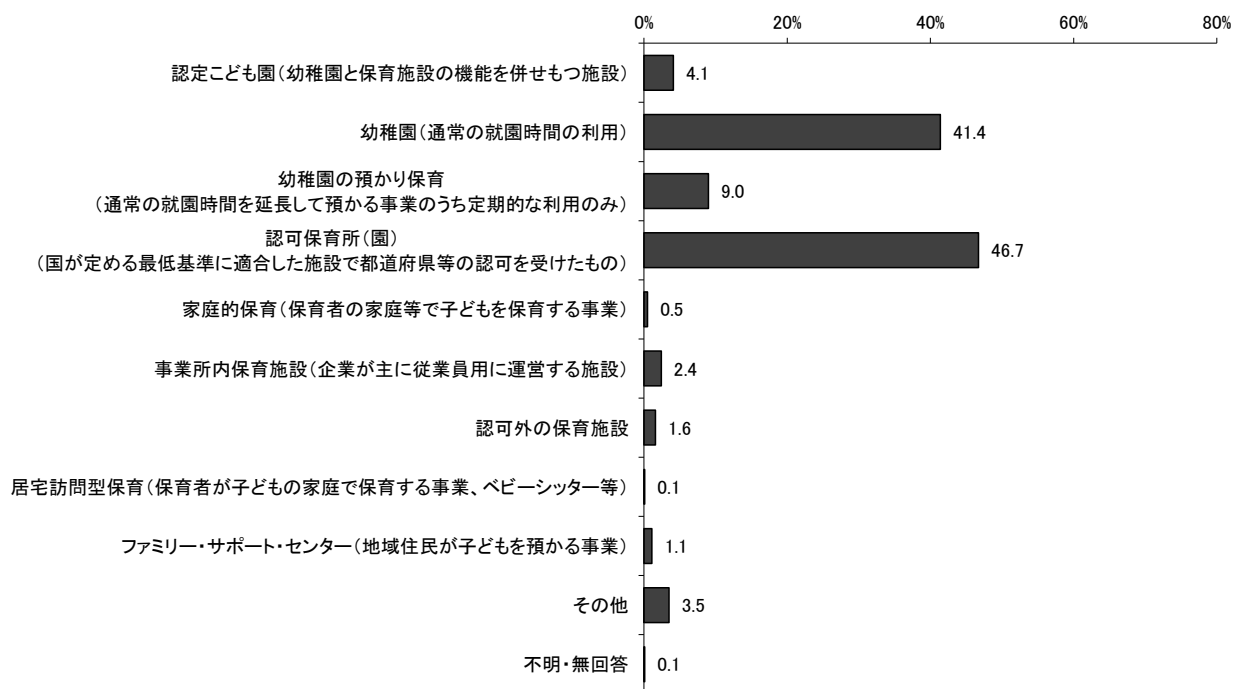
*ここでいう「定期的な教育・保育事業」とは、月単位で定期的に利用している事業を指す。具体的には、幼稚園や保育所など、(1) - 1 に示す事業が含まれる。

(1)で「利用している」を選んだ方

(1)－1 平日に利用している教育・保育事業〈複数回答〉〔就学前児童調査…問 13－1〕

平日に利用している教育・保育事業についてみると、「認可保育所（園）」が 46.7%と最も高く、次いで「幼稚園」が 41.4%となっています。

就学前児童(N=753)



(1)で「利用している」を選んだ方

(1)－2 平日に利用している教育・保育事業の現在の状況と、今後の利用希望

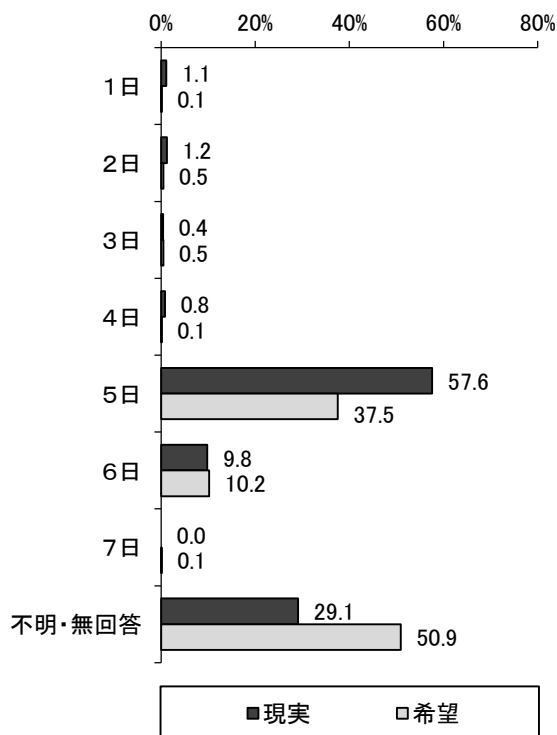
〈数量回答〉〔就学前児童調査…問 13－2〕

平日に利用している教育・保育事業の現在の状況と、今後の利用希望についてみると、1週当たりの利用日数では、現実、希望ともに「5日」が最も高く、それぞれ57.6%、37.5%となっています。

1日当たりの利用時間では、現実「6時間台」、希望「7時間台」が最も高くなっています。

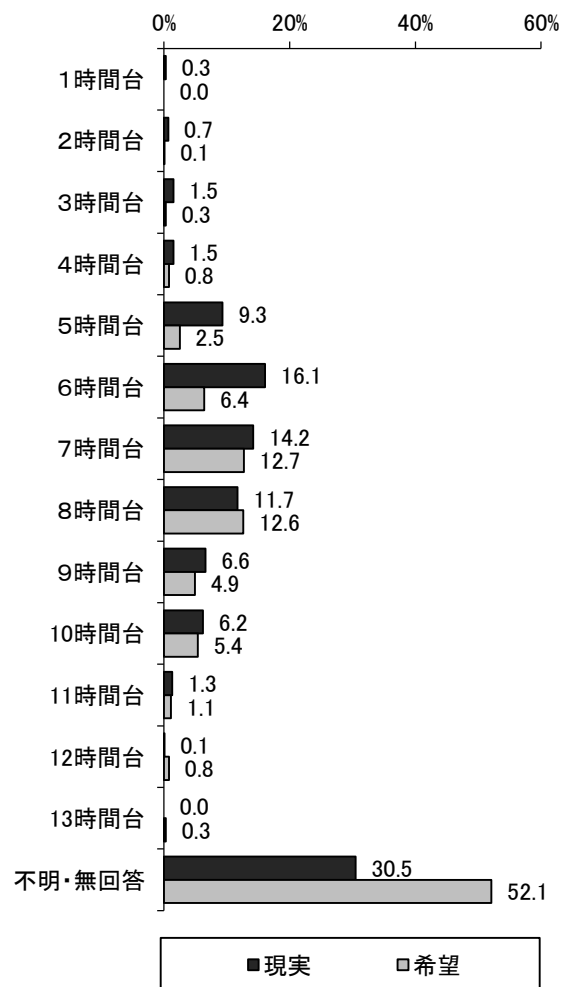
① 1週当たりの利用日数 〈数量回答〉

就学前児童(N=753)



② 1日当たりの利用時間 〈数量回答〉

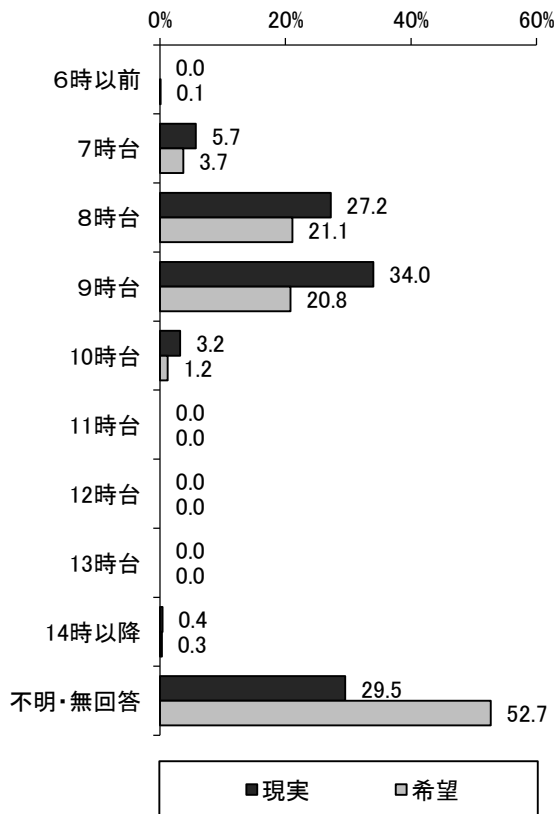
就学前児童(N=753)



利用開始時間では、現実には「9時台」が34.0%、希望は「8時台」が21.1%と最も高くなっています。また、終了時間では、現実には「15時台」、希望は「16時台」が最も高くなっています。

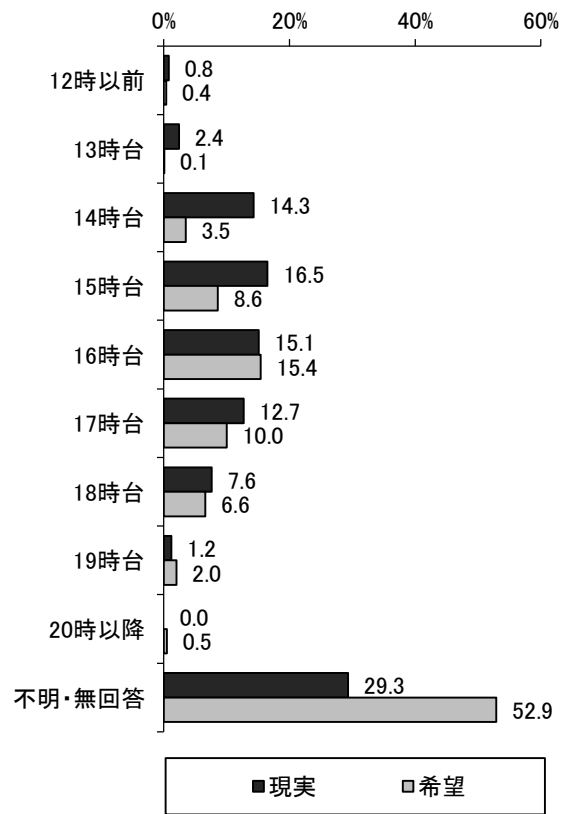
③利用開始時間〈数量回答〉

就学前児童(N=753)



④利用終了時間〈数量回答〉

就学前児童(N=753)

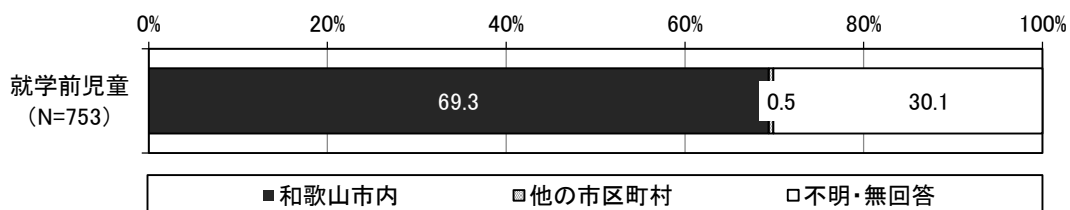


(1)で「利用している」を選んだ方

(1)－3 平日、利用している教育・保育事業の実施場所〈単数回答〉

[就学前児童調査…問 13－3]

平日、利用している教育・保育事業の実施場所についてみると、「和歌山市内」が69.3%と半数以上を占めています。

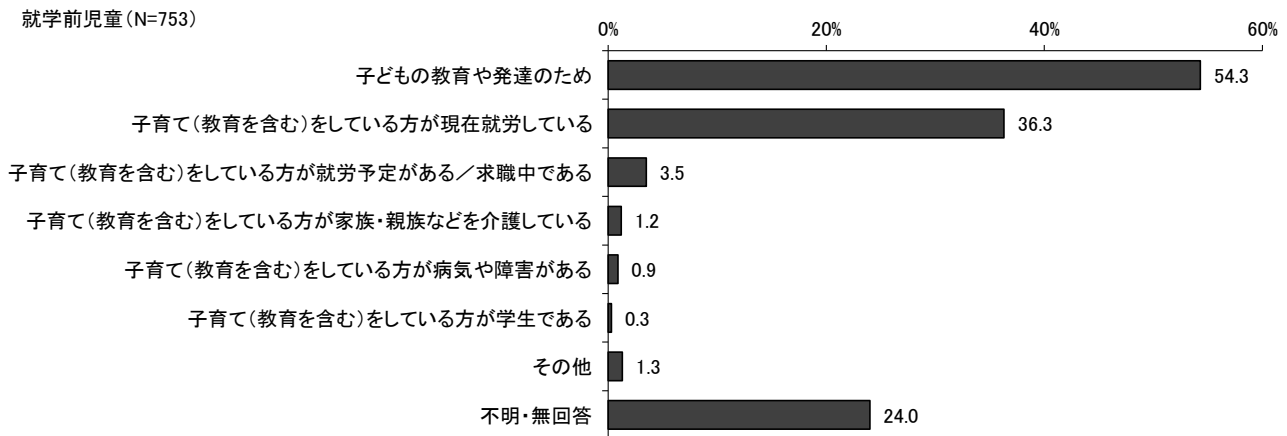


(1)で「利用している」を選んだ方

(1)－4 平日、教育・保育事業を利用している主な理由〈複数回答〉

〔就学前児童調査…問 13－4〕

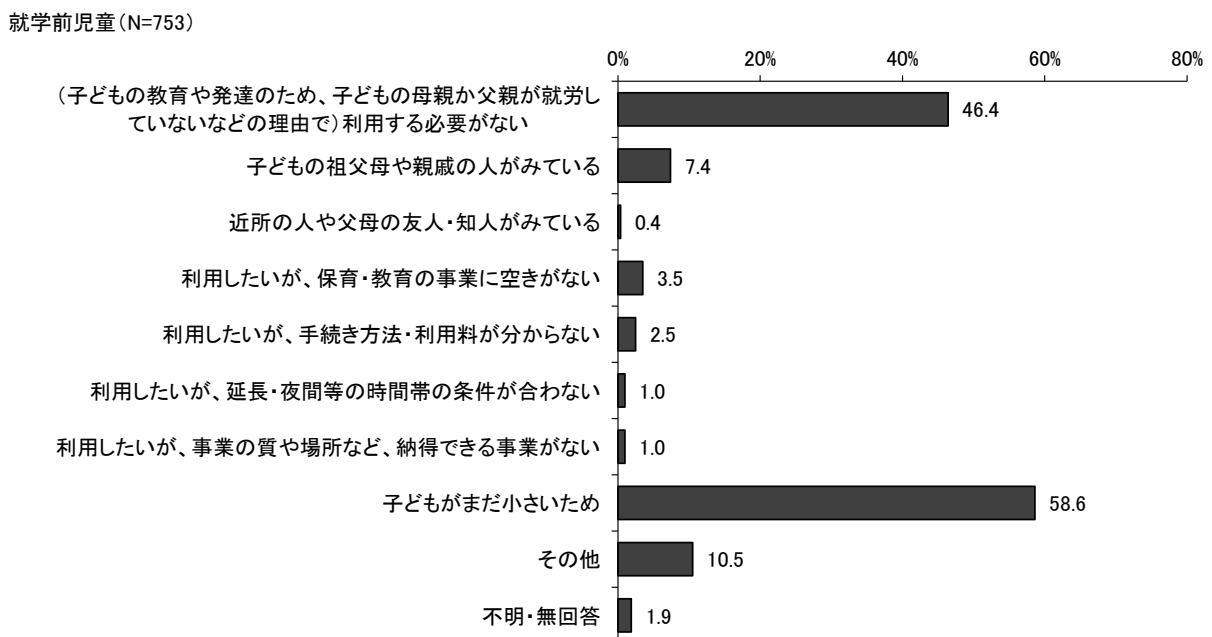
平日、教育・保育事業を利用している主な理由についてみると、「子どもの教育や発達のため」が54.3%と最も高く、次いで「子育て（教育を含む）をしている方が現在就労している」が36.3%となっています。



(1)で「利用していない」を選んだ方

(1)－5 利用していない主な理由〈複数回答〉〔就学前児童調査…問 13－5〕

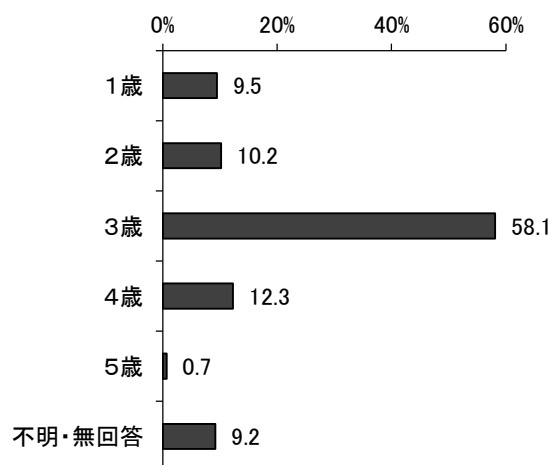
平日、教育・保育事業を利用していない主な理由についてみると、「子どもがまだ小さいため」が58.6%と最も高く、次いで「(子どもの教育や発達のため、子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で)利用する必要がない」が46.4%となっています。



◎利用したい時の子どもの年齢〈数量回答〉

《「子どもがまだ小さいため（ 歳くらいになったら利用しようと考えている）」を選んだ方》

就学前児童(N=284)

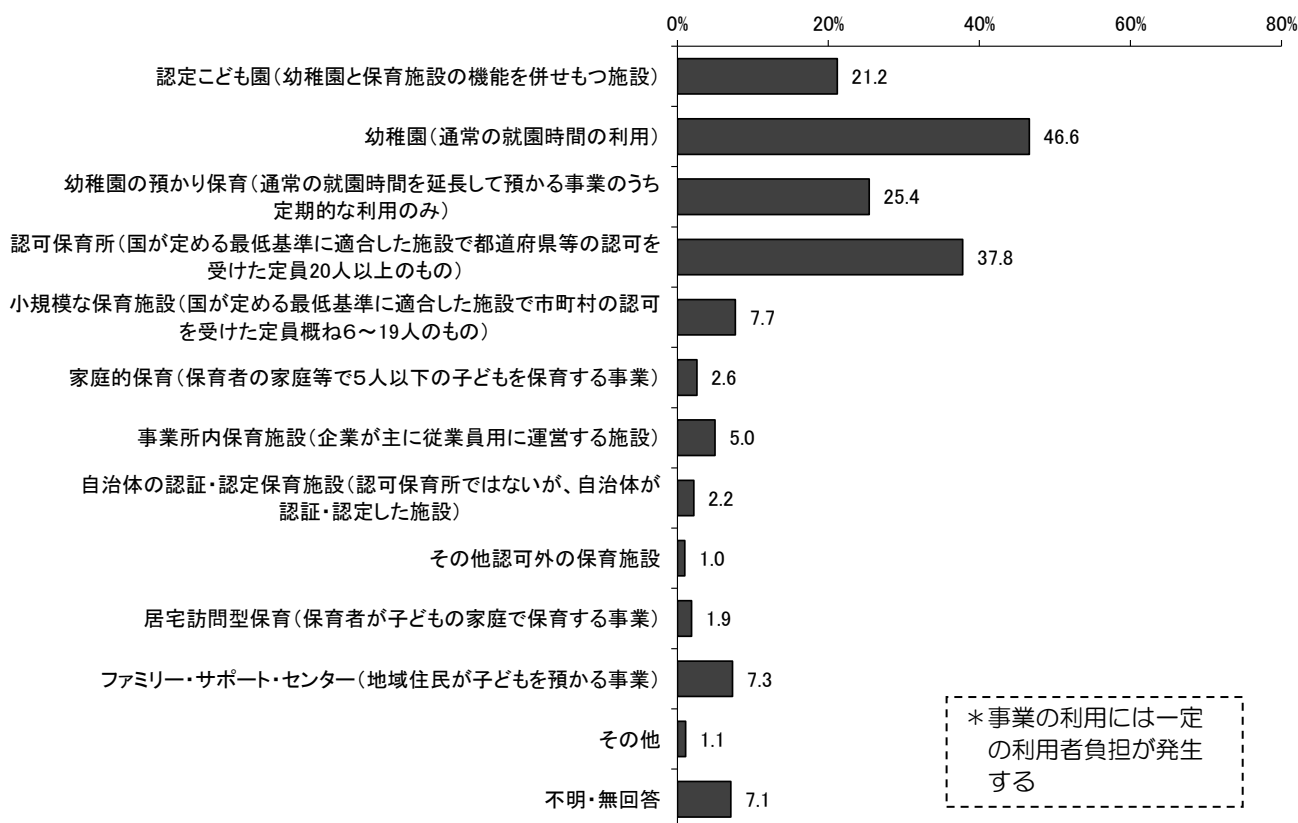


子どもがまだ小さいために教育・保育事業を利用していない方で、今後利用しようとする時の子どもの年齢については、「3歳」が58.1%と最も高くなっています。

(2) 現在の利用の有無にかかわらず、今後、平日の教育・保育事業として「定期的に」利用したいと考える事業〈複数回答〉〔就学前児童調査…問14〕

今後、平日に定期的に利用したいと考える教育・保育事業についてみると、「幼稚園（通常の就園時間の利用）」が46.6%で最も高く、次いで「認可保育所（国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けた定員20人以上のもの）」が37.8%、「幼稚園の預かり保育（通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ）」が25.4%となっています。

就学前児童(N=1240)



*事業の利用には一定の利用者負担が発生する

●平日に利用している教育・保育事業×年齢〔就学前児童調査…問 13-1〕

●平日の教育・保育事業として「定期的に」利用したいと考える事業×年齢

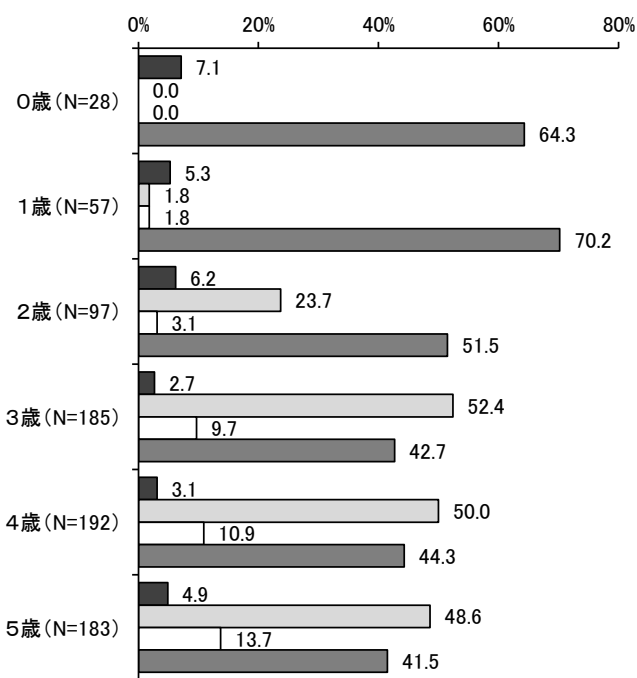
〔就学前児童調査…問 14〕

平日に利用している教育・保育事業を年齢別にみると、0～2歳では保育所を利用している割合が高く、3歳以降から幼稚園の利用割合が保育所の利用割合を上回っています。

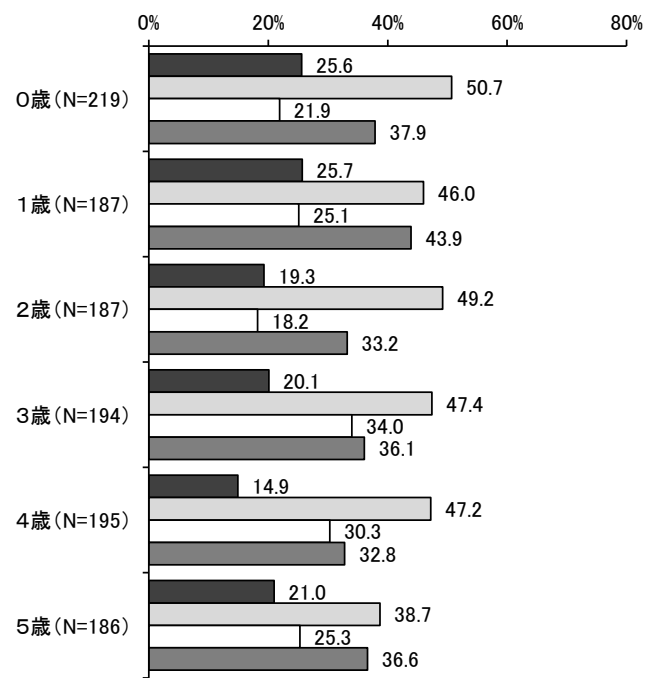
平日の教育・保育事業の利用意向を年齢別にみると、各年齢ともに幼稚園の利用意向が高くなっていきます。また、利用状況に比べ、幼稚園の預かり保育や認定こども園の利用意向も高くなっていきます。

子どもや保護者が希望する教育・保育事業が柔軟に提供されるよう、事業展開が必要となっています。

◆現在利用している教育・保育事業



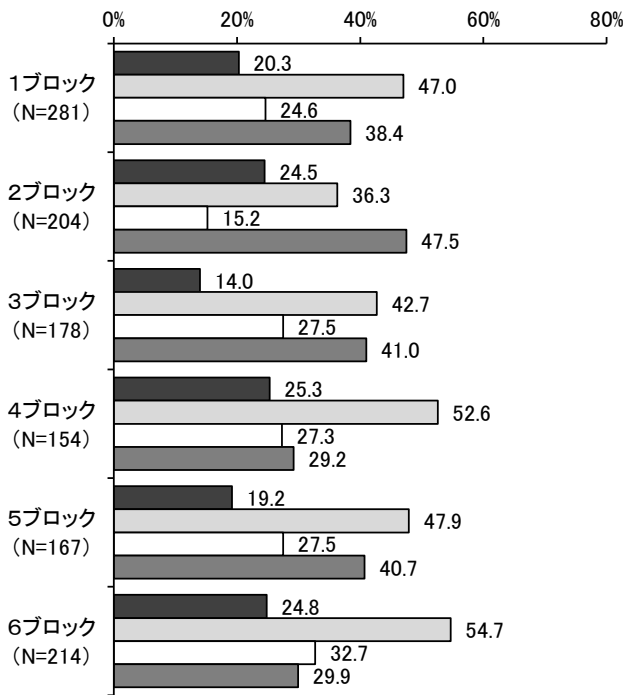
◆今後利用したい教育・保育事業



■認定こども園 □幼稚園 □幼稚園の預かり保育 ■認可保育所(園)

■認定こども園 □幼稚園 □幼稚園の預かり保育 ■認可保育所(園)

●平日の教育・保育事業として「定期的に」利用したいと考える事業×地区



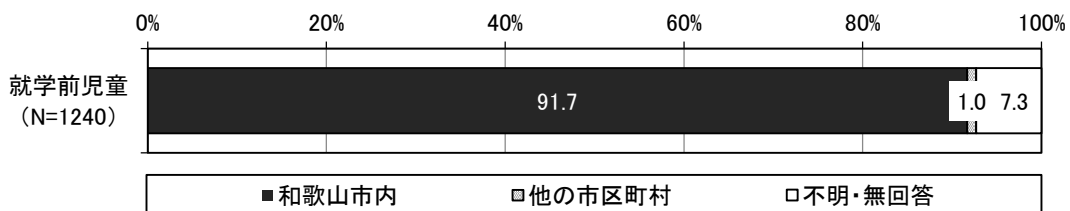
■認定こども園 □幼稚園 □幼稚園の預かり保育 ■認可保育所(園)

平日に利用している教育・保育事業を地区別にみると、2ブロックでは、保育所への意向が高い一方、その他のブロックでは幼稚園への意向が高くなっています。特に4ブロック、6ブロックでは保育所に比べ20ポイント以上の差がみられます。

また、認定こども園については、2ブロックを除き、2割程度の意向となっています。

(2) - 1 教育・保育事業を利用したい場所〈単数回答〉〔就学前児童調査…問15〕

教育・保育事業を利用したい場所についてみると、「和歌山市内」が91.7%と大部分を占めています。



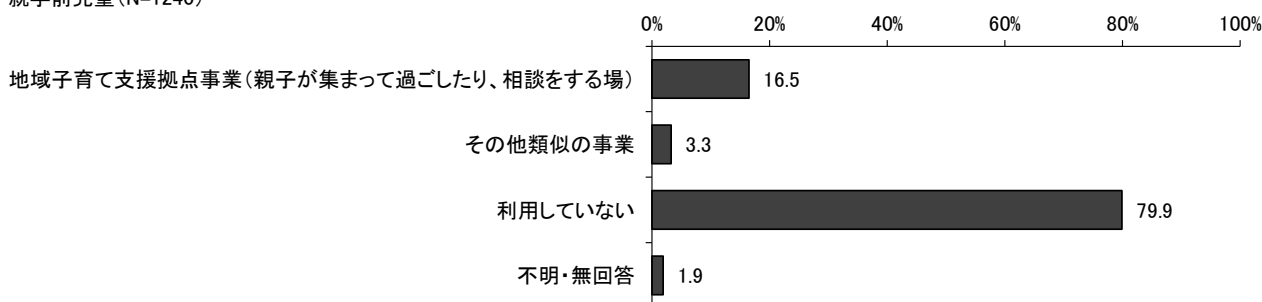
5 地域の子育て支援事業の利用状況について

(1) 現在の地域子育て支援拠点事業の利用状況（就学前児童のみ）〈複数回答〉

〔就学前児童調査…問 16〕

地域子育て支援拠点事業の利用状況についてみると、「地域子育て支援拠点事業（親子が集まって過ごしたり、相談をする場）」が16.5%、「その他類似の事業」が3.3%となっています。一方、「利用していない」は79.9%となっています。

就学前児童(N=1240)



◎ 1週当たりもしくは1ヶ月当たりの利用回数〈数量回答〉

《「地域子育て支援拠点事業」「その他類似の事業」を選んだ方》

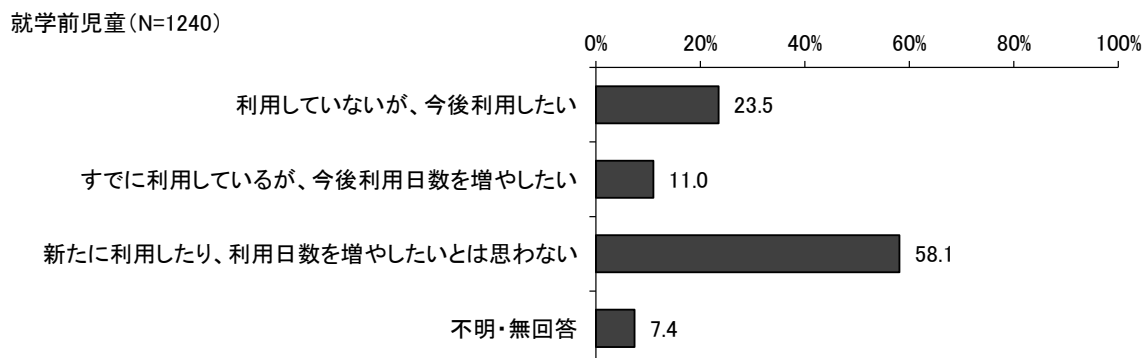
地域子育て支援拠点事業の1週当たりの利用回数では、『地域子育て支援拠点事業』『その他類似の事業』ともに「1回」の割合が高くなっています。1ヶ月当たりの利用回数では、『地域子育て支援拠点事業』『その他類似の事業』ともに「1回」の割合が高くなっています。

【就学前児童】 1週当たりの 利用回数	地域子育て支援拠点 事業(N=205)		その他類似の事業 (N=41)	
	件数	%	件数	%
1回	25	12.2	6	14.6
2回	14	6.8	2	4.9
3回	7	3.4	2	4.9
4回	1	0.5	0	0.0
5回以上	2	1.0	0	0.0
不明・無回答	156	76.1	31	75.6
【就学前児童】 1ヶ月当たりの 利用回数	地域子育て支援拠点 事業(N=205)		その他類似の事業 (N=41)	
	件数	%	件数	%
1回	89	43.4	14	34.1
2回	45	22.0	13	31.7
3回	19	9.3	3	7.3
4回	7	3.4	1	2.4
5回以上	6	2.9	1	2.4
不明・無回答	39	19.0	9	22.0

(2) 地域子育て支援拠点事業の今後の利用意向（就学前児童のみ）〈単数回答〉

〔就学前児童調査…問 17〕

地域子育て支援拠点事業の今後の利用意向についてみると、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が58.1%と最も高くなっています。



◎ 1週当たりもしくは1ヶ月当たりの利用希望回数〈数量回答〉

《「利用していないが、今後利用したい」、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」を選んだ方》

地域子育て支援拠点事業の今後の利用意向について、1週当たりの利用希望回数では、『地域子育て支援拠点事業』『その他類似の事業』ともに「1回」の割合が高くなっています。1ヶ月当たりの利用希望回数では、『地域子育て支援拠点事業』で「1回」、『その他類似の事業』で「2回」の割合が、それぞれ高くなっています。

【就学前児童】 1週当たりの 利用希望回数	地域子育て支援拠点 事業(N=292)		その他類似の事業 (N=136)	
	件数	%	件数	%
1回	70	24.0	46	33.8
2回	17	5.8	21	15.4
3回	3	1.0	6	4.4
4回	0	0.0	3	2.2
5回以上	3	1.0	2	1.5
不明・無回答	199	68.2	58	42.6
【就学前児童】 1ヶ月当たりの 利用希望回数	地域子育て支援拠点 事業(N=292)		その他類似の事業 (N=136)	
	件数	%	件数	%
1回	114	39.0	9	6.6
2回	83	28.4	23	16.9
3回	19	6.5	5	3.7
4回	12	4.1	17	12.5
5回以上	8	2.7	12	8.8
不明・無回答	56	19.2	70	51.5

(3) 子育てに関する機関や子育てサービスの認知度と利用経験、今後の利用意向

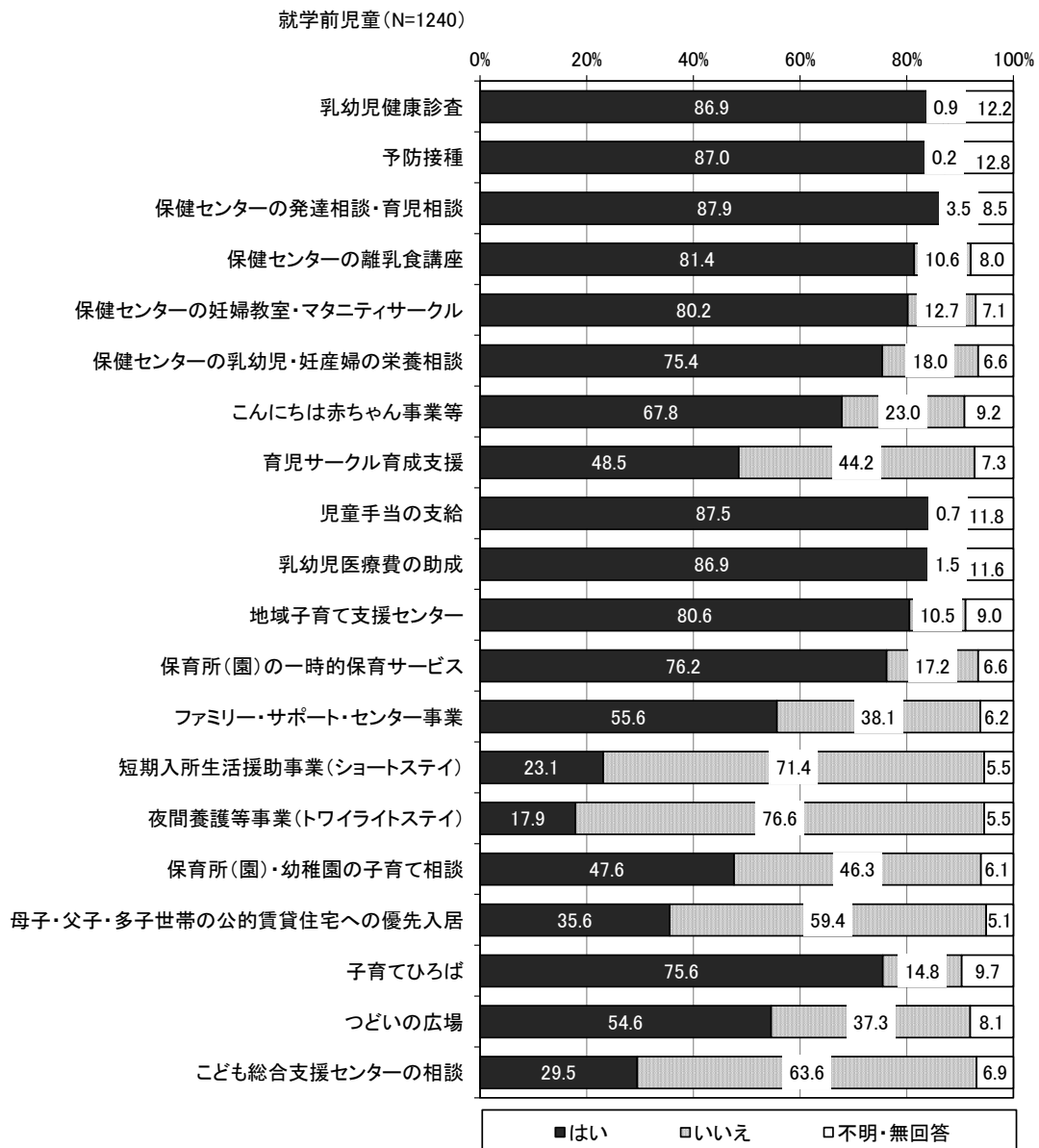
〈単数回答〉〔就学前児童調査…問 18・小学生児童調査…問 19〕

子育てに関する機関や子育てサービスの認知度についてみると、就学前児童では「知っている」に関して、『保健センターの発達相談・育児相談』が87.9%と最も高く、次いで『児童手当の支給』が87.5%、小学生児童では、『学童保育（若竹学級等）』が92.9%と最も高く、次いで『ファミリー・サポート・センター』が53.4%となっています。

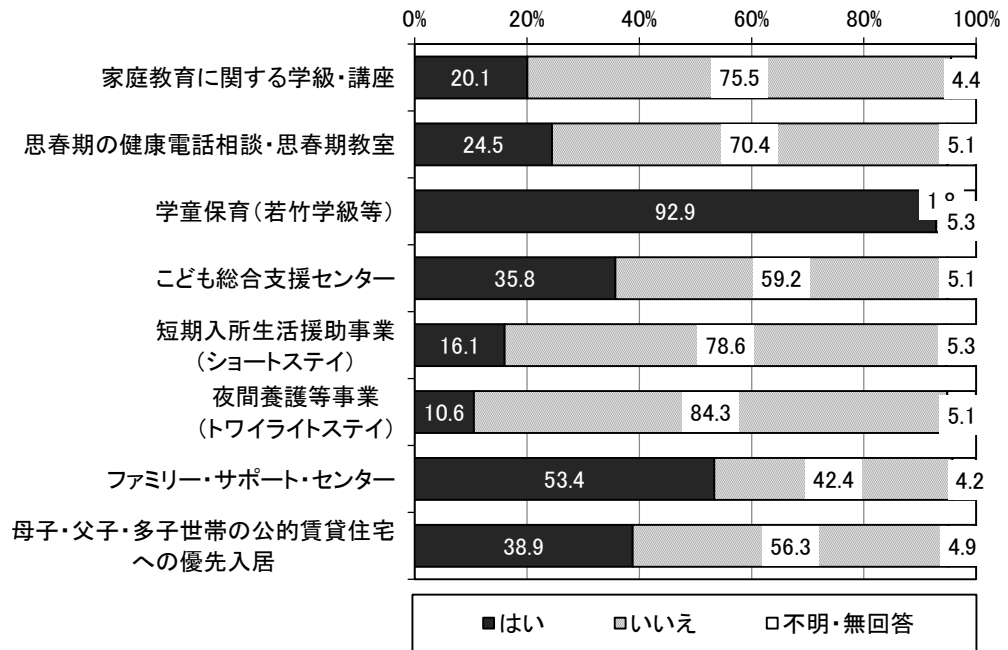
子育てに関する機関や子育てサービスの利用経験についてみると、就学前児童では「利用したことがある」に関して、『予防接種』が94.8%と最も高く、次いで『乳幼児健康診査』が93.5%となっています。小学生児童では、『学童保育（若竹学級等）』が32.2%と最も高くなっています。

子育てに関する機関や子育てサービスの今後の利用意向についてみると、就学前児童では「今後利用したい」に関して、『予防接種』が74.1%と最も高く、次いで『児童手当の支給』が73.5%となっています。小学生児童では、『学童保育（若竹学級等）』が27.2%と最も高く、次いで『思春期の健康電話相談・思春期教室』が16.1%となっています。

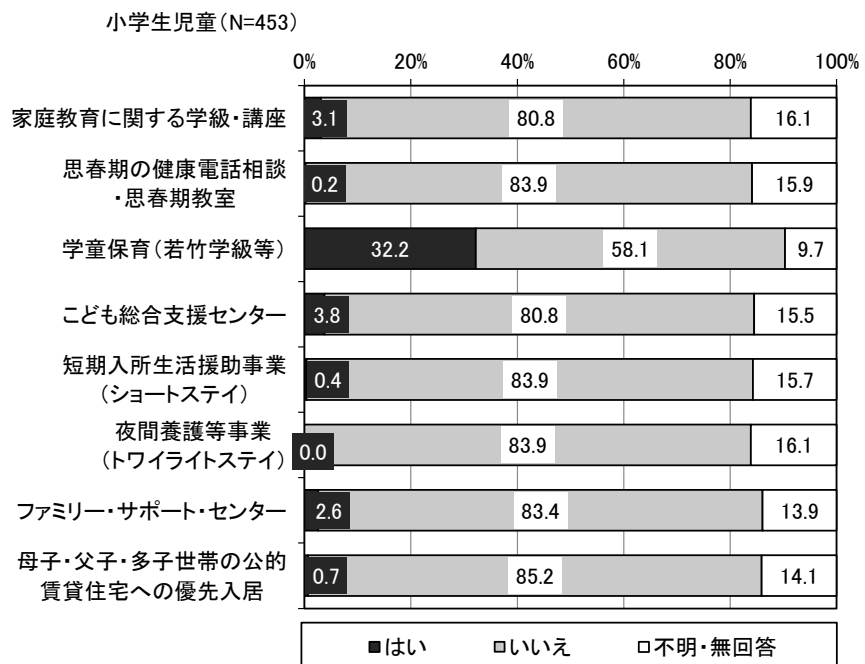
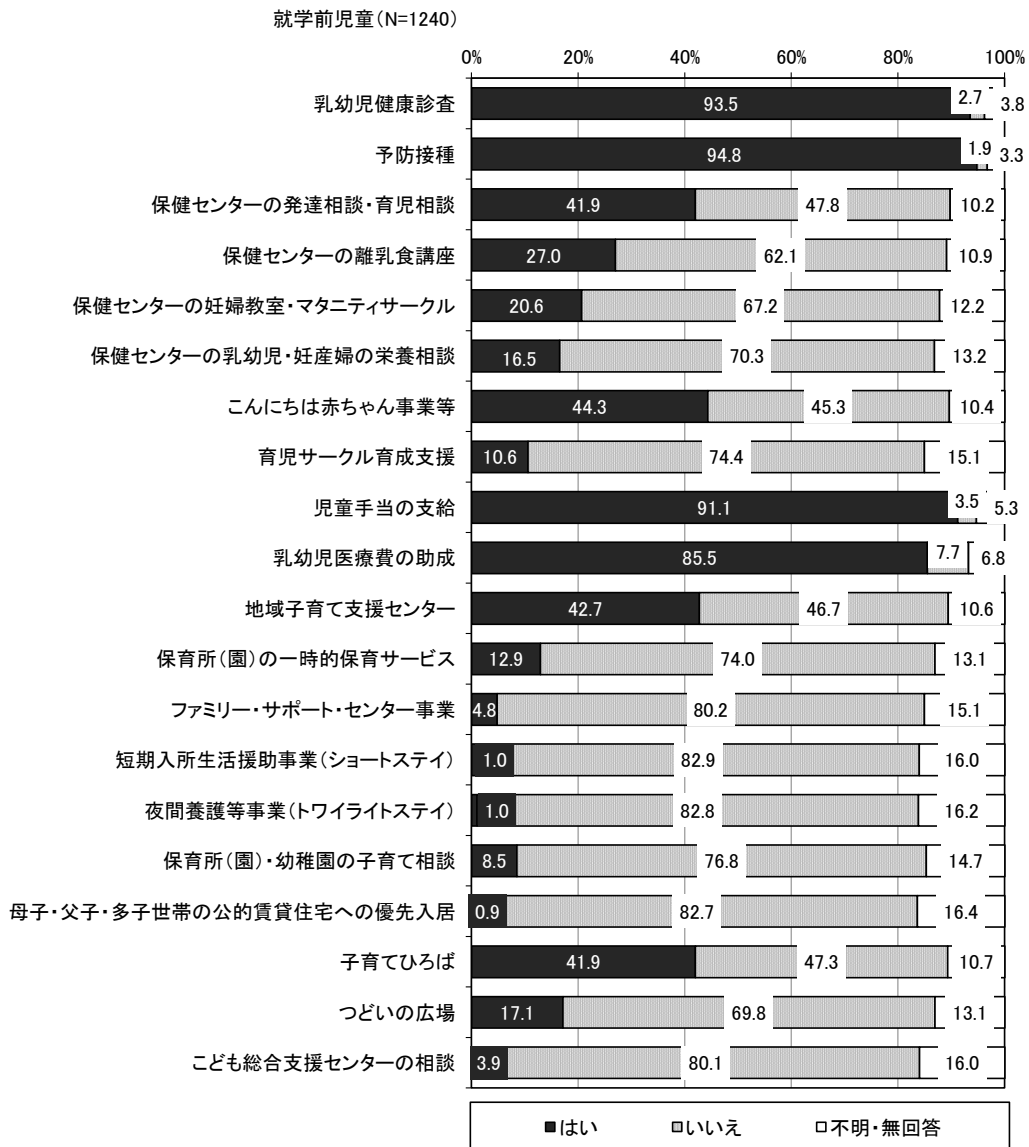
◎認知度



小学生児童(N=423)

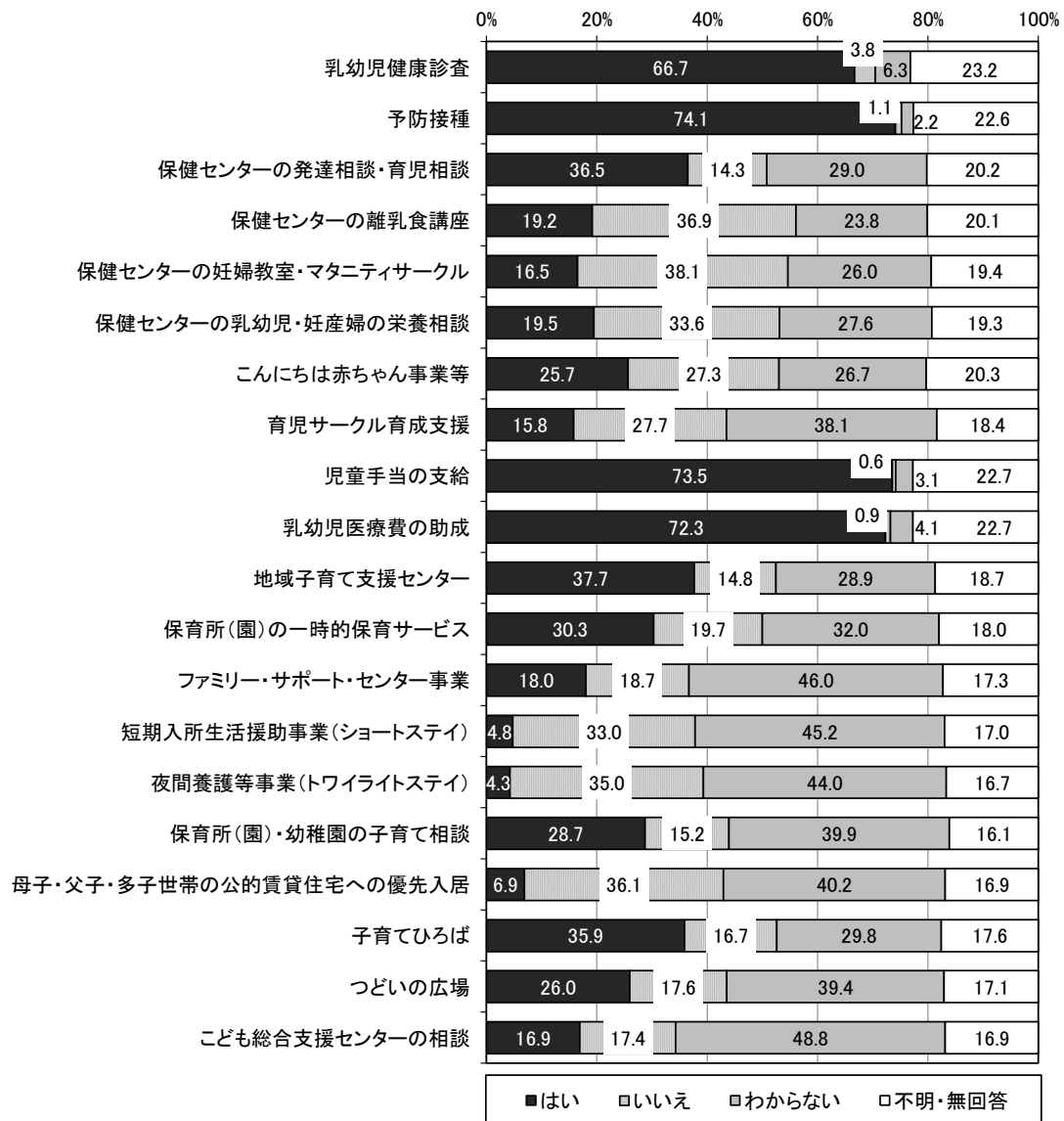


◎利用経験

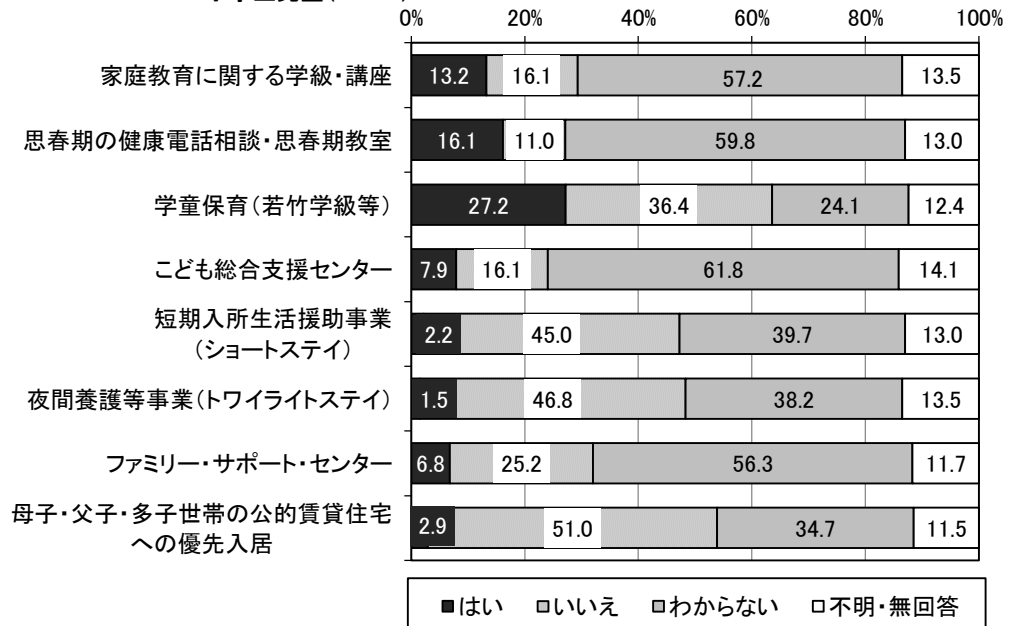


◎今後の利用意向

就学前児童 (N=1240)



小学生児童 (N=453)



6 土曜・休日や長期休暇中の「定期的」な教育・保育事業の利用希望について（就学前児童）

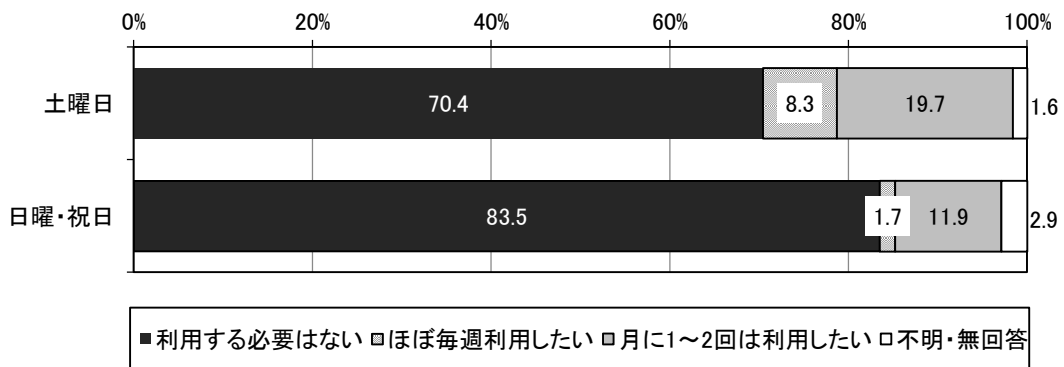
（1）土曜日と日曜・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望（一時的な利用は除く）

〈単数回答〉〔就学前児童調査…問 19〕

土曜日と日曜・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望についてみると、土曜日、日曜・祝日ともに「利用する必要はない」がそれぞれ 70.4%、83.5%と最も高く、特に日曜・祝日では8割と、大部分を占めています。

また、希望する利用時間帯については、開始時間が土曜日、日曜・祝日ともに「9時台」の割合が最も高くなっています。終了時間では、土曜日、日曜・祝日ともに「18時台」の割合が、最も高くなっています。

就学前児童 (N=1240)



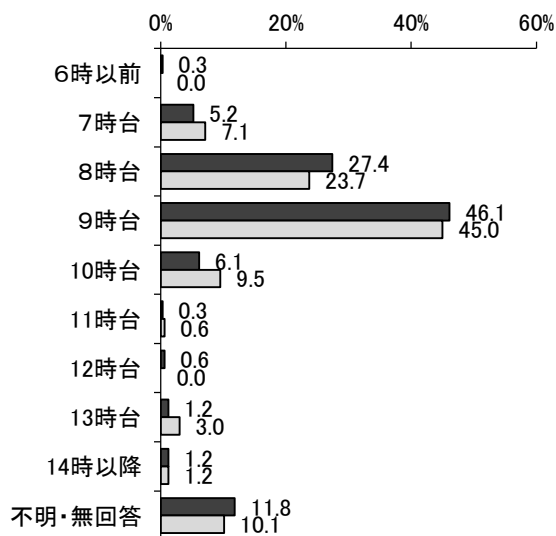
*事業の利用には一定の利用者負担が発生する

◎希望する利用時間帯〈数量回答〉

《「ほぼ毎週利用したい」「月に1~2回は利用したい」を選んだ方》

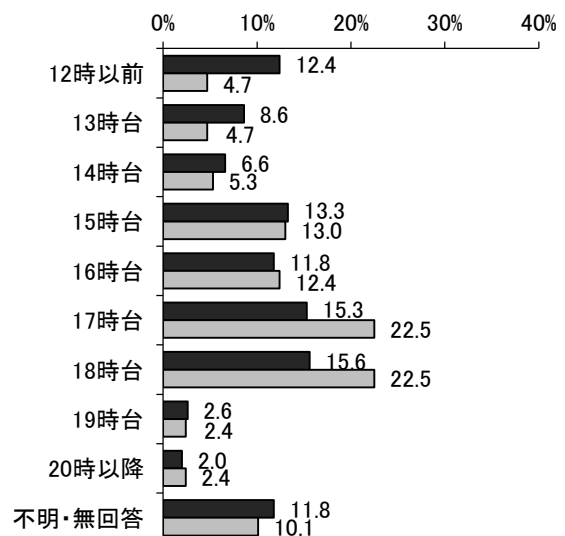
【開始時間】

就学前児童



【終了時間】

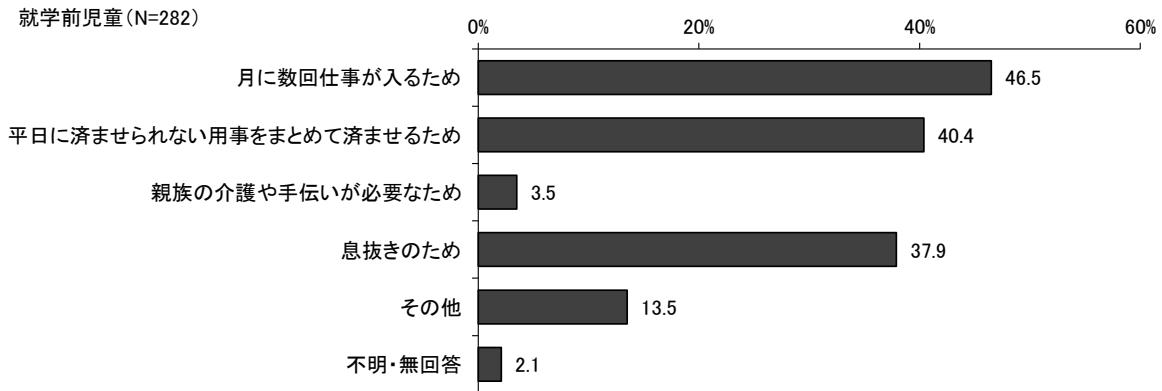
就学前児童



(1) で「月に1～2回は利用したい」を選んだ方

(1) - 1 毎週ではなく、たまに利用したい理由〈複数回答〉〔就学前児童調査…問 19-1〕

毎週ではなく、たまに利用したい方の理由についてみると、「月に数回仕事が入るため」が46.5%と最も高く、次いで「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」が40.4%となっています。



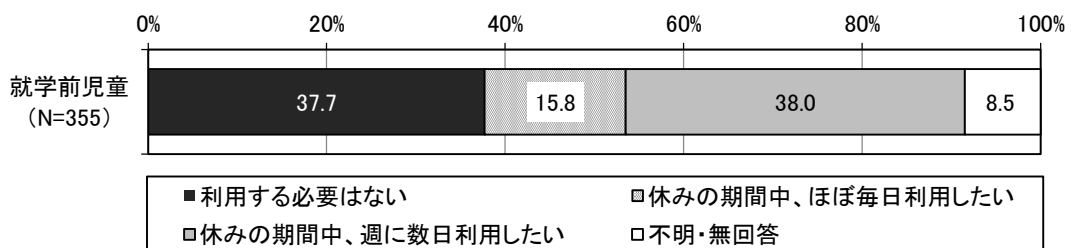
「幼稚園」を利用されている方

(2) 夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育事業の利用希望〈単数回答〉

〔就学前児童調査…問 20〕

夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育事業の利用希望についてみると、「休みの期間中、週に数日利用したい」が38.0%と最も高く、次いで「利用する必要はない」が37.7%となっています。

また、希望する利用時間帯については、開始時間では「9時台」、終了時間では「15時台」の割合が、それぞれ最も高くなっています。

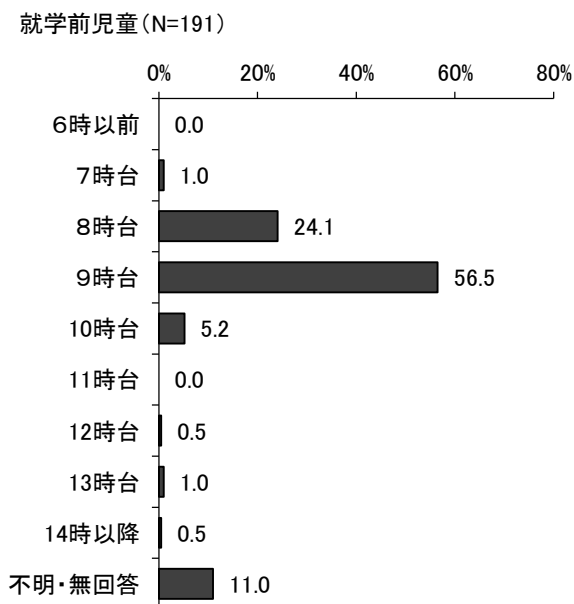


*事業の利用には一定の利用者負担が発生する

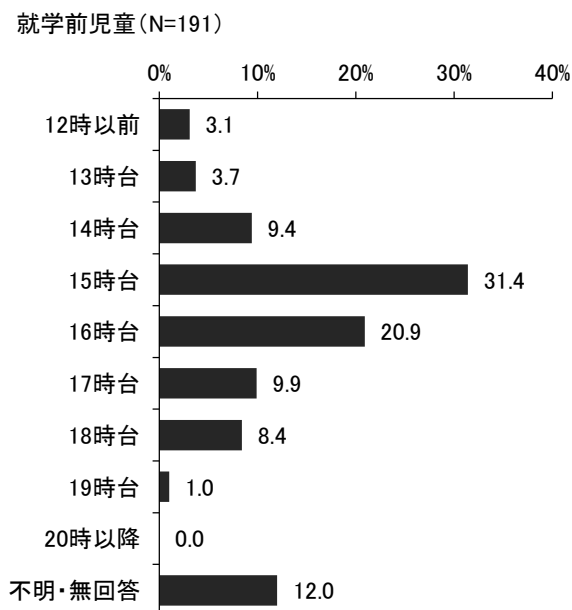
◎希望する利用時間帯〈数量回答〉

《「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」「休みの期間中、週に数日利用したい」を選んだ方》

【開始時間】



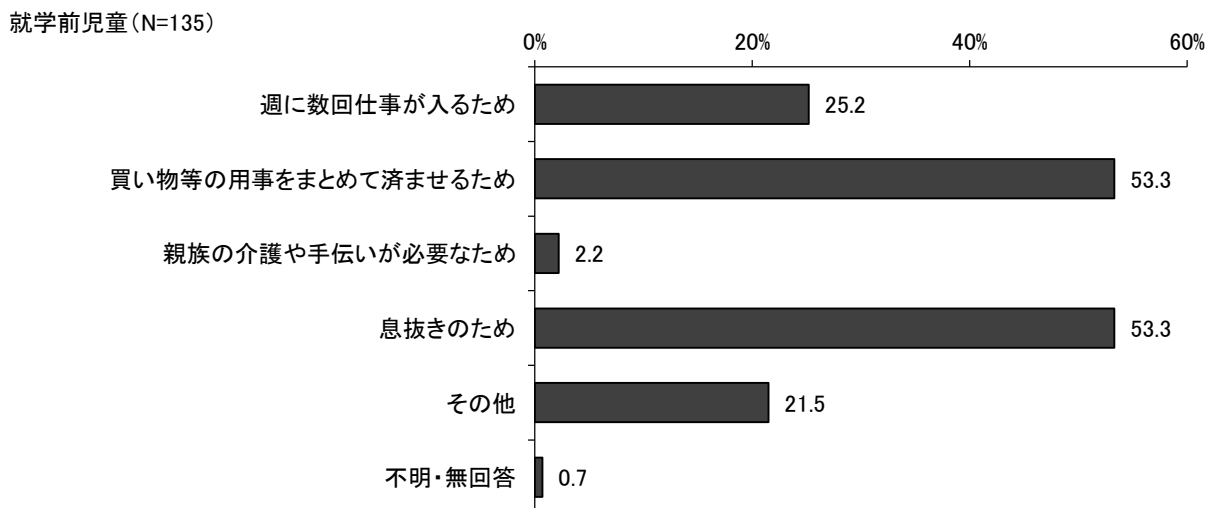
【終了時間】



(2)で「休みの期間中、週に数日利用したい」を選ばれた方

(2)－1 毎日ではなく、たまに利用したい理由〈複数回答〉〔就学前児童調査…問20－1〕

毎日ではなく、たまに利用したい理由についてみると、「買い物等の用事をまとめて済ませるため」「息抜きのため」が最も高く 53.3%となっています。

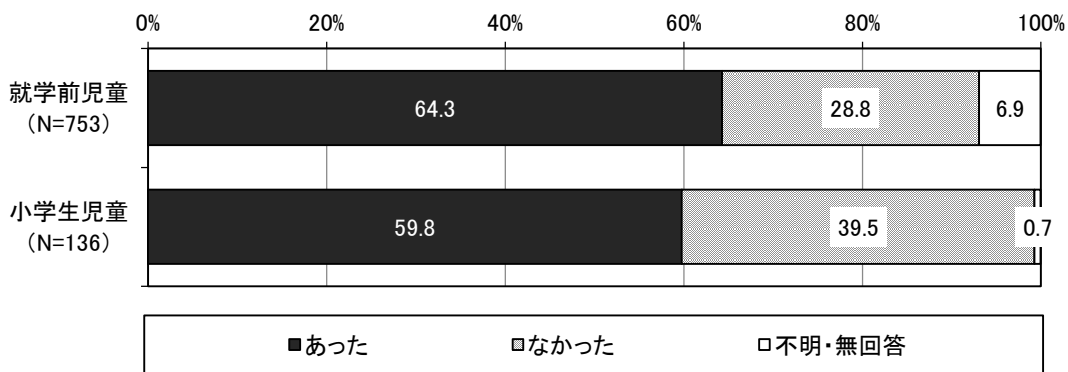


7 病気の際の対応について（平日の教育・保育を利用する方のみ）

（1）この1年間に、子どもが病気やケガで通常の事業が利用できなかつたり、小学校を休まなければならなかったことの有無〈単数回答〉

〔就学前児童調査…問 21・小学生児童調査…問 20〕

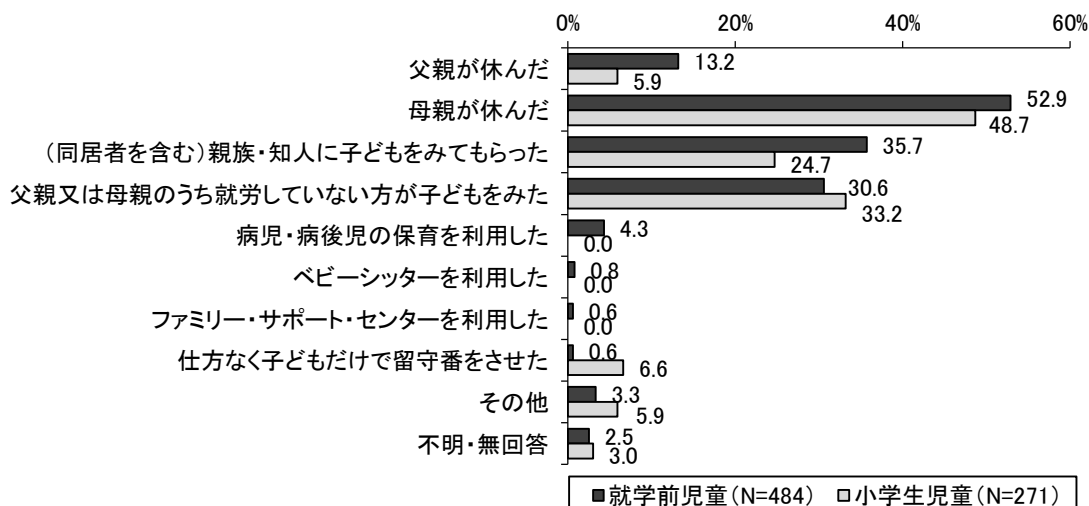
この1年間に、子どもが病気やケガで通常の事業が利用できなかつたことの有無についてみると、就学前児童では「あった」が64.3%、「なかつた」が28.8%、小学生児童では「あった」が59.8%、「なかつた」が39.5%となっています。



（1）で「あった」を選んだ方

（1）－1 子どもが病気やけがで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかつたり、小学校を休まなければならなかった場合の、この1年間に行った対処方法〈複数回答〉〔就学前児童調査…問 21－1・小学生児童調査…問 20－1〕

子どもが病気やけがで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかつた場合の、この1年間に行った対処方法についてみると、就学前児童、小学生児童ともに「母親が休んだ」が最も高く、それぞれ 52.9%、48.7%となっています。次いで就学前児童では「(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった」が35.7%、小学生児童では、「父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた」が33.2%となっています。



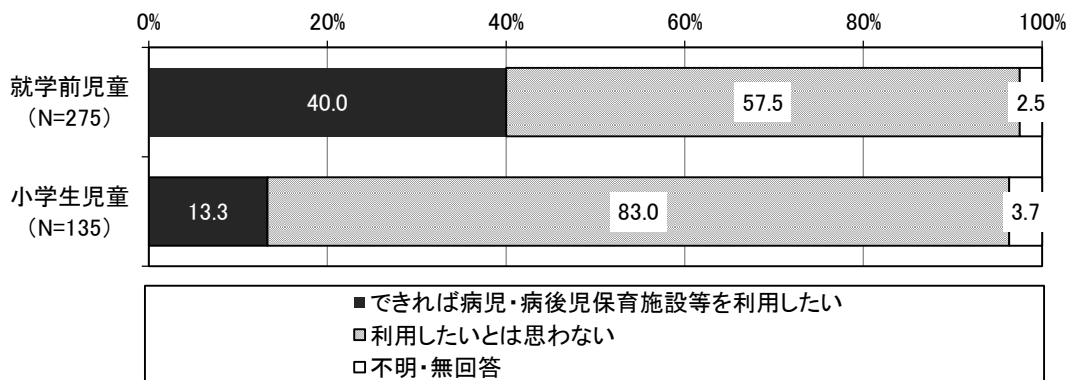
(1) - 1で「父親が休んだ」または「母親が休んだ」を選んだ方

(1) - 2 その際、「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思ったか〈単数回答〉〔就学前児童調査…問 21-2・小学生児童調査…問 20-2〕

父親または母親が休んだ方で「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思ったかについてみると、就学前児童では、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」が40.0%、「利用したいとは思わない」が57.5%、小学生児童では、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」が13.3%、「利用したいとは思わない」が83.0%となっています。

また、できれば病児・病後児保育施設等を利用したい日数については、就学前児童では「3日」が16.4%、小学生児童では「2日」が33.3%と最も高くなっています。

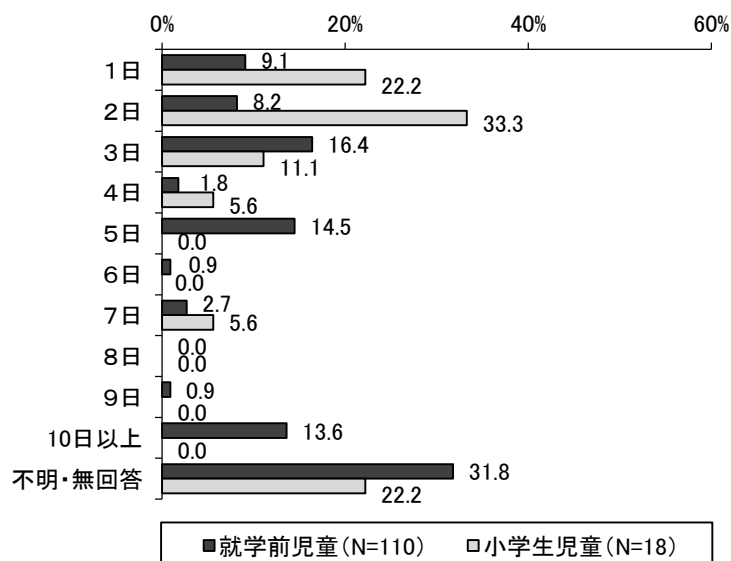
就学前児童(N=1240)



*病児・病後児のための事業等の利用には、一定の利用料がかかり、利用前にかかりつけ医の受診が必要

◎病児・病後児保育施設等を利用したい方の日数〈数量回答〉

《「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」を選んだ方》

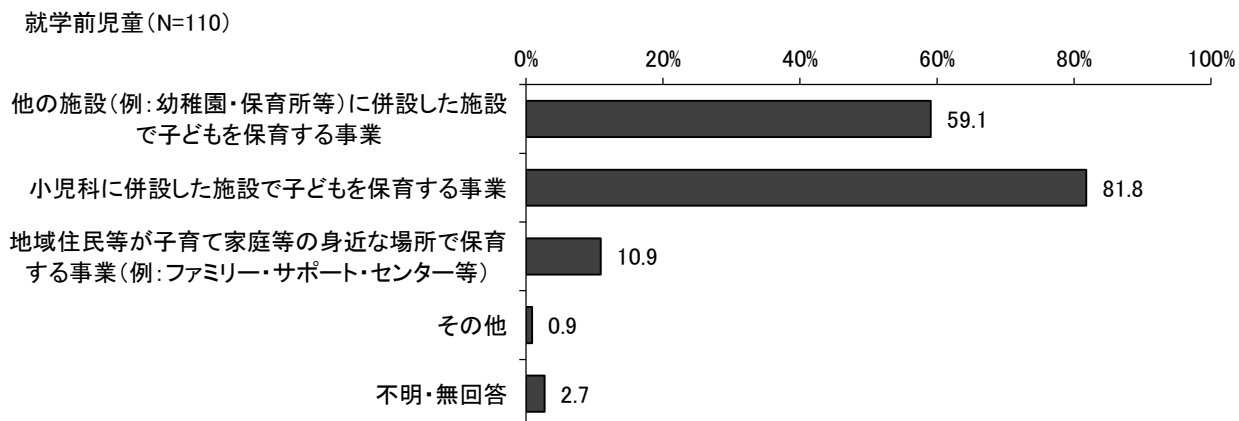


(1) - 2で「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」を選んだ方

(1) - 3 上記の目的で子どもを預ける場合の望ましい事業形態〈複数回答〉

〔就学前児童調査…問 21-3〕

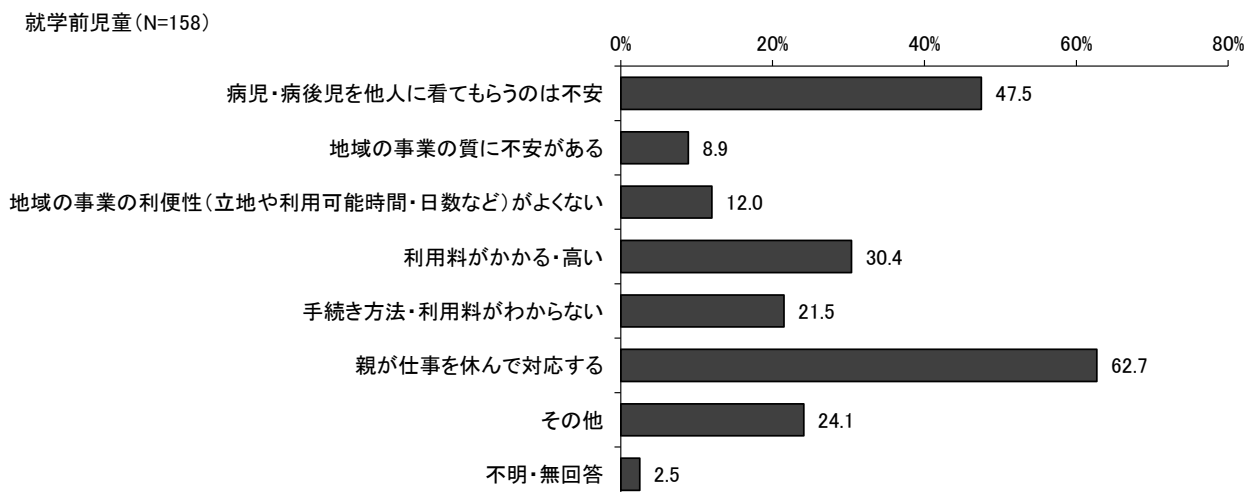
病児・病後児保育施設等を利用したい方の、子どもを預ける場合の望ましい事業形態についてみると、「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」が81.8%と最も高く、次いで「他の施設（例：幼稚園・保育所等）に併設した施設で子どもを保育する事業」が59.1%となっています。



(1) - 2で「利用したいとは思わない」を選んだ方

(1) - 4 そう思う理由〈複数回答〉〔就学前児童調査…問 21-4〕

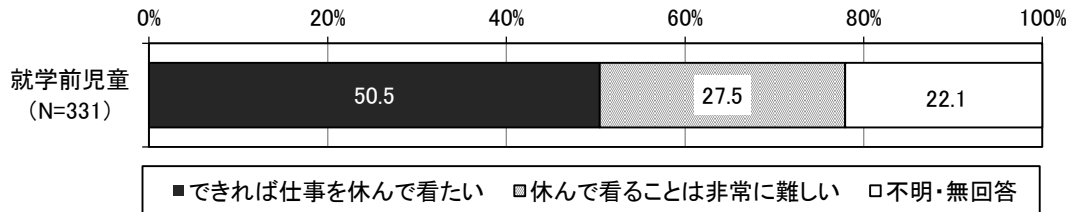
病児・病後児保育施設等を利用したいと思わない理由についてみると、「親が仕事を休んで対応する」が62.7%と最も高く、次いで「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」が47.5%となっています。



(1) - 1で「父親が休んだ」「母親が休んだ」以外を選んだ方

(1) - 5 その際、「できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たい」と思ったか
〈単数回答〉〔就学前児童調査…問 21-5〕

「できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たい」と思ったかについてみると、「できれば仕事を休んで看たい」が50.5%と最も高くなっています。

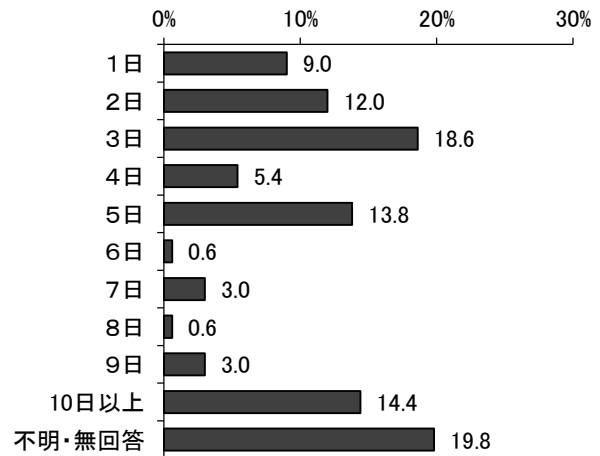


◎仕事を休んで看たい日数〈数量回答〉

《「できれば仕事を休んで看たい」を選んだ方》

できれば仕事を休んで看たい日数については、「3日」が最も高くなっています。

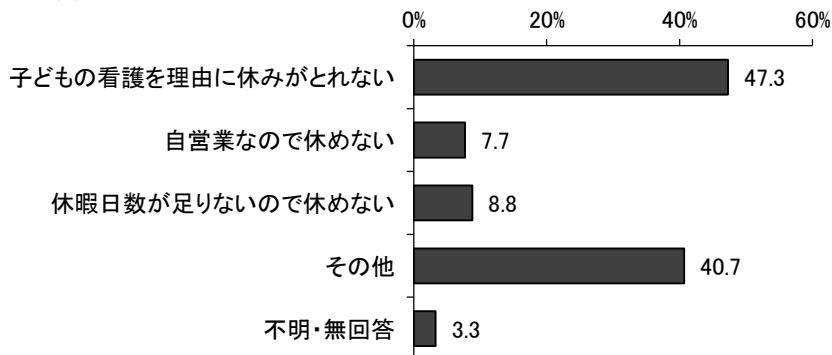
就学前児童(N=167)



(1) - 5で「休んで看することは非常に難しい」を選んだ方

(1) - 6 そう思う理由〈複数回答〉〔就学前児童調査…問 21-6〕

就学前児童(N=91)



仕事を休んで看することは考えられない理由についてみると、「子どもの看護を理由に休みがとれない」が47.3%と最も高く、次いで「その他」が40.7%となっています。

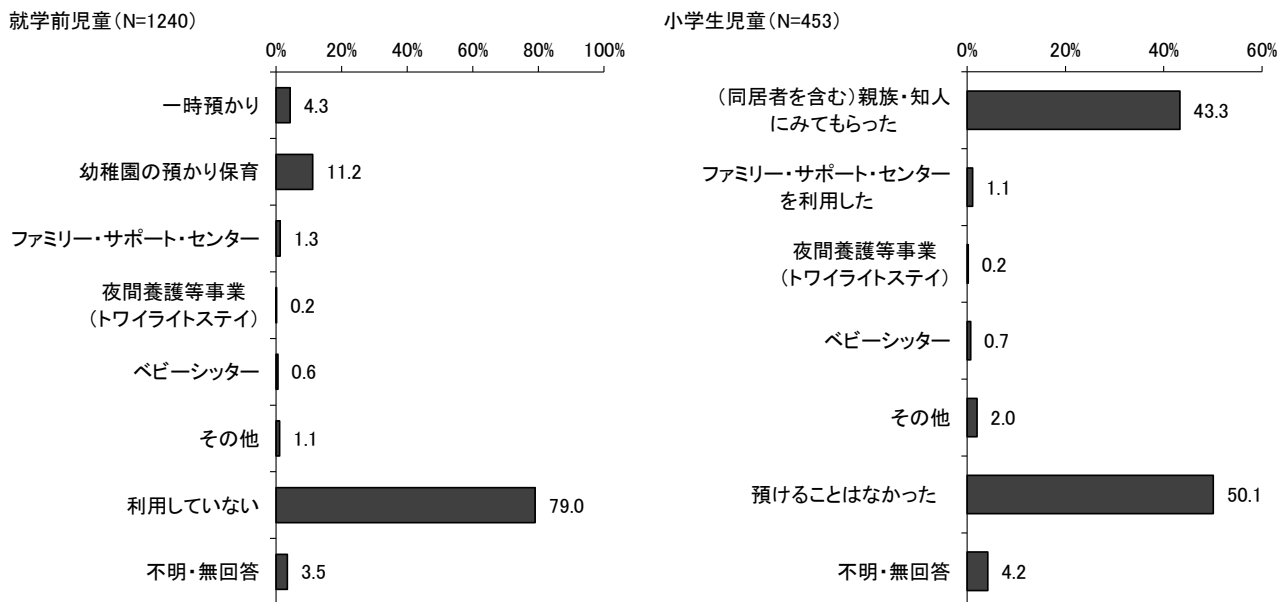
8 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について

(1) 日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用する必要がある事業の有無〈複数回答〉

〔就学前児童調査…問 22・小学生児童調査…問 21〕

一時預かりなど、不定期に利用する必要がある事業についてみると、「利用していない」「預けることはなかった」が就学前児童では 79.0%、小学生児童では 50.1%となっています。利用している事業では、就学前児童で「幼稚園の預かり保育」が 11.2%、小学生児童で「(同居者を含む)親族・知人にみてもらった」が 43.3%と最も高くなっています。

利用している事業の1年間の利用日数については、就学前児童では『ファミリー・サポート・センター』『夜間養護等事業(トワイライトステイ)』が「30~39日」、小学生児童では『親族・知人にみてもらった』が「10~19日」と高くなっています。



◎1年間の利用日数〈数量回答〉

《「利用していない」以外を選んだ方》

【就学前児童】 1年間の 利用日数	一時預かり N=53		預かり園の育 N=139		ンサフ タポア ーミ トリ ・ セ・		イ業夜 トヘ間 スト養 テワ護 イイ等 ーラ事		シベ ッビ ター		その他 N=14	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
	1日	7	13.2	10	7.2	2	12.5	1	33.3	2	28.6	2
2日	3	5.7	11	7.9	1	6.3	1	33.3	1	14.3	3	21.4
3日	5	9.4	10	7.2	0	0.0	0	0.0	1	14.3	1	7.1
4日	1	1.9	2	1.4	1	6.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5日	3	5.7	17	12.2	2	12.5	0	0.0	1	14.3	1	7.1
6日	0	0.0	3	2.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	7.1
7日	7	13.2	6	4.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
8日	2	3.8	1	0.7	1	6.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
9日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10～19日	10	18.9	27	19.4	1	6.3	0	0.0	1	14.3	1	7.1
20～29日	4	7.5	15	10.8	1	6.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
30～39日	1	1.9	9	6.5	2	12.5	1	33.3	0	0.0	0	0.0
40～49日	1	1.9	4	2.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	7.1
50日以上	5	9.4	10	7.2	1	6.3	0	0.0	1	14.3	1	7.1
不明・無回答	4	7.5	14	10.1	4	25	0	0.0	0	0.0	3	21.4

【小学生児童】 1年間の 利用日数	み親 て族 も・ ら知 つ人 たに N=196		ンサフ タポア ーミ トリ ・ セ・		イ業夜 トヘ間 スト養 テワ護 イイ等 ーラ事		シベ ッビ ター		その他 N=9	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
	1日	15	7.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2
2日	27	13.8	2	40.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3日	20	10.2	0	0.0	1	100.0	1	33.3	0	0.0
4日	2	1.0	0	0.0	0	0.0	1	33.3	0	0.0
5日	19	9.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6日	1	0.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7日	4	2.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
8日	0	0.0	1	20.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
9日	1	0.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10～19日	44	22.4	2	40.0	0	0.0	1	33.3	1	11.1
20～29日	12	6.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	11.1
30～39日	10	5.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
40～49日	3	1.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
50日以上	19	9.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	44.4
不明・無回答	19	9.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	11.1

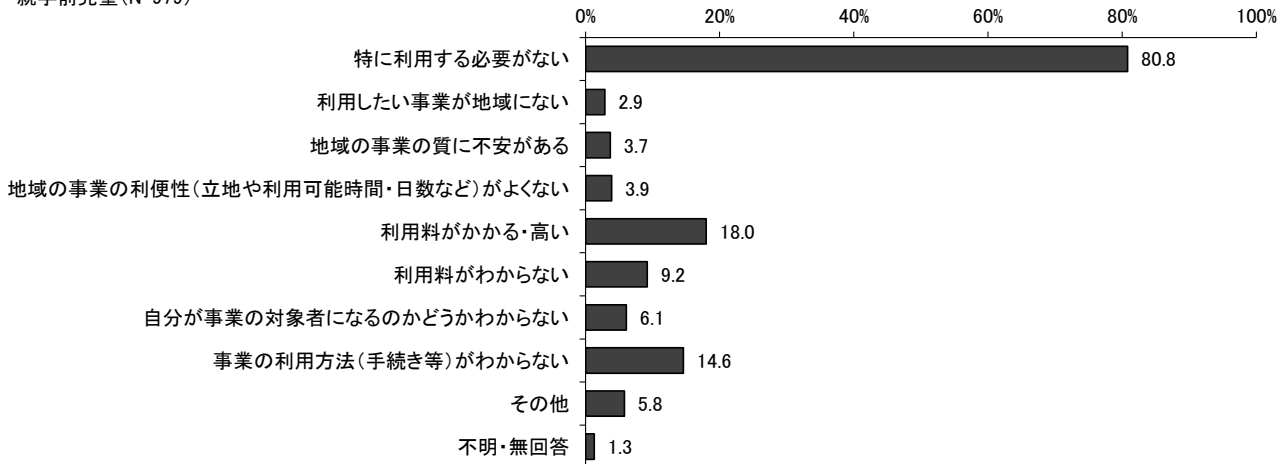
(1)で「利用していない」を選んだ方

(1)－1 現在利用していない理由〈複数回答〉(就学前児童のみ)

〔就学前児童調査…問 22－1〕

現在利用していない理由についてみると、「特に利用する必要がない」が80.8%となっています。また、「利用料がかかる・高い」が18.0%となっています。

就学前児童(N=979)

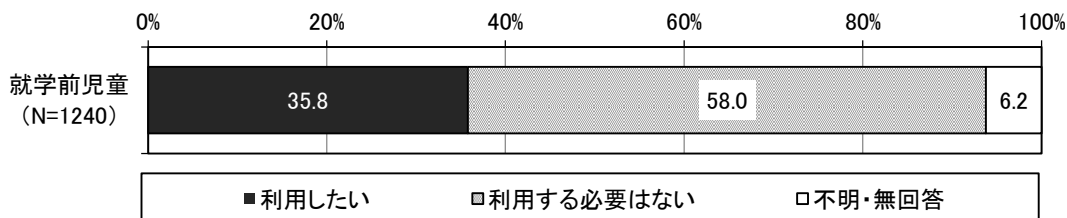


(2) 私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、利用する必要がある事業の有無

〈単数回答〉(就学前児童のみ) 〔就学前児童調査…問 23〕

不定期的に利用する必要がある事業の有無についてみると、「利用したい」が35.8%、「利用する必要はない」が58.0%となっています。

また、利用したい目的の内訳については、「私用(買物、子ども〔兄弟姉妹を含む〕や親の習い事等)、リフレッシュ目的」が63.5%、「冠婚葬祭、学校行事、子ども〔兄弟姉妹を含む〕や親の通院等」が57.0%となっています。年間日数については、『私用(買物、子ども〔兄弟姉妹を含む〕や親の習い事等)、リフレッシュ目的』で「10～19日」、『冠婚葬祭、学校行事、子ども〔兄弟姉妹を含む〕や親の通院等』で「5日」が高くなっています。

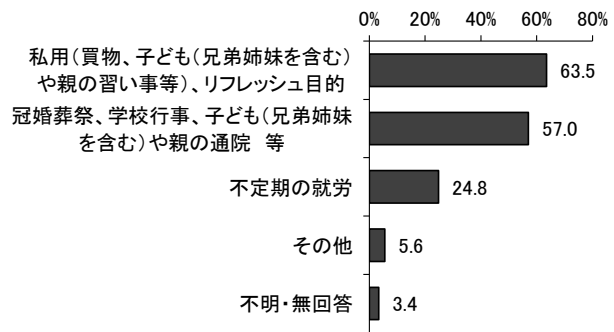


*事業の利用には、一定の利用料がかかる

①利用したい目的の内訳〈複数回答〉

《「利用したい」を選んだ方》

就学前児童(N=444)



②利用したい年間日数〈数量回答〉

《「利用したい」を選んだ方》

【就学前児童】 目的別の 利用日数	私用(買物、子ども(兄弟姉妹を含む)や親の習い事等)、リフレッシュ目的等の利用日数 N=282		冠婚葬祭、学校行事、子ども(兄弟姉妹を含む)や親の通院等 N=253		不定期の就労 N=110		その他 N=25	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1日	17	6.0	14	5.5	1	0.9	0	0.0
2日	20	7.1	18	7.1	5	4.5	2	8.0
3日	25	8.9	40	15.8	5	4.5	2	8.0
4日	6	2.1	7	2.8	2	1.8	0	0.0
5日	31	11.0	54	21.3	15	13.6	4	16.0
6日	14	5.0	9	3.6	4	3.6	0	0.0
7日	11	3.9	4	1.6	2	1.8	1	4.0
8日	1	0.4	4	1.6	1	0.9	0	0.0
9日	1	0.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10~19日	74	26.2	52	20.6	21	19.1	6	24.0
20~29日	28	9.9	10	4.0	9	8.2	1	4.0
30~39日	11	3.9	3	1.2	3	2.7	0	0.0
40~49日	13	4.6	0	0.0	3	2.7	0	0.0
50日以上	10	3.5	4	1.6	22	20.0	2	8.0
不明・無回答	20	7.1	34	13.4	17	15.5	7	28.0

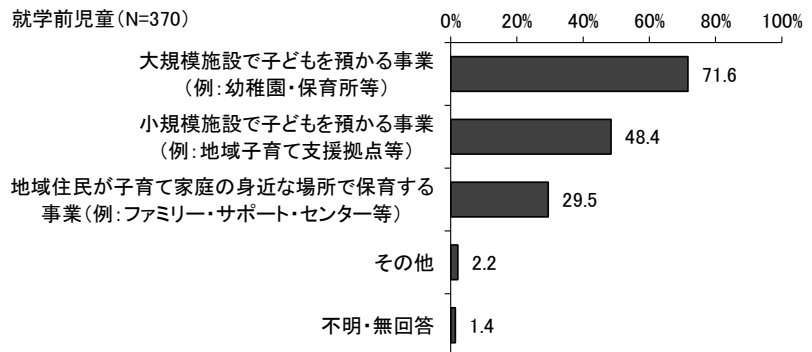
(2)で「利用したい」を選んだ方

(2) - 1 (2) ①の目的で子どもを預ける場合の望ましい事業形態

(就学前児童のみ)〈複数回答〉〔就学前児童調査…問23-1〕

利用したい方の子どもを預ける場合の望ましい事業形態についてみると、「大規模施設で子どもを預かる事業」が71.6%と最も高く、次いで「小規模施設で子どもを預かる事業」が48.4%となっています。

就学前児童(N=370)

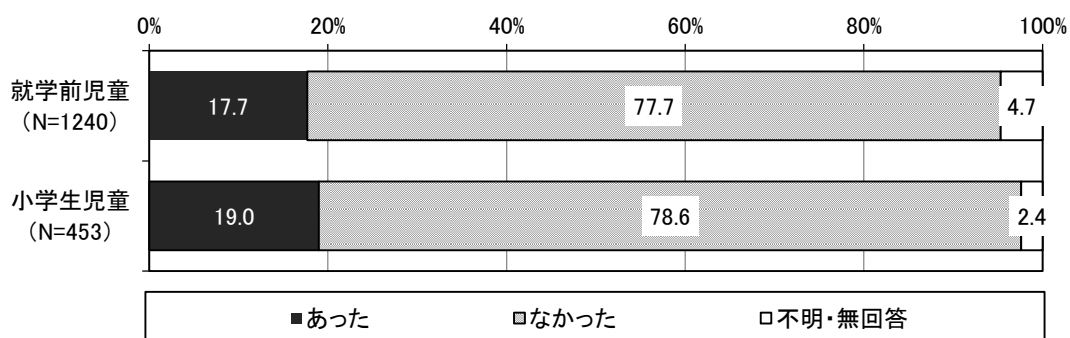


(3) この1年間に、保護者の用事などにより、子どもを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならない経験の有無〈単数回答〉

〔就学前児童調査…問 24・小学生児童調査…問 22〕

この1年間に、保護者の用事などにより、子どもを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならない経験の有無についてみると、就学前児童では、「あった」が17.7%、「なかった」が77.7%となっています。小学生児童では、「あった」が19.0%、「なかった」が78.6%となっています。

対処方法については、就学前児童、小学生児童ともに、「(同居者を含む)親族・知人にみてもらった」がそれぞれ88.1%、91.9%と最も高くなっています。

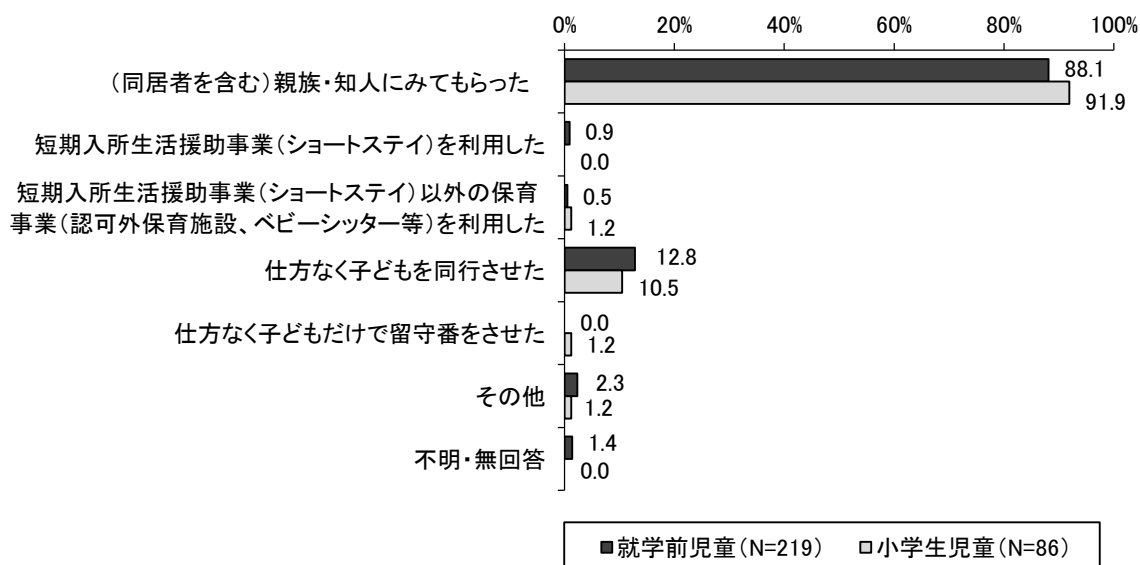


(3) で「あった」を選んだ方

(3) - 1 この1年間の対処方法とそれぞれの日数

〔就学前児童調査…問 24・小学生児童調査…問 22〕

◎ 1年間の対処方法〈複数回答〉



◎それぞれの日数〈数量回答〉

子どもを泊りがけで一時的に預けた際の泊数については、就学前児童、小学生児童ともに『(同居者を含む) 親族・知人にみてもらった』でそれぞれ「1泊」となっています。

【就学前児童】 対処日数	ら族(同 つ・同居 た知居 人者 にを 含む も)親 N=193		イ業短 (期 をシ入 利用ヨ所 したト活 たス援 テ助 事 N=2		をベ(イ業短 利用ビ認)(期 したシ可外ヨ入 たツ保のト生 タ育保ト活 等施設育ス援 、業事テ助 事 N=1		行仕 さ方 せなく た子 ども を同 N=28		そ の 他 N=5	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1泊	60	31.1	1	50.0	1	100.0	10	35.7	1	20.0
2泊	25	13.0	0	0.0	0	0.0	5	17.9	2	40.0
3泊	27	14.0	0	0.0	0	0.0	2	7.1	1	20.0
4泊	13	6.7	0	0.0	0	0.0	2	7.1	0	0.0
5泊	22	11.4	0	0.0	0	0.0	2	7.1	1	20.0
6泊	6	3.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7泊	4	2.1	1	50.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
8泊	1	0.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
9泊	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10泊以上	27	14.0	0	0.0	0	0.0	2	7.1	0	0.0
不明・無回答	8	4.1	0	0.0	0	0.0	5	17.9	0	0.0

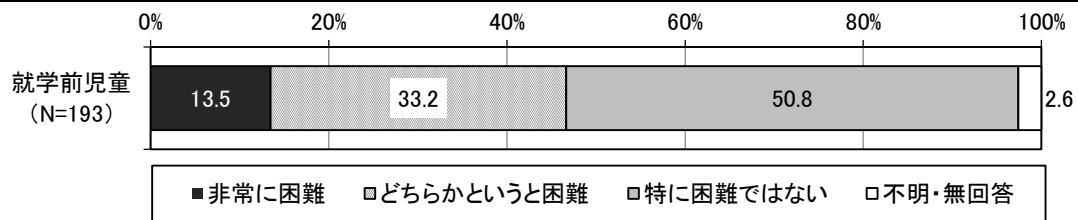
※就学前児童調査の「仕方なく子どもだけで留守番をさせた」は0件となっています。

【小学生児童】 対処日数	ら族(同 つ・同居 た知居 人者 にを 含む も)親 N=79		をベ(イ業短 利用ビ認)(期 したシ可外ヨ入 たツ保のト生 タ育保ト活 等施設育ス援 、業事テ助 事 N=1		行仕 さ方 せなく た子 ども を同 N=9		で仕 留守方 番なく を子 させ ただ け N=1		そ の 他 N=1	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1泊	30	38.0	1	100.0	5	55.6	0	0.0	0	0.0
2泊	17	21.5	0	0.0	1	11.1	0	0.0	0	0.0
3泊	7	8.9	0	0.0	2	22.2	0	0.0	0	0.0
4泊	2	2.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5泊	10	12.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6泊	1	1.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	100.0
7泊	2	2.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
8泊	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
9泊	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10泊以上	8	10.1	0	0.0	0	0.0	1	100.0	0	0.0
不明・無回答	2	2.5	0	0.0	1	11.1	0	0.0	0	0.0

(3) - 1で「親族・知人にみてもらった」を選んだ方

(3) - 2 その場合の困難度（就学前児童のみ）〈単数回答〉〔就学前児童調査…問 24-1〕

親族・知人にみてもらった場合の困難度についてみると、「特に困難ではない」が50.8%と最も高くなっています。



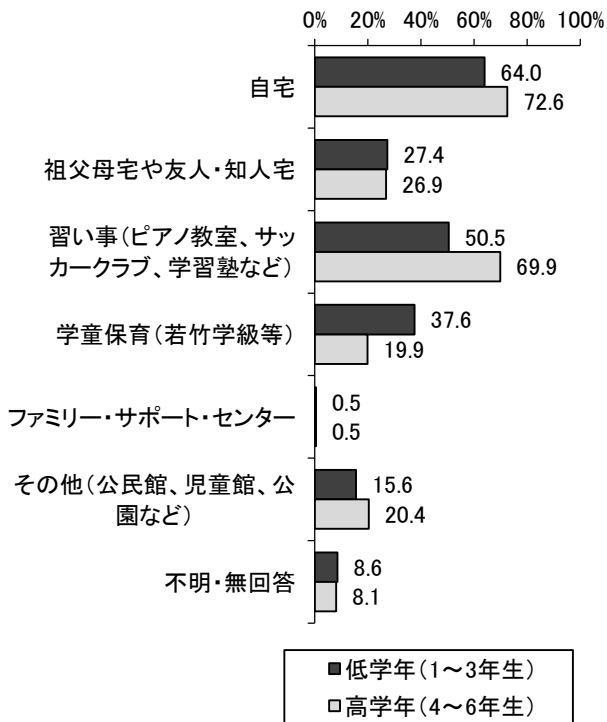
9 小学校就学後の放課後の過ごし方について（就学前児童（5歳以上））

（1）小学生になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間を主にどのような場所で過ごさせたいと思うか〈複数回答〉〔就学前児童調査…問 25・問 26、小学生児童調査…問 7・8〕

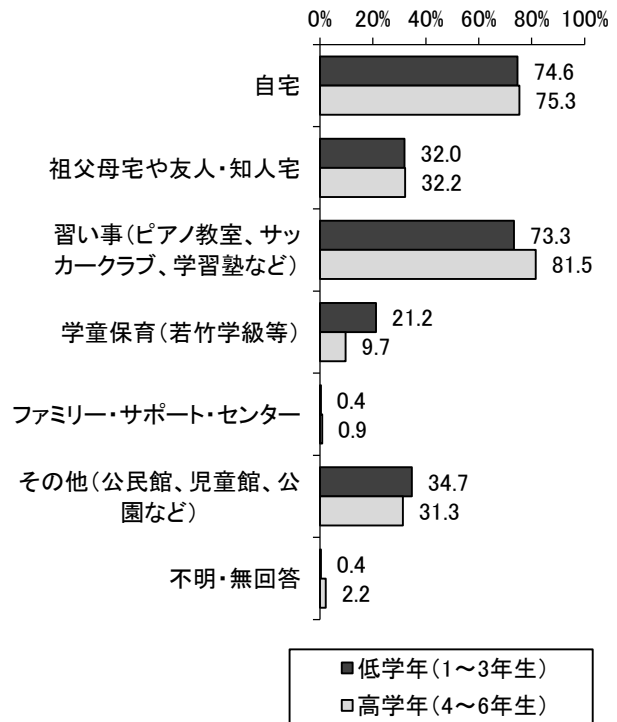
小学生になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間を主に過ごさせたいと思う場所についてみると、就学前児童では『低学年（1～3年生）』は「自宅」が64.0%、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が50.5%と高く、『高学年（4～6年生）』でも「自宅」が72.6%、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が69.9%とともに高くなっています。

小学生児童では『低学年（1～3年生）』は「自宅」が74.6%、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が73.3%と高くなっています。『高学年（4～6年生）』では「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が81.5%、「自宅」が75.3%と高くなっています。

就学前児童・5歳以上(N=186)



小学生児童(N=453)



① 週当たりの利用希望日数〈数量回答〉

週当たりの利用希望日数についてみると、『低学年（1～3年生）』については、就学前児童では「自宅」「学童保育（若竹学級等）」で「5日」の割合が最も高く、小学生児童では「学童保育（若竹学級等）」で「5日」の割合が最も高くなっています。

『高学年（4～6年生）』については、就学前児童では「学童保育（若竹学級等）」で「5日」の割合が最も高く、小学生児童では「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」「学童保育（若竹学級等）」で「3日」の割合が最も高くなっています。

◎ 小学校低学年

【就学前児童】 小学校低学年 週あたりの 利用希望日数	自宅 N=119		知人・ 祖父・ 祖母・ 住宅 や 友人・ 友人		習い事・ 教室・ クラブ・ サッカ ー・学 習塾 （ピ ア ノ カ ー ア ー ト ）		学童保 育（ 若 竹 学 級 等 ）		ファミリー センター ・サ ー ク ス 		その他 （公 民 館 、 公 館 ）	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1日	18	15.1	12	23.5	23	24.2	6	8.6	0	0.0	6	20.7
2日	19	16.0	14	27.5	50	52.6	8	11.4	0	0.0	10	34.5
3日	19	16.0	8	15.7	16	16.8	17	24.3	0	0.0	4	13.8
4日	5	4.2	4	7.8	1	1.1	2	2.9	0	0.0	1	3.4
5日	29	24.4	6	11.8	1	1.1	31	44.3	1	100.0	4	13.8
6日	3	2.5	1	2.0	0	0.0	2	2.9	0	0.0	1	3.4
7日	4	3.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	22	18.5	6	11.8	4	4.2	4	5.7	0	0.0	3	10.3

【小学生児童】 小学校低学年 週あたりの 利用希望日数	自宅 N=338		知人・ 祖父・ 祖母・ 住宅 や 友人・ 友人		習い事・ 教室・ クラブ・ サッカ ー・学 習塾 （ピ ア ノ カ ー ア ー ト ）		学童保 育（ 若 竹 学 級 等 ）		ファミリー センター ・サ ー ク ス 		その他 （公 民 館 、 公 館 ）	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1日	47	13.9	63	43.4	72	21.7	3	3.1	0	0.0	48	30.6
2日	95	28.1	56	38.6	134	40.4	15	15.6	1	50.0	50	31.8
3日	70	20.7	5	3.4	91	27.4	26	27.1	1	50.0	31	19.7
4日	30	8.9	2	1.4	24	7.2	12	12.5	0	0.0	10	6.4
5日	52	15.4	10	6.9	6	1.8	30	31.3	0	0.0	10	6.4
6日	9	2.7	0	0.0	0	0.0	4	4.2	0	0.0	2	1.3
7日	14	4.1	1	0.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	1.9
不明・無回答	21	6.2	8	5.5	5	1.5	6	6.3	0	0.0	3	1.9

◎小学校高学年

【就学前児童】 小学校高学年 週あたりの 利用希望日数	自宅		知人 父母 宅 や 友人 ・		なク教習 どラ室い （ブ、事 ） 、サ（ 学ッピ 習カア 塾 ノ		学学 級童 等保 育（ 若 竹		タポフ ーア ーミ トリ ・リ セン ・サ		園館そ な、の （児他 ）童（ 館公 、民 公	
	N=135		N=50		N=131		N=37		N=1		N=39	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1日	16	11.9	12	24.0	15	11.5	4	10.8	1	100.0	9	23.1
2日	34	25.2	10	20.0	47	35.9	7	18.9	0	0.0	14	35.9
3日	17	12.6	9	18.0	48	36.6	7	18.9	0	0.0	8	20.5
4日	6	4.4	3	6.0	4	3.1	2	5.4	0	0.0	0	0.0
5日	24	17.8	7	14.0	3	2.3	14	37.8	0	0.0	6	15.4
6日	4	3.0	2	4.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7日	4	3.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	30	22.2	7	14.0	14	10.7	3	8.1	0	0.0	2	5.1

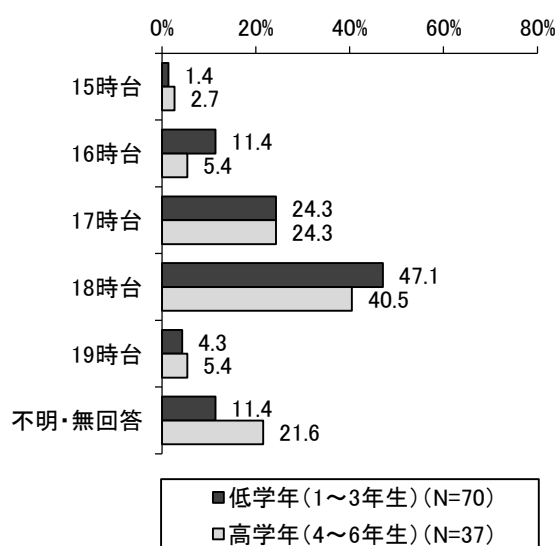
【小学生児童】 小学校高学年 週あたりの 利用希望日数	自宅		知人 父母 宅 や 友人 ・		なク教習 どラ室い （ブ、事 ） 、サ（ 学ッピ 習カア 塾 ノ		学学 級童 等保 育（ 若 竹		タポフ ーア ーミ トリ ・リ セン ・サ		園館そ な、の （児他 ）童（ 館公 、民 公	
	N=341		N=146		N=369		N=44		N=4		N=142	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1日	66	19.4	70	47.9	39	10.6	7	15.9	2	50.0	49	34.5
2日	101	29.6	42	28.8	121	32.8	5	11.4	1	25.0	52	36.6
3日	63	18.5	11	7.5	127	34.4	14	31.8	1	25.0	20	14.1
4日	24	7.0	3	2.1	58	15.7	2	4.5	0	0.0	4	2.8
5日	46	13.5	10	6.8	11	3.0	10	22.7	0	0.0	8	5.6
6日	4	1.2	0	0.0	0	0.0	2	4.5	0	0.0	2	1.4
7日	11	3.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	2.1
不明・無回答	26	7.6	10	6.8	13	3.5	4	9.1	0	0.0	4	2.8

②「学童保育所」の利用希望時間（下校時から何時まで）〈数量回答〉

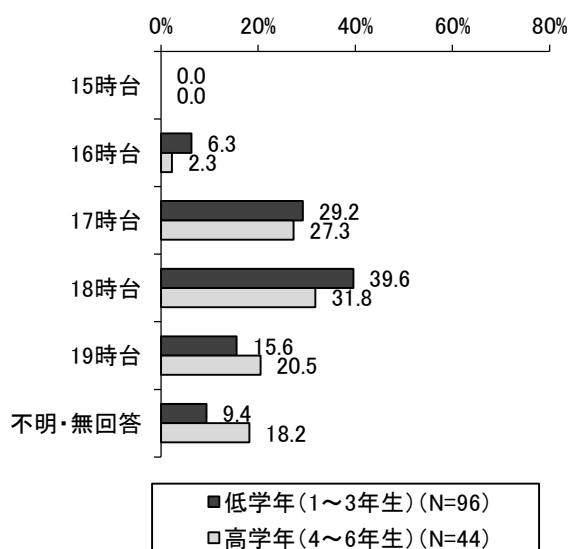
《「学童保育所」を選んだ方》

学童保育所を選んだ方の利用希望時間では、『低学年（1～3年生）』については就学前児童、小学生児童ともに「18時台」が最も高く、『高学年（4～6年生）』についても就学前児童、小学生児童ともに「18時台」が最も高くなっています。

就学前児童



小学生児童



(1)で「学童保育所」を選んだ方

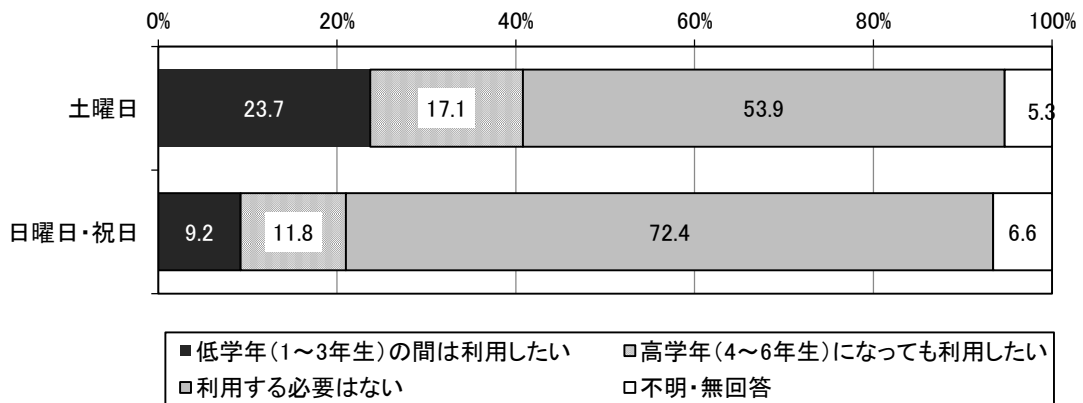
(2) 土曜日と日曜日・祝日の放課後児童クラブの利用希望〈単数回答〉

〔就学前児童調査…問27、小学生児童調査…問9〕

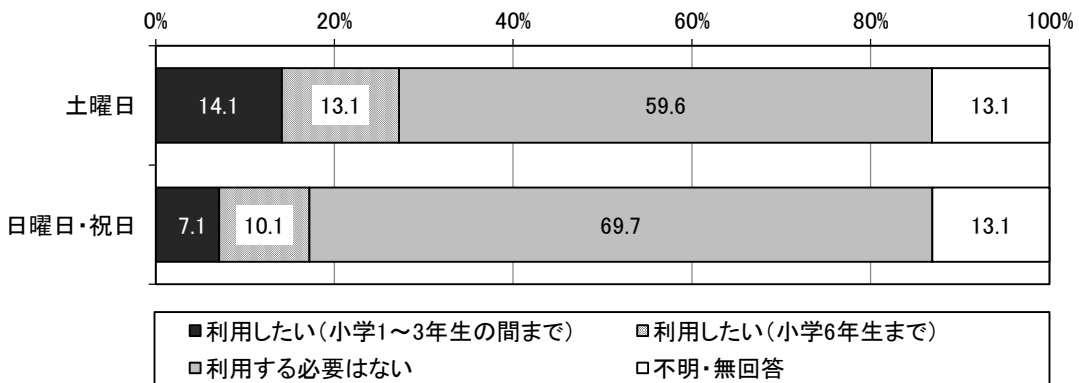
放課後児童クラブの、土曜日と日曜日・祝日の利用希望についてみると、就学前児童では、土曜日、日曜日・祝日ともに「利用する必要はない」が最も高く、それぞれ53.9%、72.4%となっています。小学生児童でも、土曜日、日曜日・祝日ともに「利用する必要はない」が最も高く、それぞれ59.6%、69.7%となっています。

希望する利用時間帯については、就学前児童では、土曜日、日曜日・祝日ともに利用開始時間が「8時台」、利用終了時間が「18時台」となっており、小学生児童でも土曜日、日曜日・祝日ともに利用開始時間が「8時台」、利用終了時間が「18時台」が最も高くなっています。

就学前児童(N=76)



小学生児童(N=99)



*事業の利用には、一定の利用料がかかる

◎希望する利用時間帯〈数量回答〉

《「低学年（1～3年生）の間は利用したい」、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」を選んだ方》

【就学前児童】 利用開始 時間帯	土曜日		日曜日・ 祝日	
	N=31		N=16	
	件数	%	件数	%
6時以前	0	0.0	0	0.0
7時台	1	3.2	0	0.0
8時台	15	48.4	8	50.0
9時台	10	32.3	5	31.3
10時台	2	6.5	2	12.5
11時台	0	0.0	0	0.0
12時台	1	3.2	0	0.0
13時台	0	0.0	0	0.0
14時以降	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	2	6.5	1	6.3

【就学前児童】 利用終了 時間帯	土曜日		日曜日・ 祝日	
	N=31		N=16	
	件数	%	件数	%
12時以前	2	6.5	1	6.3
13時台	1	3.2	1	6.3
14時台	3	9.7	0	0.0
15時台	1	3.2	1	6.3
16時台	3	9.7	3	18.8
17時台	6	19.4	1	6.3
18時台	11	35.5	8	50.0
19時台	2	6.5	1	6.3
20時以降	1	3.2	0	0.0
不明・無回答	1	3.2	0	0.0

【小学生児童】 利用開始 時間帯	土曜日		日曜日・ 祝日	
	N=27		N=17	
	件数	%	件数	%
6時以前	0	0.0	0	0.0
7時台	4	14.8	3	17.6
8時台	14	51.9	10	58.8
9時台	8	29.6	3	17.6
10時台	0	0.0	0	0.0
11時台	0	0.0	0	0.0
12時台	0	0.0	0	0.0
13時台	0	0.0	0	0.0
14時以降	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	1	3.7	1	5.9

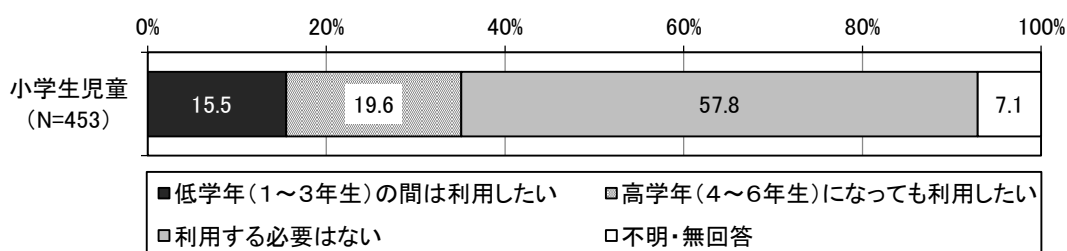
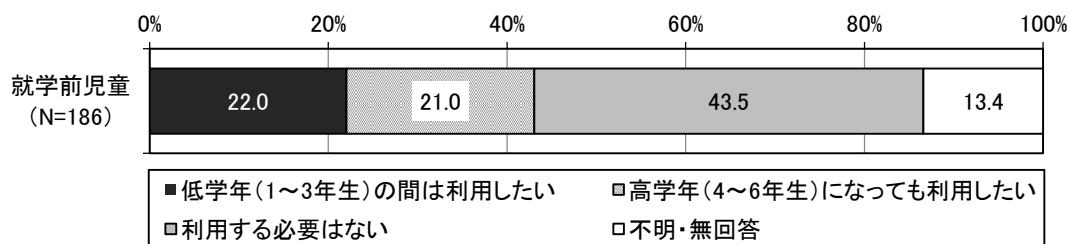
【小学生児童】 利用終了 時間帯	土曜日		日曜日・ 祝日	
	N=27		N=17	
	件数	%	件数	%
12時以前	2	7.4	0	0.0
13時台	1	3.7	0	0.0
14時台	2	7.4	0	0.0
15時台	1	3.7	0	0.0
16時台	0	0.0	0	0.0
17時台	6	22.2	4	23.5
18時台	10	37.0	9	52.9
19時台	4	14.8	3	17.6
20時以降	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	1	3.7	1	5.9

(3) 夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中の学童保育所の利用希望〈単数回答〉

〔就学前児童調査…問 28、小学生児童調査…問 10〕

長期の休暇期間中の学童保育所の利用希望についてみると、就学前児童、小学生児童ともに「利用する必要はない」が最も高く、それぞれ 43.5%、57.8%となっています。次いで「低学年（1～3年生）の間は利用したい」がそれぞれ 22.0%、15.5%となっています。

希望する利用時間帯について、就学前児童、小学生児童ともに、開始時間が「8 時台」、終了時間が「18 時台」がそれぞれ高くなっています。



*事業の利用には、一定の利用料がかかる

◎希望する利用時間帯〈数量回答〉

《「低学年（1～3年生）の間は利用したい」、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」を選んだ方》

【就学前児童】 利用開始 時間帯	のみ夏 休な休 暇どみ 期の・ 間長冬 中期休 N=80		【就学前児童】 利用終了 時間帯	のみ夏 休な休 暇どみ 期の・ 間長冬 中期休 N=80	
	件数	%		件数	%
6時以前	0	0.0	12時以前	1	1.3
7時台	5	6.3	13時台	1	1.3
8時台	41	51.3	14時台	1	1.3
9時台	30	37.5	15時台	4	5.0
10時台	0	0.0	16時台	17	21.3
11時台	1	1.3	17時台	22	27.5
12時台	1	1.3	18時台	30	37.5
13時台	0	0.0	19時台	4	5.0
14時以降	1	1.3	20時以降	0	0.0
不明・無回答	1	1.3	不明・無回答	0	0.0

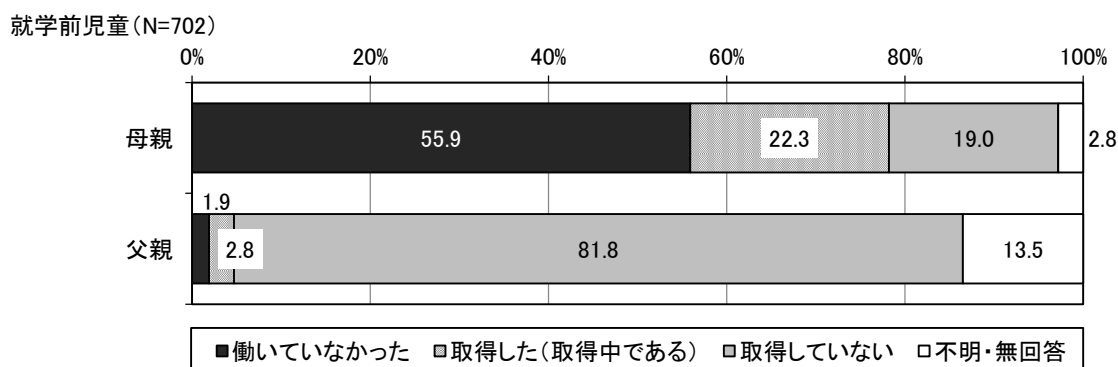
【小学生児童】 利用開始 時間帯	のみ夏 休な休 暇どみ 期の・ 間長冬 中期休 N=159		【小学生児童】 利用終了 時間帯	のみ夏 休な休 暇どみ 期の・ 間長冬 中期休 N=159	
	件数	%		件数	%
6時以前	0	0.0	12時以前	4	2.5
7時台	12	7.5	13時台	1	0.6
8時台	78	49.1	14時台	3	1.9
9時台	62	39.0	15時台	16	10.1
10時台	2	1.3	16時台	10	6.3
11時台	0	0.0	17時台	46	28.9
12時台	0	0.0	18時台	59	37.1
13時台	0	0.0	19時台	14	8.8
14時以降	0	0.0	20時以降	1	0.6
不明・無回答	5	3.1	不明・無回答	5	3.1

10 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について（就学前児童）

（1）子どもが生まれた時の保護者の育児休業取得状況〈単数回答〉〔就学前児童調査…問 29〕

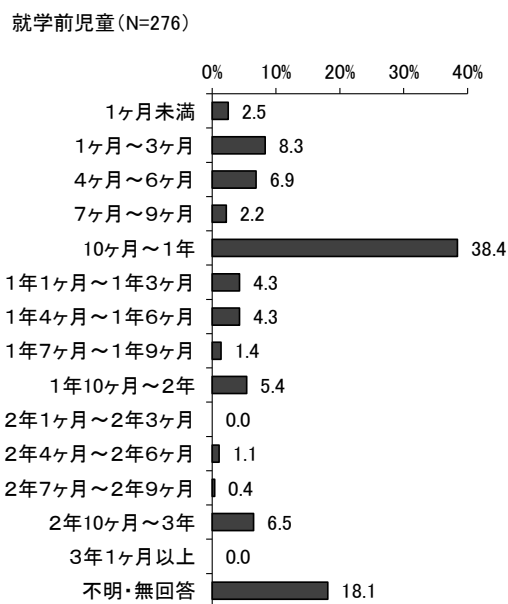
子どもが生まれた時の保護者の育児休業取得状況についてみると、母親では「働いていなかった」が 55.9%、父親では「取得していない」が 81.8%と、それぞれ最も高くなっています。また、母親の「取得した（取得中である）」が 22.3%、父親では 2.8%となっています。

育児休業の取得日数についてみると、母親については「10 ヶ月～1年」が 38.4%と最も高く、父親では「1 ヶ月未満」が 80.0%と最も高くなっています。



◎育児休業の取得日数〈数量回答〉

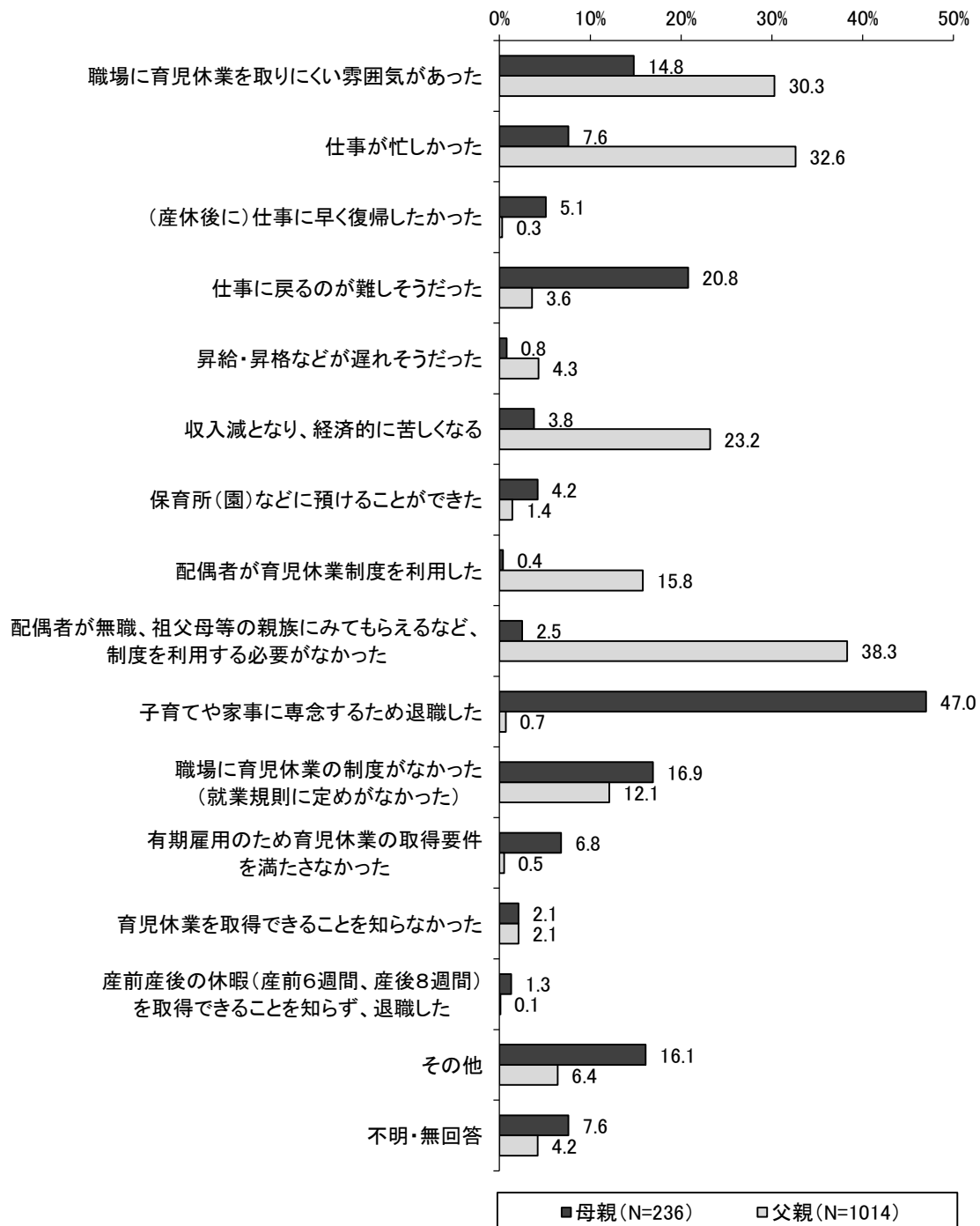
《「取得した（取得中である）」を選んだ方》



【父親】 育児休業の取得日数	就学前児童 (N=35)	
	件数	%
1ヶ月未満	28	80.0
1ヶ月～3ヶ月	3	8.6
4ヶ月～6ヶ月	1	2.9
7ヶ月～9ヶ月	0	0.0
10ヶ月～1年	1	2.9
1年1ヶ月～1年3ヶ月	0	0.0
1年4ヶ月～1年6ヶ月	0	0.0
1年7ヶ月～1年9ヶ月	0	0.0
1年10ヶ月～2年	0	0.0
2年1ヶ月～2年3ヶ月	0	0.0
2年4ヶ月～2年6ヶ月	0	0.0
2年7ヶ月～2年9ヶ月	0	0.0
2年10ヶ月～3年	0	0.0
3年1ヶ月以上	0	0.0
不明・無回答	2	5.7

◎取得していない理由〈複数回答〉《「取得していない」を選んだ方》

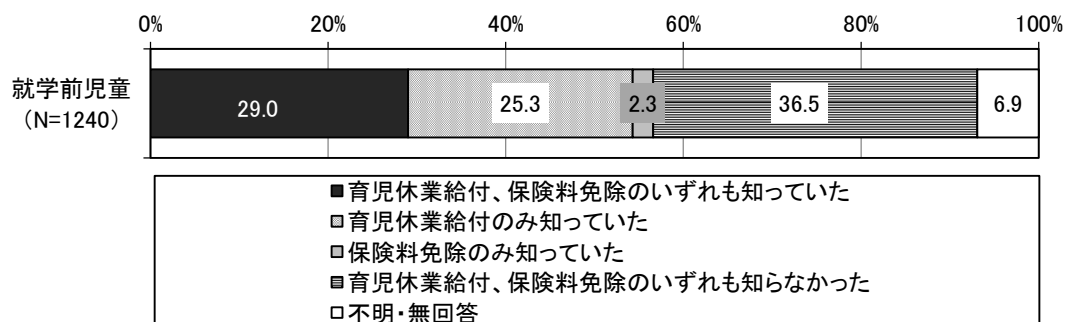
育児休業を取得していない理由についてみると、母親では「子育てや家事に専念するため退職した」が47.0%と最も高く、次いで「仕事に戻るのが難しそうだった」が20.8%となっています。父親では「配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」が38.3%と最も高く、次いで「仕事が忙しかった」が32.6%となっています。



(2) 育児休業給付や育児休業保険料免除制度の認知度〈単数回答〉

〔就学前児童調査…問 29-1〕

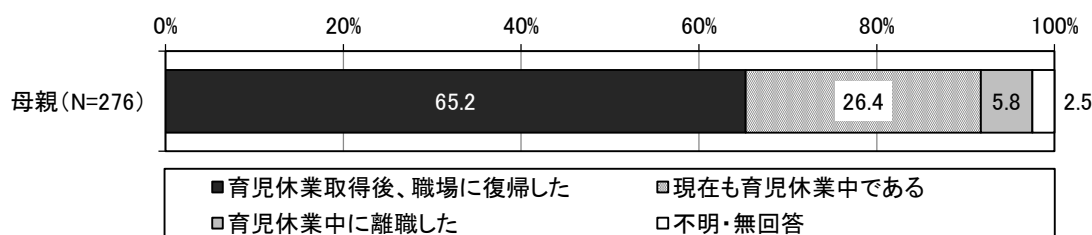
育児休業給付等の認知度についてみると、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった」が 36.5%と高く、次いで「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」が 29.0%となっています。



(1) で「取得した(取得中である)」を選んだ方

(3) 育児休業取得後、職場に復帰したか〈単数回答〉〔就学前児童調査…問 29-2〕

育児休業取得後、職場に復帰したかについてみると、母親では「育児休業取得後、職場に復帰した」が 65.2%と大部分を占めています。

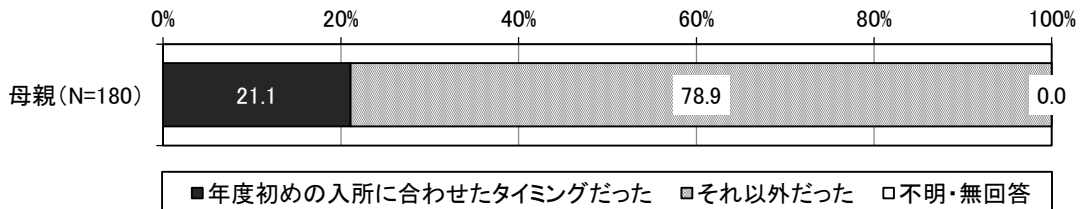


【父親】 職場への復帰状況	就学前児童 N=35	
	件数	%
育児休業取得後、職場に復帰した	20	57.1
現在も育児休業中である	1	2.9
育児休業中に離職した	1	2.9
不明・無回答	13	37.1

(3) で「育児休業取得後、職場に復帰した」を選んだ方

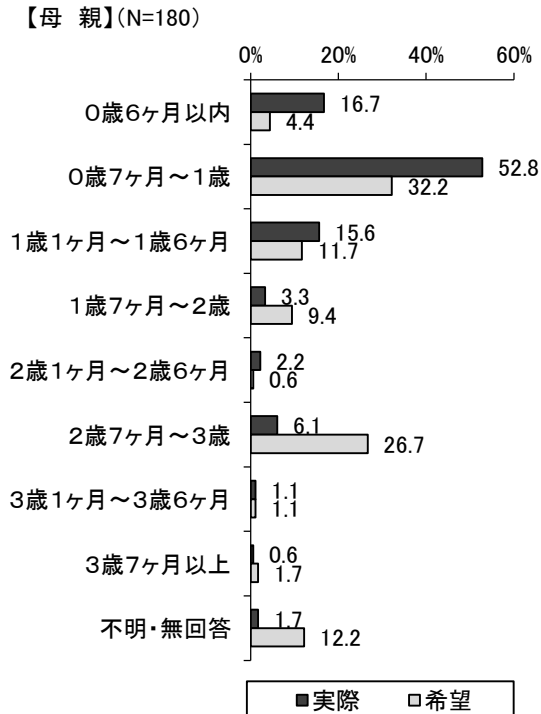
**(3) - 1 職場に復帰したのは、年度初めの保育所入所に合わせたタイミングか
〈単数回答〉**〔就学前児童調査…問 29-3〕

職場復帰の時期が、年度初めの保育所入所に合わせたタイミングかについてみると、母親では「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」が21.1%、「それ以外だった」が78.9%となっています。



(3) - 2 育児休業からは、「実際」に子どもが何歳何ヶ月のときに職場復帰したか。また、勤め先の育児休業の制度の期間内で、何歳何ヶ月のときまで取得したか〈数量回答〉〔就学前児童調査…問 29-4〕

育児休業から、実際に子どもが何歳何ヶ月のときに職場復帰したかについてみると、母親では実際、希望ともに「0歳7ヶ月～1歳」がそれぞれ52.8%、32.2%と最も高くなっています。



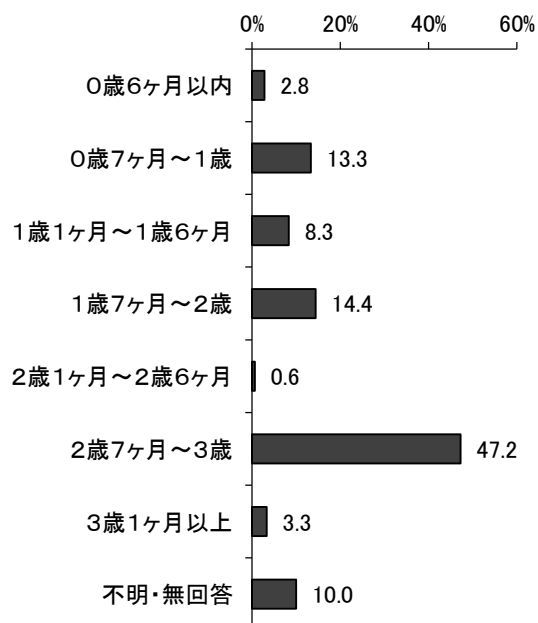
【父親】 育児休業 取得期間	実際 N=20		希望 N=20	
	件数	%	件数	%
0歳6ヶ月以内	13	65.0	9	45.0
0歳7ヶ月～1歳	1	5.0	3	15.0
1歳1ヶ月～1歳6ヶ月	0	0.0	0	0.0
1歳7ヶ月～2歳	0	0.0	0	0.0
2歳1ヶ月～2歳6ヶ月	0	0.0	0	0.0
2歳7ヶ月～3歳	1	5.0	0	0.0
3歳1ヶ月～3歳6ヶ月	0	0.0	0	0.0
3歳7ヶ月以上	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	5	25.0	8	40.0

(3) - 3 職場に育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合、「希望」として子どもが何歳何ヶ月のときまで取得したかったか〈数量回答〉

〔就学前児童調査…問 29-5〕

職場に育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合に、子どもが何歳何ヶ月のときまで取得したかったかについてみると、母親では「2歳7ヶ月～3歳」が47.2%と最も高くなっています。

【母親】(N=180)



【父親】 育児休業を取得 したかった子ども年齢	就学前児童 N=20	
	件数	%
0歳6ヶ月以内	3	15.0
0歳7ヶ月～1歳	2	10.0
1歳1ヶ月～1歳6ヶ月	1	5.0
1歳7ヶ月～2歳	0	0.0
2歳1ヶ月～2歳6ヶ月	0	0.0
2歳7ヶ月～3歳	0	0.0
3歳1ヶ月以上	0	0.0
不明・無回答	14	70.0

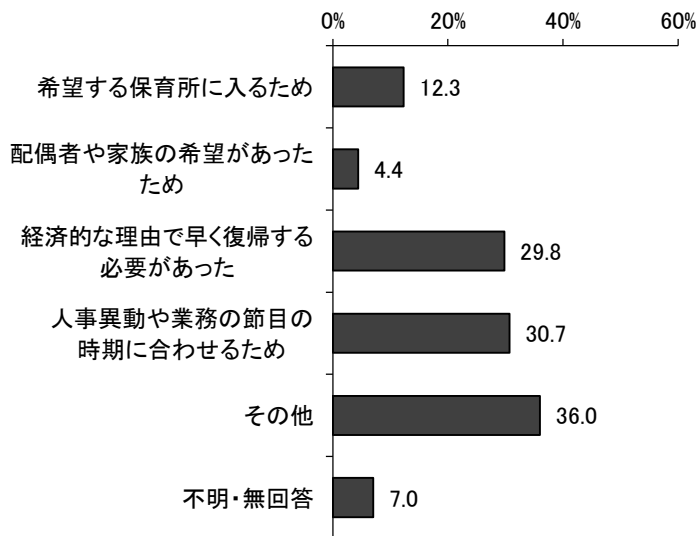
(3) - 2で実際の復帰と希望が異なる方

(3) - 4 希望の時期に職場復帰しなかった理由〈複数回答〉〔就学前児童調査…問 29-6〕

育児休業期間の実際と希望が異なる方の、希望の時期に職場復帰しなかった理由についてみると、母親で『希望』より早く復帰した方では、「その他」を除き「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」が36.0%、「経済的な理由で早く復帰する必要があった」が29.8%となっています。

① 「希望」より早く復帰した方

母親(N=114)



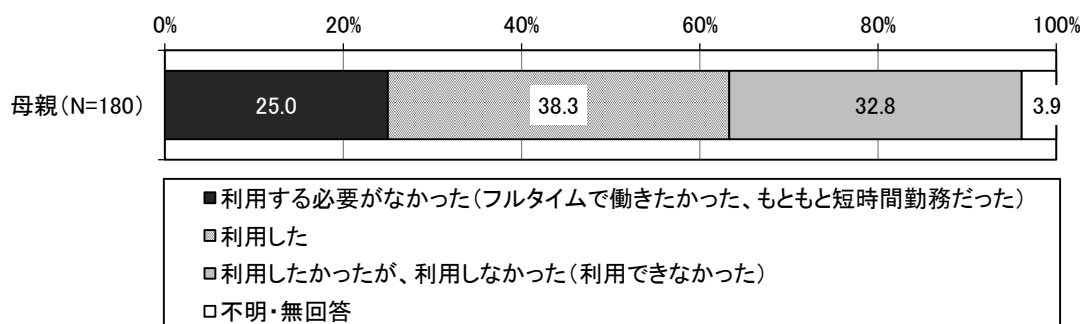
【父親】 「希望」より早く復帰した方	就学前児童 (N=4)	
	件数	%
希望する保育所に入るため	0	0.0
配偶者や家族の希望があったため	0	0.0
経済的な理由で早く復帰する必要があった	1	25.0
人事異動や業務の節目の時期に合わせるため	1	25.0
その他	1	25.0
不明・無回答	1	25.0

② 「希望」より遅く復帰した方

「希望」より遅く復帰した方	母親 (N=7)		父親 (N=1)	
	件数	%	件数	%
希望する保育所に入れなかったため	2	28.6	0	0.0
自分や子どもなどの体調が思わしくなかったため	0	0.0	0	0.0
配偶者や家族の希望があったため	0	0.0	0	0.0
職場の受け入れ態勢が整っていなかったため	0	0.0	0	0.0
子どもをみてる人がいなかったため	0	0.0	0	0.0
その他	2	28.6	0	0.0
不明・無回答	3	42.9	1	100.0

(3) - 5 職場復帰時の短期勤務制度の利用状況〈単数回答〉〔就学前児童調査…問 29-7〕

短期勤務制度の利用状況についてみると、母親では「利用した」が38.3%と最も高く、次いで「利用したかったが、利用しなかった(利用できなかった)」が32.8%となっています。

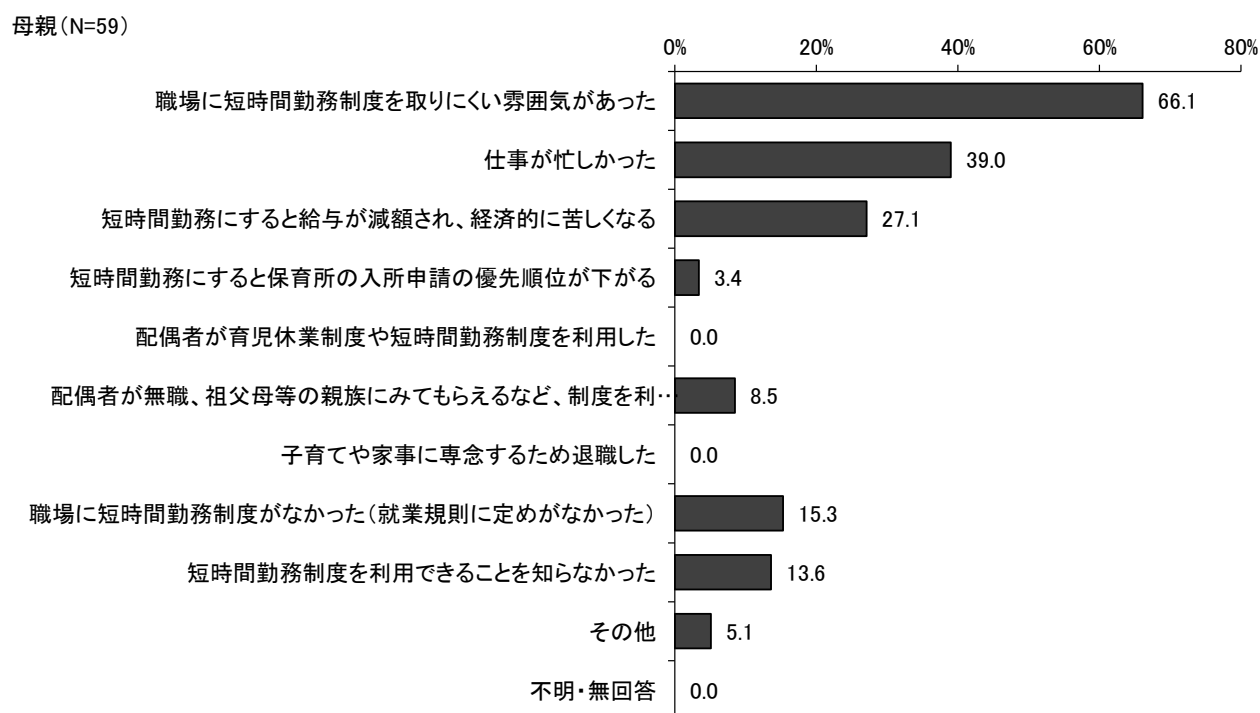


【父親】 育児休業復帰のタイミング	就学前児童 N=20	
	件数	%
利用する必要がなかった(フルタイムで働きたかった、もともと短時間勤務だった)	12	60.0
利用した	0	0.0
利用したかったが、利用しなかった(利用できなかった)	1	5.0
不明・無回答	7	35.0

(3) - 5で「利用したかったが、利用しなかった(利用できなかった)」を選んだ方

(3) - 6 短時間勤務制度を利用しなかった理由〈複数回答〉〔就学前児童調査…問 29-8〕

短時間勤務制度を利用しなかった理由についてみると、母親では「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」が66.1%と最も高く、次いで「仕事が忙しかった」が39.0%となっています。

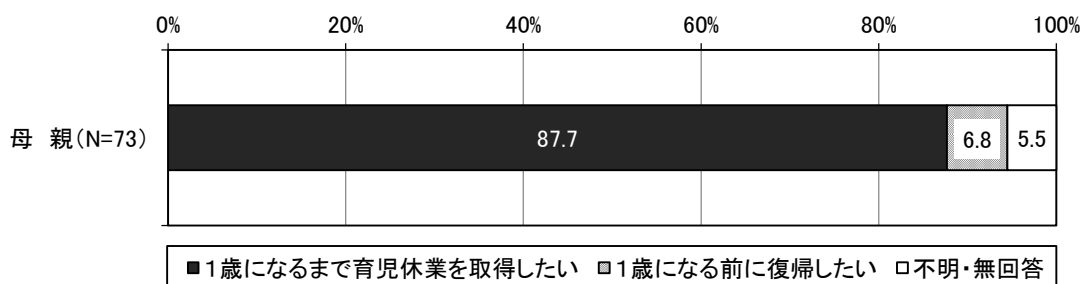


【父親】短時間勤務制度を利用しなかった理由	就学前児童 (N=1)	
	件数	%
職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった	1	100.0
仕事が忙しかった	1	100.0
短時間勤務にすると給与が減額され、経済的に苦しくなる	0	0.0
短時間勤務にすると保育所の入所申請の優先順位が下がる	0	0.0
配偶者が育児休業制度や短時間勤務制度を利用した	0	0.0
配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった	0	0.0
子育てや家事に専念するため退職した	0	0.0
職場に短時間勤務制度がなかった(就業規則に定めがなかった)	0	0.0
短時間勤務制度を利用できることを知らなかった	1	100.0
その他	1	100.0
不明・無回答	0	0.0

(3)で「現在も育児休業中である」を選んだ方

(3)ー7 子どもが1歳になったときに必ず利用できる事業があれば、1歳になるまで育児休業を取得するか〈単数回答〉〔就学前児童調査…問29ー9〕

現在も育児休業中の方で、子どもが1歳になったときに必ず利用できる事業があれば、1歳になるまで育児休業を取得するかについてみると、母親では「1歳になるまで育児休業を取得したい」が87.7%となっています。



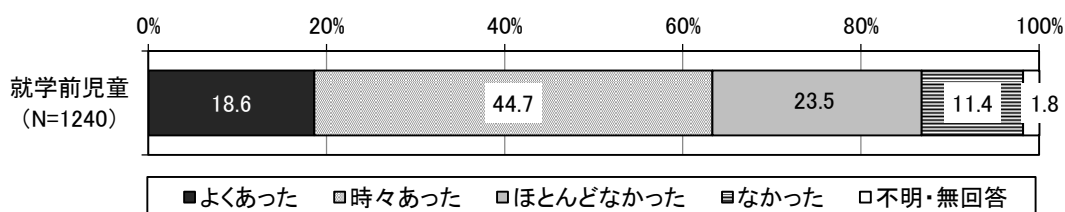
※父親の回答は、「1歳になるまで育児休業を取得したい」が1件となっています。

11 妊娠中や出産・子育ての不安と悩みについて（就学前児童）

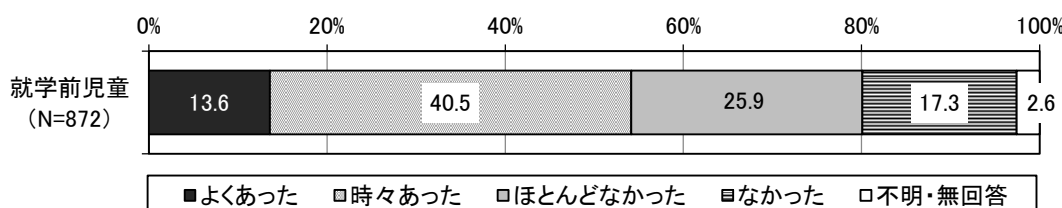
（1）妊娠中、あるいは出産後、母親が精神的に不安定になったことの有無〈単数回答〉

〔就学前児童調査…問 30〕

妊娠中、あるいは出産後、母親が精神的に不安定になったことの有無についてみると、「よくあった」「時々あった」を合わせた『あった』が63.3%、「ほとんどなかった」「なかった」を合わせた『なかった』が34.9%となっており、『あった』が28.4ポイント高くなっています。



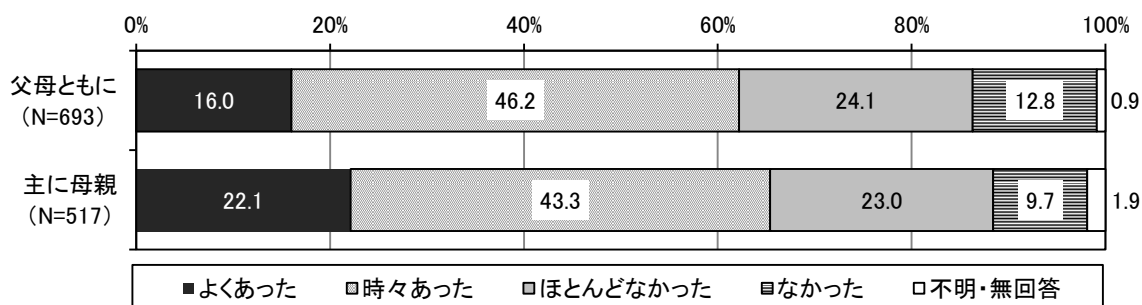
【前回調査結果】（妊娠中、あるいは出産後、母親が精神的に不安定になったことの有無）



●妊娠中、あるいは出産後、母親が精神的に不安定になったことの有無

×教育を主に行っている人〔就学前児童調査…問 30〕

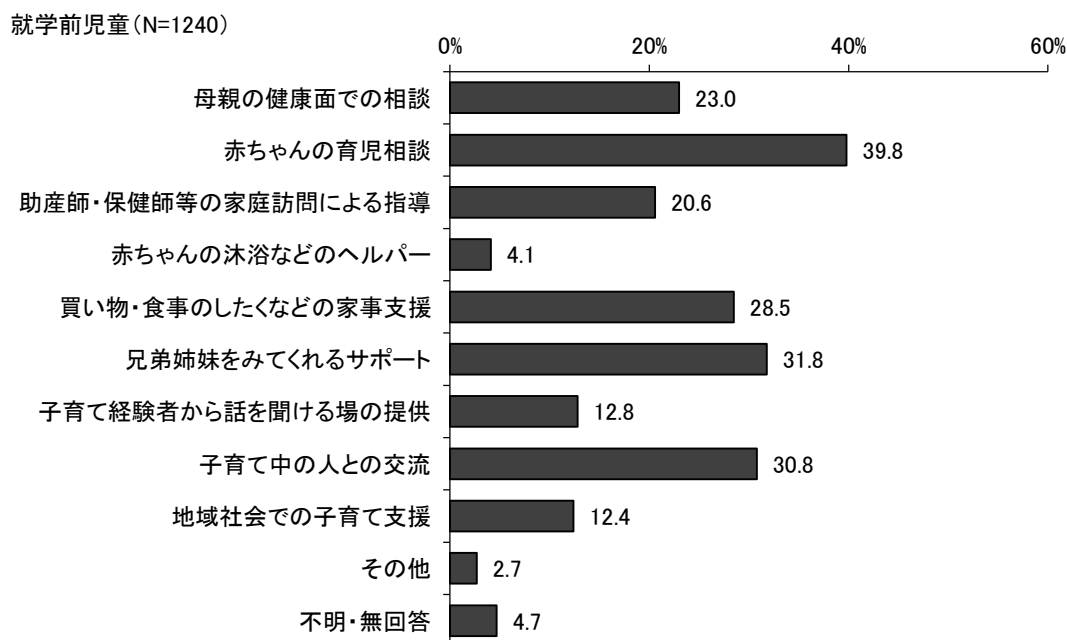
妊娠中、あるいは出産後、母親が精神的に不安定になったことの有無について教育を主に行っている人別にみると、主に母親に比べ、父母ともに行っているほうが「よくあった」「時々あった」を合わせた『あった』の割合が低く、「ほとんどなかった」「なかった」を合わせた『なかった』が高くなっている傾向がみられます。



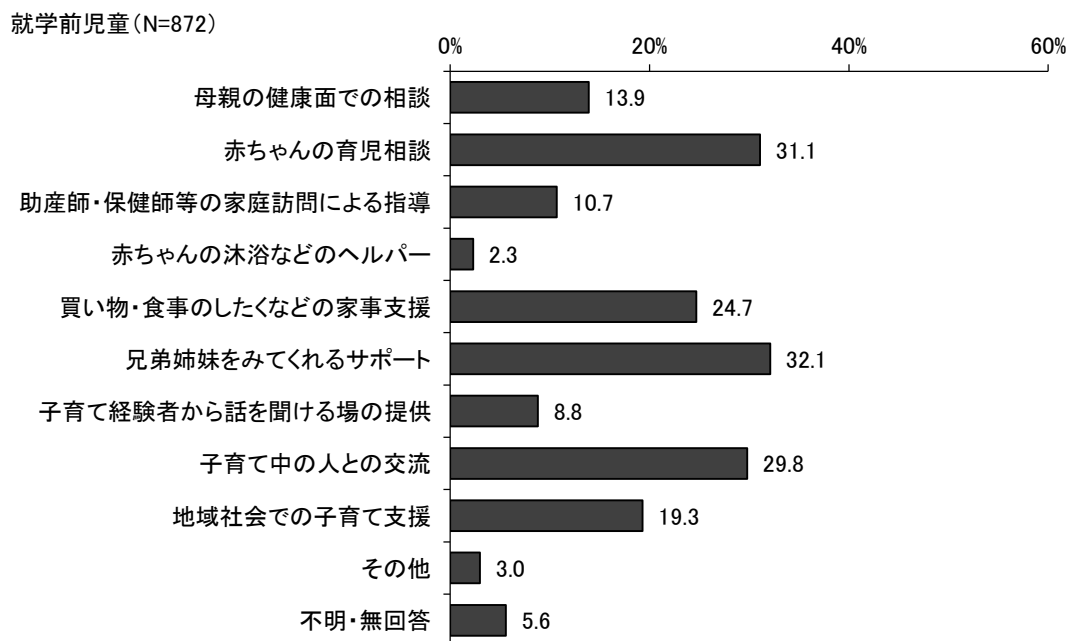
(2) 妊娠中や出産後のサポートとして、特に必要なサービス〈複数回答〉

〔就学前児童調査…問 31〕

妊娠中や出産後のサポートとして、特に必要なサービスについてみると、「赤ちゃんの育児相談」が39.8%、次いで「兄弟姉妹をみてくれるサポート」が31.8%、「子育て中の人との交流」が30.8%となっています。



【前回調査結果】(妊娠中や出産後のサポートとして、特に必要なサービス)



●妊娠中や出産後のサポートとして、特に必要なサービス

×妊娠中、出産後に母親が不安定になったことの有無〔就学前児童調査…問 31〕

妊娠中や出産後のサポートとして、特に必要なサービスを妊娠中、出産後に母親が不安定になったことの有無でみると、「よくあった」人「時々あった」人と「ほとんどなかった」人「なかった」人を比べると、「母親の健康面での相談」「助産師・保健師等の家庭訪問による指導」「買い物、食事のしたくなどの家事支援」「子育て経験者から話を聞ける場の提供」で比較的差が生じており、「よくあった」人「時々あった」人で割合が高くなっています。

母親の健康面をはじめ、育児の孤立化の防止や育児の知識を身につける機会の提供などの必要性がうかがえます。

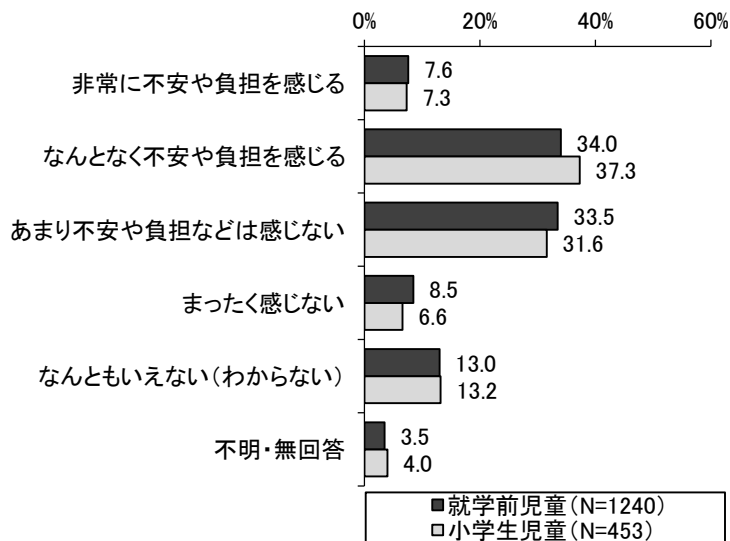
上段:度数 下段:%	母親の健康面での相談	赤ちゃんの育児相談	助産師・保健師等の家庭訪問による指導	赤ちゃんの沐浴などのヘルパー	買い物・食事のしたくなどの家事支援	兄弟姉妹をみてるサポート
よくあった (N=231)	73	95	64	14	74	65
	31.6	41.1	27.7	6.1	32.0	28.1
時々あった (N=554)	125	228	122	18	163	196
	22.6	41.2	22.0	3.2	29.4	35.4
ほとんどなかった (N=292)	61	123	42	15	75	90
	20.9	42.1	14.4	5.1	25.7	30.8
なかった (N=141)	26	47	26	3	38	41
	18.4	33.3	18.4	2.1	27.0	29.1

上段:度数 下段:%	子育て経験者から話を聞ける場の提供	子育て中の人との交流	地域社会での子育て支援	その他	不明・無回答
よくあった (N=231)	41	78	30	14	5
	17.7	33.8	13.0	6.1	2.2
時々あった (N=554)	82	175	60	9	18
	14.8	31.6	10.8	1.6	3.2
ほとんどなかった (N=292)	24	95	43	5	7
	8.2	32.5	14.7	1.7	2.4
なかった (N=141)	12	34	20	5	12
	8.5	24.1	14.2	3.5	8.5

12 子育てに関する不安や悩みに関して

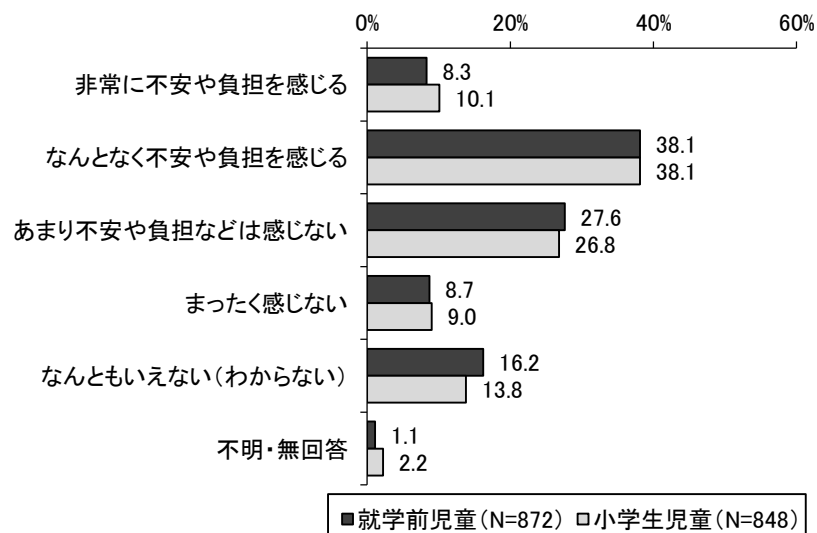
(1) 子育てに関する不安感や負担感の有無〈単数回答〉

〔就学前児童調査…問 32・小学生児童調査…問 24〕



子育てに関する不安感や負担感についてみると、就学前児童では「非常に不安や負担を感じる」と「なんとなく不安や負担を感じる」を合わせた『不安や負担を感じる』が 41.6%、小学生児童では『不安や負担を感じる』が 44.6%と、4 割以上を超えています。

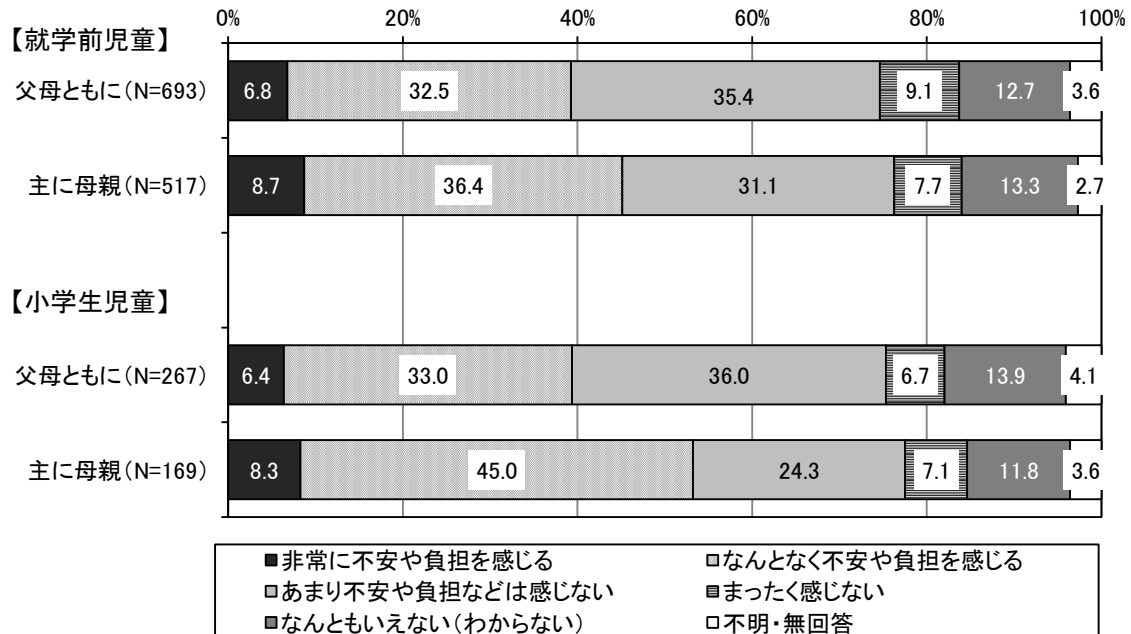
【前回調査結果】(子育てに関する不安感や負担感の有無)



●子育てに関する不安感や負担感の有無×教育を主に行っている人

[就学前児童調査…問 32・小学生児童調査…問 24]

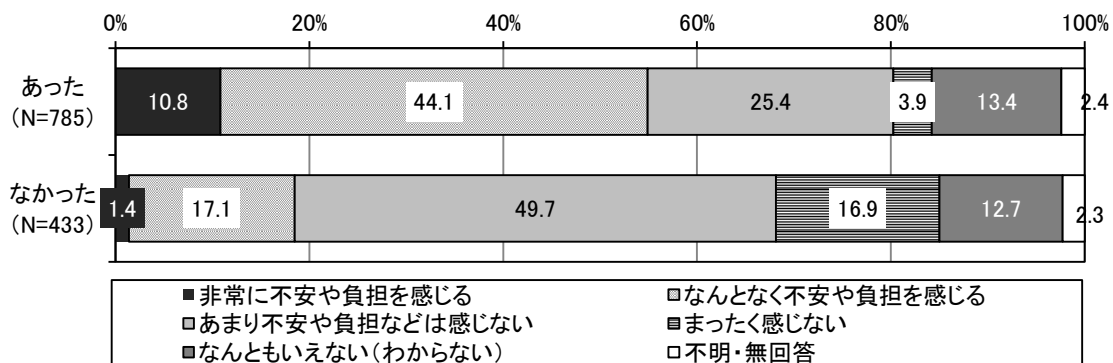
子育てに関する不安感や負担感について、教育を主に行っている人別にみると、就学前児童、小学生児童ともに父母ともに比べ、主に母親が教育を行っている人のほうが「非常に不安や負担を感じる」「なんとなく不安や負担を感じる」を合わせた『不安や負担を感じる』が高くなっています。



●子育てに関する不安感や負担感の有無

×妊娠中、出産後に母親が不安定になったことの有無

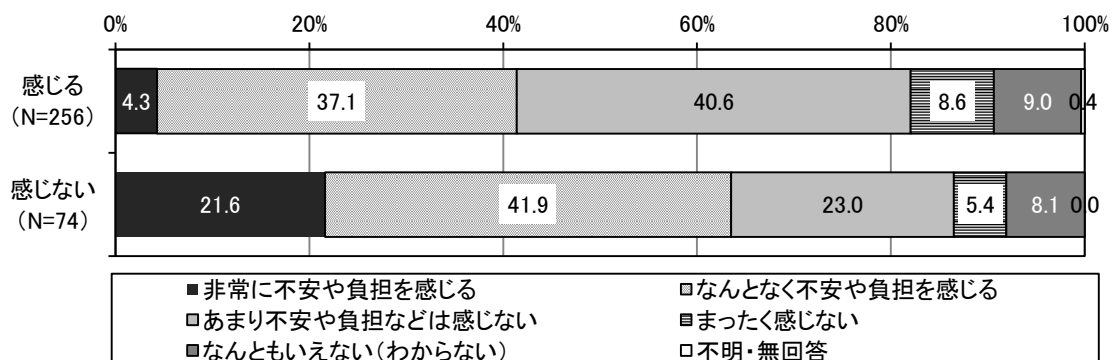
子育てに関する不安感や負担感について、妊娠中、出産後に母親が不安定になったことの有無でみると、妊娠中、出産後に母親が不安定になったことがなかった人に比べ、妊娠中、出産後に母親が不安定になったことがあった人のほうが「非常に不安や負担を感じる」「なんとなく不安や負担を感じる」を合わせた『不安や負担を感じる』が高く、36.4ポイントの差がみられます。



●子育てに関する不安感や負担感の有無

×家庭で、仕事と生活の調和が図られていると感じるかの有無

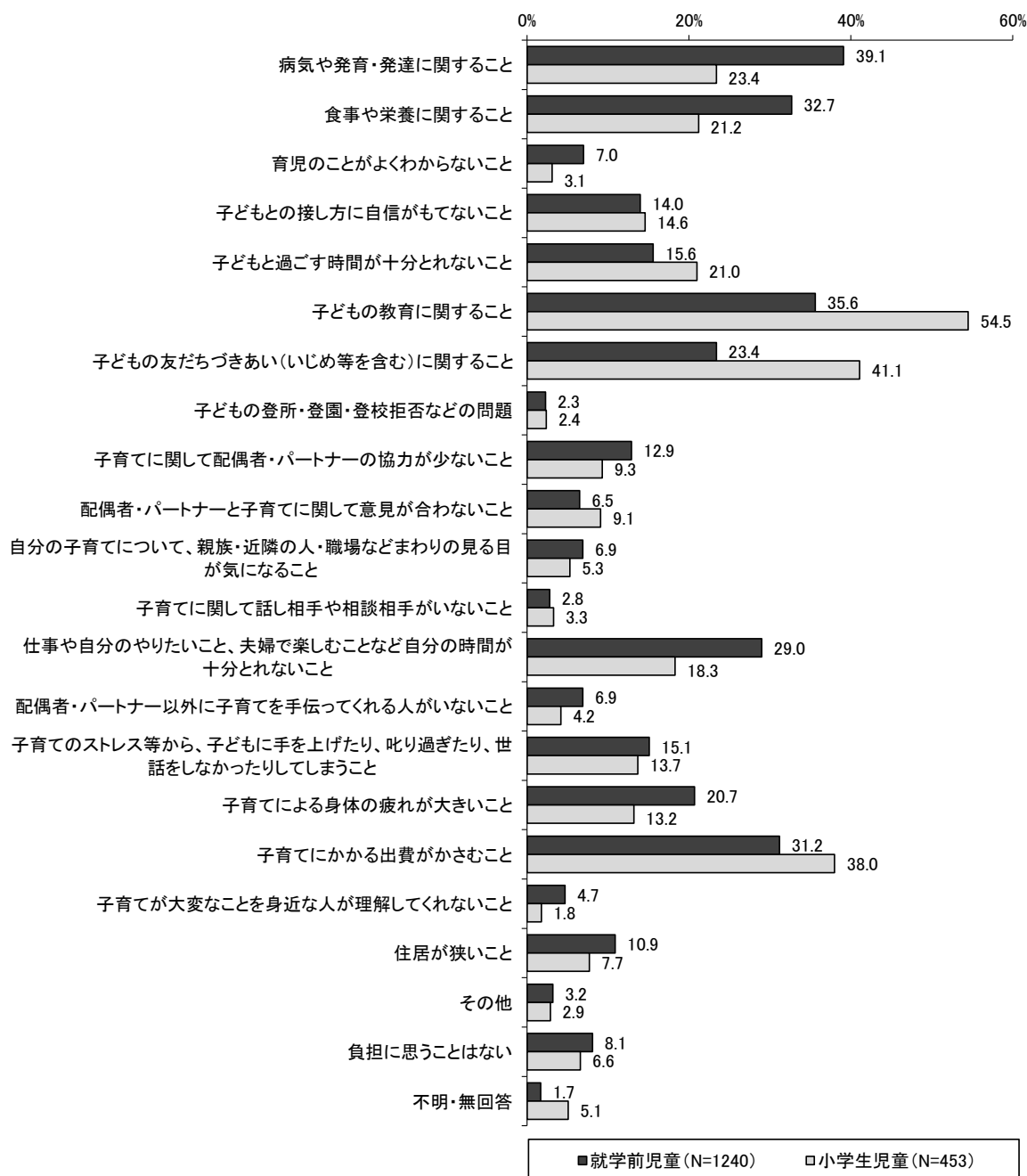
子育てに関する不安感や負担感について、家庭で、仕事と生活の調和が図られていると感じるかの有無でみると、感じる人に比べ、感じない人のほうが「非常に不安や負担を感じる」「なんとなく不安や負担を感じる」を合わせた『不安や負担を感じる』が高く、22.1ポイントの差がみられます。



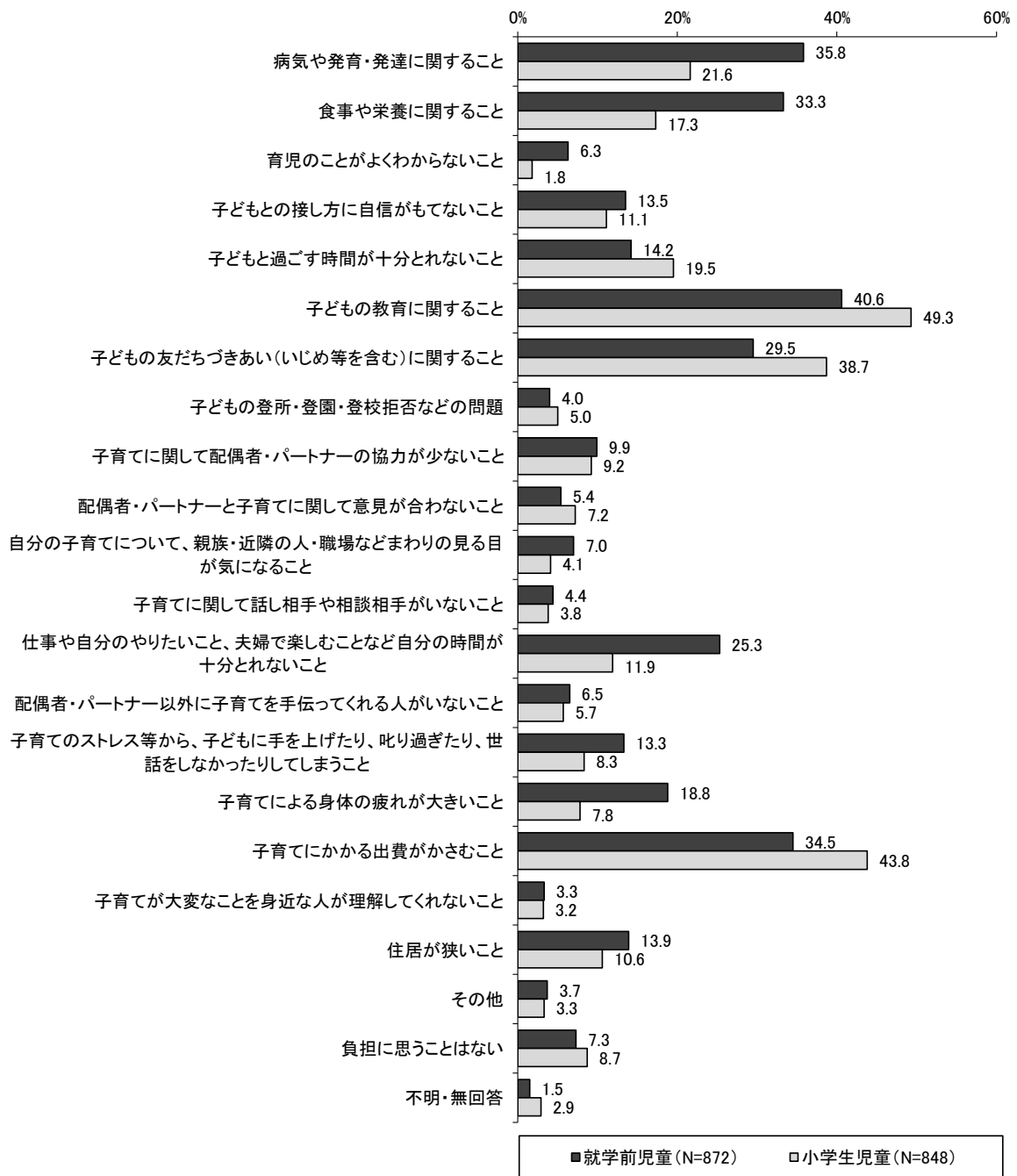
(2) 子育てに関して、日頃悩んでいること、気になること〈複数回答〉

〔就学前児童調査…問 33・小学生児童調査…問 25〕

子育てで悩んでいることや、気になることについてみると、就学前児童では「病気や発育・発達に関すること」が 39.1%と最も高く、次いで、「子どもの教育に関すること」が 35.6%、「食事や栄養に関すること」が 32.7%となっています。小学生児童では「子どもの教育に関すること」が 54.5%と最も高く、次いで、「子どもの友だちづきあい（いじめ等を含む）に関すること」が 41.1%、「子育てにかかる出費がかさむこと」が 38.0%となっています。



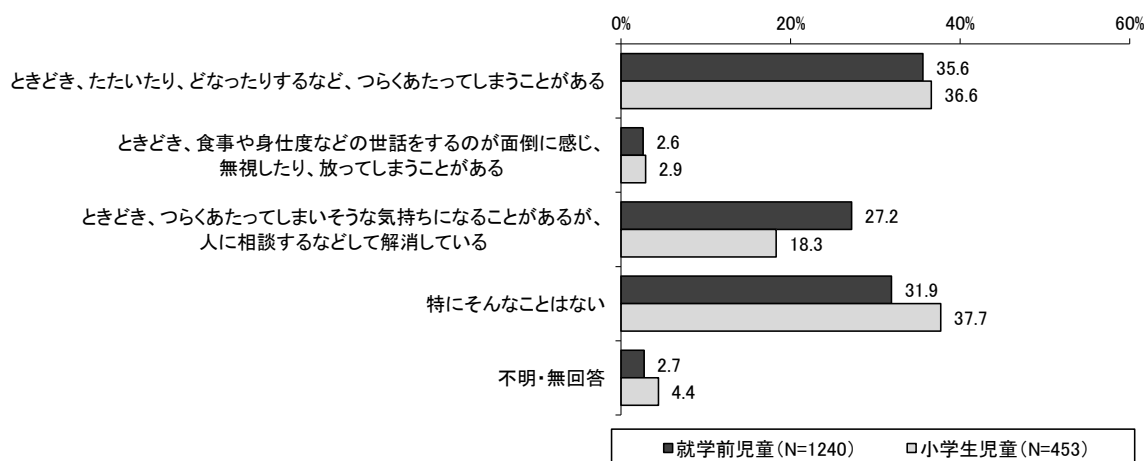
【前回調査結果】（子育てに関して、日頃悩んでいること、気になること）



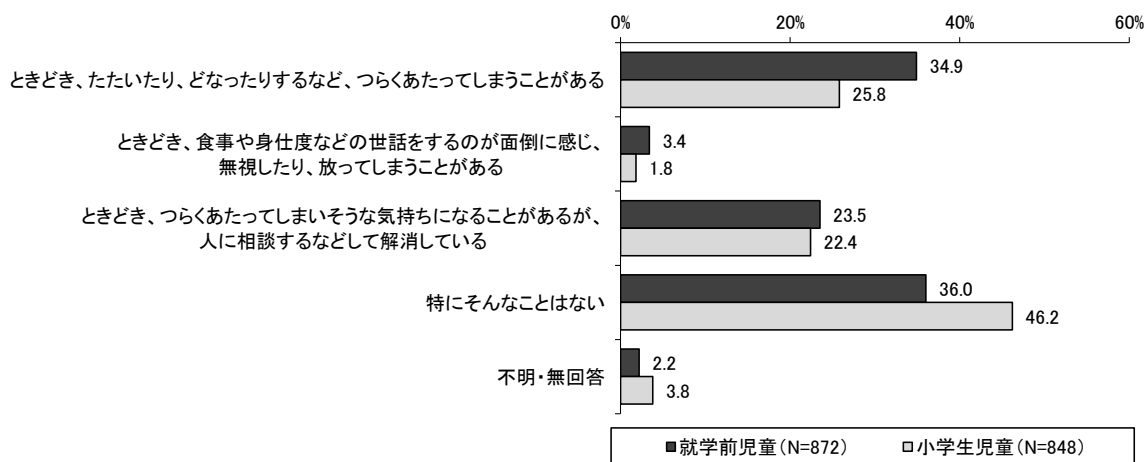
(3) 子育てで子どもにつらくあたってしまうことの有無〈単数回答〉

〔就学前児童調査…問 34・小学生児童調査…問 26〕

子育ての悩みや不安から、子どもにつらくあたってしまうことの有無について、就学前児童では「ときどき、たたいたり、どなったりするなど、つらくあたってしまうことがある」が 35.6%、小学生児童では「特にそんなことはない」が 37.7%とそれぞれ最も高くなっています。



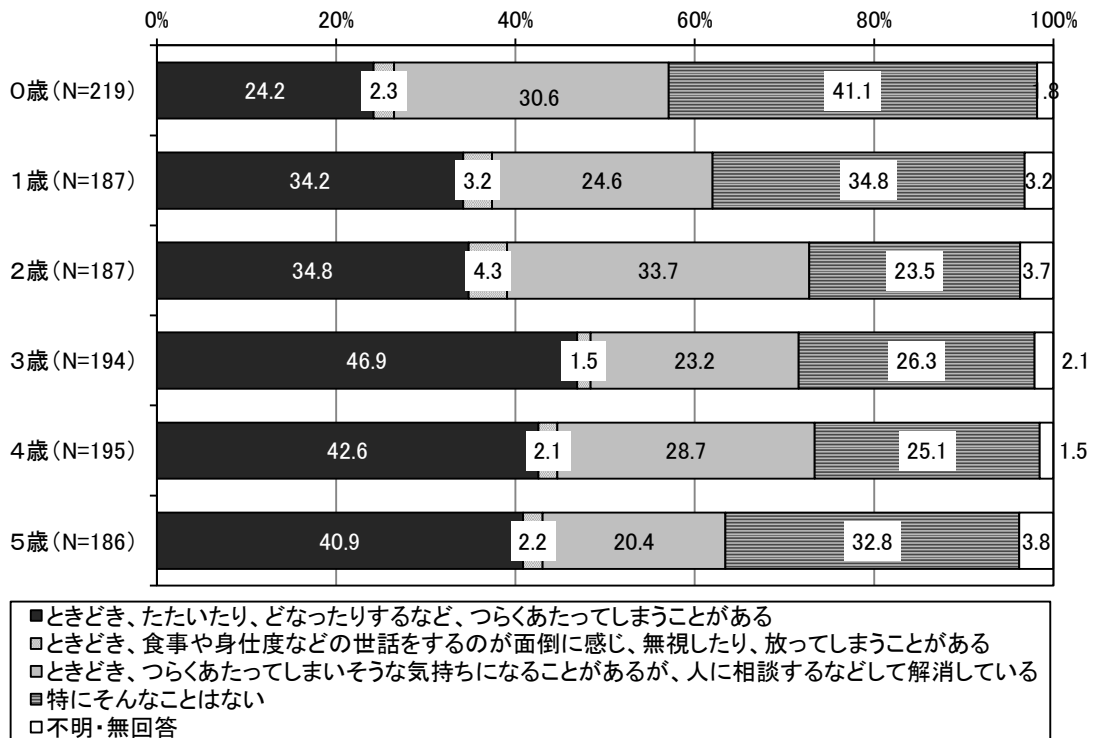
【前回調査結果】(子育てで子どもにつらくあたってしまうことの有無)



●子育てで子どもにつらくあたってしまうことの有無×年齢

[就学前児童調査…問 34・小学生児童調査…問 26]

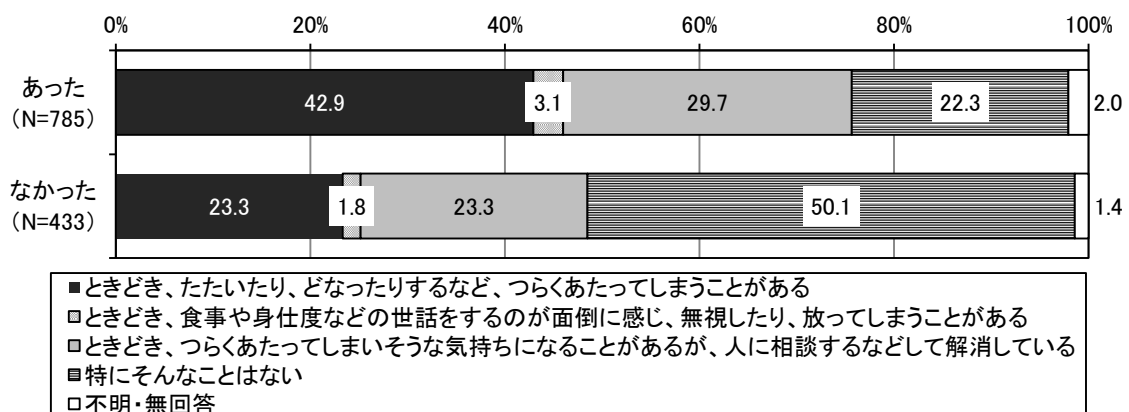
子育ての悩みや不安から、子どもにつらくあたってしまうことの有無について年齢別にみると、「ときどき、たいたたり、どなったりするなど、つらくあたってしまうことがある」が3歳で5割近く、4歳以降では4割台となっています。



●子育てで子どもにつらくあたってしまうことの有無

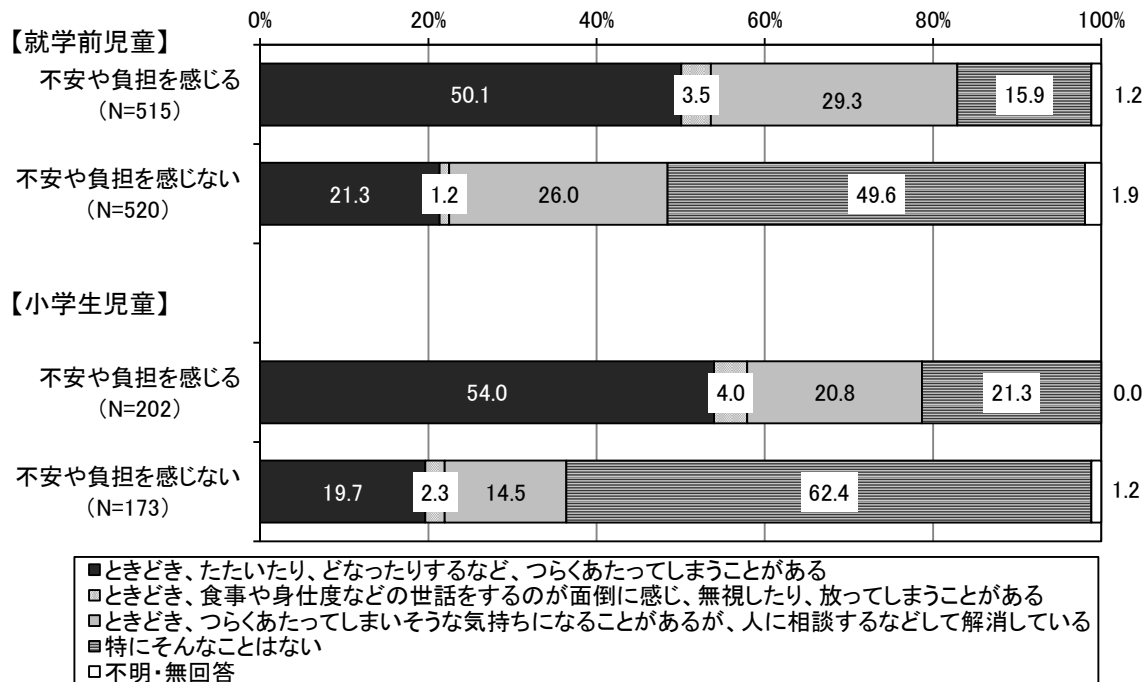
×妊娠中、出産後に母親が不安定になったことの有無

子育ての悩みや不安から、子どもにつらくあたってしまうことの有無について妊娠中、出産後に母親が不安定になったことの有無でみると、あった人のほうが「ときどき、たいたたり、どなったりするなど、つらくあたってしまうことがある」「ときどき、食事や身仕度などの世話をするのが面倒に感じ、無視したり、放ってしまうことがある」の割合が高く、「特にそんなことはない」の割合が低くなっています。



●子育てで子どもにつらくあたってしまうことの有無×子育ての不安感や負担感の有無

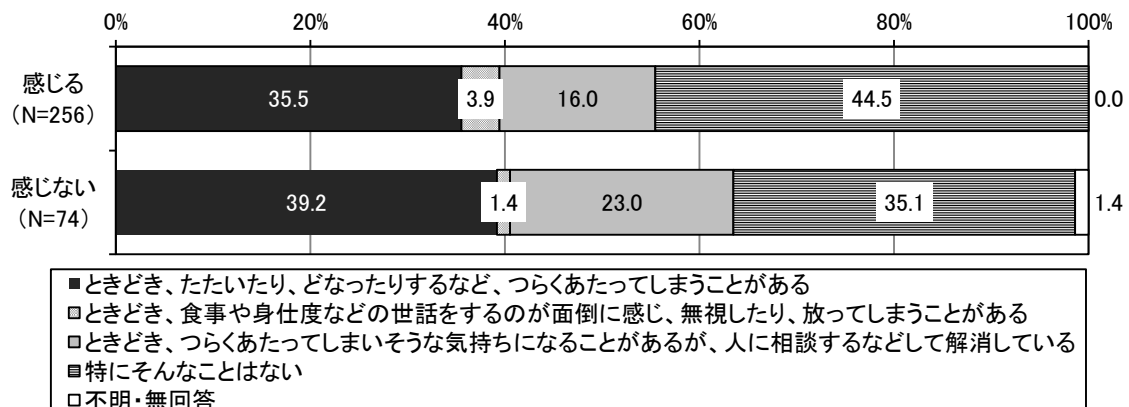
子育ての悩みや不安から、子どもにつらくあたってしまうことの有無について子育ての不安感や負担感の有無でみると、就学前児童、小学生児童ともに不安や負担を感じる人のほうが「ときどき、たいたり、どなったりするなど、つらくあたってしまうことがある」「ときどき、食事や身仕度などの世話をするのが面倒に感じ、無視したり、放ってしまうことがある」の割合が高く、「特にそんなことはない」の割合が低くなっています。



●子育てで子どもにつらくあたってしまうことの有無

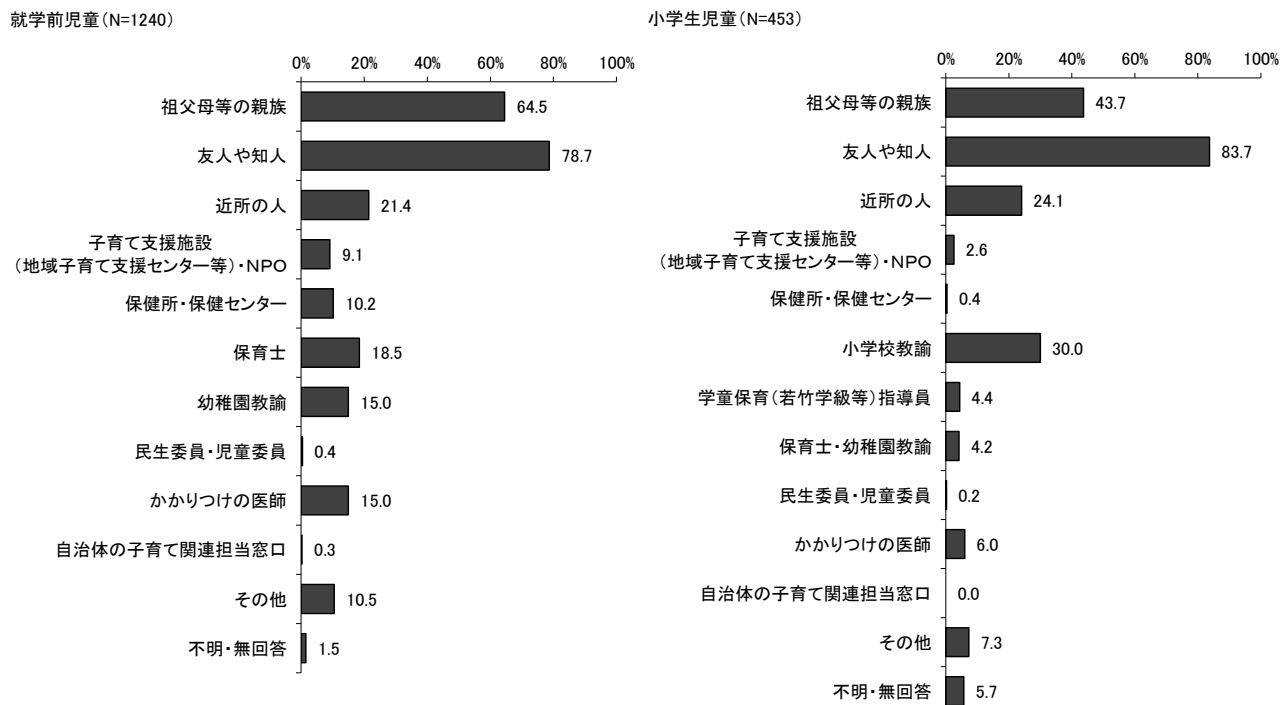
×家庭で、仕事と生活の調和が図られていると感じるかの有無

子育ての悩みや不安から、子どもにつらくあたってしまうことの有無について家庭で、仕事と生活の調和が図られていると感じるかの有無でみると、感じない人のほうが「ときどき、たいたり、どなったりするなど、つらくあたってしまうことがある」「ときどき、食事や身仕度などの世話をするのが面倒に感じ、無視したり、放ってしまうことがある」の割合が比較的高く、「特にそんなことはない」の割合が低くなっています。



(4) 子育ての情報源〈複数回答〉〔就学前児童調査…問 35・小学生児童調査…問 27〕

子育ての情報源について、就学前児童、小学生児童ともに「友人や知人」が78.7%、83.7%とそれぞれ最も高く、次いで「祖父母等の親族」が64.5%、43.7%となっています。

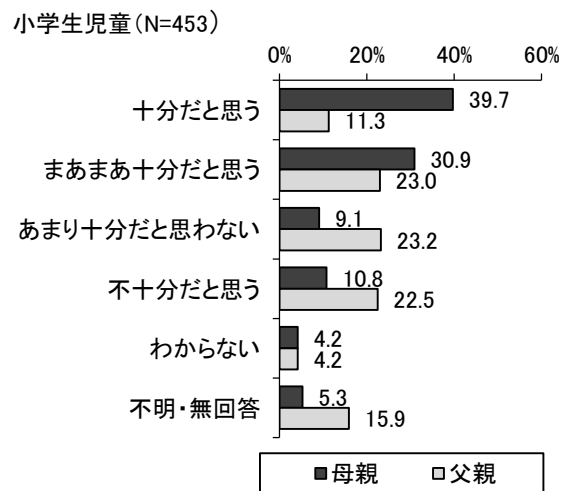
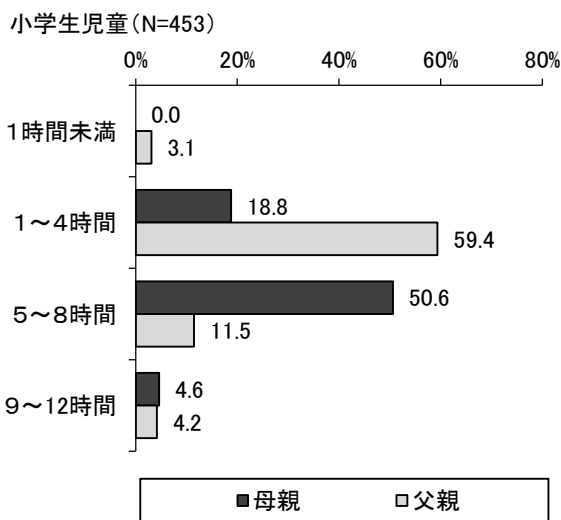


13 ワーク・ライフ・バランスについて（小学生児童）

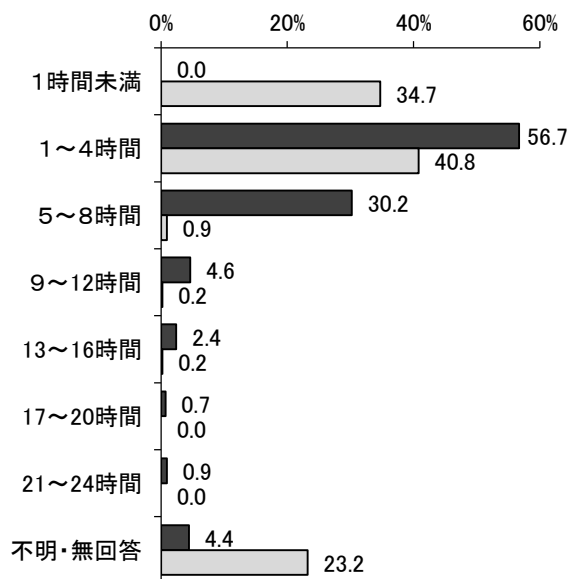
（１）子どもと一緒に過ごす時間の満足度〈単数回答〉〔小学生児童調査…問 23〕

一緒に過ごしたい時間について、母親では「5～8時間」が50.6%と最も高く、父親では「1～4時間」が59.4%と最も高くなっています。

子どもと一緒に過ごす時間の満足度について、母親では「十分だと思う」「まあまあ十分だと思う」を合わせた『十分』が70.6%と7割以上を占めているのに対して、父親では『十分』が34.3%と母親を下回るとともに、「あまり十分だと思わない」「不十分だと思う」を合わせた『不十分』を下回っています。



（２）1日当たりの家事の時間〈数量回答〉〔小学生児童調査…問 23-1〕

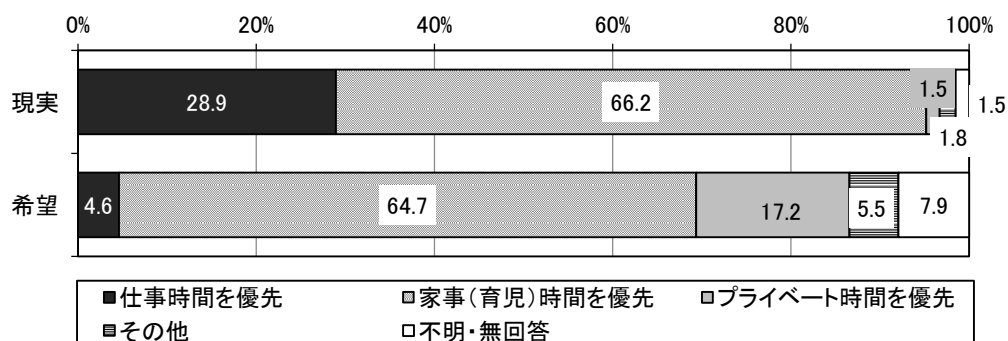


1日当たりの家事の時間について、母親、父親ともに「1～4時間」が最も高く、それぞれ56.7%、40.8%となっています。次いで、母親は「5～8時間」、父親は「1時間未満」となっています。

（３）家庭生活の中での優先度の現実と希望〈単数回答〉〔小学生児童調査…問 23-2〕

家庭生活の中での優先度についてみると、現実、希望ともに「家事（育児）時間を優先」が最も高く、それぞれ 6 割を超えています。次いで理想では、「プライベート時間を優先」が 17.2%となっているのに対して、現実では「仕事を優先」が 28.9%と、理想と現実とのかい離がうかがえます。

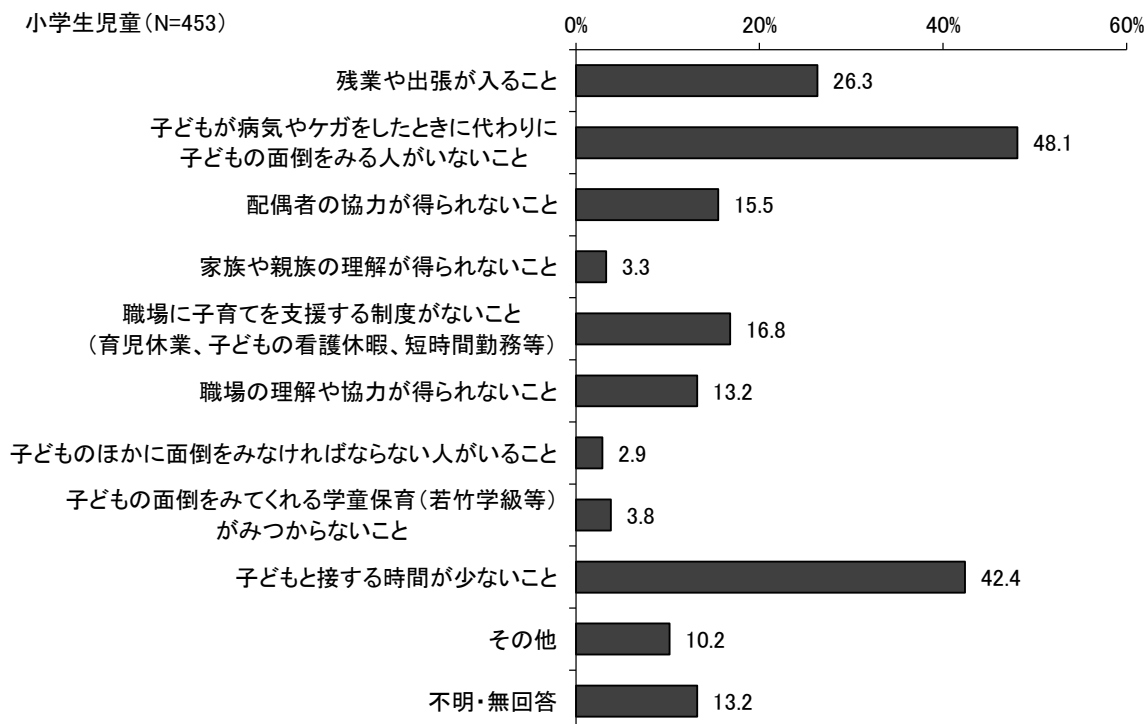
小学生児童 (N=453)



（４）仕事と子育ての両立で大変だと思うこと〈複数回答〉〔小学生児童調査…問 23-3〕

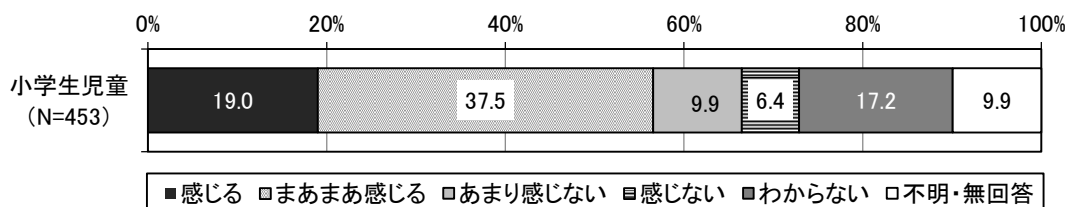
仕事と子育ての両立で大変だと思うことについてみると、「子どもが病気やケガをしたときに代わりに子どもの面倒をみる人がいないこと」が 48.1%と最も高く、次いで「子どもと接する時間が少ないこと」が 42.4%となっています。

小学生児童 (N=453)



(5) 仕事と生活の調和が図られていると感じるか〈単数回答〉〔小学生児童調査…問 23-4〕

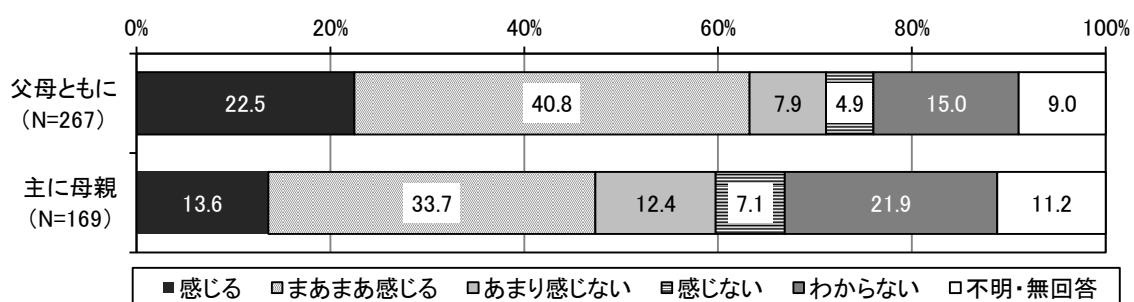
家庭で、仕事と生活の調和が図られていると感じるかについてみると、「感じる」「まあまあ感じる」を合わせた『感じる』が 56.5%と半数以上を占めており、「あまり感じない」「感じない」を合わせた『感じない』を上回っています。



●仕事と生活の調和が図られていると感じるか×教育を主に行っている人

〔小学生児童調査…問 23-4〕

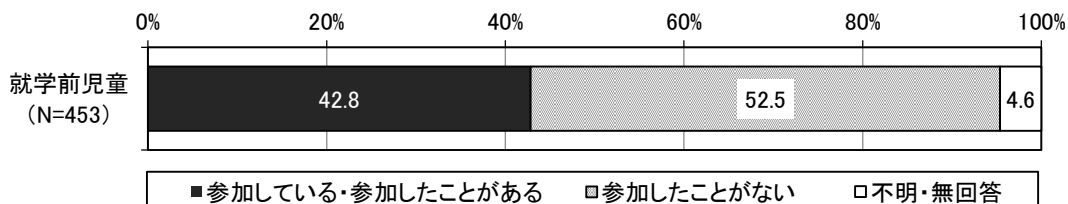
家庭で、仕事と生活の調和が図られていると感じるかについて教育を主に行っている人別にみると、主に母親に比べ、父母ともに教育を行っている人のほうが「感じる」「まあまあ感じる」を合わせた『感じる』が 63.3%と、16 ポイント高くなっています。



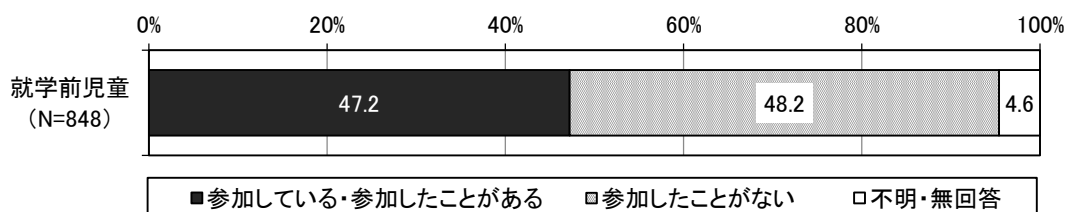
14 子どもの活動促進や安全確保について（小学生児童）

（1）子どもの地域活動やグループ活動への参加の有無〈単数回答〉〔小学生児童調査…問 28〕

子どもの地域活動やグループ活動への参加の有無についてみると、「参加している・参加したことがある」が42.8%、「参加したことがない」が52.5%となっています。



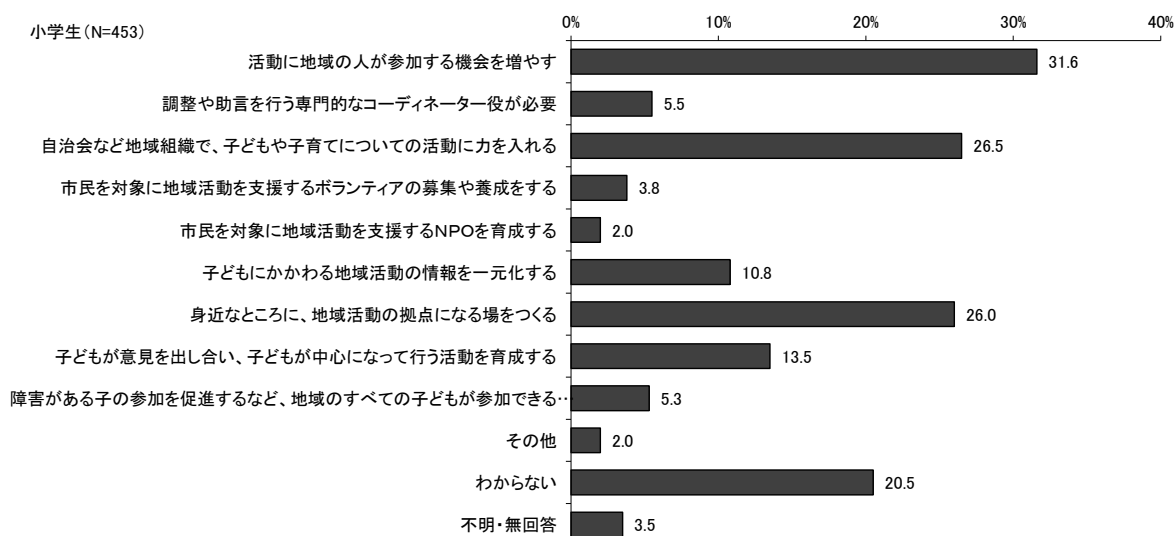
【前回調査結果】（子どもの地域活動やグループ活動への参加の有無）



（2）交流や活動を活発にするために必要だと思うこと〈2つまで回答〉

〔小学生児童調査…問 29〕

交流や活動を活発にするために必要だと思うことについてみると、「活動に地域の人が参加する機会を増やす」が31.6%と最も高く、次いで「自治会など地域組織で、子どもや子育てについての活動に力を入れる」が26.5%、「身近なところに、地域活動の拠点になる場をつくる」が26.0%となっています。

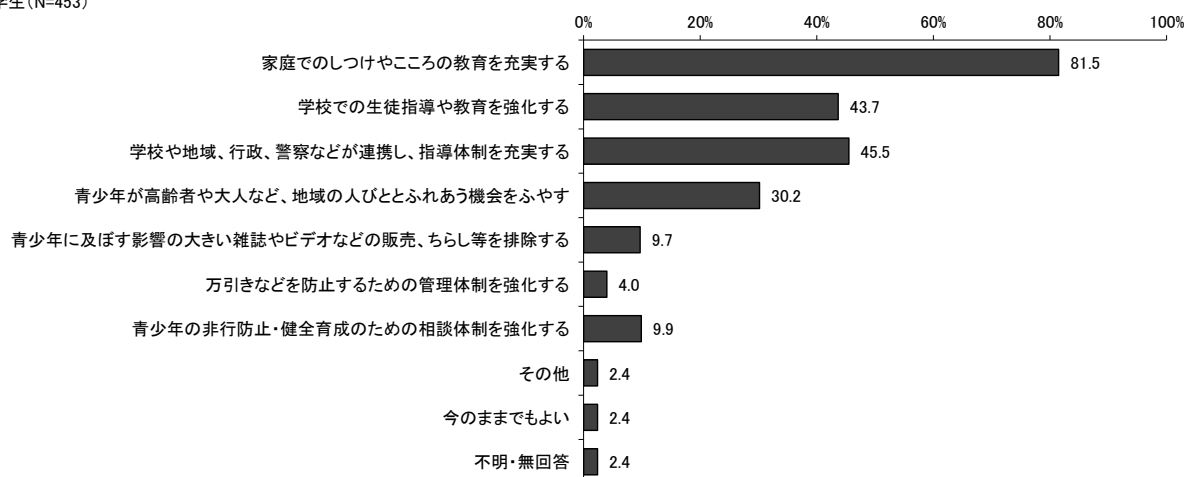


(3) 子どもの健全育成や非行防止のために、力をいれるべきと思うこと〈複数回答〉

〔小学生児童調査…問 30〕

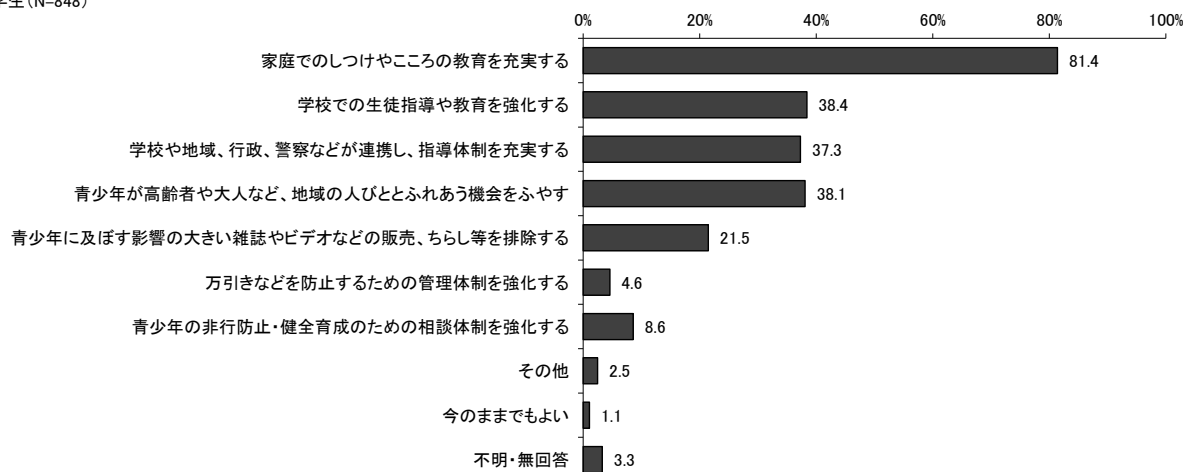
子どもの健全育成や非行防止のために、力をいれるべきと思うことについてみると、「家庭でのしつけやこころの教育を充実する」が81.5%と最も高く、次いで「学校や地域、行政、警察などが連携し、指導体制を充実する」が45.5%、「家庭でのしつけやこころの教育を充実する」が43.7%となっています。

小学生(N=453)



【前回調査結果】(子どもの健全育成や非行防止のために、力をいれるべきと思うこと)

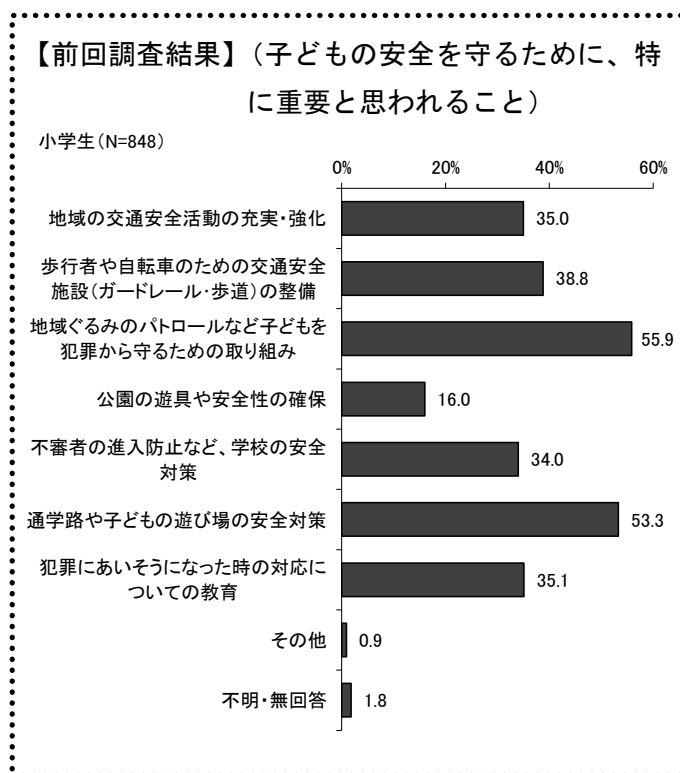
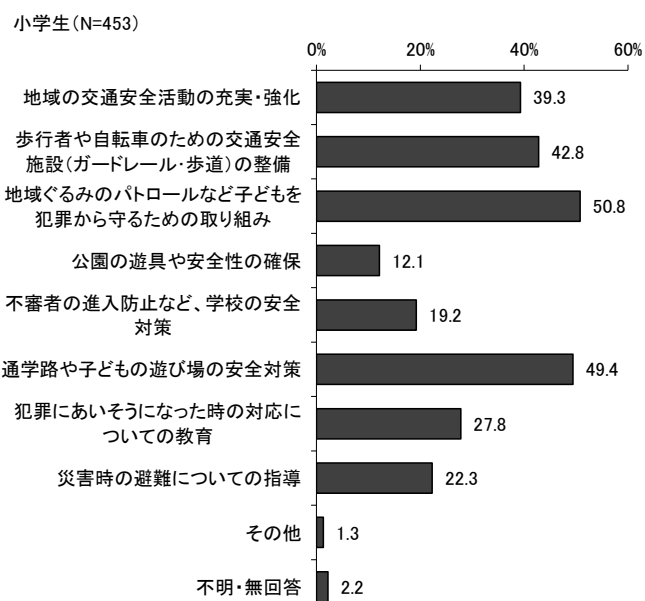
小学生(N=848)



(4) 子どもの安全を守るために、特に重要と思われること〈複数回答〉

[小学生児童調査…問 31]

子どもの安全を守るために、特に重要と思われることについてみると、「地域ぐるみのパトロールなど子どもを犯罪から守るための取り組み」が 50.8%と最も高く、次いで「通学路や子どもの遊び場の安全対策」が 49.4%、「歩行者や自転車のための交通安全施設（ガードレール・歩道）の整備」が 42.8%となっています。



15 和歌山市での子育てや子育て支援サービスについて

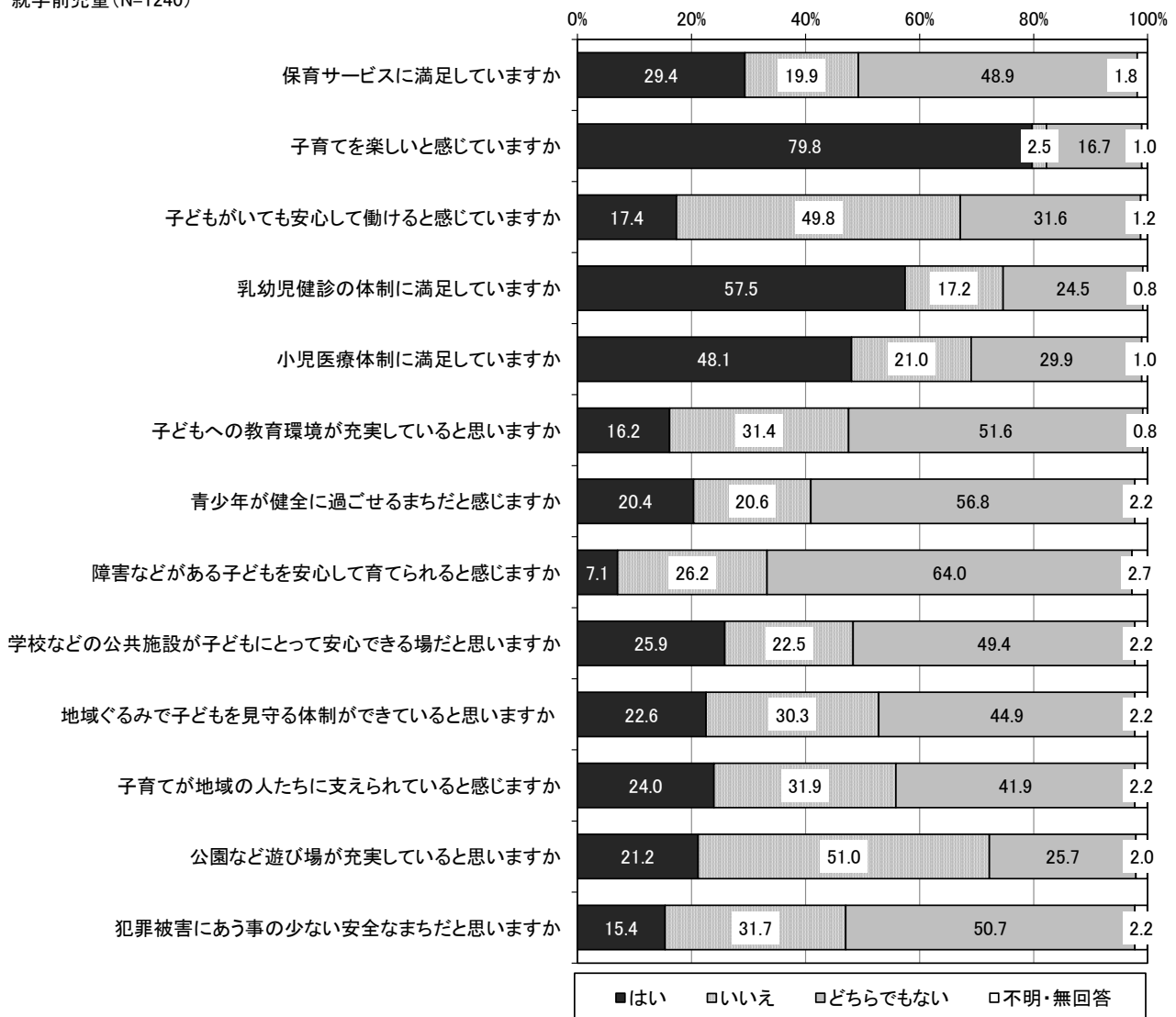
(1) 和歌山市の子育て施策等に関して感じること〈単数回答〉

〔就学前児童調査…問 36、小学生児童調査…問 32〕

和歌山市の子育て施策等に関して感じることについてみると、就学前児童では子育てが楽しい、乳幼児健診の体制への満足、小児医療体制に満足との回答で「感じている」が高く、それぞれ79.8%、57.5%、48.1%となっています。

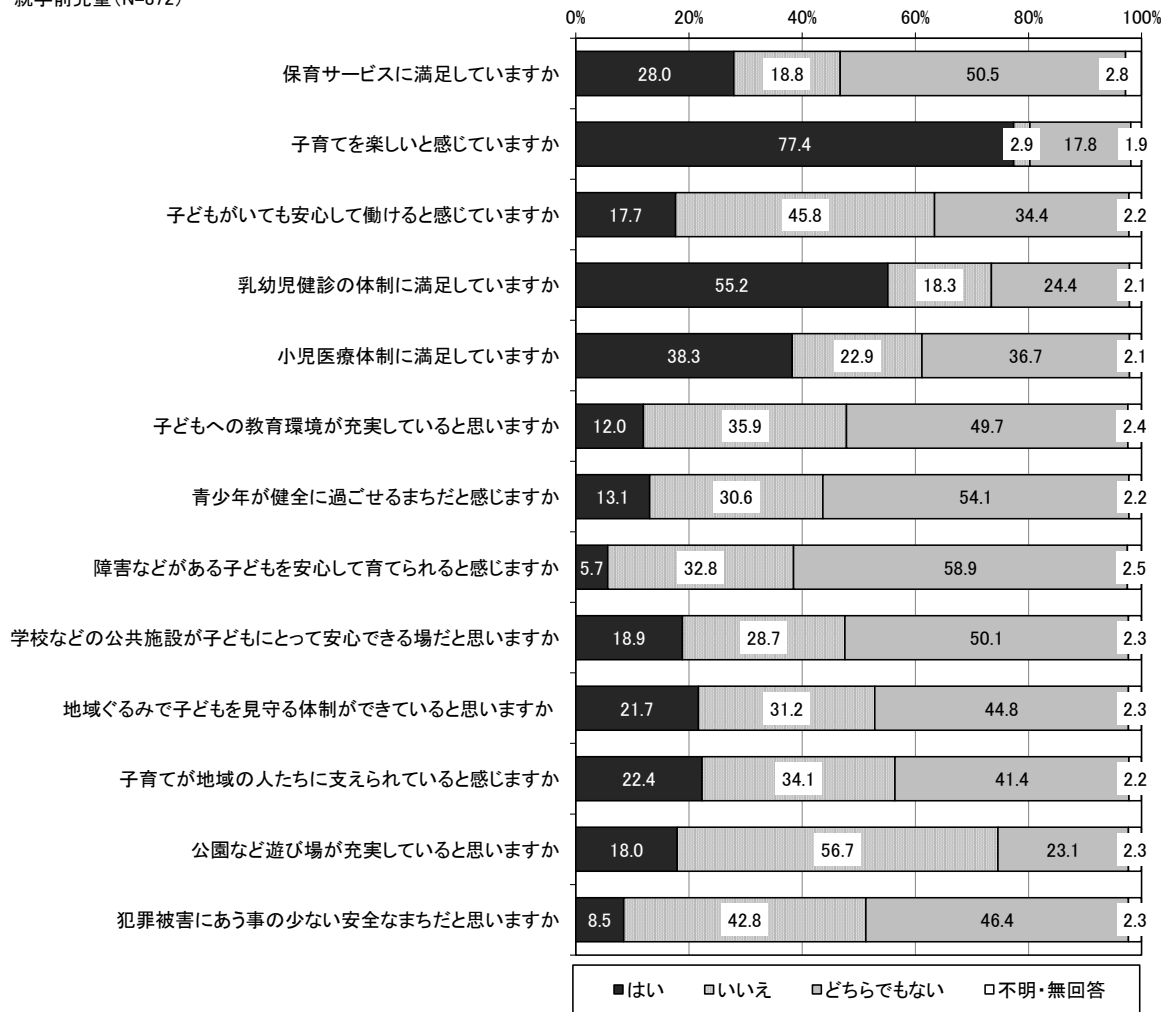
一方、公園などの遊び場の充実、子どもがいても安心して働けるで「感じない」が高く、それぞれ51.0%、49.8%となっています。

就学前児童 (N=1240)



【前回調査結果】（和歌山市の子育て施策等に関して感じる事〔就学前児童〕）

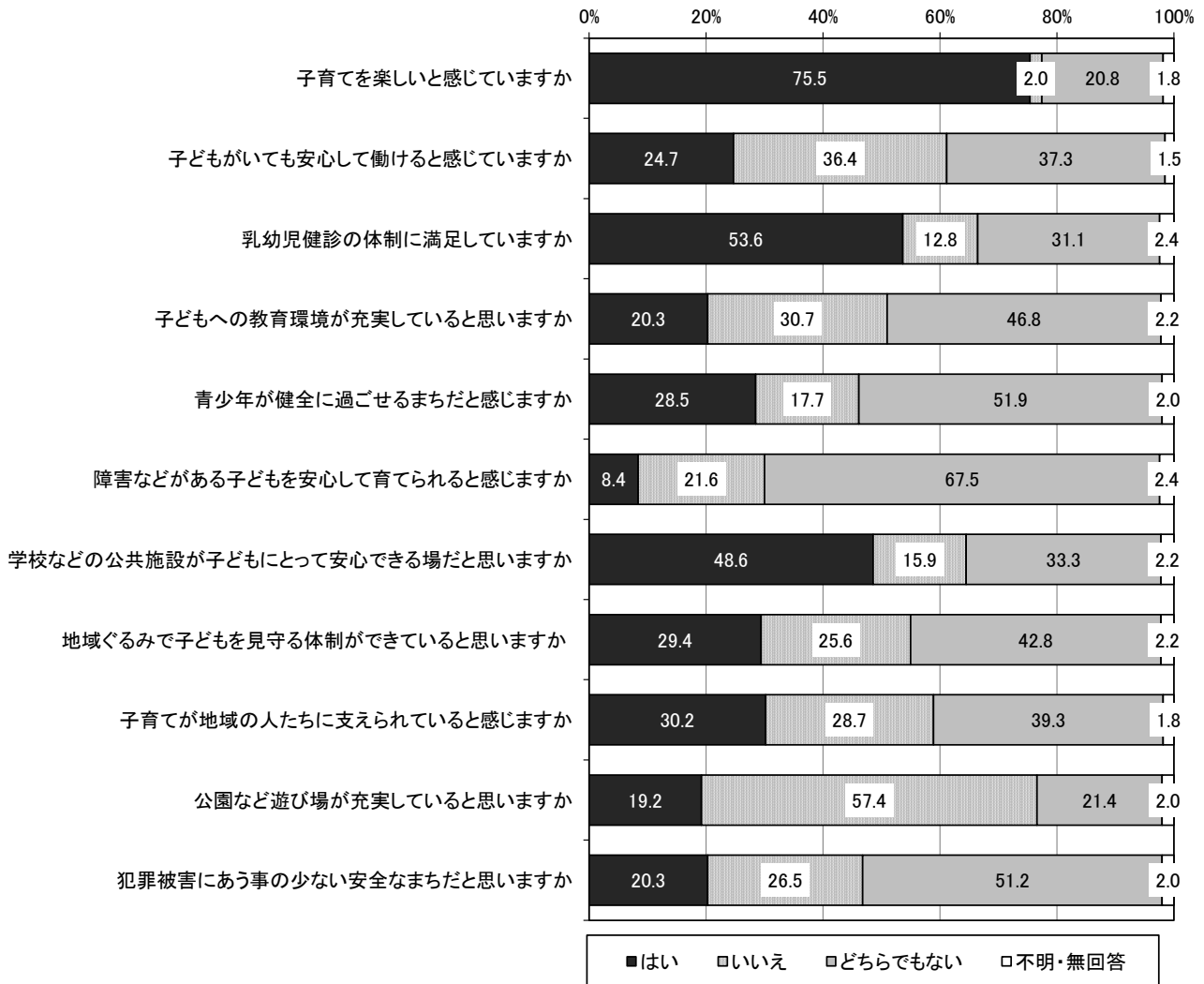
就学前児童(N=872)



和歌山市の子育て施策等に関して感じることにしてみると、小学生児童では子育てが楽しい、乳幼児健診の体制への満足、学校などの公共施設が子どもにとって安心できる場であるとの回答で「感じている」が高く、それぞれ75.5%、53.6%、48.6%となっています。

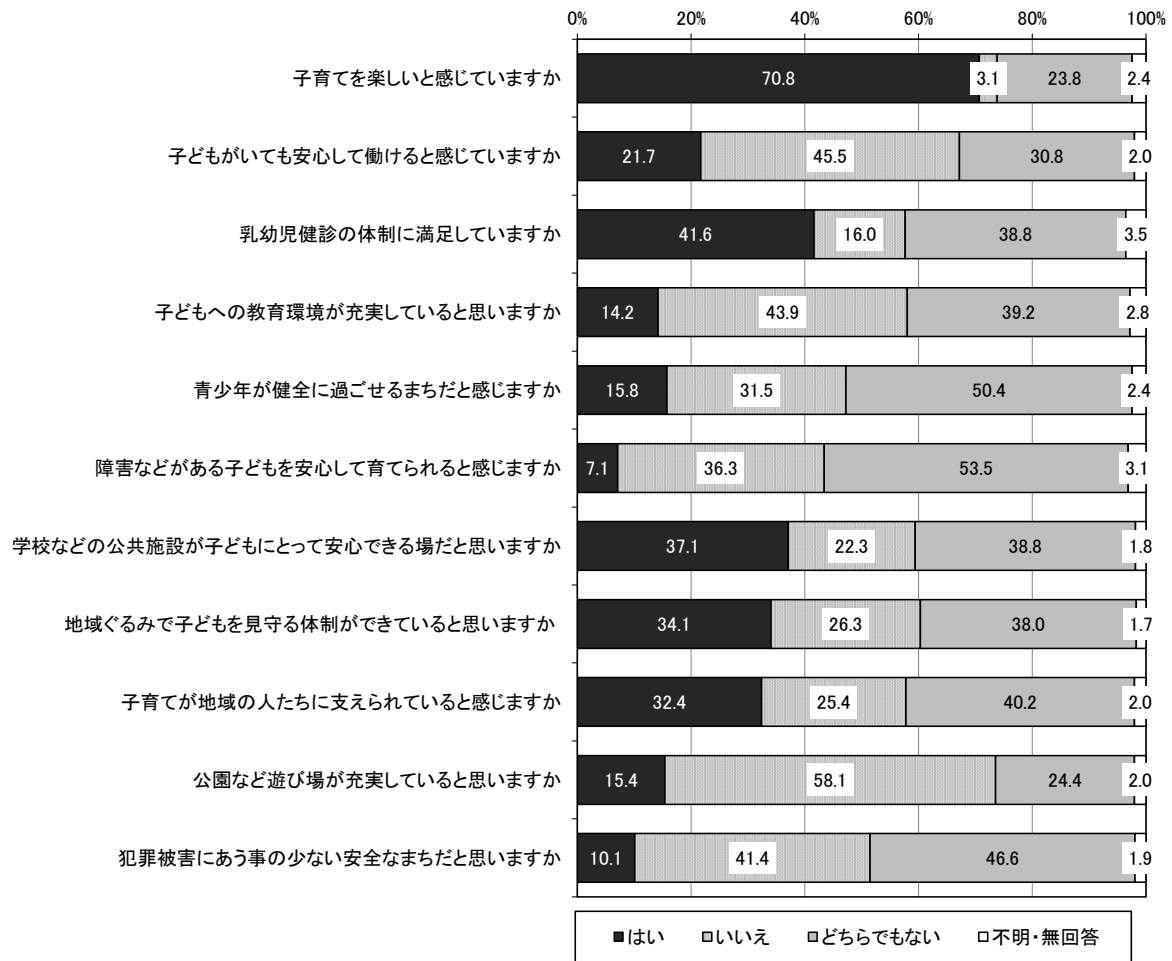
一方、公園などの遊び場の充実、子どもがいても安心して働けるで「感じない」が高く、それぞれ57.4%、36.4%となっています。

小学生(N=453)



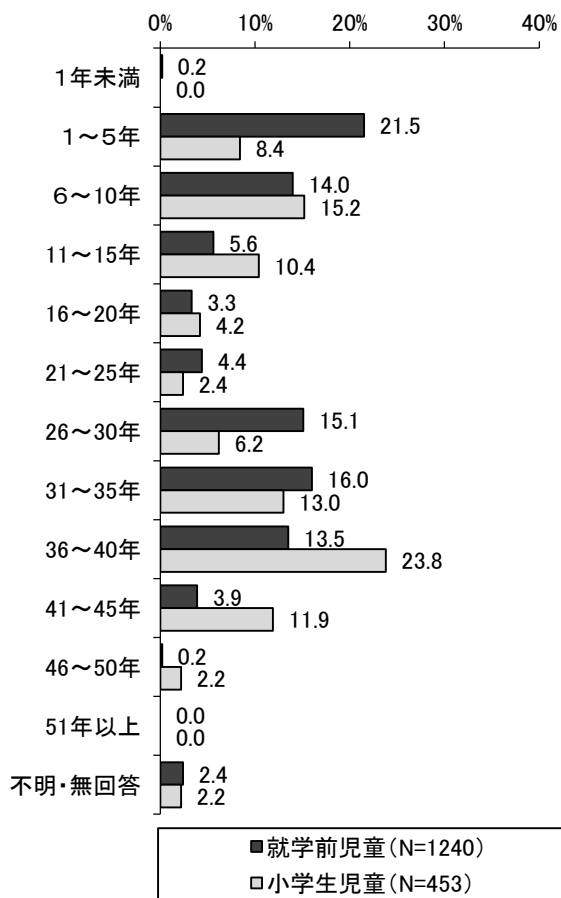
【前回調査結果】（和歌山市の子育て施策等に関して感じる事〔小学生児童〕）

小学生(N=848)



(2) 居住年数〈単数回答〉

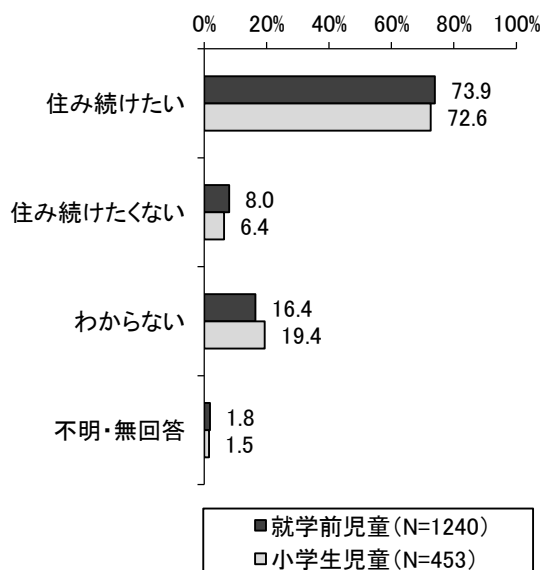
〔就学前児童調査…問 37、小学生児童調査…問 33〕



居住年数についてみると、就学前児童では「1～5年」が21.5%と最も高く、次いで「31～35年」が16.0%となっています。小学生児童では「36～40年」が23.8%と最も高く、次いで「6～10年」が15.2%となっています。

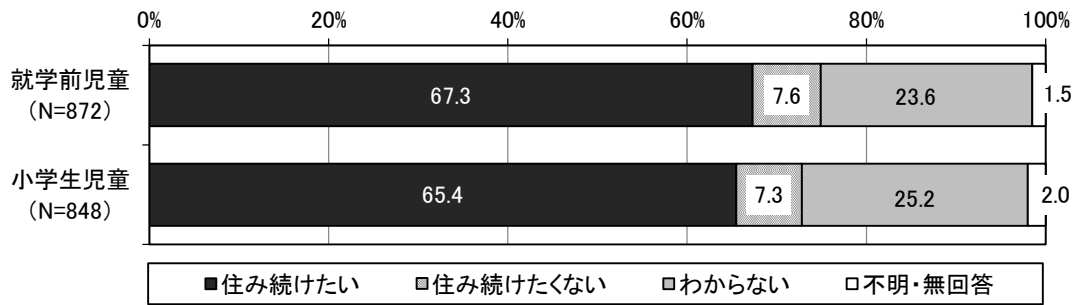
(3) 居住願望〈単数回答〉

〔就学前児童調査…問 38、小学生児童調査…問 34〕



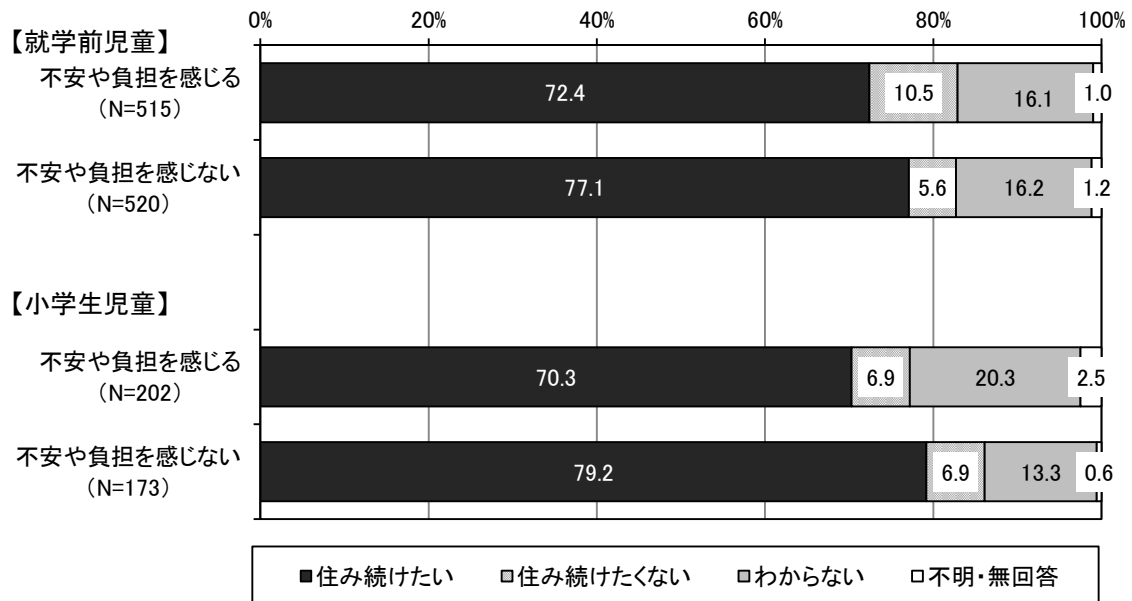
居住願望についてみると、今後も和歌山市に「住み続けたい」が、就学前児童では73.9%、小学生児童では72.6%と7割以上を占め、「住み続けたくない」を上回っています。

【前回調査結果】（居住願望）



●居住願望×子育ての不安感や負担感の有無〔就学前児童調査…問 38、小学生児童調査…問 34〕

居住願望について子育ての不安感や負担感の有無でみると、就学前児童、小学生児童ともに不安や負担を感じる人に比べ、不安や負担を感じない人のほうが、定住意向が比較的高くなっており、不安や負担がなく子育てができる環境をつくることで、定住意向も高まり、定住の促進につながる可以考虑。

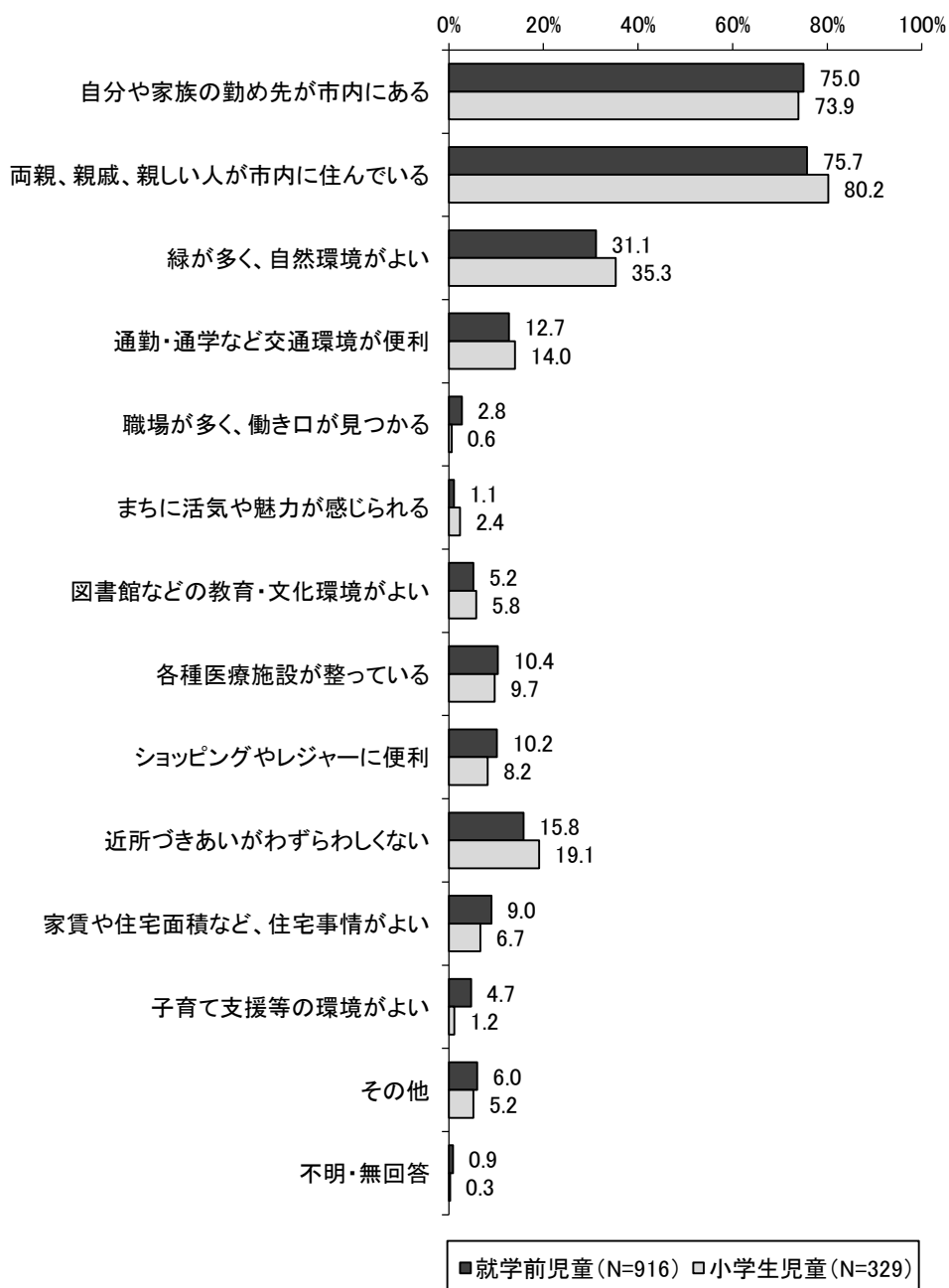


(3)で「住みたい」を選んだ方

(3)－1 住みたいと感じる理由は何ですか〈複数回答〉

〔就学前児童調査…問 38－1、小学生児童調査…問 34－1〕

住みたい理由についてみると、就学前児童、小学生児童ともに「両親、親戚、親しい人が市内に住んでいる」が最も高く、それぞれ75.7%、80.2%となっています。次いで「自分や家族の勤め先が市内にある」が75.0%、73.9%となっています。

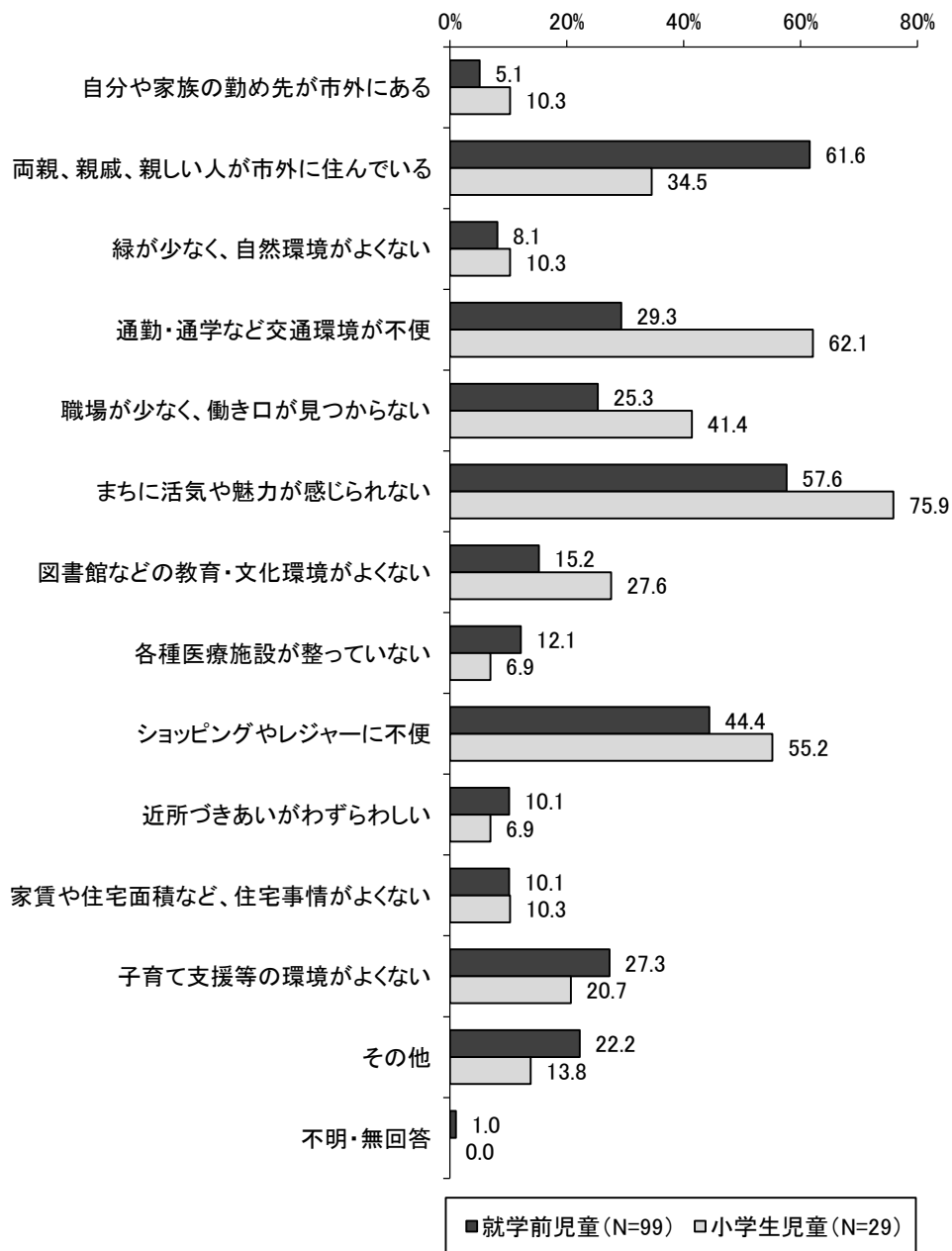


(3)で「住み続けたくない」を選んだ方

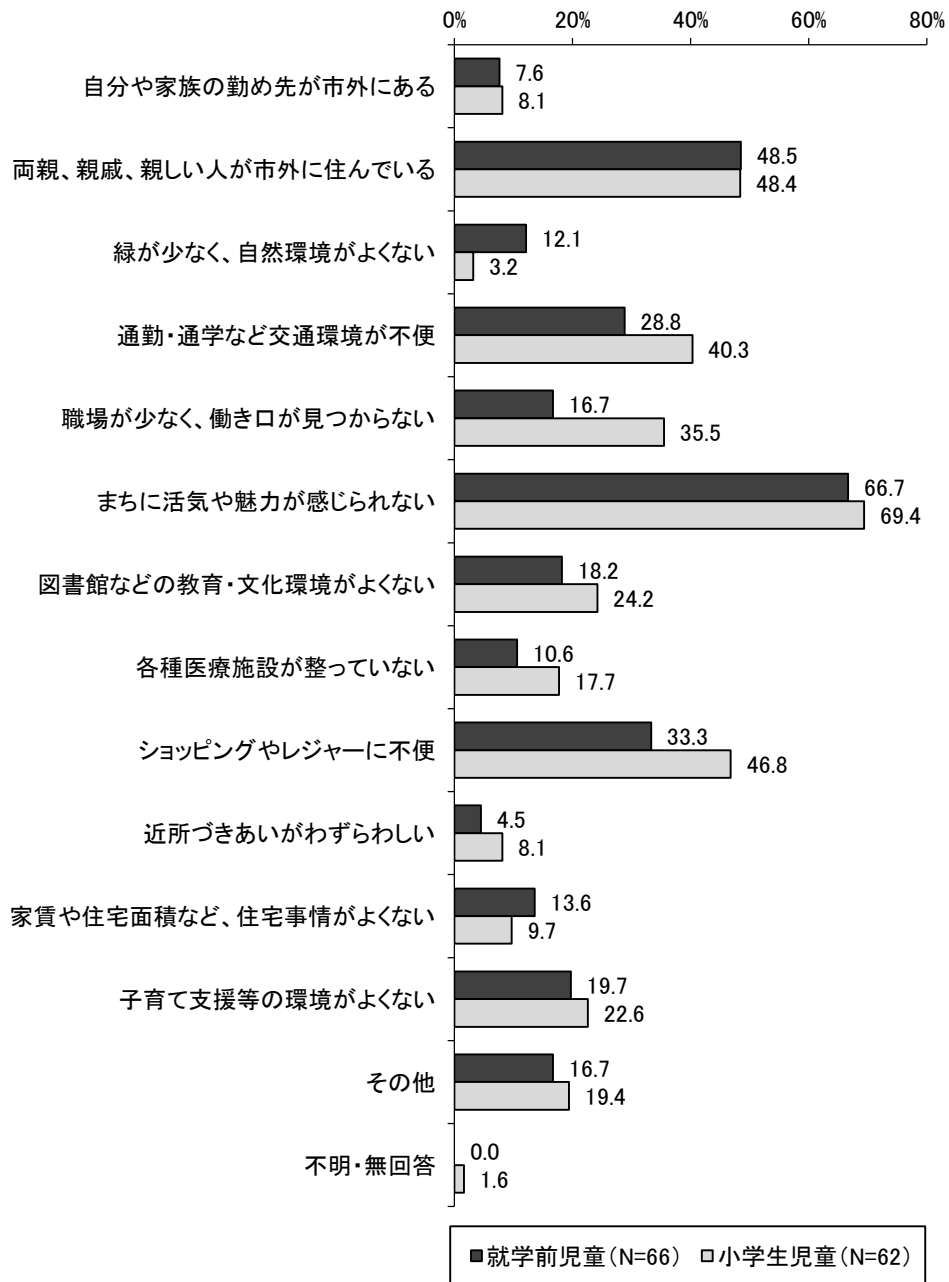
(3)－2 住み続けたくないと感じる理由は何ですか〈複数回答〉

〔就学前児童調査…問 38－2、小学生児童調査…問 34－2〕

住み続けたくない理由についてみると、就学前児童で「両親、親戚、親しい人が市外に住んでいる」が61.6%と最も高く、次いで「まちに活気や魅力が感じられない」が57.6%、「ショッピングやレジャーに不便」が44.4%となっています。小学生児童では「まちに活気や魅力が感じられない」が75.9%と最も高く、次いで「通勤・通学など交通環境が不便」が62.1%、「ショッピングやレジャーに不便」が55.2%となっています。



【前回調査結果】（住み続けたくないと感じる理由）



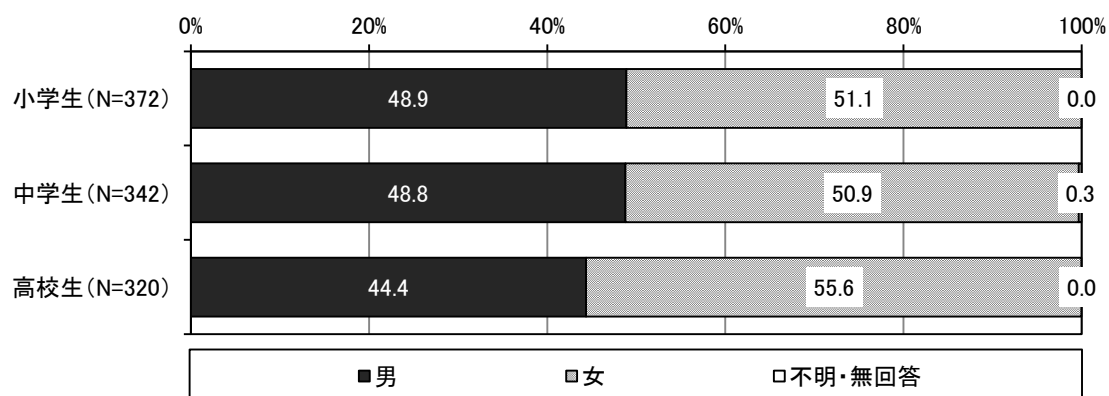
Ⅲ. 調査結果

(小学生・中学生・高校生調査)

1 性別や学年などについて

(1) 性別〈単数回答〉〔小中高校生調査…問1〕

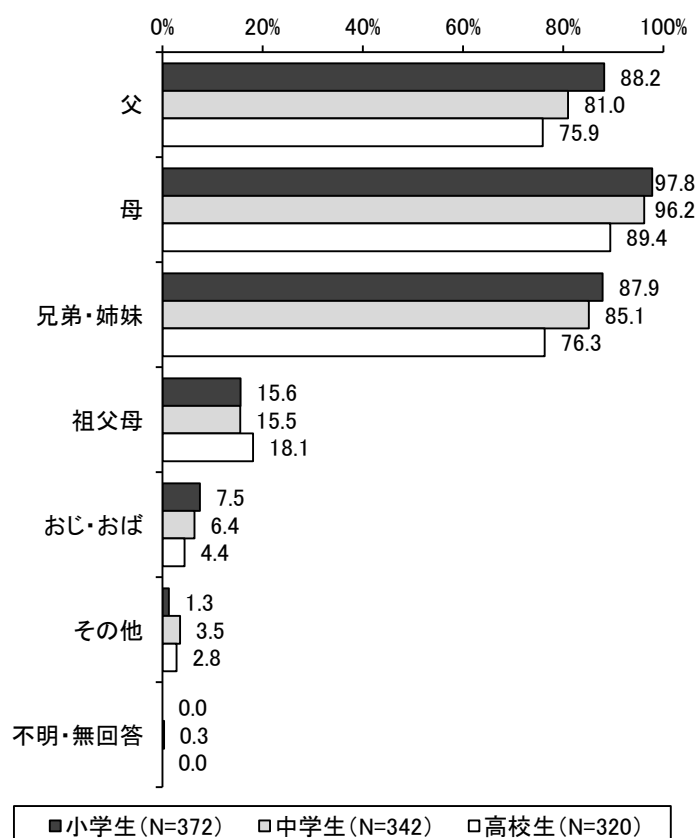
性別についてみると、小学生で「男」が48.9%、「女」が51.1%、中学生で「男」が48.8%、「女」が50.9%、高校生で「男」が44.4%、「女」が55.6%となっています。



(2) 学年〈単数回答〉〔小中高校生調査…問2〕

学年についてみると、小学生は「5年生」、中学生は「2年生」、高校生は「2年生」となっています。

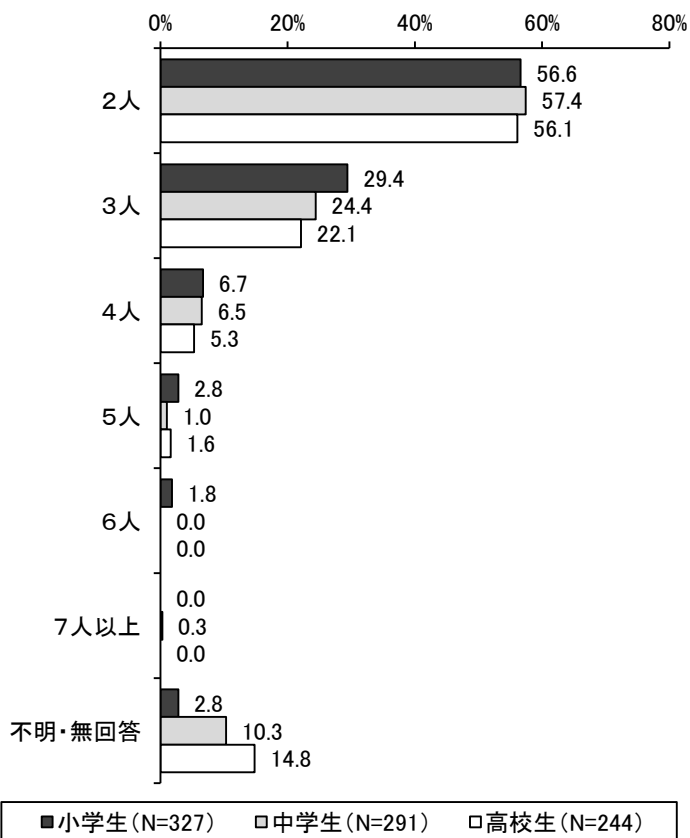
(3) 同居している家族〈複数回答〉〔小中高校生調査…問3〕



同居している家族についてみると、小学生、中学生、高校生ともに「父」「母」「兄弟・姉妹」が上位3件を占めており、それぞれ7割以上となっています。

(3)で「兄弟・姉妹」を選んだ方

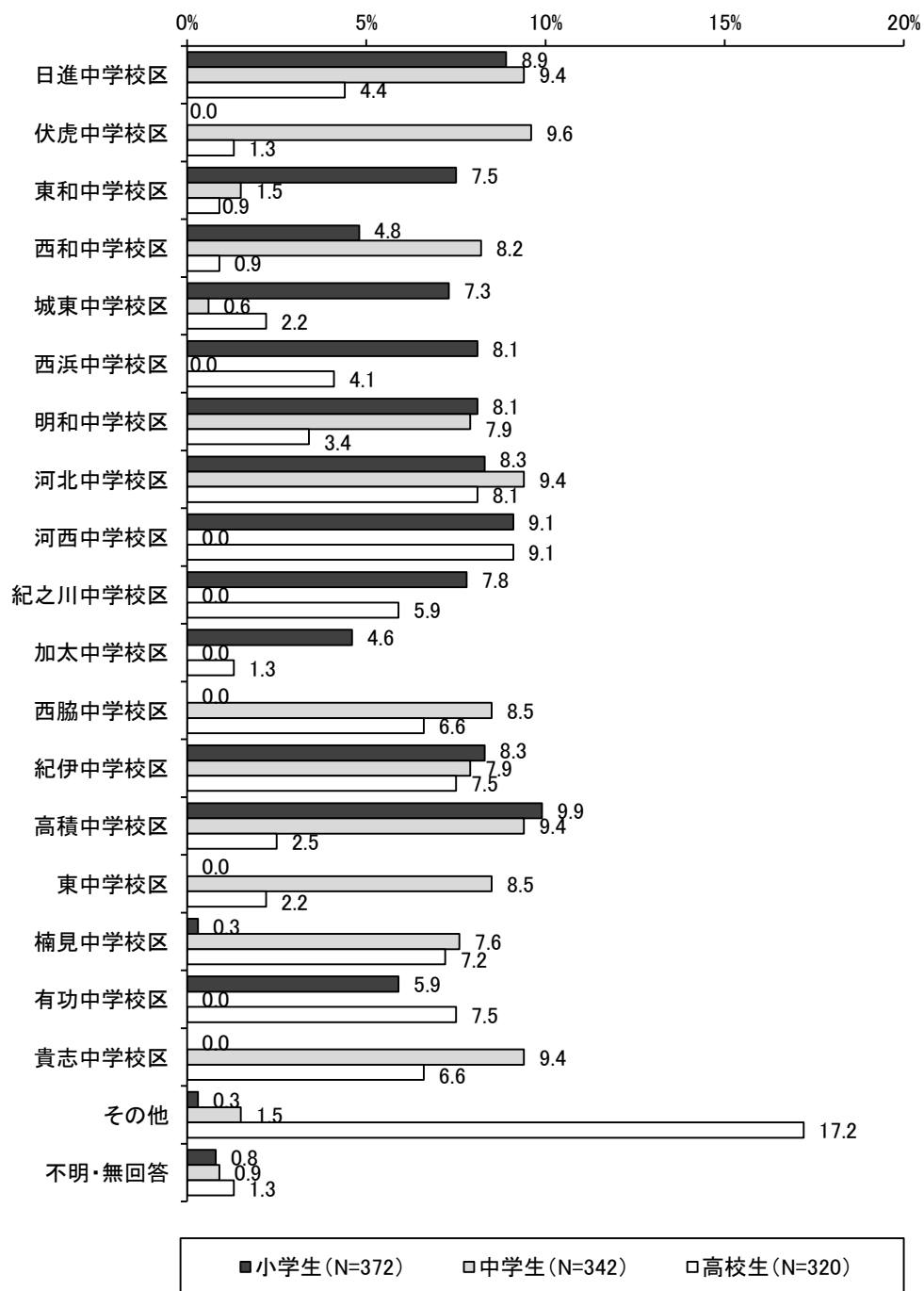
(3)－1 兄弟・姉妹の人数〈数量回答〉〔小中高校生調査…問3－1〕



兄弟・姉妹がいる人のその人数（本人を含む）についてみると、小学生、中学生、高校生ともに「2人」が高く6割近くとなっています。次いで、「3人」が高く、小学生で29.4%、中学生で24.4%、高校生で22.1%となっています。

(4) お住まいの中学校区〈単数回答〉〔小中高校生調査…問4〕

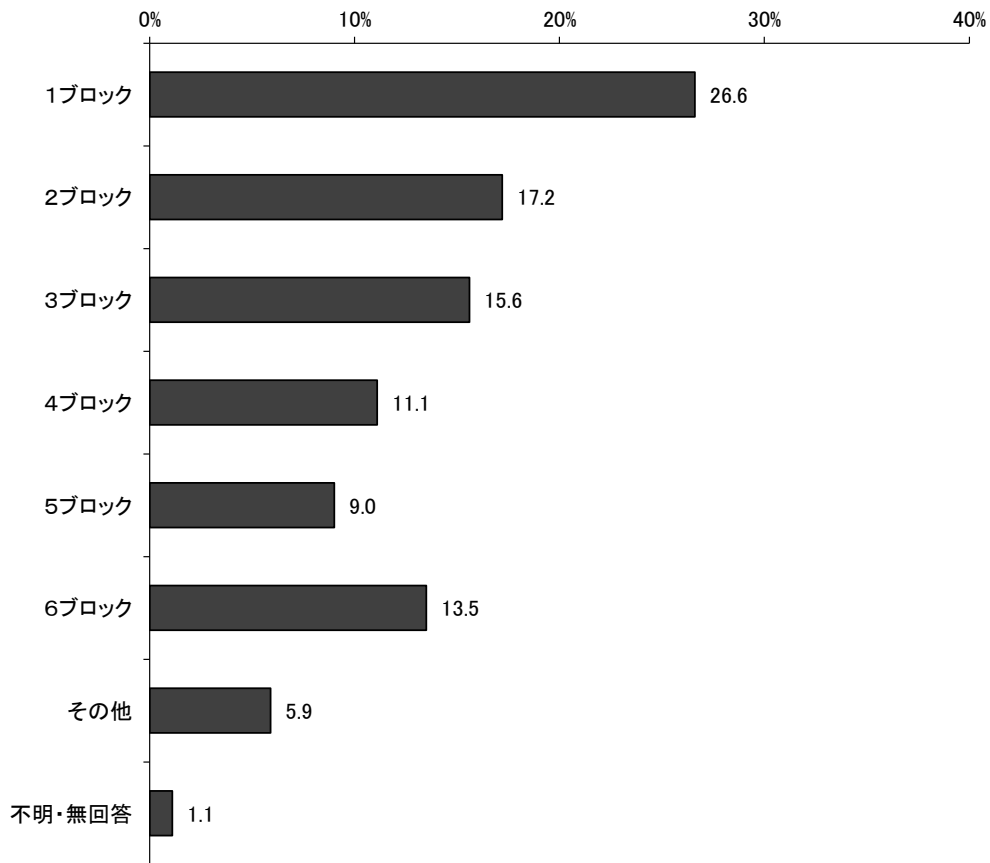
お住まいの中学校区は、以下のとおりとなっています。



(4) - 1 ブロック別〈単数回答〉〔小中高校生調査…問4〕

小中高校生では、1ブロック、2ブロック、3ブロックで、高くなっています。

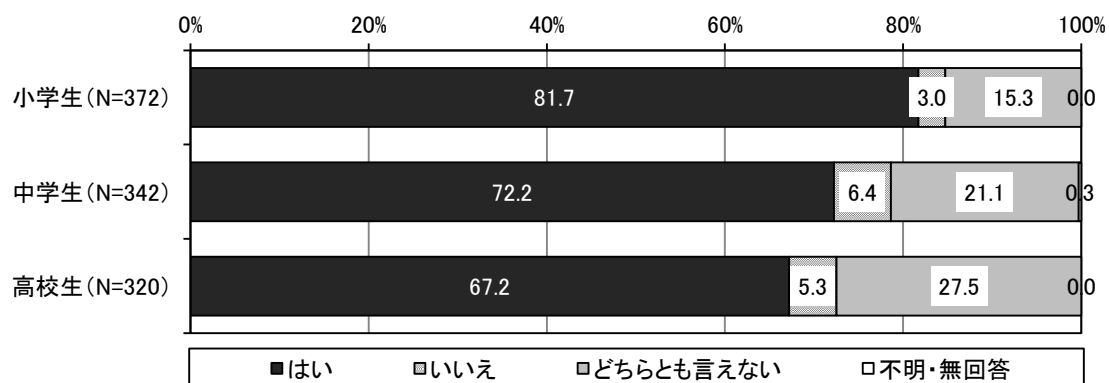
N=1036



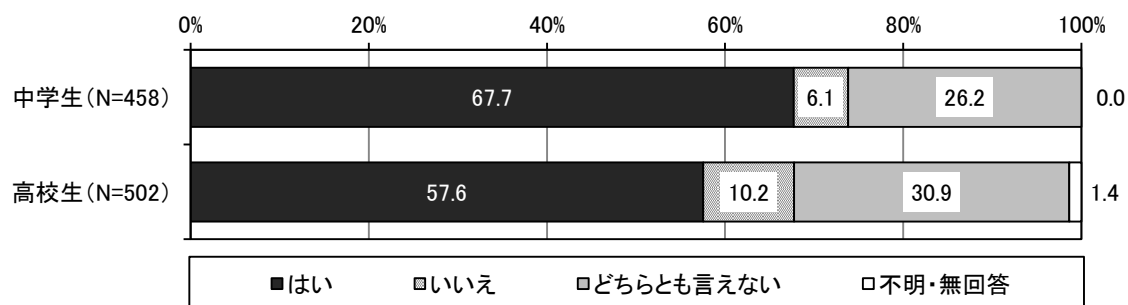
2 学校生活について

(1) 学校の楽しさ〈単数回答〉〔小中高校生調査…問5〕

学校が楽しいかどうかについてみると、小学生、中学生、高校生ともに「はい（楽しい）」が最も高く、それぞれ81.7%、72.2%、67.2%となっていますが、年齢があがるほど、「はい（楽しい）」が低下し、「どちらとも言えない」が上昇しています。

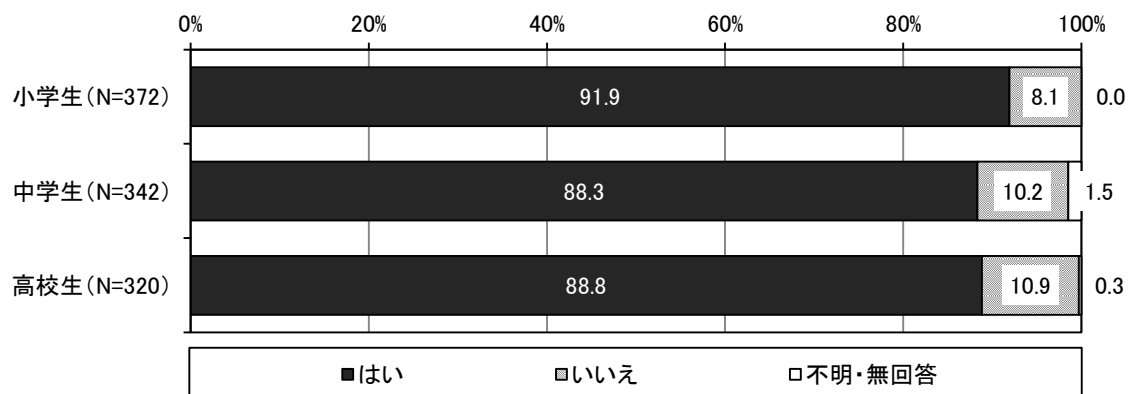


【前回調査結果】（学校の楽しさ）

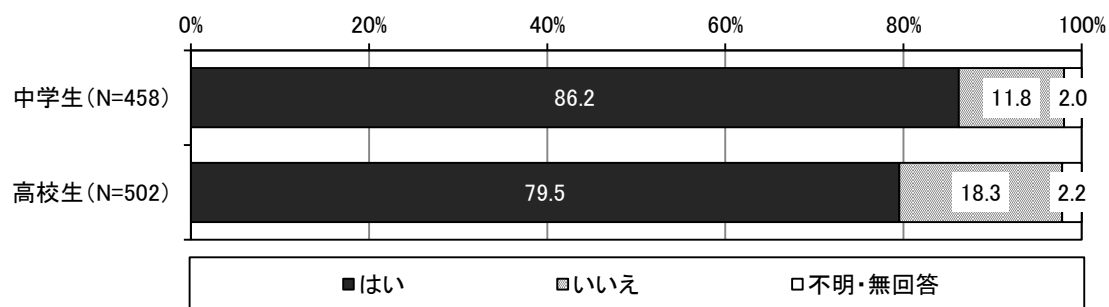


(2) 親友の有無〈単数回答〉〔小中高校生調査…問6〕

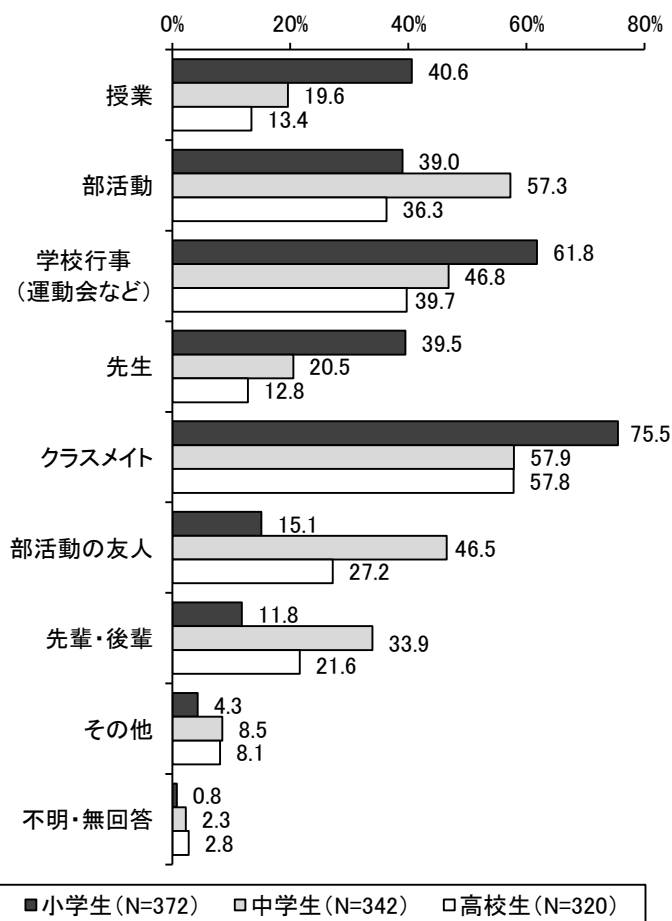
親友の有無についてみると、小学生、中学生、高校生ともに「はい（いる）」が最も高く、それぞれ91.9%、88.3%、88.8%となっています。



【前回調査結果】（親友の有無）



（3）学校生活において良いと思うもの〈複数回答〉〔小中高校生調査…問7〕

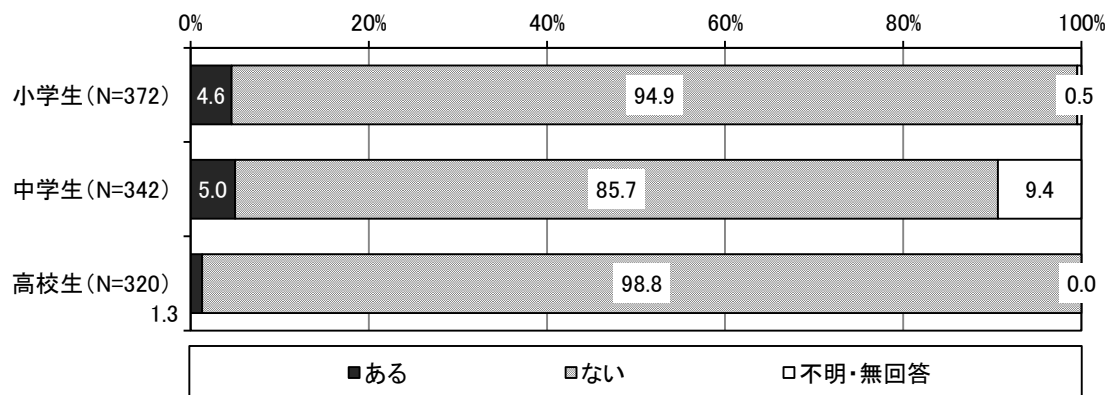


学校生活において良いと思うものについてみると、小学生、中学生、高校生いずれも「クラスメイト」が最も高く、それぞれ 75.5%、57.9%、57.8%となっています。

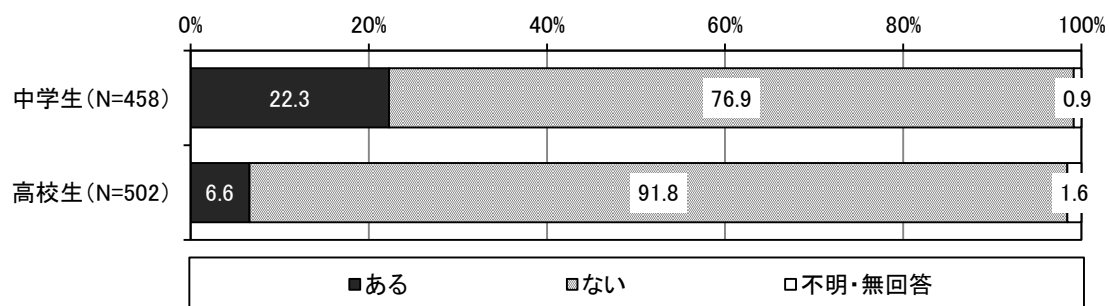
また、中学生では「部活動」が 57.3%となっています。中学生では、クラスメイトだけでなく、部活動の友人、先輩・後輩などの交友関係も広がっています。

(4) いじめの有無〈単数回答〉 [小中高校生調査…問8]

いじめの有無についてみると、小学生、中学生、高校生ともに「ない」が最も高く、それぞれ94.9%、85.7%、98.8%となっています。



【前回調査結果】(いじめの有無)

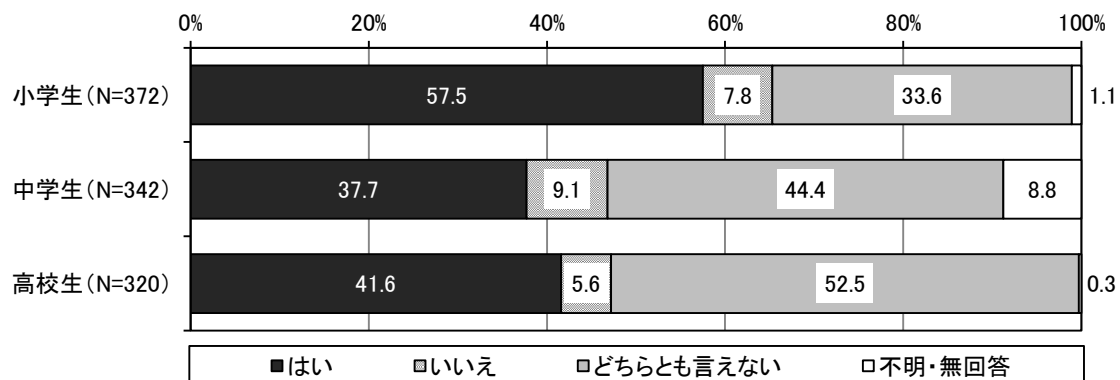


(5) 友人がいじめられていたら、声をかけてあげられるか〈単数回答〉

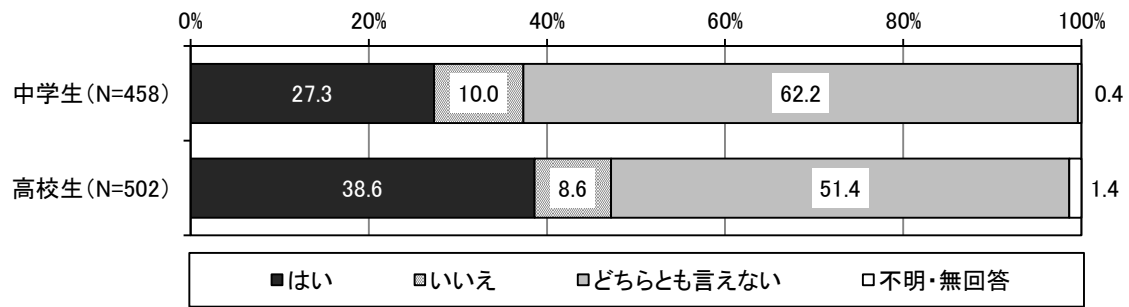
[小中高校生調査…問9]

友人がいじめられていたら、声をかけてあげられるかについてみると、小学生では「はい（声をかけてあげられる）」が57.5%と最も高くなっています。

一方、中学生、高校生では「どちらとも言えない」が最も高く、それぞれ44.4%、52.5%となっています。

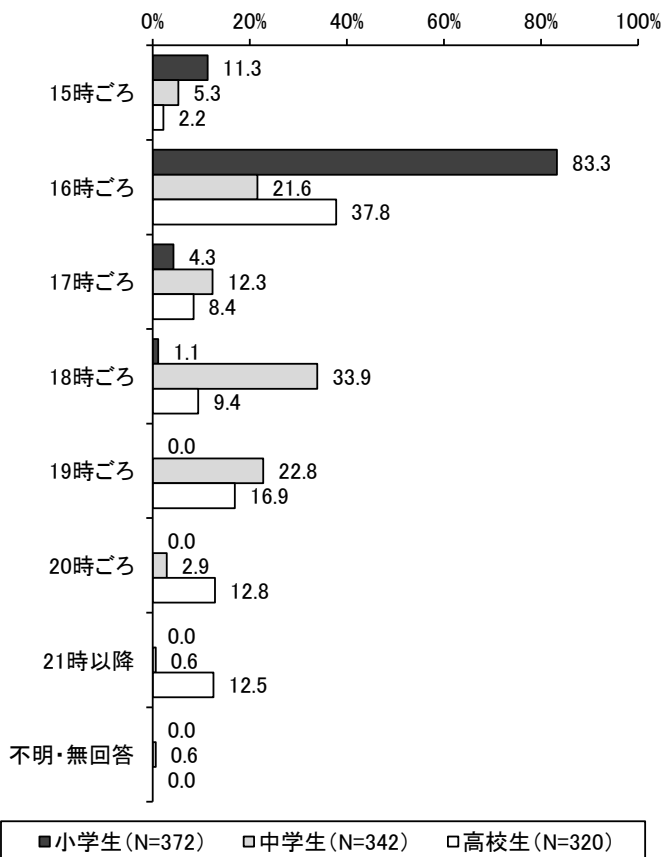


【前回調査結果】（友人がいじめられていたら、声をかけてあげられるか）



3 放課後や休日の過ごし方について

（1）学校のある日の帰宅時間〈単数回答〉〔小中高校生調査…問10〕



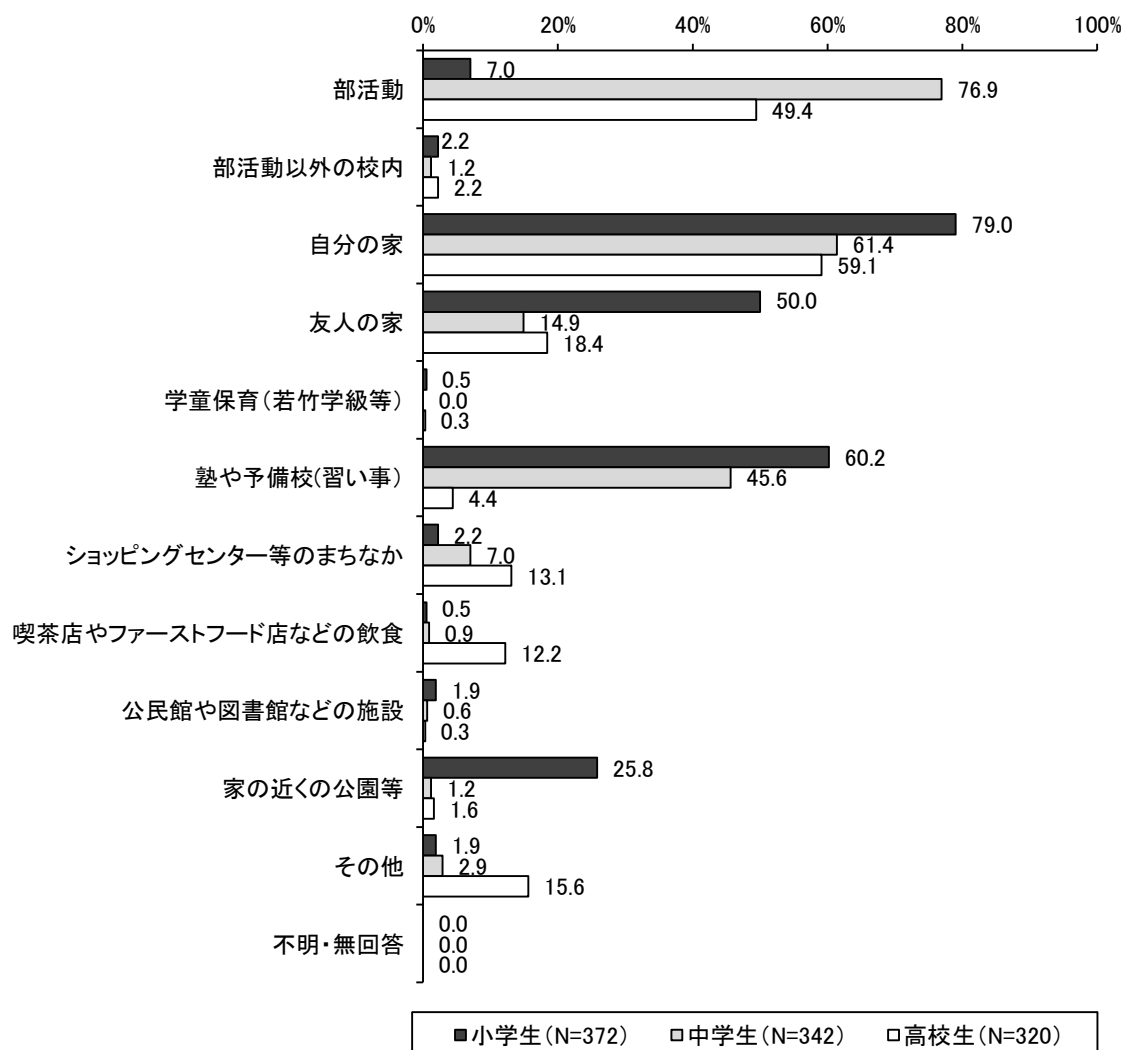
学校のある日の帰宅時間についてみると、小学生、高校生は「16時ごろ」が最も高く、それぞれ83.3%、37.8%となっています。中学生は、「18時ごろ」が最も高く、33.9%となっています。

(2) 放課後の過ごし方〈複数回答〉〔小中高校生調査…問 11〕

放課後の過ごし方についてみると、小学生は「自分の家」が79.0%と最も高く、次いで「塾や予備校（習い事）」が60.2%、「友人の家」が50.0%となっています。

中学生は「部活動」が76.9%と最も高く、次いで「自分の家」が61.4%、「塾や予備校（習い事）」が45.6%となっています。

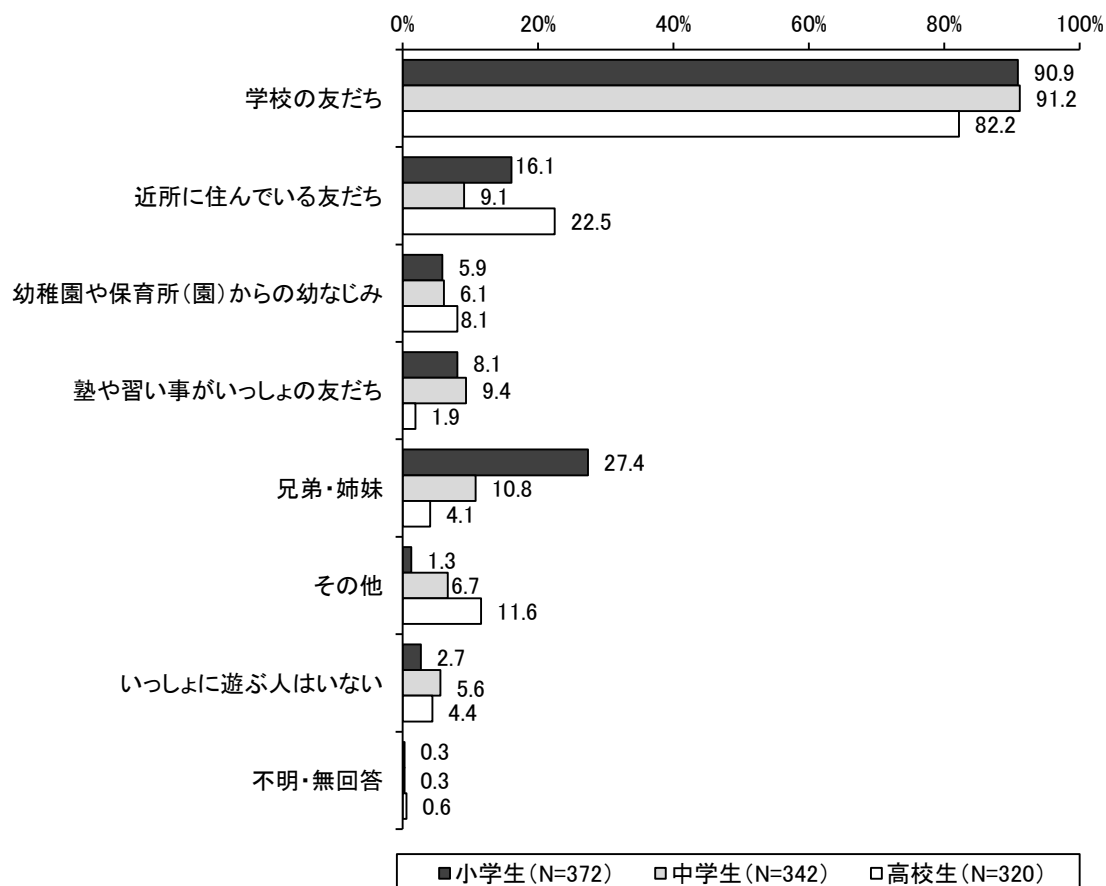
高校生は、「自分の家」が59.1%と最も高く、次いで「部活動」が49.4%、「友人の家」が18.4%となっています。



(3) ふだん、放課後に一緒に遊ぶ人〈複数回答〉〔小中高校生調査…問12〕

ふだん、放課後に一緒に遊ぶ人についてみると、小学生、中学生、高校生ともに「学校の友だち」が最も高く、それぞれ90.9%、91.2%、82.2%と8割を超えています。

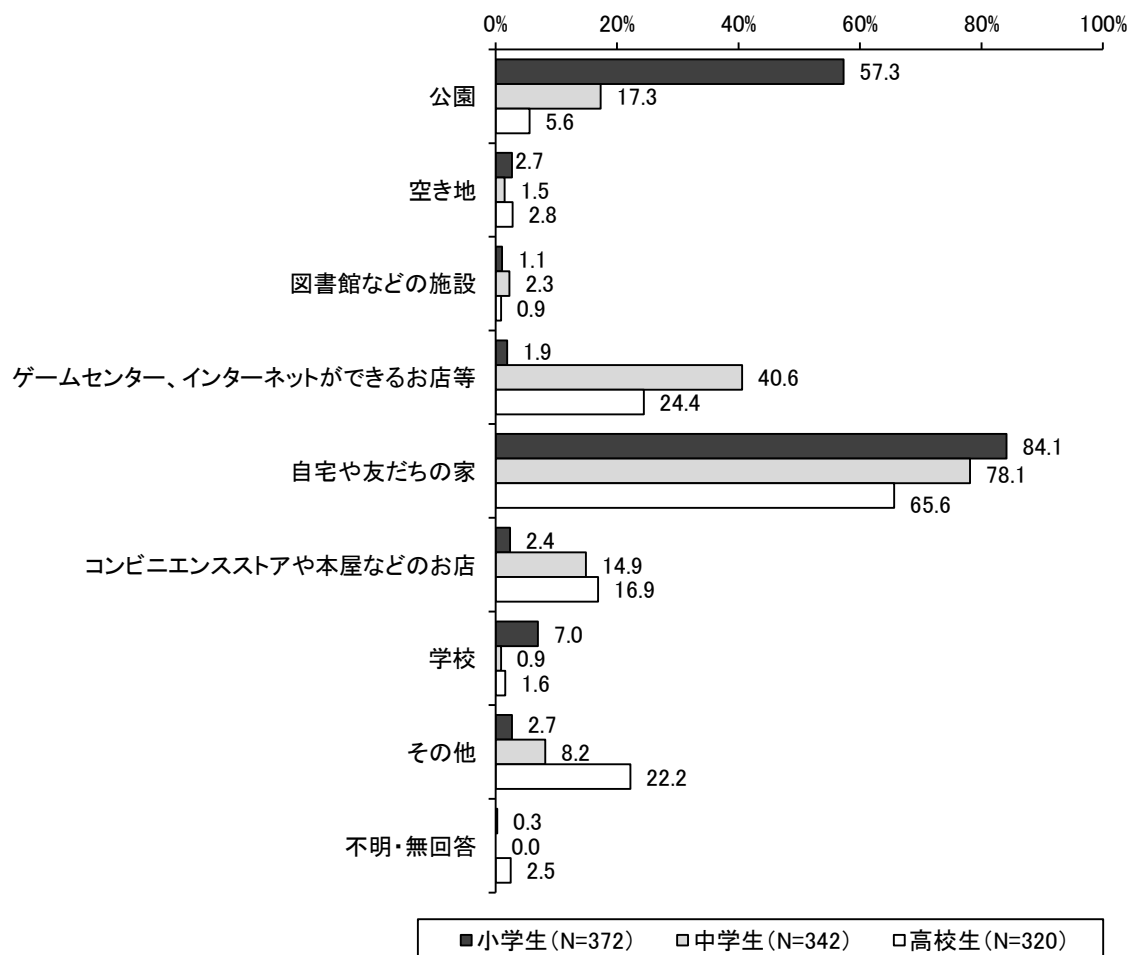
そのほか、小学生では「兄弟・姉妹」が3割近く、高校生では「近所に住んでいる友だち」が2割強となっています。



(4) ふだんの遊ぶ場所〈複数回答〉〔小中高校生調査…問13〕

ふだんの遊ぶ場所についてみると、小学生、中学生、高校生ともに「自宅や友だちの家」が最も高く、それぞれ84.1%、78.1%、65.6%となっています。

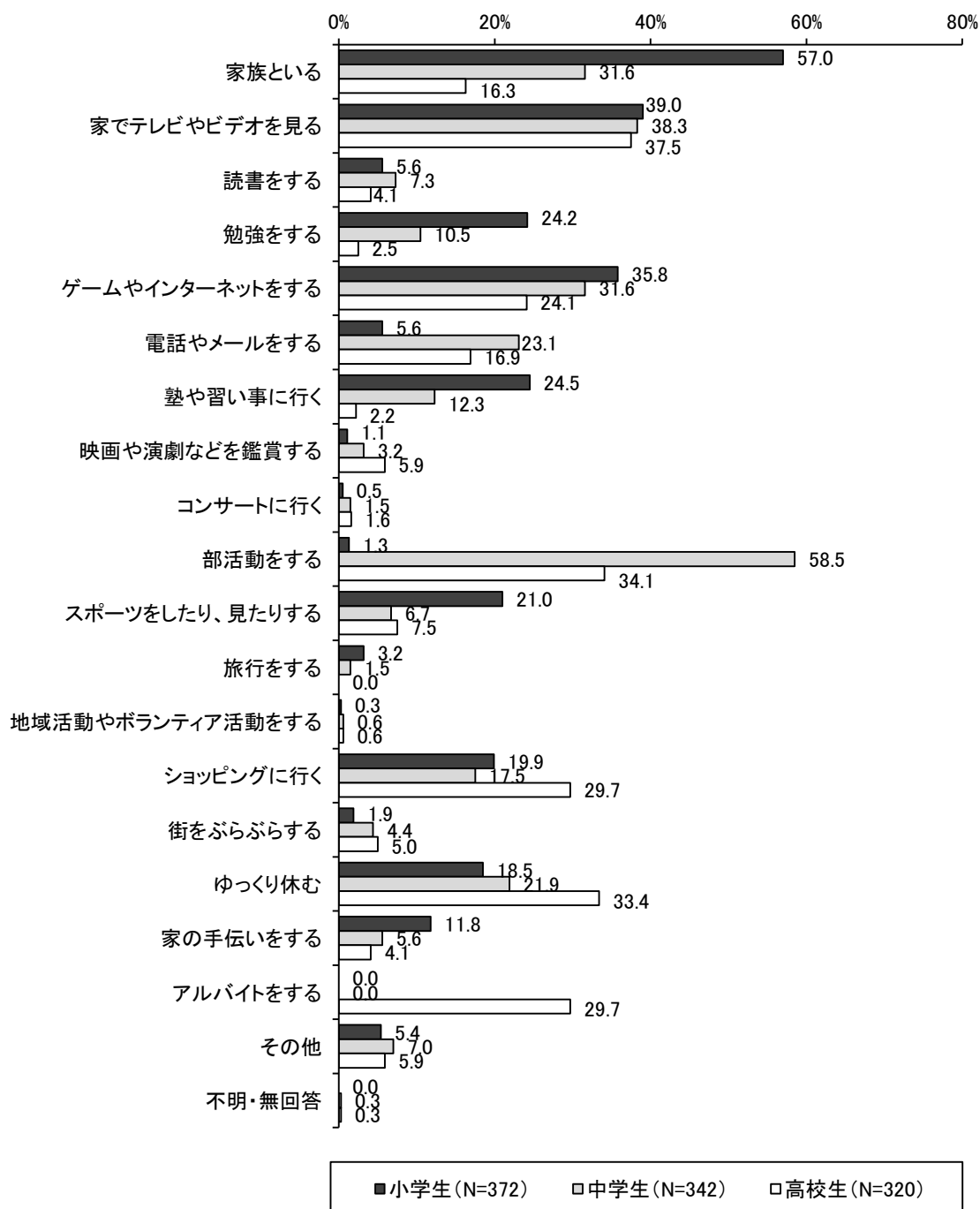
次いで、小学生では「公園」が57.3%と6割近く、中学生、高校生では「ゲームセンター、インターネットができるお店等」がそれぞれ40.6%、24.4%となっています。



(5) 休日の過ごし方〈複数回答〉〔小中高校生調査…問 14〕

休日の過ごし方についてみると、小学生は「家族といる」が 57.0%、中学生は「部活動をする」が 58.5%、高校生は「家でテレビやビデオを見る」が 37.5%と、それぞれ最も高くなっています。

年齢があがるほど、家族といることよりも部活動や個人のことに従事している傾向がうかがえます。

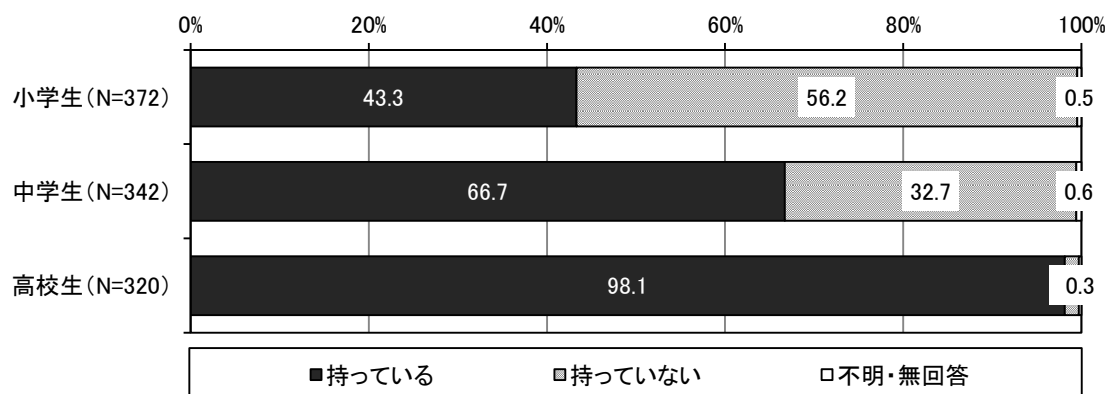


4 携帯電話（スマートフォン）やパソコンの利用について

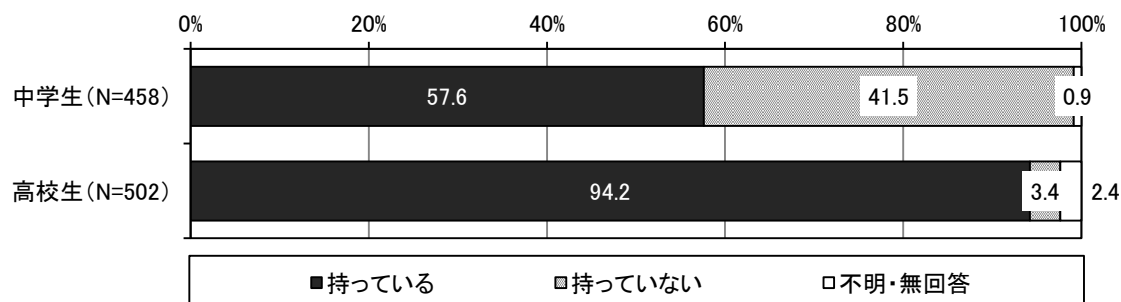
（1）自分の携帯電話（スマートフォン）の所持の有無〈単数回答〉〔小中高校生調査…問 15〕

自分の携帯電話（スマートフォン）の所持の有無についてみると、小学生は、「持っていない」が56.2%、中学生、高校生は「持っている」が最も高く、それぞれ66.7%、98.1%と最も高くなっています。

年齢があがるほど、所持率は上昇しており、高校生においてはほぼ全員が所持しています。

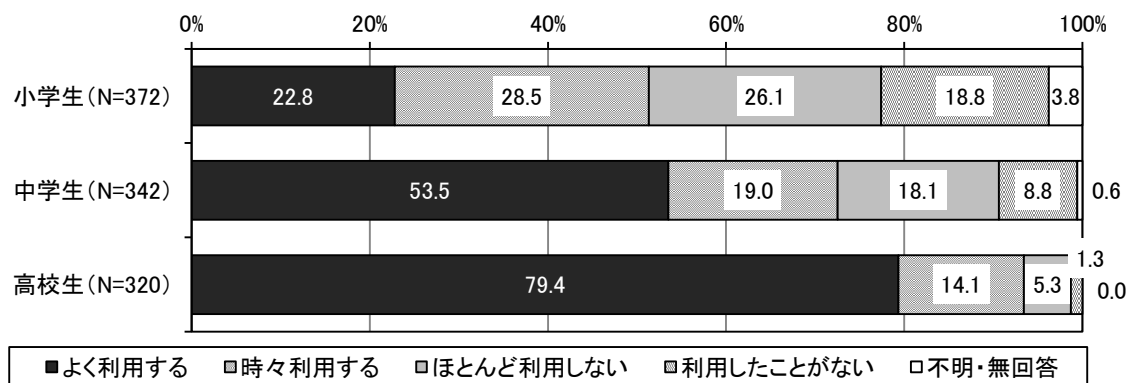


【前回調査結果】（自分の携帯電話（スマートフォン）の所持の有無）

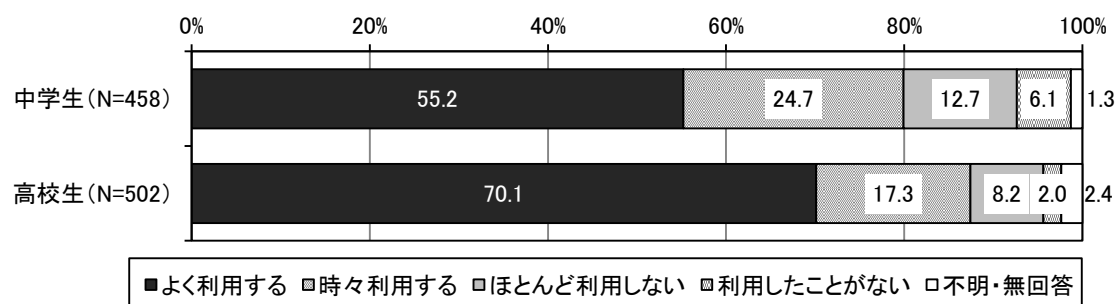


(2) 携帯電話（スマートフォン）やパソコンでのインターネットの利用の有無 〈単数回答〉 [小中高校生調査…問 16]

携帯電話（スマートフォン）やパソコンでのインターネットの利用の有無についてみると、小学生、中学生、高校生ともに「よく利用する」「時々利用する」を合わせた『利用する』がそれぞれ51.3%、72.5%、93.5%と5割以上を占めており、大部分の人がインターネットを利用しています。



【前回調査結果】（インターネットの利用の有無）



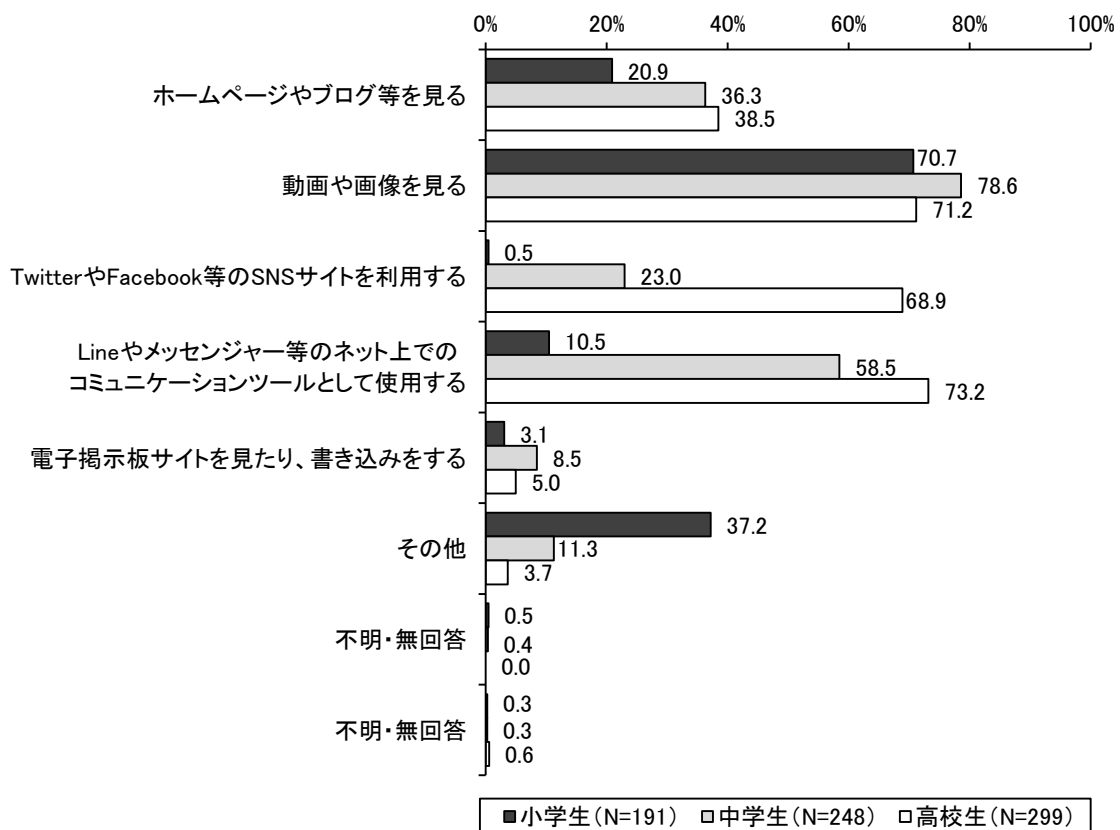
(2)で「よく利用する」「時々利用する」を選んだ方

(2)－1 携帯電話（スマートフォン）やパソコンでインターネットを使う目的

〈複数回答〉〔小中高校生調査…問 16－1〕

携帯電話（スマートフォン）やパソコンでインターネットを使う目的についてみると、小学生、中学生、高校生ともに「動画や画像を見る」が最も高く、それぞれ 70.7%、78.6%、71.2%となっています。

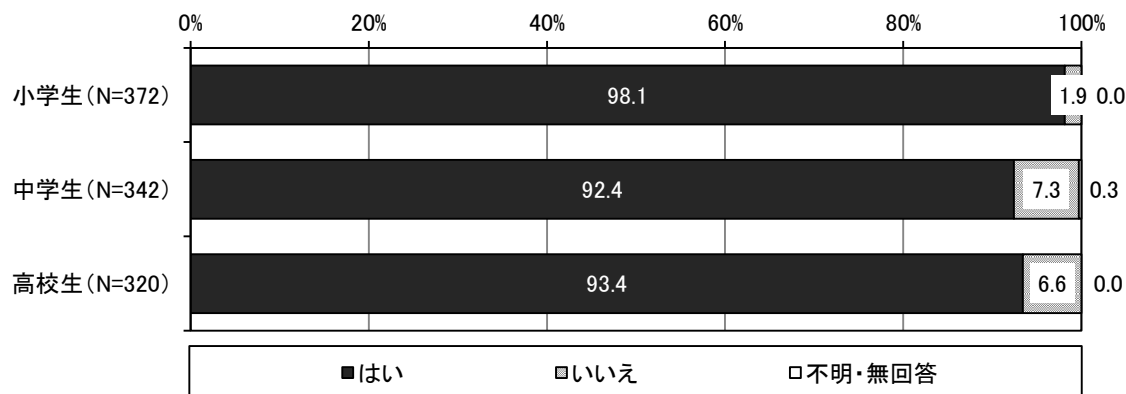
そのほか、中学生、高校生では「Line やメッセージ等ネット上でのコミュニケーションツールとして使用する」がそれぞれ 58.5%、73.2%、高校生では「Twitter や Facebook 等の SNS サイトを利用する」が 68.9%とネット上での友達とのつながりなど、交友関係の広がりがうかがえます。



5 日常生活の様子やふだん思っていることについて

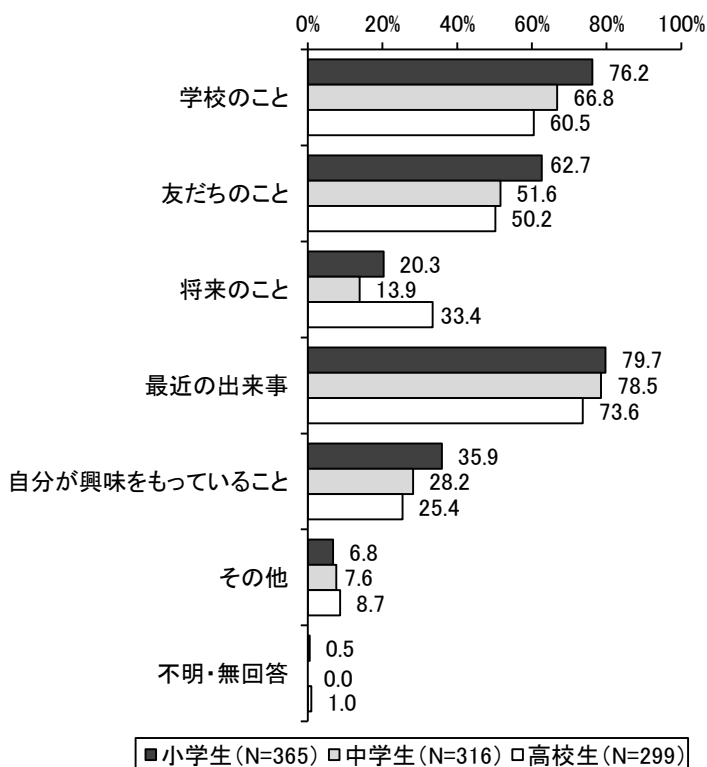
(1) ふだんの家族との会話の有無〈単数回答〉〔小中高校生調査…問 17〕

ふだんの家族との会話の有無についてみると、小学生、中学生、高校生ともに「はい（している）」が最も高く、それぞれ98.1%、92.4%、93.4%となっています。



(1) で「はい（している）」を選んだ方

(1) - 1 話す主な内容〈複数回答〉〔小中高校生調査…問 17-1〕



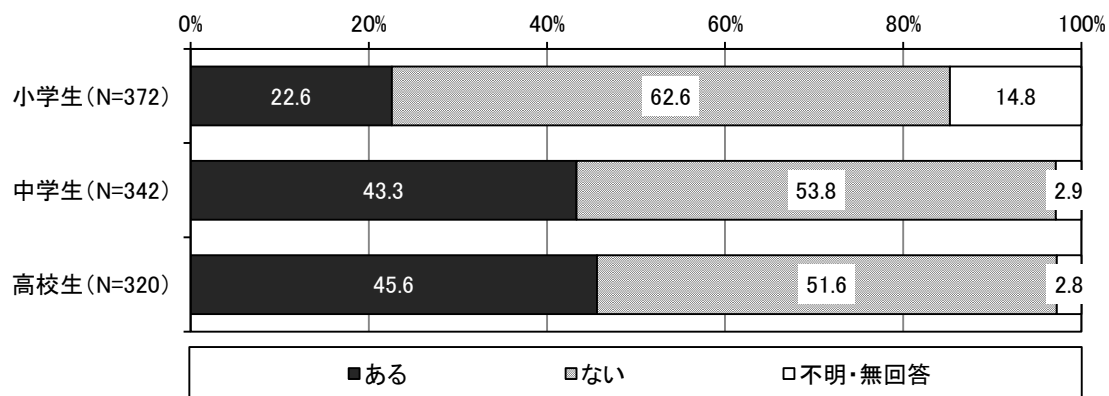
話す主な内容についてみると、小学生、中学生、高校生ともに「最近の出来事」が最も高く、それぞれ79.7%、78.5%、73.6%となっています。

次いで「学校のこと」「友だちのこと」がそれぞれ5割以上となっています。

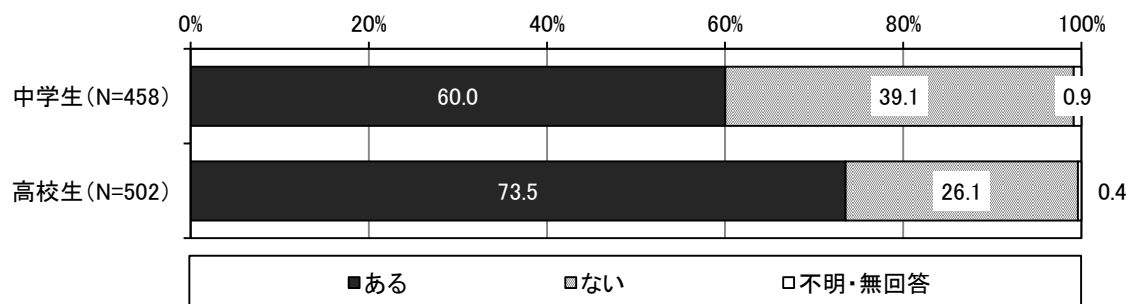
(2) 悩んでいることの有無〈単数回答〉〔小中高校生調査…問 18〕

悩んでいることの有無についてみると、小学生、中学生、高校生ともに「ない」が最も高くなっています。

一方、「ある」の割合は小学生が 22.6%、中学生が 43.3%、高校生が 45.6%と年齢があがるにつれ、高くなっています。



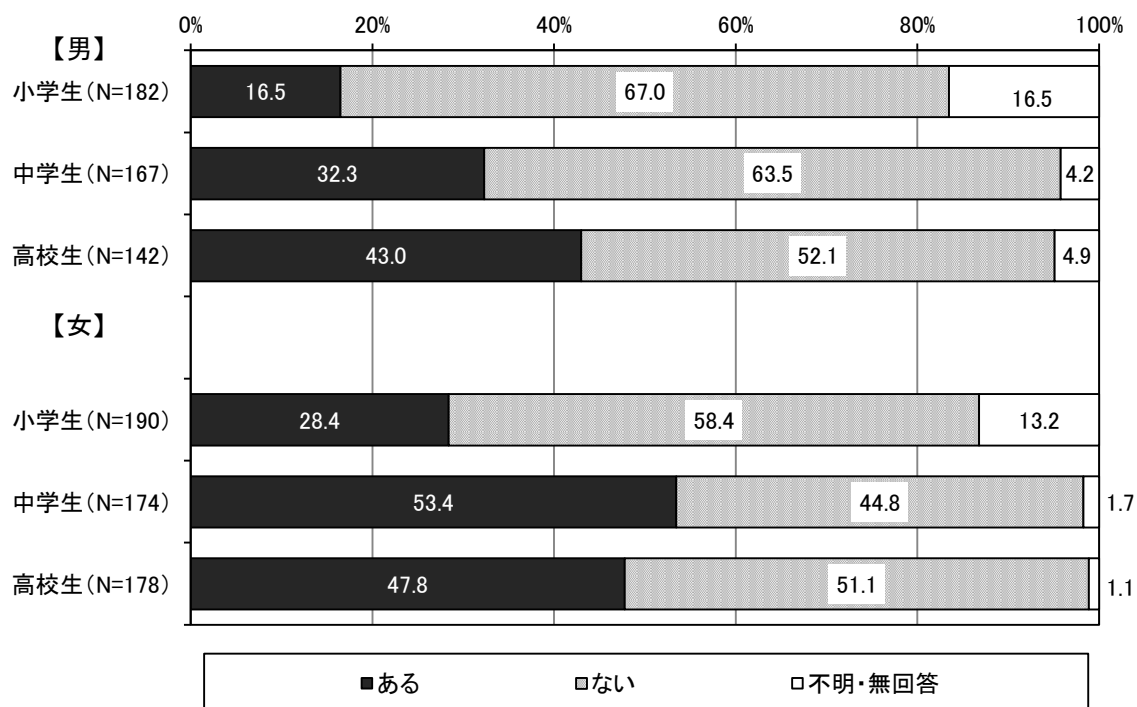
【前回調査結果】(悩んでいることの有無)



●悩んでいることの有無×性別〔小中高校生調査…問 18〕

悩んでいることの有無について性別にみると、各学年ともに男性に比べ、女性のほうが悩みが「ある」割合が高く、高校生で47.8%、中学生で53.4%となっています。

男性では、年代があがるにつれ、悩みが「ある」割合が上昇していますが、女性では中学生の割合が最も高くなっています。

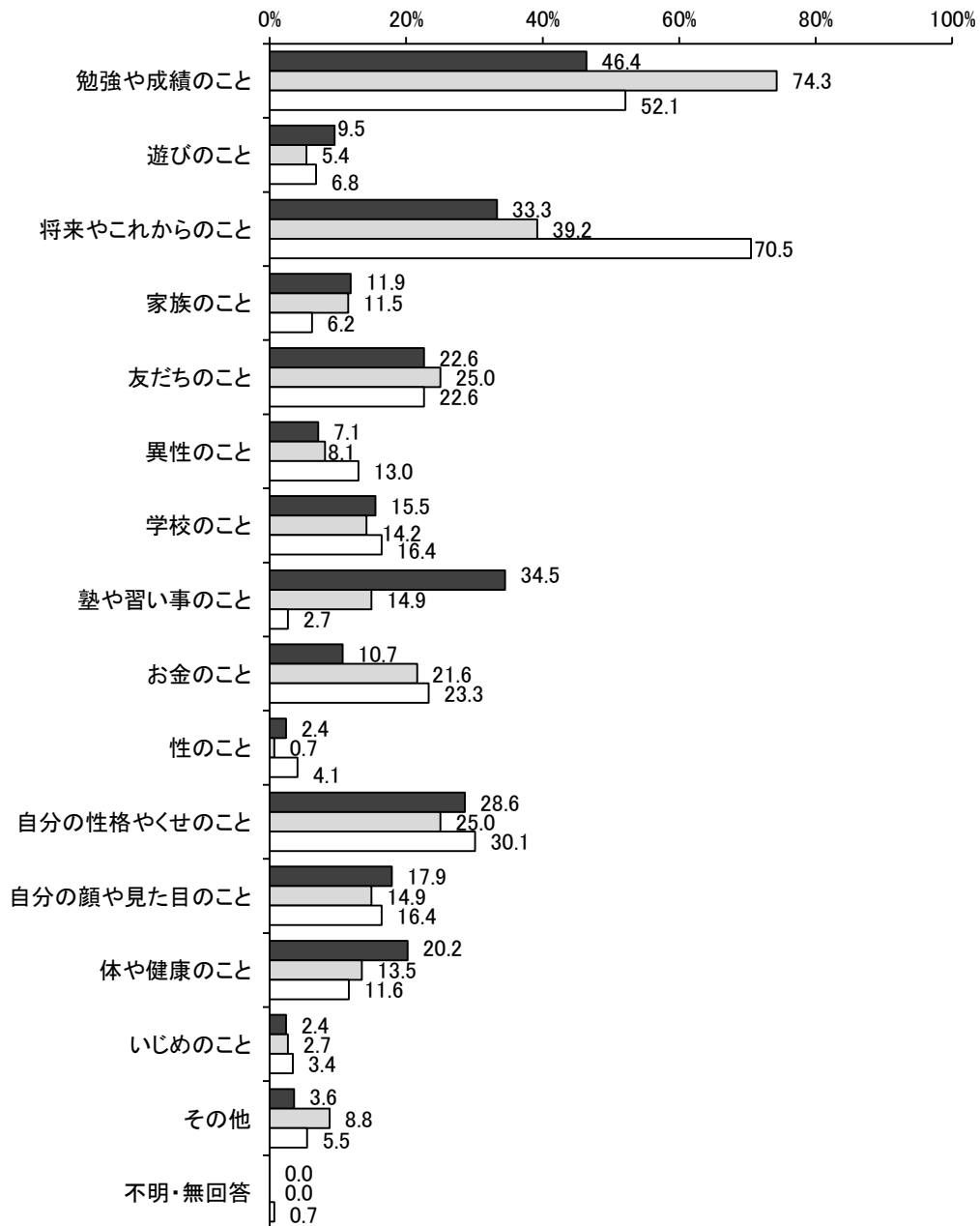


(2)で「ある」を選んだ方

(2) - 1 悩んでいる内容〈単数回答〉〔小中高校生調査…問 18-1〕

悩んでいる内容についてみると、小学生、中学生は「勉強や成績のこと」が最も高く、それぞれ46.4%、74.3%となっています。高校生は、「将来やこれからのこと」が70.5%と最も高くなっています。

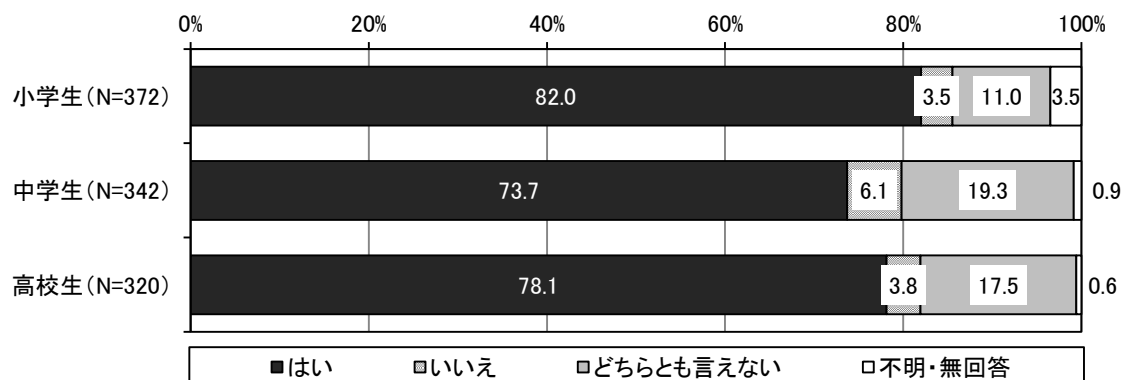
次いで小学生は「塾や習い事のこと」、中学生は「将来やこれからのこと」、高校生は「勉強や成績のこと」となっています。



■小学生 (N=84) □中学生 (N=148) □高校生 (N=146)

(3) 悩みを相談できる人の有無〈単数回答〉 [小中高校生調査…問 19]

悩みを相談できる人の有無についてみると、小学生、中学生、高校生ともに「はい(いる)」が最も高く、それぞれ82.0%、73.7%、78.1%となっています。

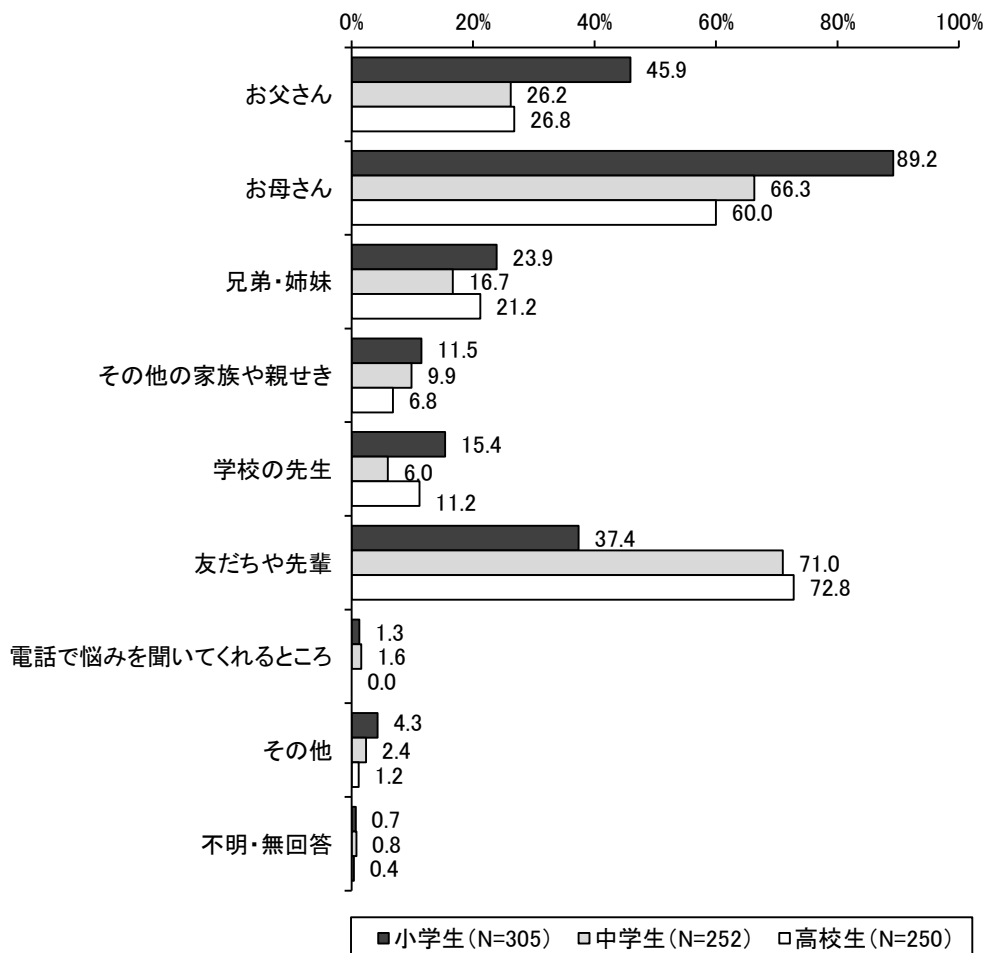


(3) で「はい(いる)」を選んだ方

(3) - 1 相談相手〈複数回答〉 [小中高校生調査…問 19-1]

相談相手についてみると、小学生は「お母さん」、中学生、高校生は「友だちや先輩」が最も高くなっています。

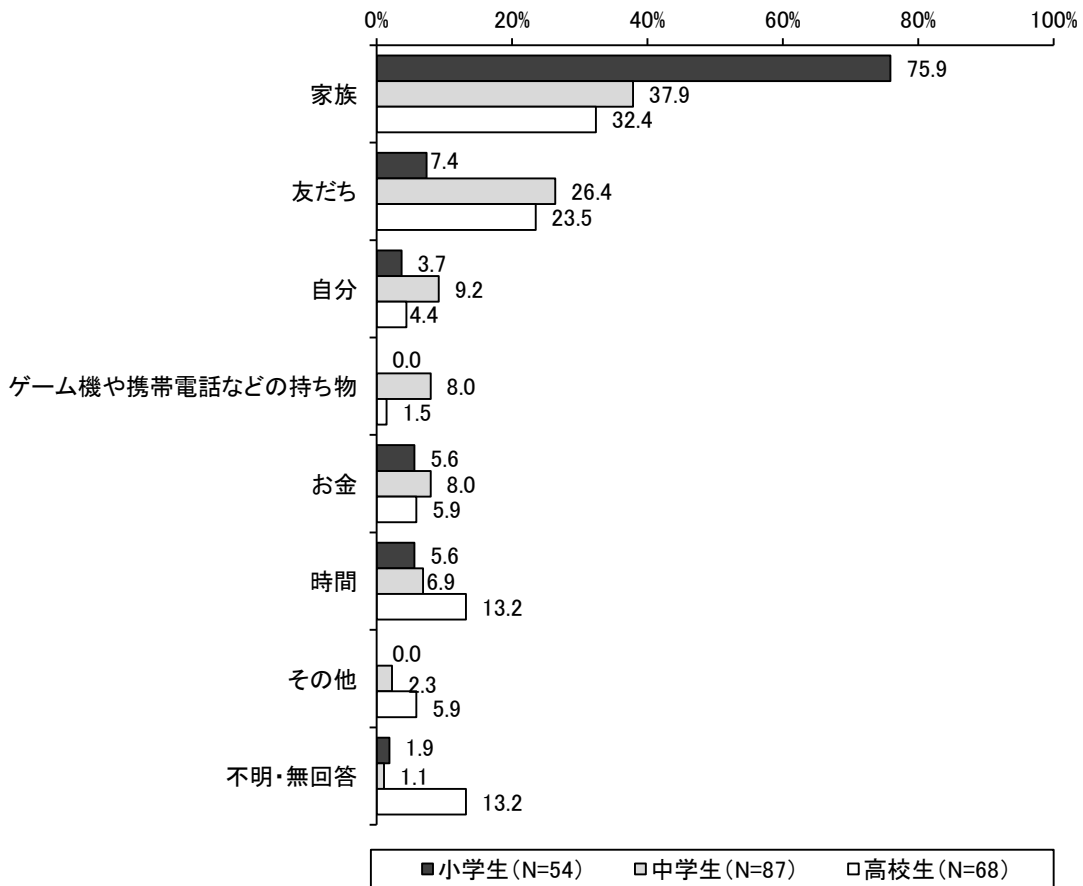
次いで、小学生は「お父さん」、中学生、高校生は「お母さん」となっています。



(3)で「いいえ(いない)」「どちらとも言えない」を選んだ方

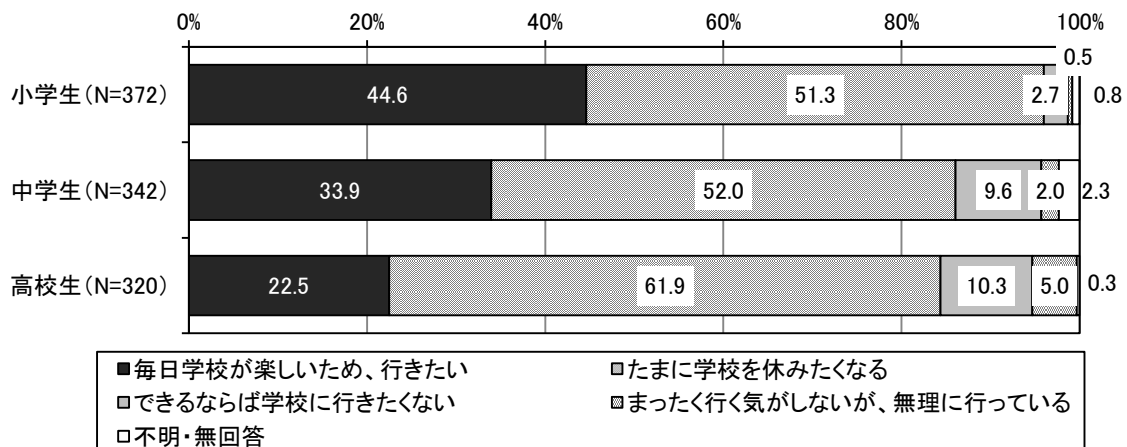
(3) - 2 今一番大切だと思っているもの〈複数回答〉 [小中高校生調査…問 19-2]

今一番大切だと思っているものについてみると、小学生、中学生、高校生ともに「家族」が最も高く、それぞれ75.9%、37.9%、32.4%となっています。



(4) 学校に行くことについて、感じること〈単数回答〉 [小中高校生調査…問 20]

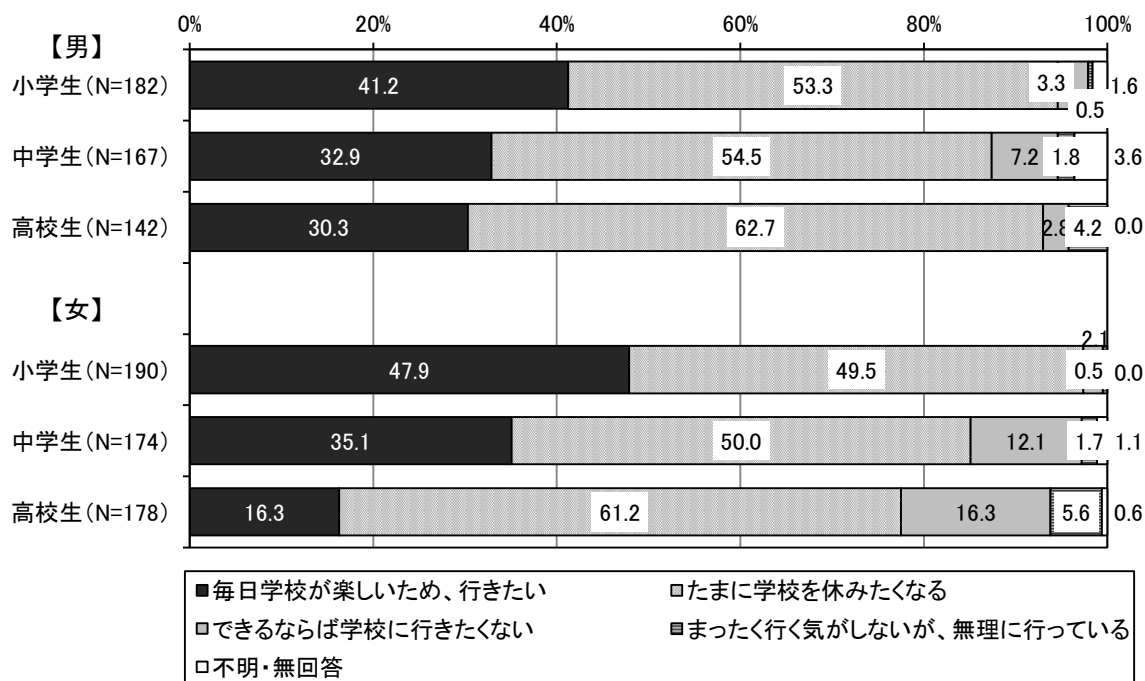
学校に行くことについて、感じることでは、小学生、中学生、高校生ともに「たまに学校を休みたくなる」が最も高く、それぞれ51.3%、52.0%、61.9%となっています。



●学校に行くことについて、感じること×性別〔小中高校生調査…問 20〕

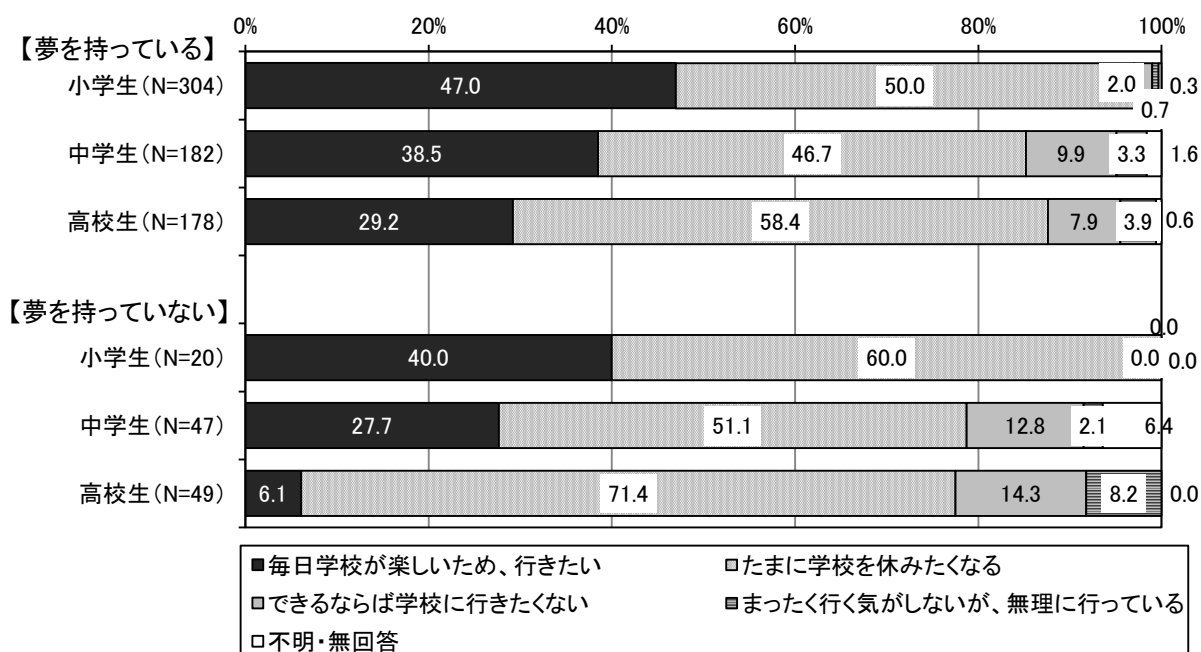
学校に行くことについて、感じることについて性別にみると、各年代・性別ともに「たまに学校を休みたくなる」が最も高くなっており、次いで「毎日学校が楽しいため、行きたい」となっています。

一方、高校生の女性、中学生の女性では「できるならば学校に行きたくない」が1～2割近くと、男性に比べ、比較的高くなっています。



●学校に行くことについて、感じること×夢の有無

学校に行くことについて、感じることについて夢の有無でみると、中学生、高校生において夢を持っている人のほうが「毎日学校が楽しいため、行きたい」の割合が高い傾向がみられます。



(4)で「できるならば学校に行きたくない」「まったく行く気がしないが、無理に行っている」を選んだ方

(4)－1 学校に行きたくないと思うようになった年齢〈数量回答〉

[小中高校生調査…問 20－1]

学校に行きたくないと思うようになった年齢についてみると、中学生は 13 歳、8 歳、12 歳で比較的高く、高校生では 16 歳、14 歳で比較的高くなっています。

学校に行きたくない と思うようになった年齢	小学生 N=12		中学生 N=40		高校生 N=49	
	件数	%	件数	%	件数	%
3歳	0	0.0	1	2.5	0	0.0
4歳	0	0.0	0	0.0	1	2.0
6歳	0	0.0	3	7.5	2	4.1
7歳	0	0.0	4	10	1	2
8歳	2	16.7	6	15	1	2
9歳	4	33.3	1	2.5	1	2
10歳	4	33.3	4	10	2	4.1
11歳	1	8.3	2	5	2	4.1
12歳	0	0.0	5	12.5	1	2
13歳	0	0.0	9	22.5	5	10.2
14歳	0	0.0	3	7.5	9	18.4
15歳	0	0.0	1	2.5	3	6.1
16歳	0	0.0	0	0.0	15	30.6
17歳	0	0.0	0	0.0	3	6.1
不明・無回答	1	8.3	1	2.5	3	6.1

(4)で「できるならば学校に行きたくない」「まったく行く気がしないが、無理に行っている」を選んだ方

(4)－2 学校に行きたくないと思うようになってからの経過年数〈単数回答〉

[小中高校生調査…問 20－2]

学校に行きたくないと思うようになってからの経過年数についてみると、中学生、高校生ともに「1 年～3年」が最も高くなっています。

次いで中学生は「6か月～1年」、高校生は「7年以上」となっています。

学校に行きたくない 思うようになってからの経過 年数	小学生 N=12		中学生 N=40		高校生 N=49	
	件数	%	件数	%	件数	%
6か月未満	1	8.3	2	5.0	5	10.2
6か月～1年	5	41.7	9	22.5	8	16.3
1年～3年	2	16.7	11	27.5	17	34.7
3年～5年	2	16.7	5	12.5	6	12.2
5年～7年	0	0	8	20	3	6.1
7年以上	1	8.3	5	12.5	9	18.4
不明・無回答	1	8.3	0	0	1	2

(4)で「できるならば学校に行きたくない」「まったく行く気がしないが、無理に行っている」を選んだ方

(4)－3 学校に行きたくないと思うようになったきっかけ〈複数回答〉

[小中高生調査…問 20－3]

学校に行きたくないと思うようになったきっかけは、以下のようになっています。

学校に行きたくない と思うようになったきっかけ	小学生 N=12		中学生 N=40		高校生 N=49	
	件数	%	件数	%	件数	%
学校になじめなかった	5	41.7	7	17.5	4	8.2
友だちとの関係がうまくいっていない	3	25.0	12	30.0	8	16.3
家族との関係がうまくいっていない	2	16.7	4	10.0	0	0.0
病気のため	0	0.0	1	2.5	0	0
その他	2	16.7	29	72.5	38	77.6
不明・無回答	1	8.3	0	0	3	6.1

(4)で「できるならば学校に行きたくない」「まったく行く気がしないが、無理に行っている」を選んだ方

(4)－4 学校に行きたくないと思うことについての相談意向〈単数回答〉

[小中高生調査…問 20－4]

学校に行きたくないと思うことについての相談意向についてみると、小学生、中学生、高校生ともに「思わない」が高くなっています。

学校に行きたくない と思うことについての相談意向	小学生 N=12		中学生 N=40		高校生 N=49	
	件数	%	件数	%	件数	%
非常に思う	0	0.0	3	7.5	3	6.1
思う	2	16.7	1	2.5	0	0.0
少し思う	1	8.3	6	15.0	3	6.1
思わない	7	58.3	28	70.0	40	81.6
不明・無回答	2	16.7	2	5	3	6.1

(4) - 4で「非常に思う」「思う」「少し思う」を選んだ方

(4) - 5 学校に行きたくないと思うことなど、相談したいと思う相談先〈複数回答〉

[小中高校生調査…問 20-5]

学校に行きたくないと思うことなど、相談したいと思う相談先は、以下のようになっています。

学校に行きたくないと思うことなど、相談したいと思う相談先	小学生 N=3		中学生 N=10		高校生 N=6	
	件数	%	件数	%	件数	%
親切・ていねいに聴いてくれるところ	3	100.0	2	20.0	3	50.0
悩みごとを相談できる専門の人がいるところ	1	33.3	2	20.0	3	50.0
悩みごとを相談できる医師がいるところ	0	0.0	2	20.0	1	16.7
同じ悩みを持つ人と出会えるところ	2	66.7	5	50.0	1	16.7
自分の名前を知られずに相談できるところ	2	66.7	3	30.0	2	33.3
無料で相談できるところ	2	66.7	4	40.0	2	33.3
NPOなどの団体が行っているところ	1	33.3	1	10.0	0	0.0
自宅に専門家が来てくれるところ	0	0.0	0	0.0	0	0.0
自宅に地域のボランティアなどが来てくれるところ	0	0.0	0	0.0	0	0.0
いろいろな悩みをまとめて聞いてくれるところ	0	0.0	1	10.0	0	0.0
自分のペースでゆっくりと少しずつ手助けをしてくれるところ	2	66.7	4	40.0	1	16.7
自宅から近いところ	1	33.3	2	20.0	0	0.0
用がなくても気軽にいくことができる自由な場所があるところ	1	33.3	4	40.0	2	33.3
その他	0	0.0	1	10.0	0	0.0
不明・無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0

(4) - 4で「思わない」を選んだ方

(4) - 6 相談したくないと思う理由〈複数回答〉 [小中高校生調査…問 20-6]

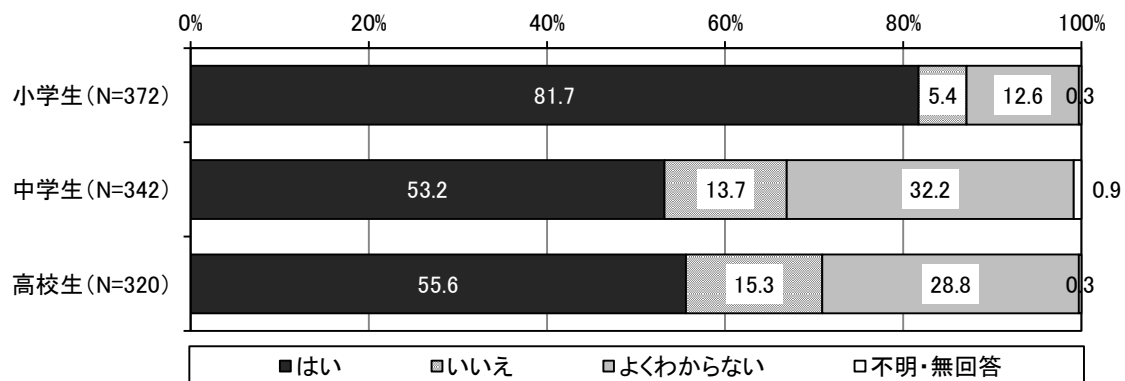
相談したくないと思う理由についてみると、小学生、中学生、高校生は「行っても解決できないと思う」が比較的高くなっています。

相談したくないと思う理由	小学生 N=7		中学生 N=28		高校生 N=40	
	件数	%	件数	%	件数	%
自分や家族のことを知られたくない	3	42.9	1	3.6	2	5.0
行っても解決できないと思う	4	57.1	12	42.9	17	42.5
何を聞かれるか不安に思う	3	42.9	1	3.6	3	7.5
相手にうまく話せないと思う	2	28.6	4	14.3	3	7.5
行ったことを人に知られたくない	0	0.0	5	17.9	2	5.0
お金がかかると思う	1	14.3	0	0.0	0	0.0
相談できる場所を知らない	3	42.9	2	7.1	1	2.5
相談できる場所が近くにない	0	0.0	1	3.6	0	0.0
その他	0	0.0	15	53.6	16	40.0
不明・無回答	0	0.0	0	0.0	4	10.0

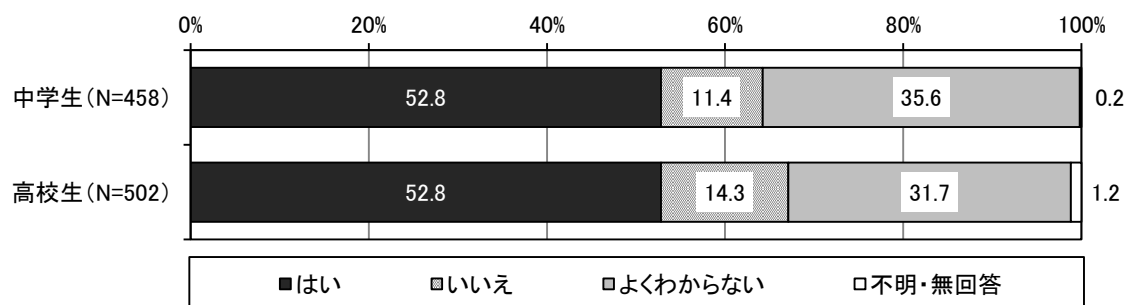
6 将来のことについて

(1) 将来の夢の有無〈単数回答〉〔小中高校生調査…問 21〕

将来の夢の有無についてみると、小学生、中学生、高校生ともに「はい（持っている）」が最も高く、それぞれ81.7%、53.2%、55.6%となっています。また、年齢があがるほど、「はい（持っている）」が低下傾向にあります。

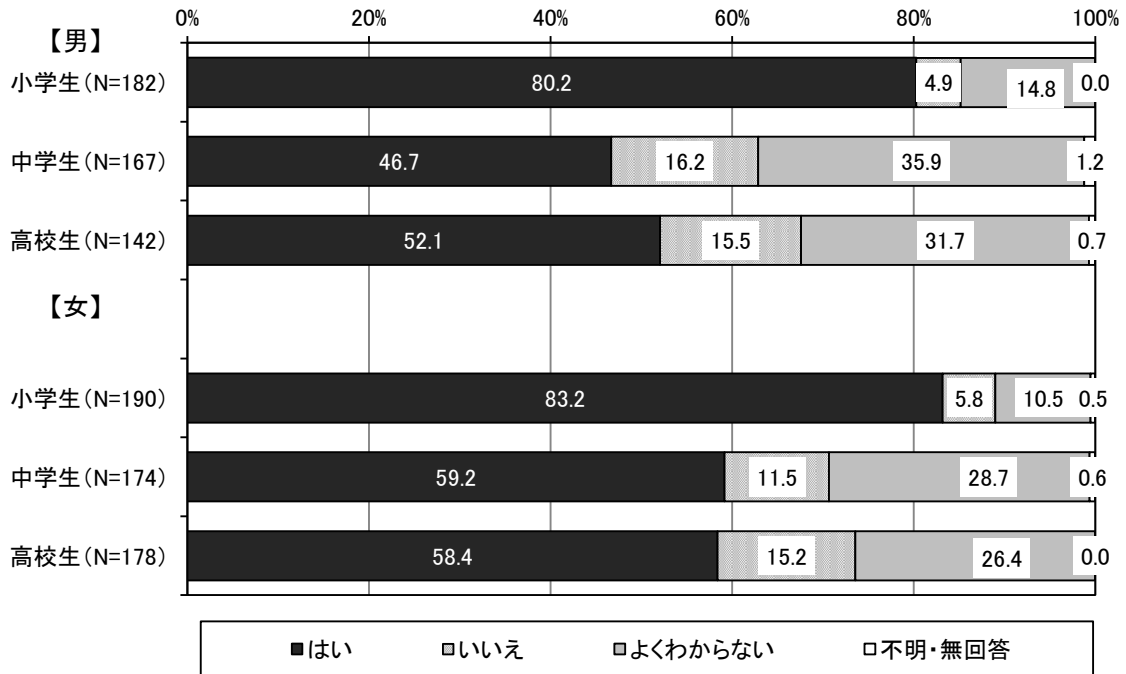


【前回調査結果】（将来の夢の有無）



●将来の夢の有無×性別〔小中高高校生調査…問 21〕

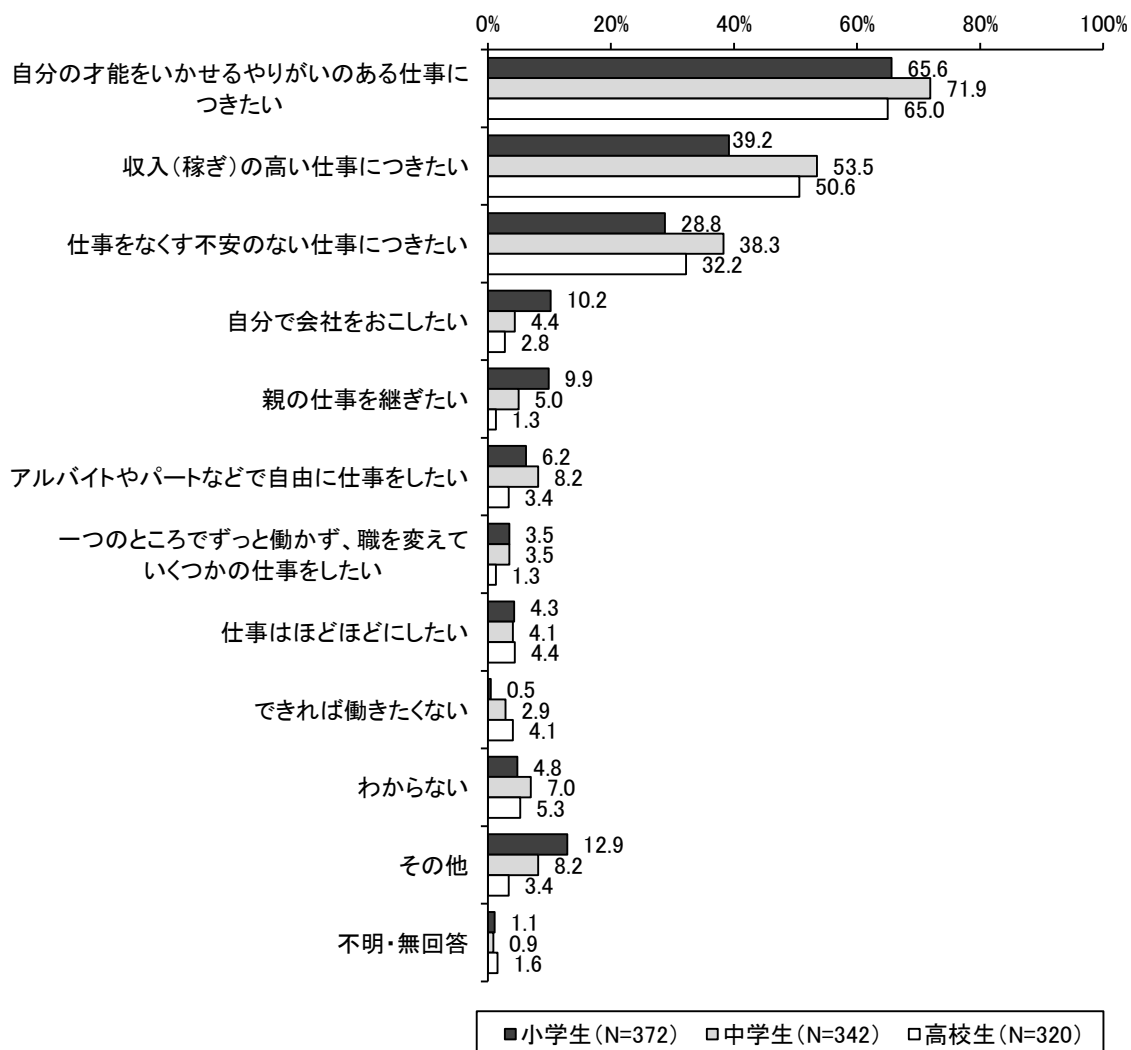
将来の夢の有無について性別にみると、小学生は男女ともに8割以上が「はい（持っている）」と回答しています。また、中学生、高校生になると「はい（持っている）」の割合が低下していますが、各年代ともに男性に比べ、女性のほうが「はい（持っている）」の割合が高くなっています。



(2) 仕事における将来の希望〈複数回答〉〔小中高校生調査…問 22〕

仕事における将来の希望についてみると、小学生、中学生、高校生ともに「自分の才能をいかせるやりがいのある仕事につきたい」が最も高く、それぞれ65.6%、71.9%、65.0%となっています。

次いで、3者ともに「収入（稼ぎ）の高い仕事につきたい」「仕事をなくす不安のない仕事につきたい」が高く、安定した仕事を求めています。

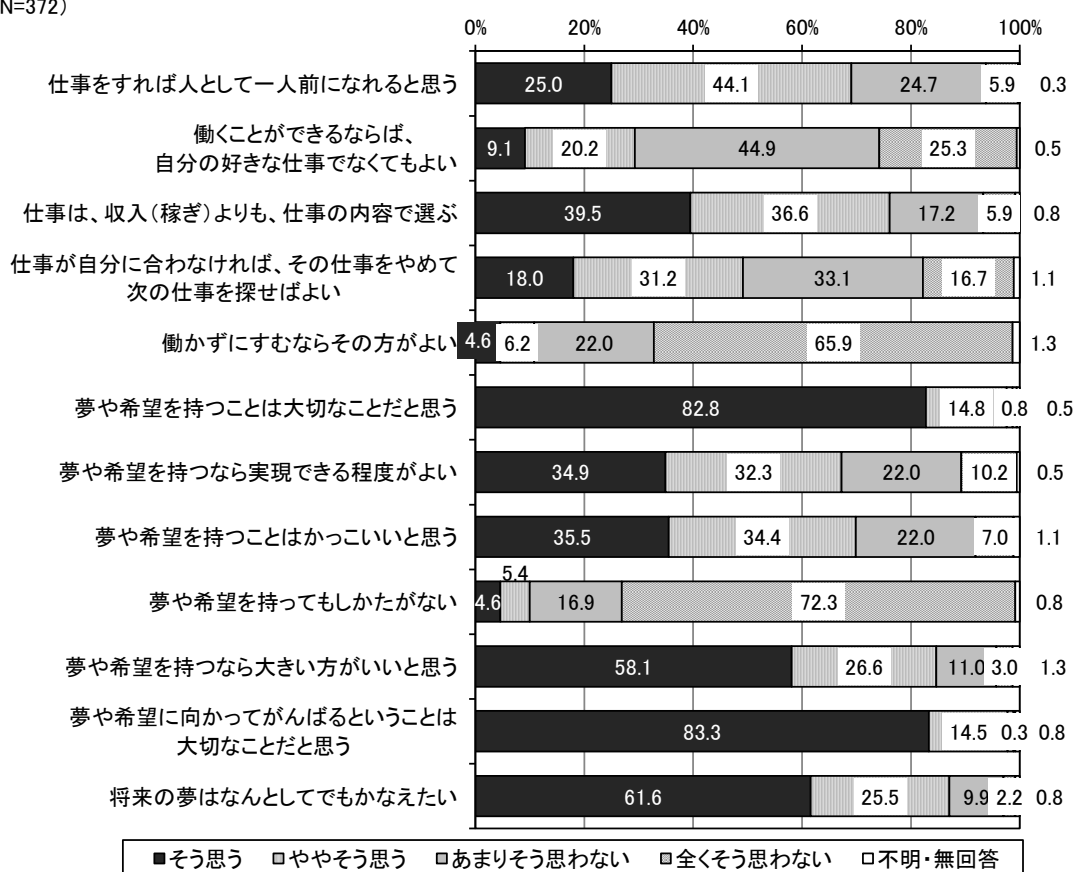


(3) 将来のことに対する考え方(小学生)〈単数回答〉〔小中高校生調査…問 23〕

小学生の将来のことに対する考え方についてみると、「そう思う」「ややそう思う」を合わせた『思う』では、夢や希望を持つことは大切なことだと思うが 97.6%、夢や希望に向かってがんばるといふことは大切なことだと思うが 97.8%となっています。

一方、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」を合わせた『思わない』では、働くことができるならば、自分の好きな仕事でなくてもよいが 70.2%、働かずにすむならその方がよいが 87.9%、夢や希望を持ってもしかたがないが 89.2%と夢や希望を持つことを大切にし、そこに向かって進んでいくといった考え方がうかがえます。

小学生(N=372)

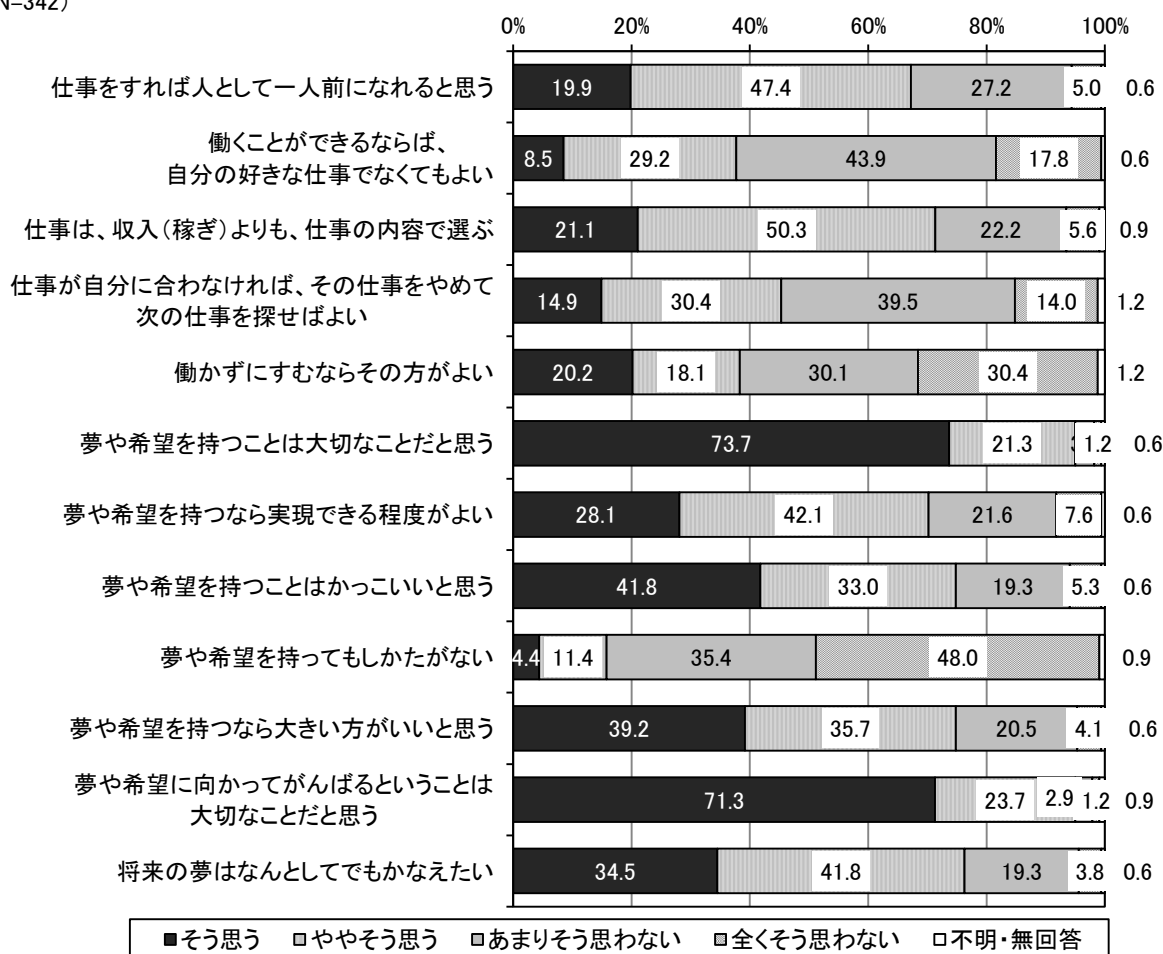


(4) 将来のことに対する考え方(中学生)〈単数回答〉 [小中高校生調査…問 23]

中学生の将来のことに対する考え方についてみると、「そう思う」「ややそう思う」を合わせた『思う』では、夢や希望を持つことは大切なことだと思うが 95.0%、夢や希望に向かってがんばるということは大切なことだと思うが 95.0%、将来の夢はなんとしてでもかなえたいが 76.3%となっています。

一方、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」を合わせた『思わない』では、働くことができるならば、自分の好きな仕事でなくてもよいが 61.7%、働かずにすむならその方がよいが 60.5%、夢や希望を持ってもしかたがないが 83.4%となっています。

中学生(N=342)

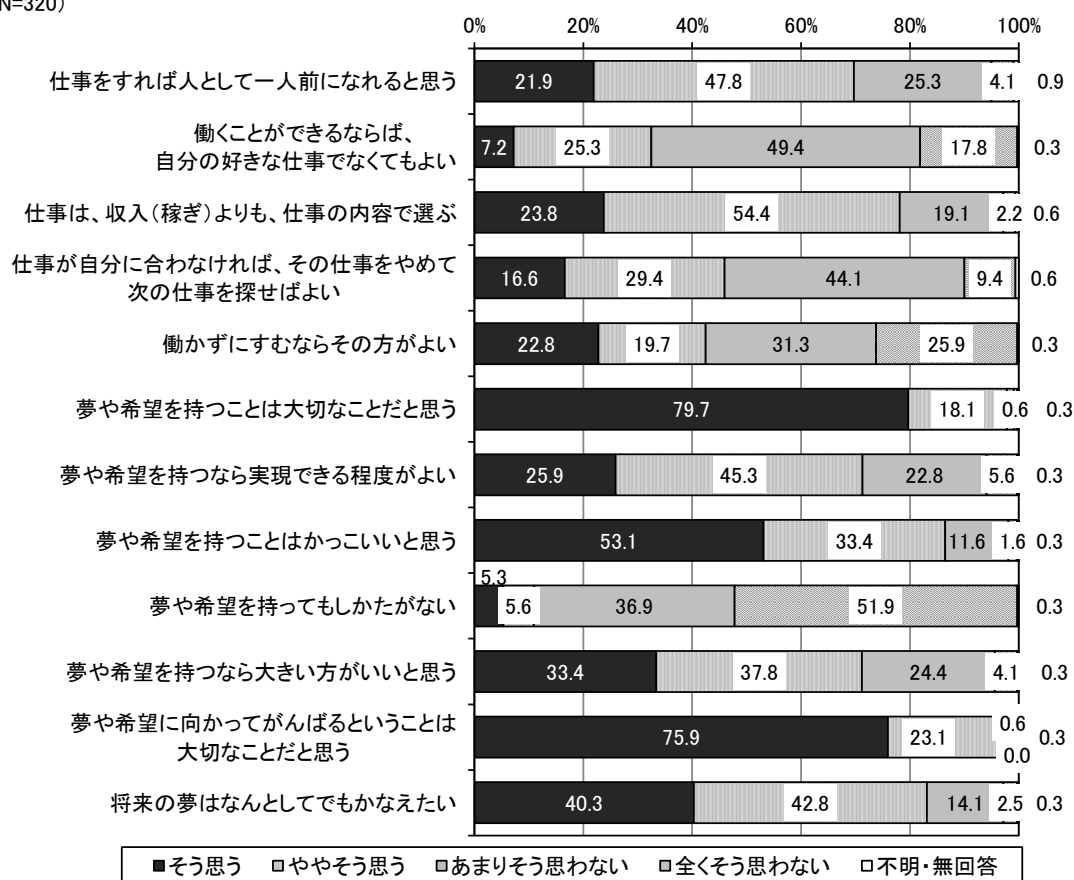


(5) 将来のことに対する考え方(高校生)〈単数回答〉 [小中高高校生調査…問 23]

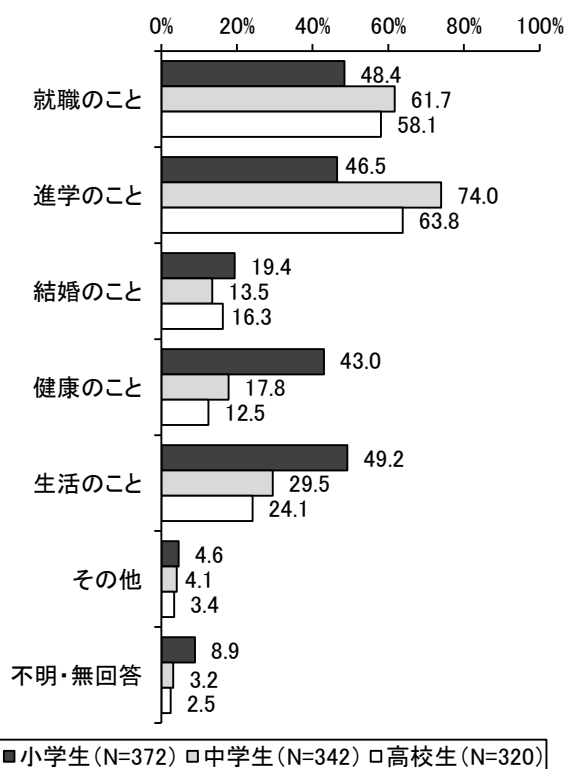
高校生の将来のことに対する考え方についてみると、「そう思う」「ややそう思う」を合わせた『思う』では、夢や希望を持つことは大切なことだと思うが 97.8%、夢や希望を持つことはカッコいいと思うが 86.5%、夢や希望に向かってがんばるということは大切なことだと思うが 99.0%となっています。

一方、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」を合わせた『思わない』では、働くことができるならば、自分の好きな仕事でなくてもよいが 67.2%、働かずにすむならその方がよいが 57.2%、夢や希望を持ってもしかたがないが 88.8%となっています。

高校生 (N=320)



(6) 将来に関することで不安に思っていること〈複数回答〉〔小中高校生調査…問 24〕



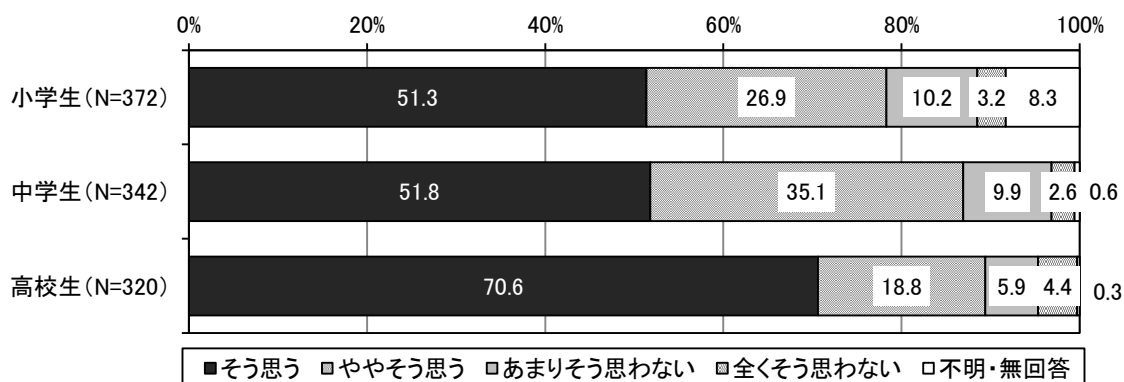
将来に関することで不安に思っていることについてみると、小学生は「生活のこと」が49.2%と最も高く、次いで「就職のこと」が48.4%、「進学のこと」が46.5%となっています。

また、中学生、高校生は「進学のこと」「就職のこと」が上位2件を占め、それぞれ5割以上の回答となっています。

(7) 将来の家庭に対する考え（結婚して家庭を持つことへの意向）〈単数回答〉

〔小中高校生調査…問 25①〕

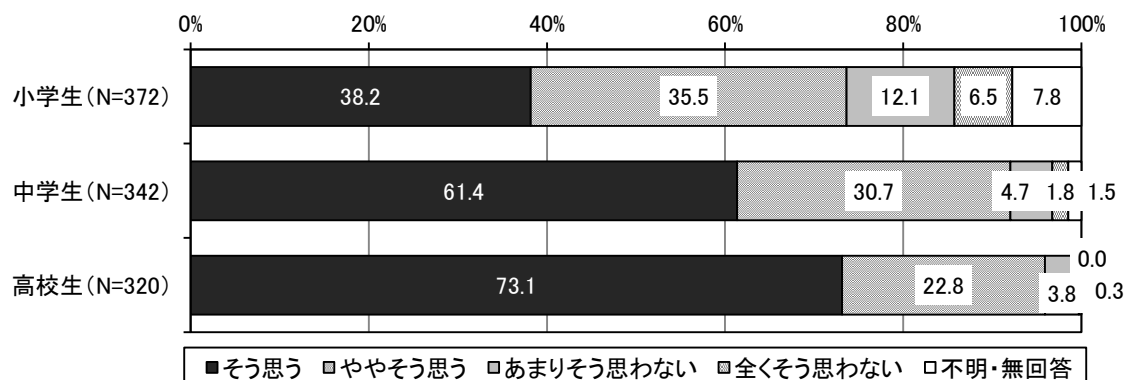
結婚して家庭を持つことへの意向についてみると、「そう思う」「ややそう思う」を合わせた『思う』が、小学生、中学生、高校生で大部分を占めており、それぞれ78.2%、86.9%、89.4%となっています。また、年齢があがるほど、『思う』割合も高くなっています。



(8) 将来の家庭に対する考え(自立した生活をする事への意向)〈単数回答〉

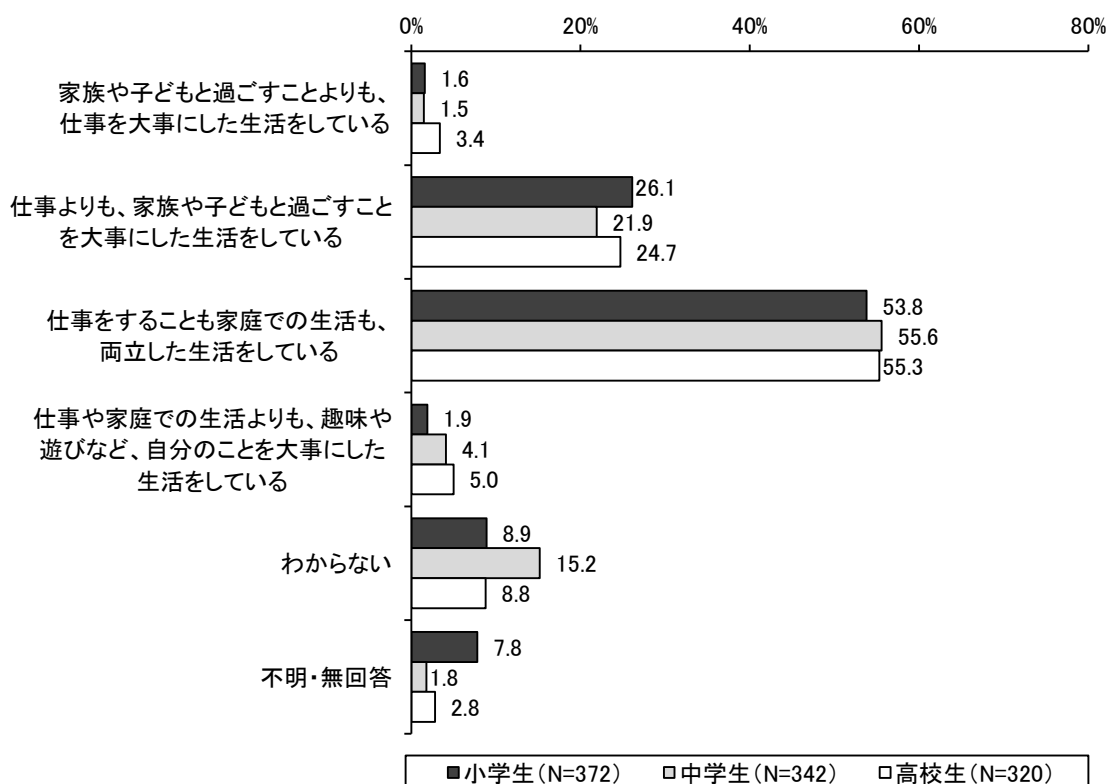
[小中高校生調査…問 25②]

自立した生活をする事への意向についてみると、「そう思う」「ややそう思う」を合わせた『思う』が、小学生、中学生、高校生で大部分を占めており、それぞれ 73.7%、92.1%、95.9%となっています。また、年齢があがるほど、『思う』の割合も高くなっています。

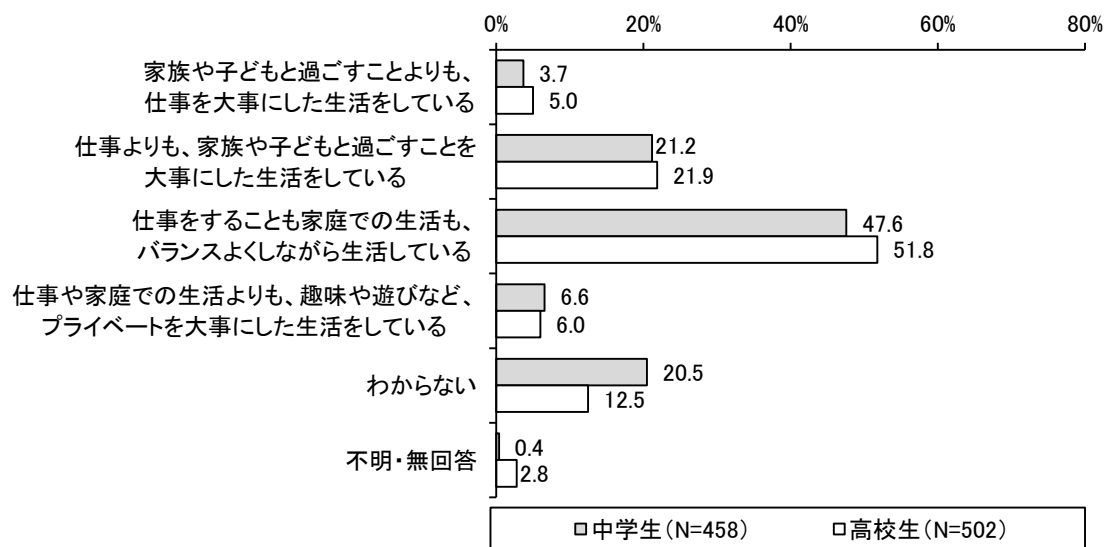


(9) 将来における仕事や家庭での生活〈単数回答〉 [小中高校生調査…問 26]

将来における仕事や家庭での生活についてみると、小学生、中学生、高校生ともに「仕事をすることも家庭での生活も、両立した生活をしている」が最も高く、それぞれ 53.8%、55.6%、55.3%となっています。次いで「仕事よりも、家族や子どもと過ごすことを大事にした生活をしている」となっており、それぞれ 26.1%、21.9%、24.7%となっています。仕事ではなく、仕事と家庭での生活の両立や家庭を大事にした生活が大事とされています。



【前回調査結果】（将来における仕事や家庭での生活）

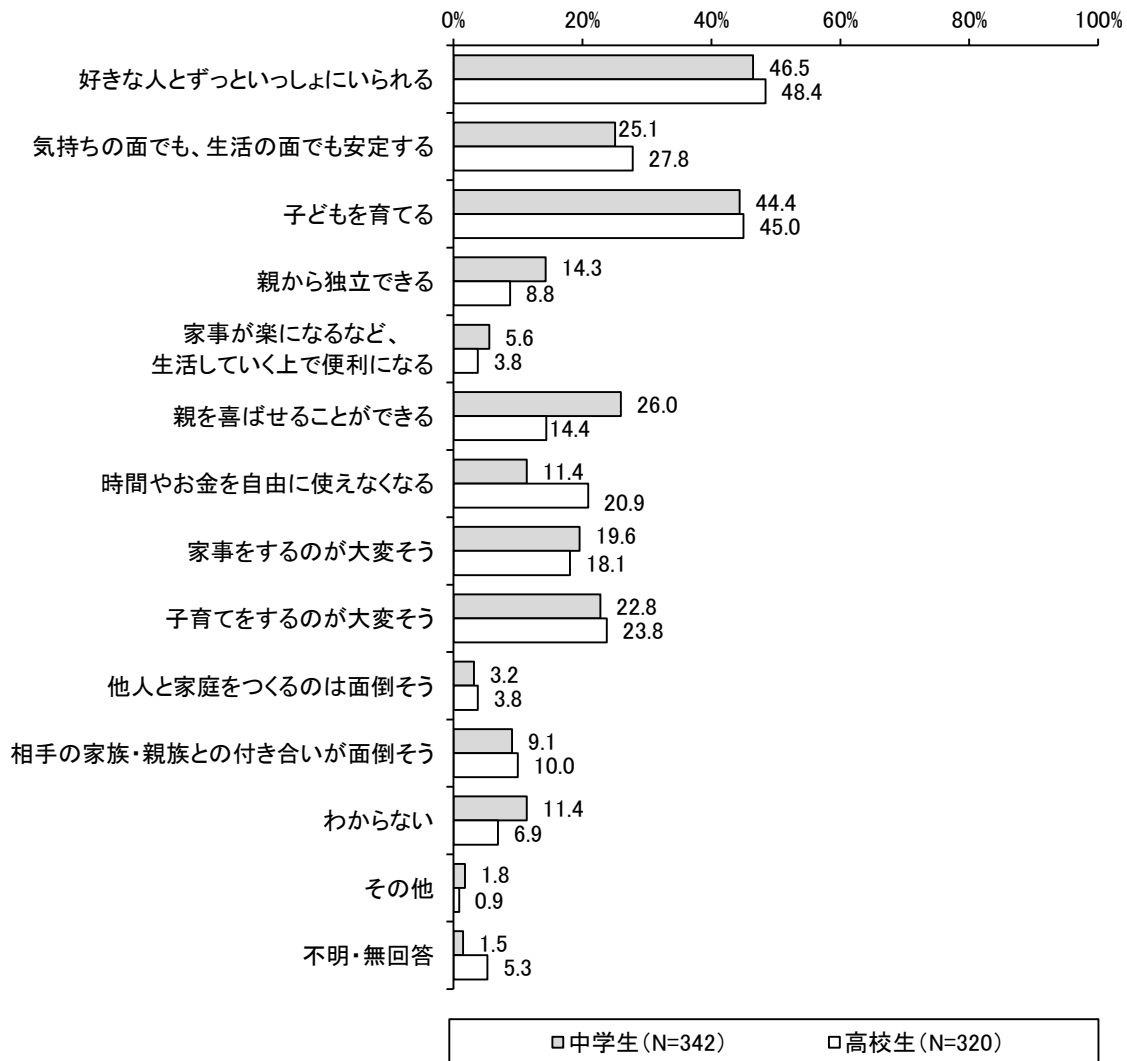


中学生、高校生のみ

(10) 結婚のイメージ〈複数回答〉〔小中高生調査…問 27〕

結婚のイメージについてみると、中学生、高校生ともに「好きな人とずっといっしょにいられる」が最も高く、それぞれ 46.5%、48.4%となっています。次いで「子どもを育てる」となっており、それぞれ 44.4%、45.0%となっています。

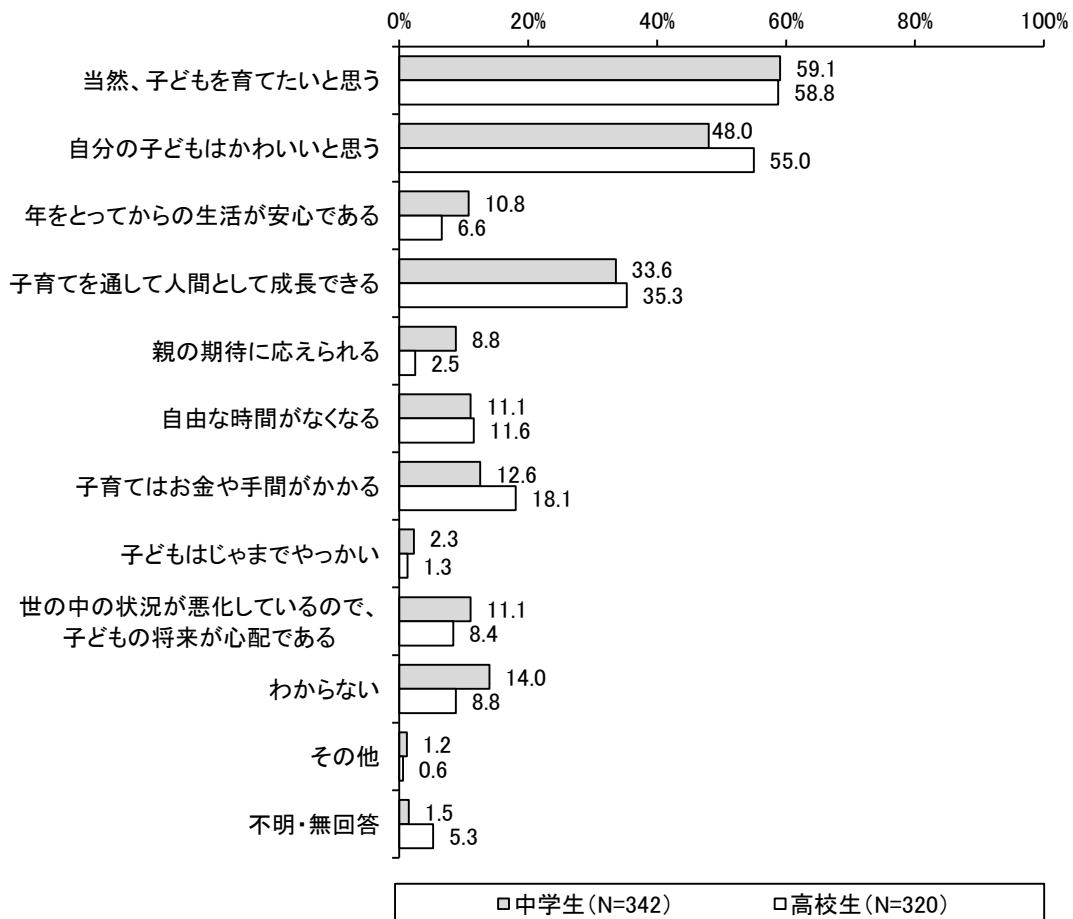
そのほか、中学生では「親を喜ばせることができる」が 26.0%、高校生では「気持ちの面でも、生活の面でも安定する」が 27.8%となっています。



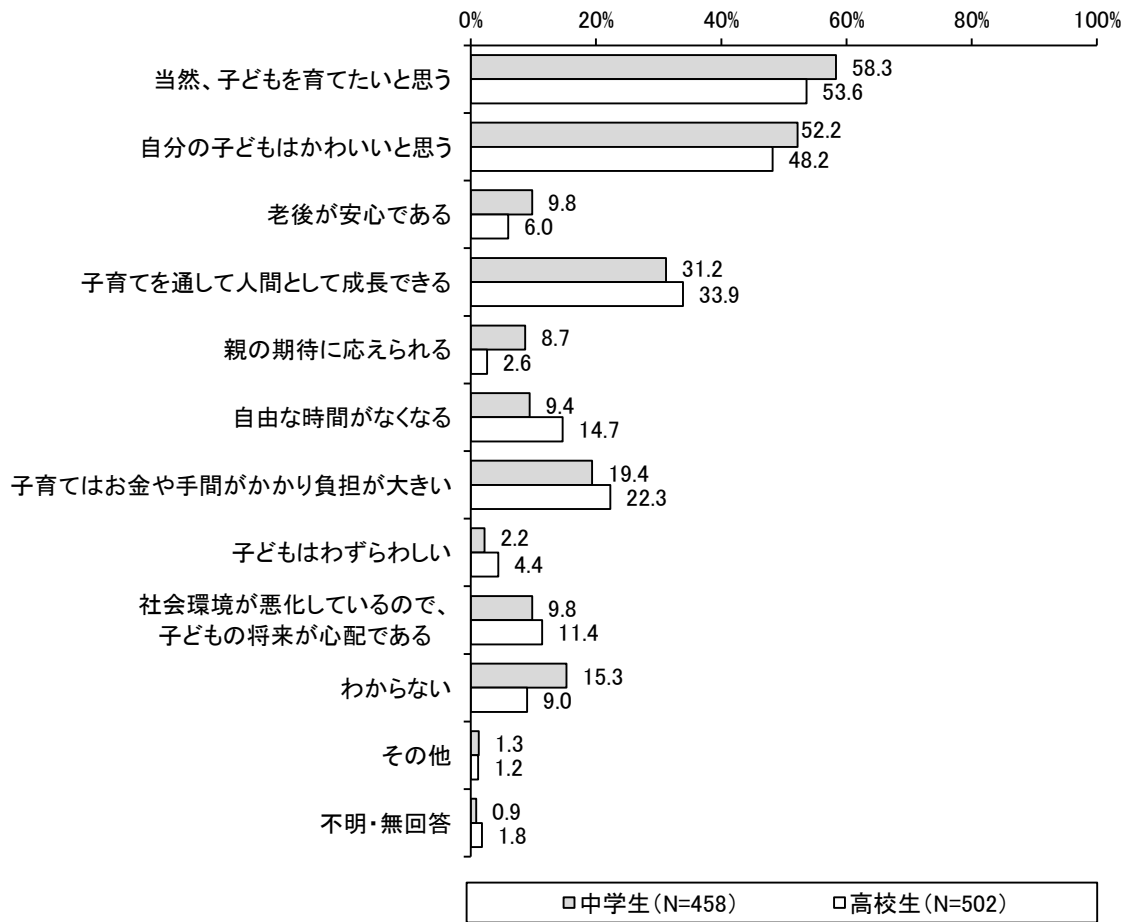
中学生、高校生のみ

(11) 子どもを育てることのイメージ〈複数回答〉〔小中高校生調査…問 28〕

子どもを育てることのイメージについてみると、中学生、高校生ともに「当然、子どもを育てたいと思う」が最も高く、それぞれ59.1%、58.8%となっています。次いで「自分の子どもはかわいいと思う」となっており、それぞれ48.0%、55.0%、「子育てを通して人間として成長できる」がそれぞれ33.6%、35.3%となっています。

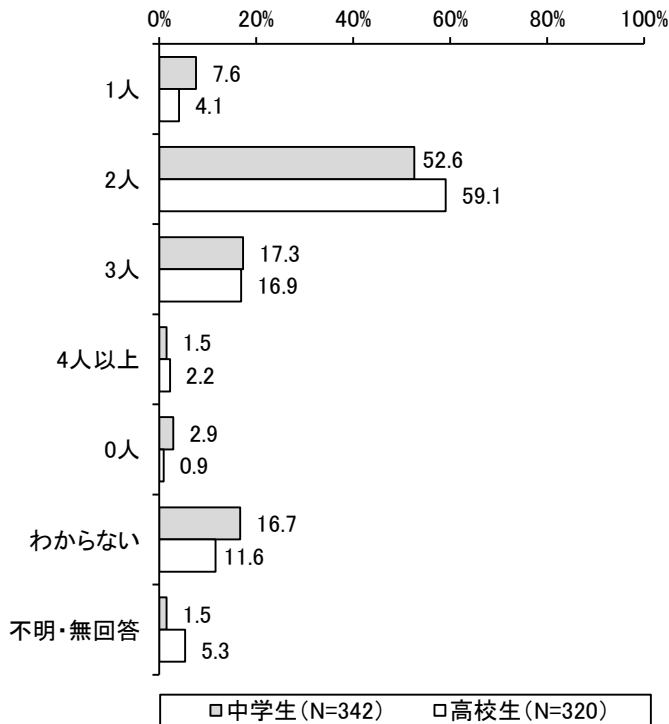


【前回調査結果】（子どもを育てることのイメージ）



中学生、高校生のみ

(12) 子どもを育てるとした場合のほしい子どもの人数〈単数回答〉〔小中高校生調査…問 29〕

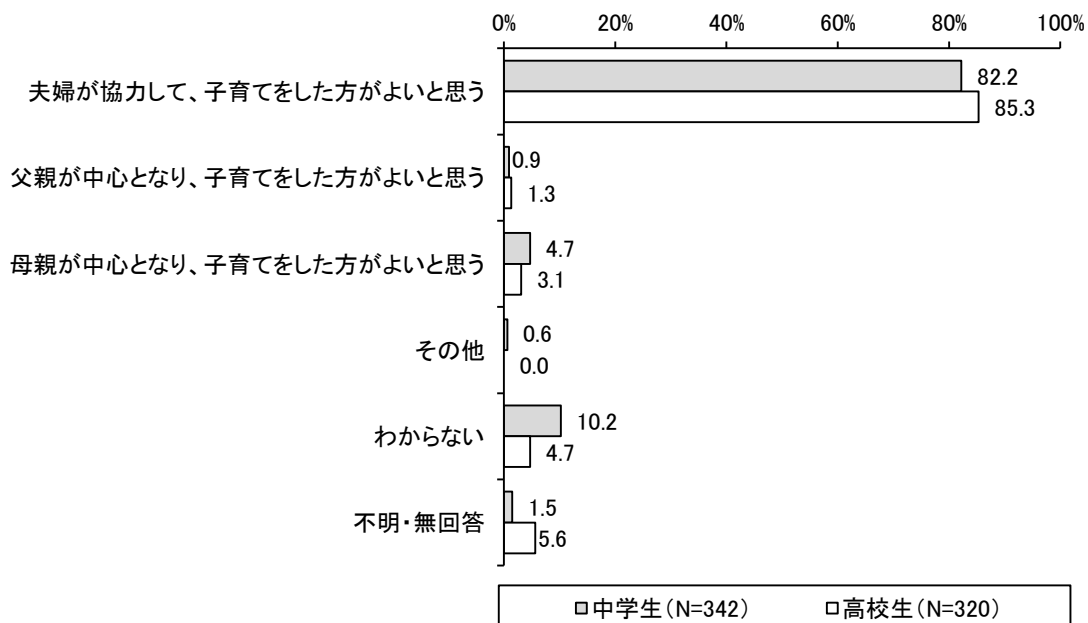


子どもを育てるとした場合のほしい子どもの人数についてみると、中学生、高校生ともに「2人」が最も高く、それぞれ52.6%、59.1%、次いで「3人」が17.3%、16.9%となっています。

中学生、高校生のみ

(13) 家庭における子育ての考え方〈単数回答〉〔小中高校生調査…問 30〕

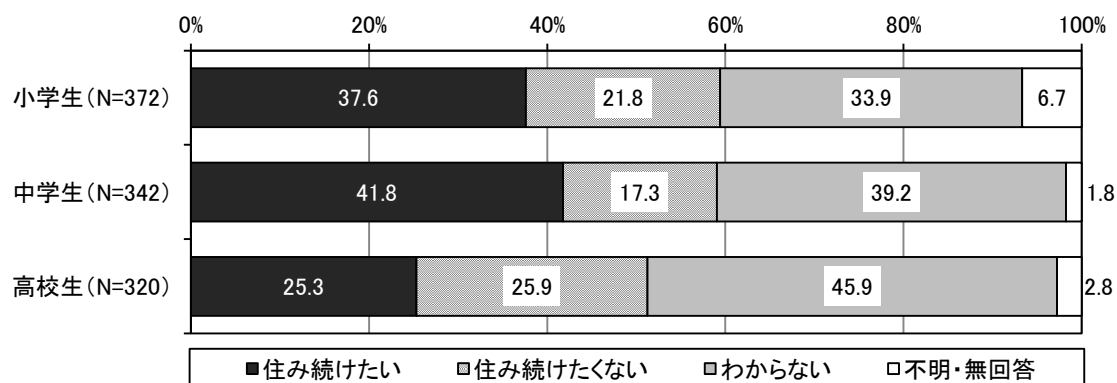
家庭における子育ての考え方についてみると、中学生、高校生ともに「夫婦が協力して、子育てをした方がよいと思う」がそれぞれ82.2%、85.3%と、群を抜いて高くなっています。



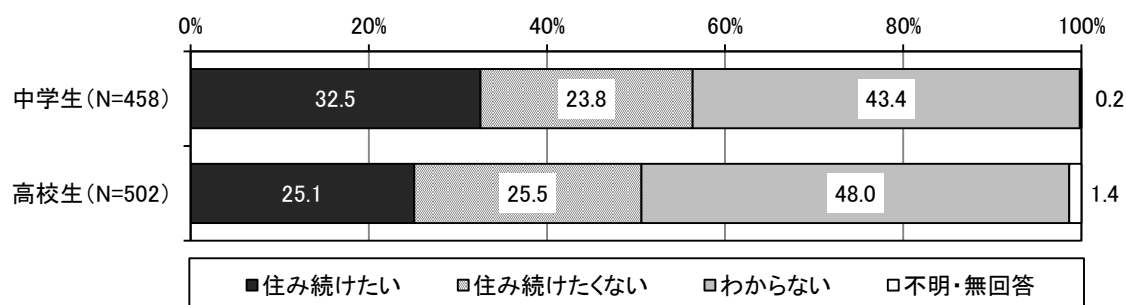
(14) 和歌山市への定住意向〈単数回答〉〔小中高校生調査…問 31〕

和歌山市への定住意向についてみると、小学生、中学生は「住みたい」が最も高く、それぞれ37.6%、41.8%となっています。次いで「わからない」がそれぞれ33.9%、39.2%となっており、「住みたい」と「わからない」の差は、小学生で3.7ポイント、中学生で2.6ポイントとなっています。

高校生は、「わからない」が45.9%と最も高く、「住みたい」を上回っています。



【前回調査結果】 (和歌山市への定住意向)



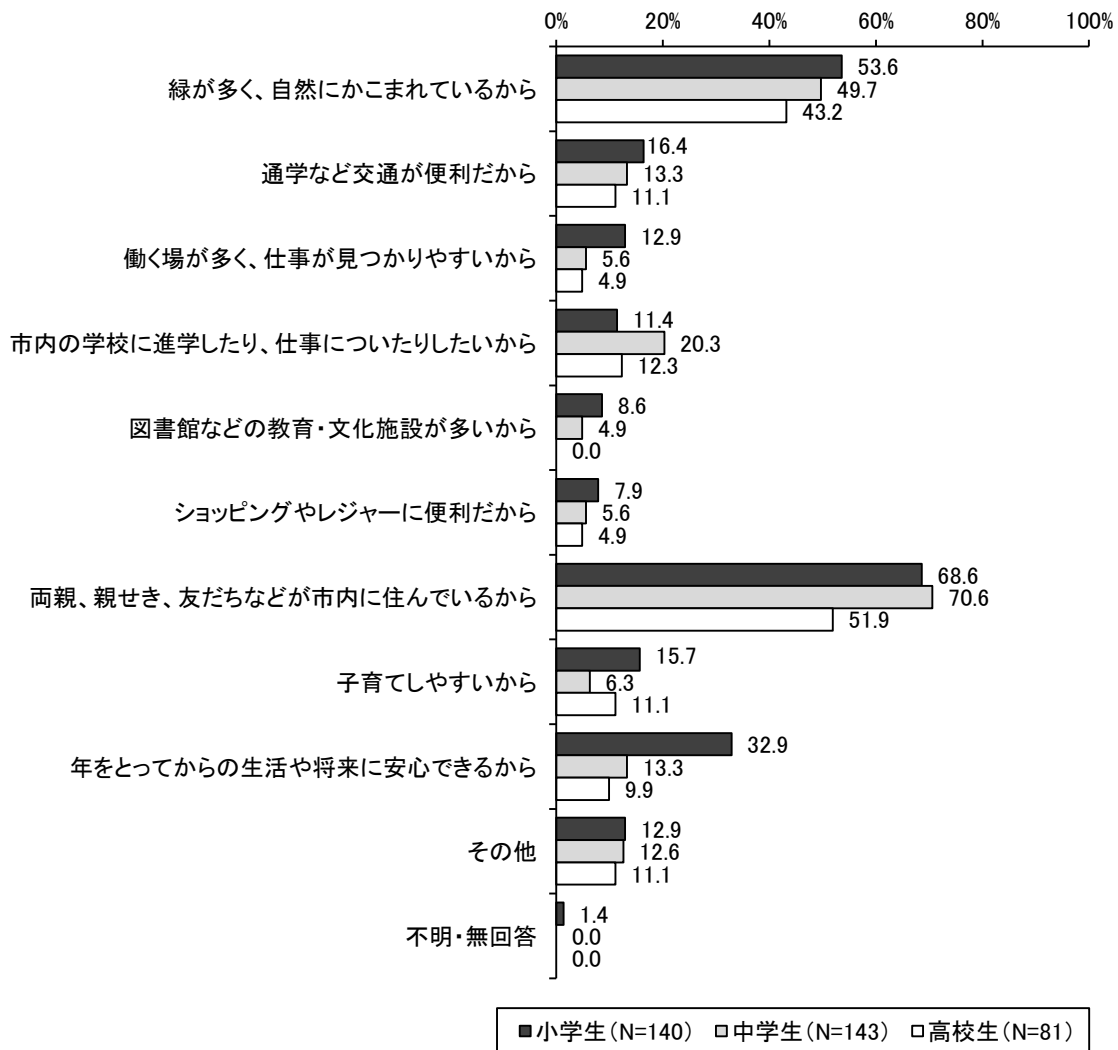
(14)で「住み続けたい」を選んだ方

(14) - 1 住み続けたいと感じる理由〈複数回答〉〔小中高校生調査…問 31-1〕

住み続けたいと感じる理由についてみると、小学生、中学生、高校生ともに「両親、親せき、友だちなどが市内に住んでいるから」が最も高く、それぞれ68.6%、70.6%、51.9%となっています。

次いで3者ともに「緑が多く、自然にかこまれているから」がそれぞれ53.6%、49.7%、43.2%となっています。

また、小学生では「年をとってからの生活や将来に安心できるから」が32.9%となっています。



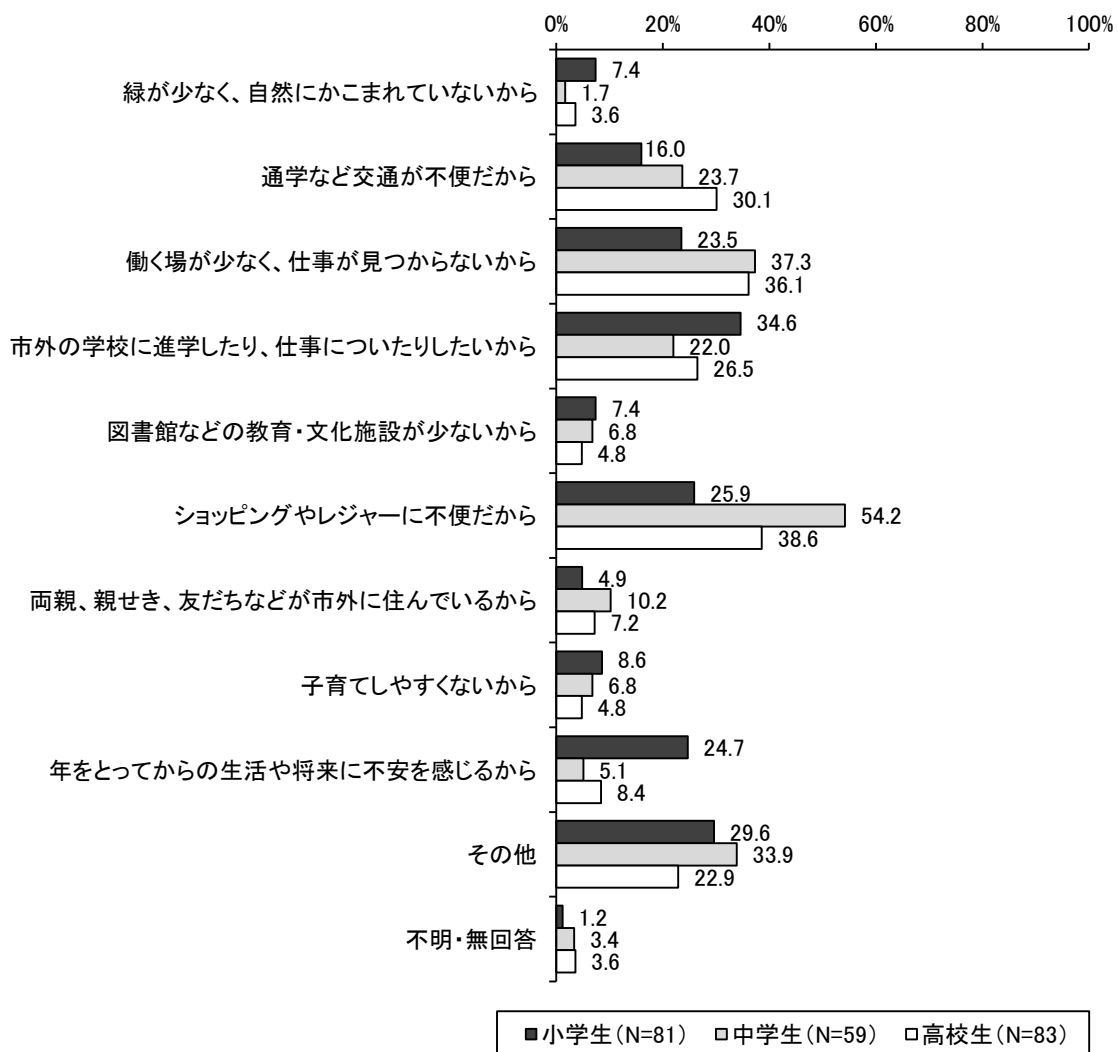
(14)で「住み続けたくない」を選んだ方

(14) - 2 住み続けたくないと感じる理由〈複数回答〉〔小中高校生調査…問 31-1〕

住み続けたくないと感じる理由についてみると、小学生は、「市外の学校に進学したり、仕事についたりしたいから」が34.6%と最も高く、中学生、高校生は「ショッピングやレジャーに不便だから」がそれぞれ54.2%、38.6%と最も高くなっています。

次いで、小学生は「ショッピングやレジャーに不便だから」、中学生、高校生は「働く場が少なく、仕事が見つからないから」となっています。

自然の多さや家族や親類が近くにいることを利点とする一方、就業の場や進学先、商業施設などの不便さなどが住み続けたくない理由となっています。



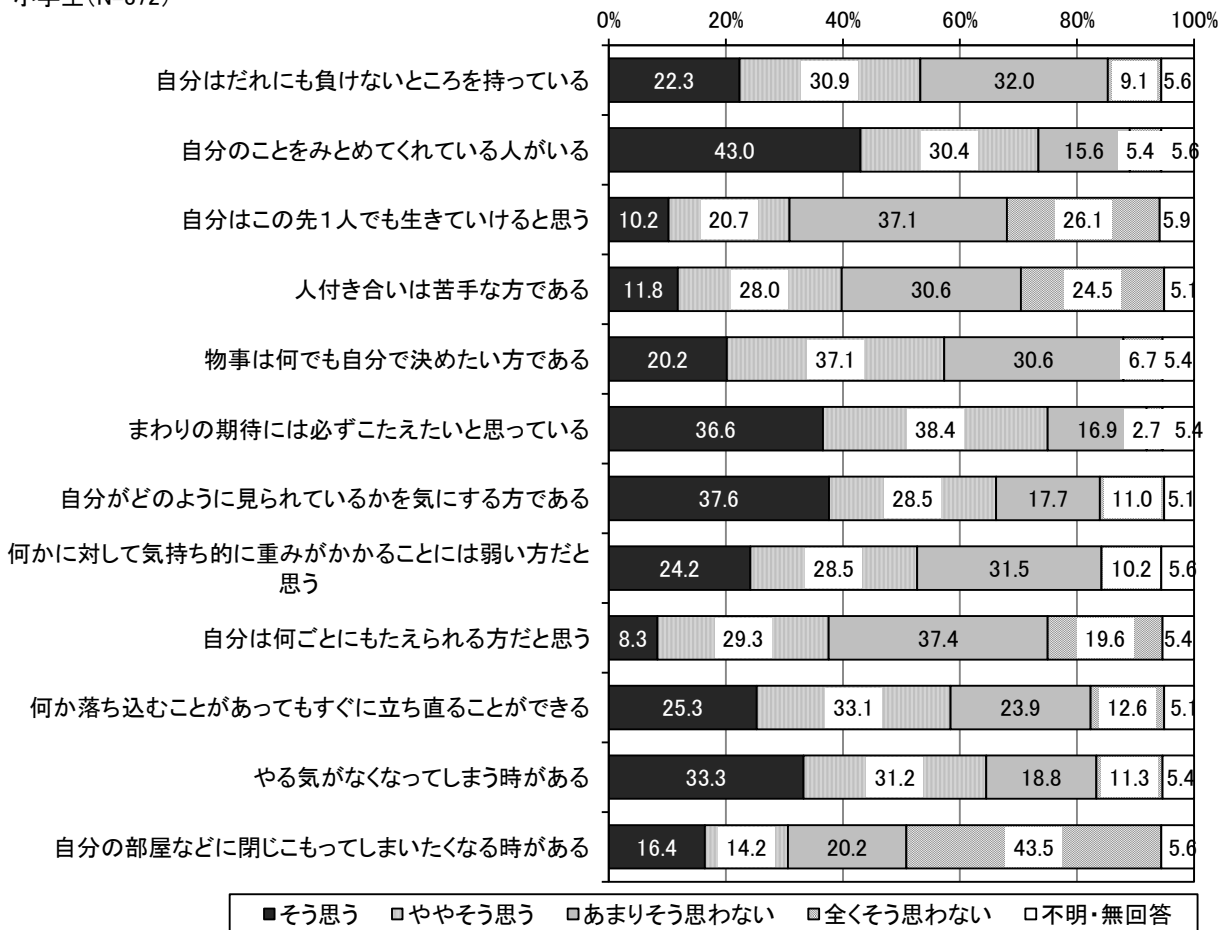
7 あなた自身のことについて

(1) 自身のことについての考え (小学生)〈単数回答〉〔小中高校生調査…問 32〕

小学生の自身のことについての考えをみると、「そう思う」「ややそう思う」を合わせた『思う』では、自分のことをみとめてくれている人がいるが73.4%、まわりの期待には必ずこたえたいと思っているが75.0%、自分がどのように見られているかを気にする方であるが66.1%、やる気がなくなってしまう時があるが64.5%となっています。

一方、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」を合わせた『思わない』では、自分はこの先1人でも生きていけると思うが63.2%、人付き合いは苦手な方であるが55.1%、自分は何ごとにもたえられる方だと思うが57.0%、自分の部屋などに閉じこもってしまいたくなる時があるが63.7%となっています。

小学生(N=372)

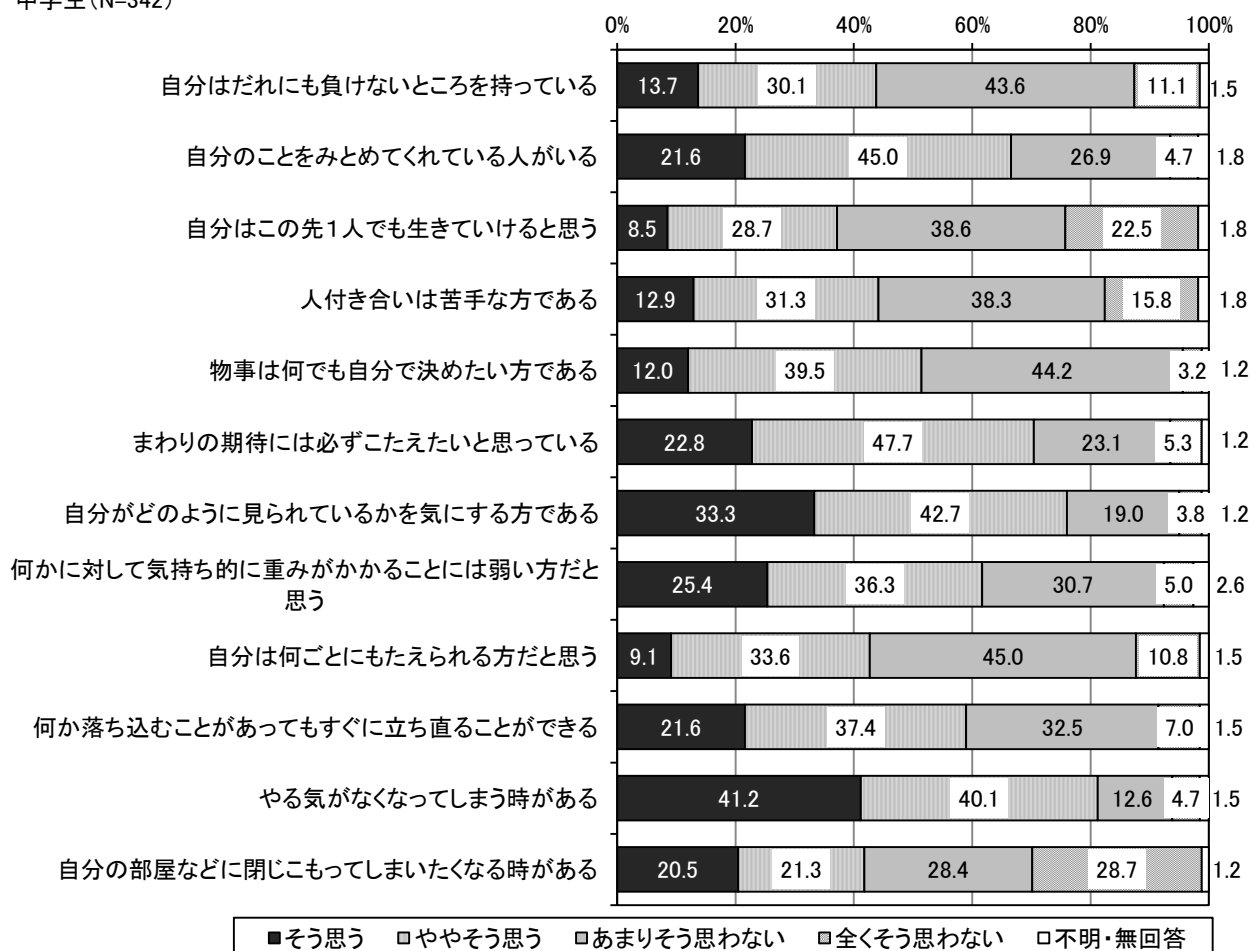


(2) 自身のことについての考え(中学生)〈単数回答〉 [小中高生調査…問 32]

中学生の自身のことについての考えをみると、「そう思う」「ややそう思う」を合わせた『思う』では、自分のことをみとめてくれている人がいるが 66.6%、まわりの期待には必ずこたえたいと思っているが 70.5%、自分がどのように見られているかを気にする方であるが 76.0%、やる気がなくなってしまう時があるが 81.3%となっています。

一方、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」を合わせた『思わない』では、自分はだれにも負けたくないところを持っているが 54.7%、自分はこの先1人でも生きていけると思うが 61.1%、人付き合いは苦手な方であるが 54.1%、自分は何ごとにもたえられる方だと思うが 55.8%、自分の部屋などに閉じこもってしまいたくなる時があるが 57.1%となっています。

中学生(N=342)

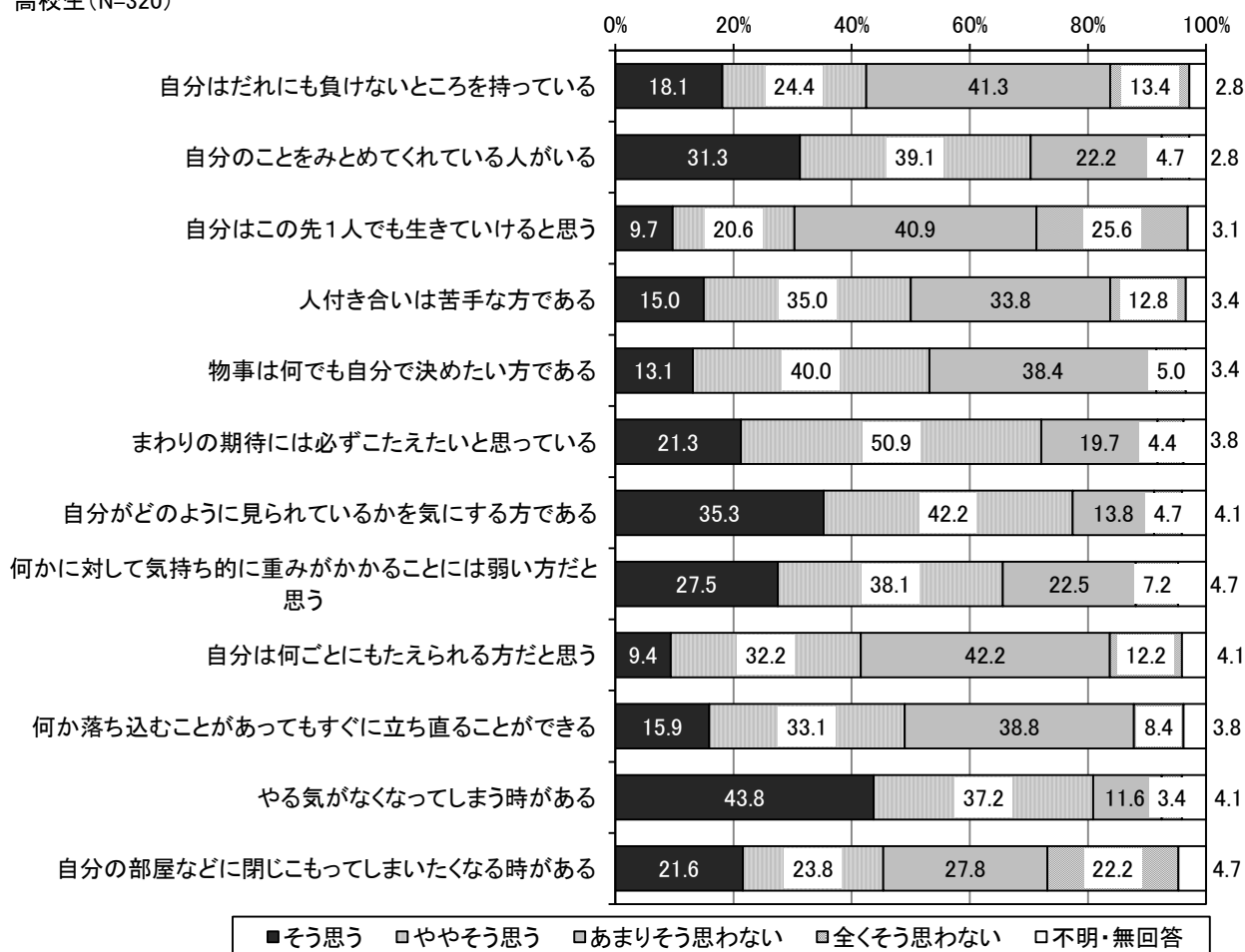


(3) 自身のことについての考え（高校生）〈単数回答〉 [小中高高校生調査…問 32]

高校生の自身のことについての考えをみると、「そう思う」「ややそう思う」を合わせた『思う』では、自分のことをみとめてくれている人がいるが 70.4%、まわりの期待には必ずこたえたいと思っているが 72.2%、自分がどのように見られているかを気にする方であるが 77.5%、やる気がなくなってしまう時があるが 81.0%となっています。

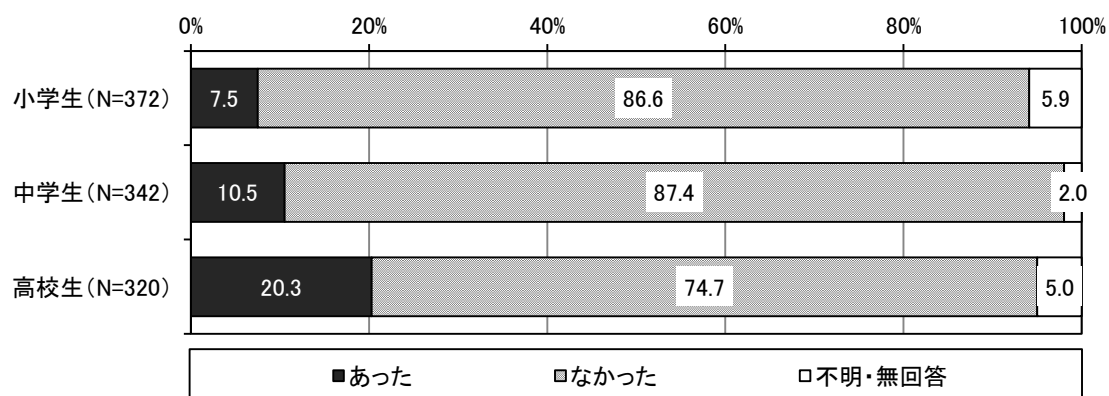
一方、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」を合わせた『思わない』では、自分はだれにも負けないところを持っているが 54.7%、自分はこの先1人でも生きていけると思うが 66.5%、人付き合いは苦手な方であるが 56.6%、自分は何ごとにもたえられる方だと思うが 54.4%となっています。

高校生(N=320)



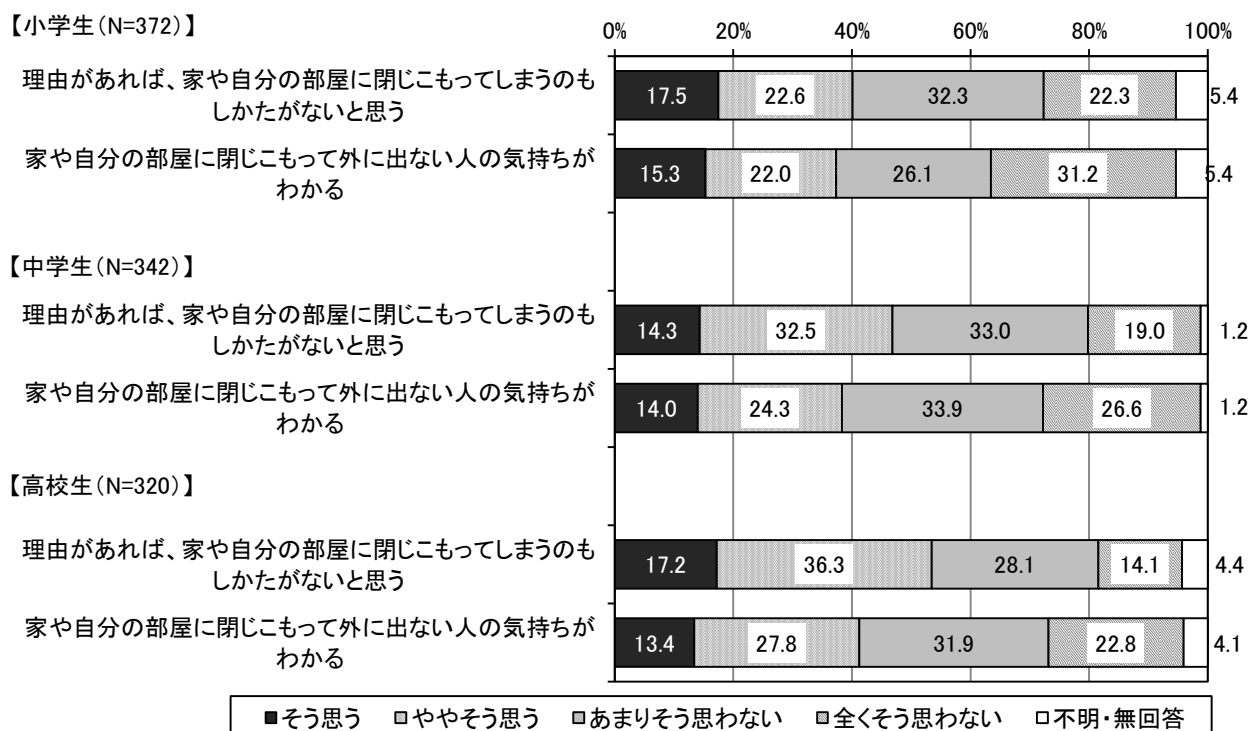
(4) 自身のことについての考え（今まで落ち込んだりなどして学校を休んだり、閉じこもってしまったことの有無）〈単数回答〉〔小中高校生調査…問 32⑬〕

今まで落ち込んだりなどして学校を休んだり、閉じこもってしまったことの有無についてみると、小学生、中学生、高校生ともに「なかった」が大部分を占め、それぞれ 86.6%、87.4%、74.7%と7割以上となっています。また、年齢があがるにつれ、「あった」が高くなっており、中学生で1割、高校生で2割となっています。



(5) 自身のことについての考え（理由があれば、家や自分の部屋に閉じこもってしまうことも仕方がない、家や自分の部屋に閉じこもって外に出ない人の気持ちがわかる）〈単数回答〉〔小中高校生調査…問 32⑭⑮〕

理由があれば、家や自分の部屋に閉じこもってしまうことも仕方がないかどうかについてみると、小学生、中学生、高校生ともにほとんどの項目で「あまりそう思わない」「全くそう思わない」を合わせた『思わない』が、「そう思う」「ややそう思う」を合わせた『思う』を上回っています。



和歌山市 子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査
【結果報告書】

平成 26 年 3 月発行

編集・発行 和歌山市福祉局こども未来部子育て支援課

〒640-8511 和歌山市七番丁 23 番地

電話 073-435-1329 FAX 073-435-1341